子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）
令和６年度年次評価書

１．はじめに

子どもの健康と環境に関する全国調査（以下、エコチル調査という）は、国の予算を用いて、環境省が企画し、コアセンター（国立環境研究所）が実施主体となって、メディカルサポートセンター（国立成育医療研究センター）及びユニットセンターとの協働により実施される長期かつ大規模な疫学調査である。

エコチル調査の実施状況の評価については、行政機関が行う政策の評価に関する法律に基づく環境省の政策評価や、独立行政法人通則法の規定に基づく国立環境研究所における業務実績評価などを含め、重層的に実施しているものの、その実施に当たっては、科学的、第三者的な観点からの評価を行うことが必要不可欠である。

よって、エコチル調査においては、調査の実施に関する企画立案及び評価を行うため、外部の専門家からなる企画評価委員会（以下、本委員会という）を環境省に設置し、本委員会において、調査の効果的・効率的な運営、目的の達成、国民・社会への成果の還元等の観点から、環境省及び実施機関が一体となった事業として、エコチル調査全体について、第三者的な観点からの評価を行うこととする。

エコチル調査の実施状況の評価については、同調査が長期間にわたる事業であることを鑑み、進捗状況に関する年次評価又は中間評価を行うこととし、事業終了後には最終評価を行うこととしている。

令和６年度年次評価においては、学童期におけるフォローアップが終盤を迎え、令和４（2022）年度における基本計画の改定により参加者が 13 歳以降 18 歳に達するまで調査を継続していくことを踏まえ、フォローアップの進捗状況等の年次評価を行う。調査実施のための組織体制の妥当性、フォローアップの進捗状況等、長期的なフォローアップに向けた準備状況、学童期検査・詳細調査の実施状況、個人情報管理の状況、データ利用及び成果発表のルールの遵守状況、研究（追加調査等）の体制及び実績、調査結果に関する広報活動の状況、環境政策・施策への反映等の観点から評価を行うこととする。

また、エコチル調査の実施状況の評価については、「行政機関が行う政策の評価に関する法律」（平成 13 年法律第 86 号）に基づく環境省の政策評価や、「独立行政法人通則法」（平成 11 年法律第 103 号）に基づく国立環境研究所における業務実績評価などを含め、重層的に実施されることとなる。

なお、令和２（2020）年度から令和４（2022）年度にかけて、新型コロナウイルスの感染拡大防止により、エコチル調査では地域の状況に応じて学童期検査や詳細調査等の対面式調査の実施状況が異なっていることも考慮して年次評価を行うこととした。

２．概評

２－１　実施体制

エコチル調査のユニットセンターは、公募で選ばれた全国 15 地域の大学等※で組織されている。ユニットセンターでは、参加者から返送のあった質問票の入力、詳細調査での訪問調査、医学的検査、精神神経発達検査の実施、参加者への広報などのコミュニケーション活動、地域運営協議会の運営及び調査結果を用いた研究活動を行っている。調査の目的である環境要因が子どもの健康に与える影響を解明でき

るように参加者の維持に努めるとともに、調査の状況、地域の実情を勘案した適切な実施体制を毎年度検討することが望まれる。

※一部のユニットセンターにおいては、サブユニットセンターを設置した上で、エコチル調査を実施している。年次評価では、サブユニットセンターも独立した評価対象としていることから、計 19 センターが評価対象。

令和元（2019）年度には、より一体的にエコチル調査を実施するため、ユニットセンターに対する委託事業を含めて、エコチル調査の実施に関する予算が国立環境研究所に一元化されるとともに、子どもの成長過程における化学物質ばく露や健康状態を評価するための「学童期検査」が開始された。また、令和５（2023）年度から、13 歳以降の調査継続に向けて、説明書の送付や参加者ポータルを用いた同意取得の取組が進められた。令和６（2024）年度より、13 歳以降を対象とした WEB による質問票調査が開始された。メディカルサポートセンターでは令和３（2021）年度に遺伝子解析室が設置され、DNA 解析等が進められている。以上の状況を踏まえ、コアセンターを中心として、関係者がより一層連携を密にして、エコチル調査を実施する必要がある。

２－２　子ども出生数に対する現参加者数（現参加者率）

エコチル調査の成果をより信頼性の高いものにするため、参加者数を高い水準で維持することがエコチル調査の最重要課題の一つである。「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）研究計画書」においても、「追跡率※は、フォローアップ期間終了時に 80%以上となることを目指す」と記載されている。

※追跡率：時間を追って追跡情報を入手できる調査対象者数を調査開始時の調査対象者数で割ったもの。

追跡率を示す指標である現参加者率（子どもの出生数に対する現参加登録者数）について、集計を開始した平成 28（2016）年度は 97.3%、令和６（2024）年９月時点でも全国平均で 92.3%であり、高い水準で維持していることは高く評価できる（表１）。一方で、現参加者率のユニットセンター間における最大値と最小値の差については、集計が開始された平成 28（2016）年度は 3.4%、平成 29（2017）年度は 3.7%、平成 30（2018）年度は 4.7%、令和元（2019）年度は 5.3%、令和２（2020）年度は 8.1%、令和３（2021）年度は 9.0%、令和４（2022）年度は 9.5%、令和５（2023）年度は 9.6%、令和６（2024）年９月時点では最大値 96.3%、最小値 85.5%で差は 10.7%であり、現参加者率のユニットセンター間の格差は拡大している。このため、現参加者に協力を継続していただくためにも、エコチル調査関係者が一丸となって成果の社会還元等を通してエコチル調査の意義を理解していただけるように努める必要がある。

今後は、13 歳以降の調査に向け、参加者コミュニケーション活動の充実などにより調査参加者の参加意識の維持に努め、また、参加者（子ども）のエコチル調査に対する理解を促進するなど、引き続き現参加者率を高い水準で維持するための取組が望まれる。

２－３　質問票回収状況

エコチル調査の成果をより信頼性の高いものにするためには、参加者の質問票回

収率を高い水準で維持することが最重要課題の一つである。全年齢を平均した回収率について、令和元（2019）年度は 84.1%、令和２（2020）年度は 83.5%、令和３（2021）年度は 83.2%、令和４（2022）年度は 82.2%、令和５（2023）年度は 81.3%、令和６（2024）年９月時点でも全国平均で 80.0%であり、高い水準で維持していることは高く評価できる（表２）。なお、令和６（2024）年９月 24 日時点の子どもの出生後の質問票回収率は、生後６ヶ月 94.2%、１歳 91.4%、１歳半 89.3%、２歳 87.4%、２歳半 85.7%、３歳 84.3%、３歳半 81.8%、４歳 80.6%、４歳半 78.9%、５歳 76.9%、５歳半 78.1%、６歳 78.3%、７歳 78.9%、８歳 78.4%、９歳 76.9%、10 歳 72.5%、同じく 10 歳の子ども本人が回答する質問票が 71.2%、11 歳 71.3%、11 歳の子ども本人が回答する質問票が 70.3%、12 歳 64.9%、12 歳の子ども本人が回答する質問票が 64.2%である。生後６ヶ月から４歳までの質問票の回収率はいずれも 80%以上、４歳半から 11 歳までは 70%台であり、12 歳時の質問票の回収率が大きく低下している。このことは、学童期最後の質問票ということで質問の分量が多くなったことや中学進学を控え参加者が忙しくなったことが要因であると推測される。

また、参加者（子ども）が学童期を迎えたことから、令和元（2019）年度より、学年毎の質問票調査も開始しており、令和６（2024）年９月 24 日時点の回収率は小学１年 80.3%、小学２年 77.5%、小学３年 76.4%、小学４年 74.3%、小学５年 72.1%、小学６年 66.4%となっている。質問票回収率を高い水準で維持できるような取組が期待される（表２）。

一方で、質問票回収率（全年齢平均）のユニットセンター間における最大値と最小値の差については、令和元（2019）年度は 13.5%、令和２（2020）年度は 13.0%、令和３（2021）年度は 12.9%、令和４（2022）年度は 12.1%、令和５（2023）年度は 12.2%、令和６（2024）年９月時点は 13.2%であり、質問票回収率はユニットセンター間で依然として格差が見られる。また、多くのユニットセンターで、子どもの年齢を重ねるごとに質問票回収率が低下する傾向があり、今後、質問票回収率の低下をできる限り抑えていくことが最重要課題である。

また、全ユニットセンターの平均における、生後６ヶ月時点と直近の質問票調査（各年度９月時点）との回収率の差については、令和元（2019）年度は 17.3%、令和２（2020）年度は 17.5%、令和３（2021）年度は 17.2%、令和４（2022）年度では同じく 17.2%、令和５（2023）年度では 20.0%、令和６（2024）年度では 27.8%であった（表２）。前述の通り、質問票回収率の低下をできる限り抑えていくことが最重要課題であり、引き続きユニットセンター間において、優れた取組から相互に学んでいくことが有効と考えられる。

加えて、６ヶ月からの年齢別回収率を回帰直線（Y=aX+b）で示し、その傾き（a）から令和５年度から令和６年度にかけての質問票回収率の変化を見たところ（表３－１、表３－２）、令和５年度の傾きの平均が-0.6969（SD：0.1778）であるのに対し、令和６年度の傾きの平均は-0.7472（SD：0.1667）と前年度の状況を概ね維持している。引き続き各ユニットセンターにて PDCA※サイクルに則った取組を行う必要がある。

※PDCA：Plan（計画）、Do（実施）、Check（点検）、Action（是正）を意味し、品質向上のためのシステム的考え方。
①（P：計画）これまでの取組の結果を的確に分析をして、その結果をよく勘案して計画を立案する
②（D：実施）（P）を受けて、具体的に取組を実施する
③（C：評価）（D）の結果を的確かつ客観的に分析を行い説得力のある根拠を示す

④（A：改善）（C）での考察を来期の計画に反映することを示す
⑤効率性を考慮した費用対効果を十分に検討する

なお、令和６（2024）年には、参加者の先頭集団が 13 歳に達し、新たに WEB による質問票調査が開始された。WEB による質問票回答状況の評価は令和７（2025）年度以降に行うものとする。

２－４　詳細調査の実施状況

平成 26（2014）年 10 月に開始した詳細調査のリクルートは、平成 28（2016）年８月時点で 5,018 名の応諾を得た。平成 26（2014）年 11 月より、参加の意思表示を確認し、訪問の調整がついた者から初回の訪問時に参加の同意書を受領した上で、１歳半時の訪問調査（環境測定）を開始した。また、平成 27（2015）年４月より２歳時の医学的検査及び精神神経発達検査、平成 28（2016）年５月より３歳時の訪問調査（環境測定）、平成 29（2017）年４月より４歳時の医学的検査及び精神神経発達検査を開始した。

平成 31（2019）年４月より、６歳時の医学的検査（採血、採尿、身体計測）を開始したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和２（2020）年３月から全ユニットセンターにおいて調査を中断した。令和２（2020）年７月から緊急事態宣言の解除等を受け、地域の状況を十分に考慮した上で、地域毎に順次調査を再開した。令和５（2023）年４月から 10 歳時の詳細調査（医学的検査、精神神経発達検査）を実施している。また、12 歳時の詳細調査について検討が進められている。

今後の詳細調査の円滑な実施のためにも、調査参加者の参加意識の向上に努め、10 歳時詳細調査を着実に進めること、また、12 歳時の詳細調査について円滑に実施できるよう準備を進めることが必要である。

２－５　学童期検査

エコチル調査の当初の研究計画書に、全体調査において質問票調査とともに、６歳と 12 歳時点で、小児科診察、身体計測、採尿を行うことが示されており、リクルート時における参加者に対する説明書にも記載されていた。６歳時点での調査に向けて検討を行ってきたが、調査実施に十分な準備期間が必要なこと及び調査実施上の意義の観点から、調査時期を運営委員会にて再検討し、小学２年生（児が８歳となる年度）時点で行うこととなった。

以上の準備を経て、令和元（2019）年度より学童期検査を開始しているが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、令和２（2020）年３月に全ユニットセンターにおいて検査を中断した。令和２（2020）年７月から緊急事態宣言の解除等を受け、地域の状況を十分に考慮した上で地域毎に順次検査を再開したところである。調査の再開に当たっては、調査参加者の不安の解消に向けて取組むとともに、保健所等地域の関係機関と協議を進めてきた。

令和５（2023）年７月から、小学６年生の学童期検査を開始し、令和５年度の実施率（対象者数に対する実施数の割合）は 45.6%であった。子どもの成長過程における化学物質ばく露や健康影響の評価を目的とした小学６年生（児が 12 歳となる年度）時点の採血の実施は、胎児期ばく露と現在のばく露の状況が大きく異なることから重要性は極めて高い。参加者の安全及び倫理面に配慮しつつ、詳細調査同様、調査参加者の参加意識の維持に努めることが必要である。

２－６　参加者及び調査地域でのコミュニケーション活動

ユニットセンターでは、参加者のフォローアップや成果の還元に関する取組の一環として、PDCA サイクルに則り、参加者コミュニケーションの取組を行っている。特に学童期の子どもを対象として参加継続への意識を高めることをねらいとしたコンテンツづくりが進められている。各地域において調査参加者の参加意識を維持していくため、引き続きユニットセンター間で相互に優れた取組を学び、活動を横展開していくことが重要である。また、効果的・効率的に情報発信が行えるよう、各地域が共通で活用できるコンテンツづくりを環境省やコアセンターが中心となって進めることが望まれる。

今後は、13 歳以降も調査に継続して参加いただくために、コアセンター及び各ユニットセンターは、調査参加者（思春期の子どもとその保護者）に対し、各種コミュニケーション活動をより一層実施していくことが重要である。加えて、さらに学術論文等の成果が積み重ねられていくことを踏まえ、参加者や調査地域に対してエコチル調査の成果の還元を図る観点から、WEB サイト、SNS、動画、イベント等の様々な媒体・手段を活用して各種コミュニケーション活動を実施することが求められる。なお、成果の還元に当たっては、正確な情報発信や適切な危機管理が求められ、エコチル調査の各実施機関はリスクコミュニケーションについて十分に配慮する必要がある。

２－７　地域運営協議会の実施状況

各ユニットセンターが調査地域の関連組織と良好な関係を構築・維持することは、今後の調査を円滑に継続するために必要不可欠であると考えられる。エコチル調査の参加者が 18 歳に達するまで調査が継続されていくことや、エコチル調査の成果発表がさらに増えていくことを勘案し、各ユニットセンターが地域の小中学校等の教育関係機関や地方公共団体の環境部局等に対し、地域運営協議会への参加を促していくことが必要である。

令和５（2023）年度から開始された採血を伴う 12 歳の学童期検査への協力を得るため、さらには、参加者が 18 歳に達するまで調査が継続されることへの理解と協力を得るため、地域運営協議会等を通じて、より一層上述の機関との連携を深めていくことが期待される。

２－８　化学分析等の実施状況

エコチル調査の目的は「環境要因が子どもの健康に与える影響を明らかにする」ことであり、特に化学物質のばく露や生活環境が、胎児期から小児期にわたる子どもの健康にどのような影響を与えているのかについて明らかにし、適切なリスク管理体制の構築につなげることである。この目的を達成するために、ばく露評価の対象となる化学物質等の分析を着実に進めることが必要不可欠である。

これまでの化学分析の実施状況は下表に示すとおりである。

実施年度	媒体	対象物質	検体数	状況
平成 26-29 (2014-17)	母体血（妊娠中）	金属（Pb, Cd, Hg, Mn, Se）	95,811	完了（データ固定済）
平成 30 (2018)	臍帯血	金属（Pb, Cd, Hg, Mn, Se）	3,897	完了（データ固定済）
平成 26-29 (2014-17)	母体尿（妊娠中）	喫煙マーカー（コチニン）、ストレスマーカー（8-OHdG）	96,490	完了（データ固定済）

実施年度	媒体	対象物質	検体数	状況
平成 29 (2017)	母体血（妊娠中）	有機フッ素系化合物（PFAS）	25,000	完了（データ固定済）
平成 30 (2018)	臍帯血	メチル水銀（Me-Hg）,無機水銀（I-Hg）	3,897	完了（データ固定済）
平成 30 (2018)	母体尿（妊娠中）	フェノール類	10,000	完了（データ固定済）
平成 30 (2018)	母体尿（妊娠中）	有機リン系農薬代謝物	5,727	完了（データ固定済）
令和元 (2019)	母体尿（妊娠中）	フタル酸エステル代謝物	19,999	完了（データ固定済）
令和元 (2019)	母体尿（妊娠中）	ネオニコチノイド系農薬	20,000	完了（データ固定済）
令和 2 (2020)	母体尿（妊娠中）	形態別ヒ素化合物	5,039	配布準備中
令和 2 (2020)	母体血（妊娠中）	ダイオキシン類縁化合物（芳香族炭化水素受容体活性）	4,956	配布準備中
令和 2 (2020)	臍帯血	有機フッ素系化合物（PFAS 等）	5,001	配布準備中
令和 2 (2020)	母体血（妊娠中）	残留性有機汚染物質（PCBs、DDTs、PBDEs）	13,000	配布準備中
令和 3 (2021)	母体尿（妊娠中）	ピレスロイド系農薬代謝物	10,013	配布準備中
令和 3 (2021)	小児血血漿（詳細調査 4 歳）	有機フッ素系化合物（PFAS 等）	5,010	配布準備中
令和 4 (2022)	母体尿（妊娠中）	農薬及び忌避剤	5,000	配布準備中
令和 4-5 (2022-23)	母体尿（妊娠中）	リン系難燃剤	10,000	精度管理作業中
令和 4-5 (2022-23)	父体血（妊娠期間）	金属（Pb、Cd、Hg、Mn、Se）	2,500	精度管理作業中
令和 5 (2023)	小児尿（詳細調査 8 歳）	たばこ煙ばく露マーカー（コチニン等）	10,000	精度管理作業中
令和 5 (2023)	母体血（妊娠中）	アクリルアミド	5,000	精度管理作業中
令和 6 (2024)	小児血血漿（詳細調査 8 歳）	有機フッ素系化合物（PFAS 等）	5,000	測定中
令和 3-6 (2021-24)	小児脱落乳歯	鉛、マンガン、亜鉛、ストロンチウム、バリウム等	35,000	測定中

令和６（2024）年度は、小児脱落乳歯の金属・元素、小児血血漿の有機フッ素系化合物（PFAS 等）の測定が進められている。

生体試料の化学分析の精度を担保するため、平成 28（2016）年度～29（2017）年度に血中金属及び尿中コチニン等を測定した検体の一部を別の分析機関で測定し、結果が検討された。平成 30（2018）年度以降は、外部品質評価機関による分析データの品質評価が導入されている。

なお、化学分析の対象物質の優先順位は、コアセンターの運営委員会の下に設置された曝露評価専門委員会で、研究計画書に記載されている生体試料分析候補物質について Delphi 法※を用いて順位付けが行われている。また、令和元（2019）年度に研究デザイン検討会で提案されたエコチル調査開始時の研究計画に含まれてい

ない分析候補物質も踏まえ、生体試料分析対象物質候補案を整理し、企画評価委員会で議論を行っている。

※Delphi 法：複数の専門家から意見を求め、得られた回答を集計して結果を開示した上でさらに再検討することを複数回繰り返すことで意見を集約する手法。

以上の取組みにより、血中金属類、尿中コチニン、血中有機フッ素化合物（PFAS）等のデータ固定が終了するなど、着実に化学分析データを解析できる体制が整いつつある。今後も、引き続き化学分析の精度を担保しつつ、適切に優先順位を検討し、国内外の行政や最新の研究における動向、分析方法の整備状況等を勘案し、計画的かつ効率的・効果的に生体試料の化学分析等を進めていくことが望まれる。

２－９　研究成果及び成果の社会への還元

エコチル調査の全国データを用いた成果発表については、コアセンターを中心として、論文の質が担保できるような体制を構築し、論文執筆に向けた取組を行っており、令和元（2019）年度の年次評価より学術論文等の発表状況について評価を実施しているところである。

エコチル調査の全国データを用いた論文は 505 編（うち中心仮説に係る論文 65 編）、追加調査に係る論文は 84 編（令和６（2024）年 12 月末までの累計）発表されており（別添１）、大規模疫学調査の先行研究であるデンマーク全国出生コホート（DNBC）、ノルウェー母子コホート調査（MoBa）の同じ時期の論文数（DNBC147 編、MoBa164 編）と比較しても多く、現段階としては評価できる。中でも近年その影響に関する不安や対策の声が上がっている PFAS に関する論文成果を発表したことは高く評価できる。また、特筆すべき事項として、内閣府食品安全委員会の「評価書鉛」や「評価書　アレルゲンを含む食品　卵」、「評価書　有機フッ素化合物（PFAS）」の策定、妊娠前の BMI 別に算出した妊婦の体重増加曲線の目安の策定、日本語版 ASQ-3（乳幼児発達検査スクリーニング質問紙）、「食物アレルギーの診療の手引き 2020」、「食物アレルギー診療ガイドライン 2021」、「小児気管支喘息治療・管理ガイドライン 2023」、「産婦人科診療ガイドライン　産科編 2023」においてエコチル調査の成果やデータが活用されていること、加えて、研究者・保健医療従事者等を対象とした疫学用語や疫学研究が明らかにしてきたことを解説する「疫学の事典（日本疫学会監修）」等の刊行物にエコチル調査が取り上げられたことは高く評価できる。引き続き、化学物質と健康影響に係るものを中心とした論文執筆の加速化に一層力を入れることが望まれる。

エコチル調査の進展に伴い、データの分析や学術論文等による成果発表の増加している時期であることから、今後も、その成果を社会に還元していくことが重要である。そのため、エコチル調査全体として、成果還元の状況（全国データを用いた論文、学会での発表、一般の方や参加者向けの成果発表（講演会、ホームページ掲載、ニュースレター等）、論文成果に係るプレスリリース等）を適切に評価していくことが必要となる。なお、加速度的に成果発表が増加することを見込み、令和２年度に環境省とコアセンターにより成果発表に関する基本ルールを見直すとともに、論文化の進捗状況を管理や手続きのスリム化を図るシステムを導入し、その後も実際の運用状況を踏まえて改正を行い、研究者の成果発表を支援する環境整備に引き続き取組んでいることは評価できる。加えて、より効果的に成果の社会還元等を進めていくため、令和４（2022）年度に広報戦略の見直しを行い、戦略的に広報活動

を進めていることも評価できる。
また、学術論文等の研究成果が積み重ねられる時期であるため、適切な科学コミュニケーションの実施が望まれる。このため、子育て世代を中心とした国民一人ひとりが、リスクと上手に向き合うことが可能な機会を広げるための取組として、令和元（2019）年度より「地域の子育て世代との対話事業」を開始しており、事業の成果として、エコチル調査の成果を分かりやすく紹介するパンフレットや教育関係者向けのテキスト、対話の実践事例集を公開・改定していることは高く評価できる。また、出産・子育てに関する情報メディアにエコチル調査の成果を紹介する記事掲載を企画し、子育て世代を対象とした記事掲載を行っていることも高く評価できる。引き続き対話の実践事例の蓄積やコンテンツの更新を進め、実践活動を見える化していくことが期待される。今後も、環境省、コアセンター、ユニットセンター等が連携・協力して成果発表及び社会還元を着実に進めることが望まれる。

２－１０　エコチル調査ルールの遵守及び管理状況

エコチル調査は、大規模な調査ゆえ多数の関係者に支えられている。このような調査においては、一定の「ルール」を策定し、それらが遵守されるよう管理することが求められる。特に調査の要となる重要事項において、「ルール」を遵守することは大規模かつ長期的な調査を安定的に遂行することにつながる。
令和６（2024）年度においては、ユニットセンターの自己点検に加え、環境省及びコアセンターが現地調査を実施し、コアセンターから示された個人情報管理に関する基本ルールの遵守状況を確認した。個人情報の漏えいや、漏えいのおそれがあったインシデントが発生し、さらに環境省への報告が遅延した事案が計３件あった。「エコチル調査における個人情報管理に関する基本ルール」では、個人情報をはじめとするデータの紛失・漏えい、あるいは、その恐れがある事象等の発生を把握した場合には、ユニットセンター等の情報処理責任者が、「リスク管理・危機管理マニュアル」に従うことと規程があり、「リスク管理・危機管理マニュアル」においては、エコチル調査実施者の関与によりデータが漏洩、改ざん、消滅する事象が発生した場合には、ユニットセンターは速やかに事態を把握してコアセンターおよび環境省環境リスク評価室に報告し、以降の対応は全てコアセンターに判断を仰ぐとしている。今後は、これまで以上に情報セキュリティ等に対するスタッフの意識の向上を図るとともに、エコチル調査における個人情報管理の基本ルールならびに個人情報保護法の遵守を徹底すること、作業ミスの発生を防止する仕組みづくりが必要である（表６）。
データの利用及び成果発表に関する基本ルールの遵守について、各ユニットセンターは、組織内でルールを周知するとともに、成果発表の諸手続きを管理する担当者を配置するなどに努めている。ユニットセンターから環境省へ行う成果発表の届出・報告が遅延した事例が若干あるものの、調査に重大な影響を与える違反事例はなかった（表７）。なお、成果発表の届出・報告に遅延があった場合などは注意喚起を行い、改善に向けた対応を求めている。
今後エコチル調査の成果発表が増えてくる時期となり、社会へのインパクトが大きいことから、引き続き、個人情報の管理や情報発信等の体制を強化するとともに、エコチル調査関係者に対する基本ルールを周知徹底していく必要がある。

２－１１　人材育成

エコチル調査は、多くの人材が関わって進められており、令和６（2024）年９月

末までに、環境科学、小児保健分野等を担う 319 人の人材を輩出したほか（表８）、ポスドクとして雇用された者の数が 101 人、講師やファシリテーターを務めた者※が 596 人（令和６（2024）年９月末時点）であったことは、環境保健に理解の深い医師や疫学研究者等の専門家の育成に貢献していると言える。また、エコチル調査を実施するためには参加者に寄り添った活動が必要であり、地域における様々な教育活動、広報活動、行政との連携等を推進することでコミュニケーション能力やマネジメント能力が醸成される等、エコチル調査が人材育成のプラットフォームになっている。

※エコチル調査の説明会や環境保健や育児・教育等をテーマにしたイベントにおいて講師やファシリテーターを務めた者。

２－１２　その他

令和２（2020）年度から令和４（2022）年度にかけて、新型コロナウイルスの感染拡大の影響がある中、参加者が安心して学童期検査や詳細調査に参加できるよう工夫したり、参加者や地域とのコミュニケーション活動を継続するための工夫を進めてきたことは、公衆衛生への貢献、さらには調査参加者や地域の不安解消という観点から高く評価できる。今後も、当時の経験を活かしつつ、環境省、コアセンター、ユニットセンター等が連携・協力してリスクコミュニケーション等に努めていく必要がある。

令和２(2020)年９月に研究計画書が定められたゲノム・遺伝子解析については、令和４（2022）年３月、参加者に「ゲノム・遺伝子解析についての説明書」が送付され、令和４（2022）年９月より臍帯血試料から抽出した DNA 試料約 80,000 検体の網羅的 DNA 塩基多型解析等が実施されていること、また、約 1,200 検体を対象にゲノムワイド関連解析（GWAS）が実施され、要約統計量のデータ固定まで進められていることは評価できる。遺伝要因を調べることはエコチル調査の成果をより有意義なものとするために大変重要であり、今後とも、厳重なデータ管理体制を構築しながら、ゲノム・遺伝子解析を着実に進めていくことが求められる。

環境省が改定した基本計画に基づき、参加者が 13 歳から 18 歳に達するまで調査が継続されることとなり、令和６（2024）年４月、13 歳を対象とした WEB による質問票調査が開始された。14 歳以降の調査についても計画の立案、WEB 質問票や検査の準備が着実に進められている。また、13 歳以降の調査においては子ども本人も主体となることから、子どもの参加意識を高める取組がコアセンターやユニットセンターにおいて進められている。引き続き参加者数を高い水準で維持するため、保護者や調査地域の関係者の協力を得ながら、子どもの参加意識を高めるための取組を環境省、コアセンター、ユニットセンター等が連携・協力して着実に進めていくことがきわめて重要である。

３．実施機関別評価

３－１ 環境省

エコチル調査の目的とする成果を得るために長期間にわたる安定的な予算と体制の確保が不可欠である。当初予算及び補正予算で調査を実施してきたが、令和７(2025)年度についても、調査の継続に必要な予算を確保したことは評価できる。引き続き、コアセンターを中心とした調査体制の整備や参加者の維持に係る安定し

た予算確保のための努力を行うことが望まれる。

※分析を進め、研究成果の社会への還元を推進する時期に入るにあたって、予算をより効率的・効果的に運用するため、令和元（2019）年度よりユニットセンターの委託費が国立環境研究所運営費交付金へ一体化されることとなった。

調査の企画については、令和３（2021）年度に設置された「健康と環境に関する疫学調査検討会」において、これまでのエコチル調査の成果等について総括を行い、令和４（2022）年３月に 13 歳以降も 40 歳程度まで調査を展開する方針が取りまとめられた。これを受け、令和４（2022）年度、参加者が 18 歳に達するまでの調査について基本計画の改定を行った。

国際連携については、ノルウェー、デンマーク、ドイツ等の諸外国の出生コホート調査の専門家をメンバーとする「環境と子どもの健康に関する国際作業グループ」に引き続き参画し、これら専門家との連携をより一層強化していくことが望まれる。更には、化学物質と健康影響に関する研究の推進に向け、他国との連携を検討し、また、コアセンターと役割分担を図りつつ、学会、国際機関等との連携を通じて、世界に向けた情報発信に取組むことが期待される。

広報については、従来は主に、エコチル調査に関する国民の認知度・理解度の向上の視点から実施してきたが、エコチル調査の進展に伴い成果が積み重ねられる時期であることから、従来の取組に加えて、成果の社会への還元を目的とした広報活動をより一層展開していくことが重要である。以上を背景として、令和４（2022）年度に、より効果的に成果の社会還元等を進めていくため広報戦略の見直しを行い、戦略的に広報活動を進めていることは評価できる。また、13 歳以降の調査の継続を念頭に、継続の意義等を説明する動画の公開を継続したり、シンポジウムに参加者（子ども）と同世代向けの内容を取り入れるなど、13 歳以降の調査を円滑に実施するための情報発信を着実に進めていることは評価できる。令和元（2019）年度から開始された「地域の子育て世代との対話事業」の成果として、エコチル調査の成果を分かりやすく紹介するパンフレットや教育関係者向けのテキスト、対話の実践事例集を公開・配布していることは高く評価できる。さらに令和６（2024）年に、出産・子育てに関する情報メディアにエコチル調査の成果を紹介する記事掲載を企画し、子育て世代の悩み・不安に応える情報を分かりやすく提供したことも高く評価できる。

今後、教育的観点から、さらに 13 歳以降の調査の円滑な推進という観点から、学校関係者の協力を得ることがさらに重要となってくる。このため、文部科学省や学校関係者等との情報共有を引き続き進め、一層の連携を図ることが望まれる。

３－２ コアセンター

エコチル調査の実施主体として、メディカルサポートセンターや全国のユニットセンターと緊密な連携を図りながら全体をとりまとめており、今後もこのような取組が継続されることが期待される。

令和元（2019）年度から予算をより効果的に運用するため、ユニットセンターに対する委託事業を含めエコチル調査の実施に関する予算事業を国立環境研究所が一体的に運営することとなった。コアセンターは適切な運営ができるよう、環境省と共に体制整備を着実に行うとともに、メディカルサポートセンター及びユニットセンターと一層の連携を図り、エコチル調査を着実に実施することが期待される。

エコチル調査の成果をより価値あるものにするために、現参加者率や質問票回収

率の維持が重要であり、調査開始から 15 年目を迎えた現在も、いずれも高い水準を維持できていることは高く評価できる。これらの維持・向上のため、参加者コミュニケーション専門委員会が主体となり、ユニットセンターの取組の支援を行っている。引き続きユニットセンター実務担当者 Web 会議及びスタッフ研修の開催などを通して、ユニットセンター間の情報共有の場を設け、これらの取組を継続していくことが望まれる。

ユニットセンターにおける参加者の個人情報の管理については、個人情報の管理状況が適切であるかどうか、定期的に確認する体制を維持することが重要である。引き続きコアセンターが中心となり、適切な個人情報の管理がなされるような体制を維持していくことが望まれる。今年度は、個人情報に関する基本ルール違反が３件あったが、そのうち２件はコアセンター内でのルールの認識不足も要因の一つであり、エコチル調査を適切に実施するための各種ルール（個人情報管理や成果発表などを含む）を遵守することは大規模かつ長期的な調査を安定的に遂行する上で重要であり、引き続きルールの周知徹底に努める必要がある。

４歳までの質問票や疾患情報登録、血中金属類、尿中コチニン、血中有機フッ素化合物（PFAS)、フェノール類、農薬類（有機リン系農薬代謝物、ネオニコチノイド系農薬、ピレスロイド系農薬代謝物)、フタル酸エステル代謝物、形態別ヒ素化合物、ダイオキシン類縁化合物、血中残留性有機汚染物質（POPs）等のデータ固定が終了するなど、近年その影響に関する不安や対策の声が上がっている物質を含め、着実に化学分析データが解析できる体制を整えていることは評価できる。今後も、化学分析等を計画的かつ効率的に実施することが望まれる。

医学的検査及び精神神経発達検査の実施、詳細調査の結果返却、相談対応等については、引き続きメディカルサポートセンターと連携しつつ、各ユニットセンターのニーズに応じた支援が望まれる。

エコチル調査開始から 15 年目を迎え、コアセンターが中心となって「中心仮説ワークショップ」、「疫学統計専門委員会」、「学術専門委員会」を開催する等、引き続きエコチル調査で得られた成果が諸外国にも通用するよう、成果のまとめ方及び論文の質の担保ができるような体制を整えていることは評価できる。

エコチル調査の全国データを用いた論文が 505 編（令和６（2024）年 12 月末までの累計）と着実に増えてきていることは評価できる。そのうち中心仮説に係る論文は 65 編であり、中心仮説に係る論文執筆の加速化が望まれる。エコチル調査で収集したデータを幅広く国内外の研究に有効活用されるよう、令和３（2021）年 9 月に「データ共有実施計画」を策定、安全にデータの共有を担うシステムを構築した上でデータ共有を進めていることは評価できる。今後は、成果還元の一環として、データ共有の推進や集計データの公開が期待される。また、エコチル調査シンポジウムの開催において環境省等と連携している他、アウトリーチ活動として国立環境研究所一般公開イベントにおける取組も評価できる。

国際連携については、「環境と子どもの健康に関する国際作業グループ」に引き続き参画し、国際学会等への専門家及び若手研究者の派遣等の学術的な取組を行っており、今後も環境省と役割分担を図りつつ、学会、国際機関等との連携を推進することが期待される。

特筆すべき事項として、環境省が改定した基本計画に基づき、研究計画の改定を行うとともに、13 歳以降の調査においては子どもも主体となることを見据え、子ども向けに分かりやすくエコチル調査を説明する資料を作成したり、Web を使った参

加者ポータルの整備を進めるなど、子どものインフォームド・アセントに向けた取組を進めていること、ニュースレターやSNSによる参加者への情報発信、感謝状やボランティア活動証明書の発行など子どもや保護者の参加意識を高めるための取組を着実に進めていることは高く評価できる。13歳以降は、Web上に設けられた参加者ポータルを通じた調査となる。参加者ポータルは参加者（子ども）にアクセスしてもらうことで情報収集が可能となるものであり、今後とも子どもの参加意識を高めることが重要である。

３－３ メディカルサポートセンター

医学的検査及び精神神経発達検査について、主要専門分野のプロジェクトを設け、コアセンター経由で寄せられるユニットセンターからの問い合わせに適宜回答し、得られるデータの質を維持していることは評価できる。

令和６（2024）年度も、質問票等の検討に当たり、Webアンケート等を活用したメール審議などを取り入れ、効率的かつ調査スケジュールに沿って着実に検討を進めていることは評価できる。今後は、調査成果の質を担保するためのデータ管理やクリーニングの検討、遺伝子解析の実施に向けた検討を進めるとともに、13歳以降のフォローアップ項目の検討を引き続き進めることが期待される。

令和４（2022）年度から、エコチル調査で収集した生体試料のゲノム・遺伝子解析を実施しており、網羅的DNA塩基多型解析やゲノムワイド関連解析を着実に進めていることは評価できる。遺伝子解析から得られた情報に求められる高い機密性を踏まえ、関連指針やガイドラインを遵守した厳重なデータ管理体制を構築しながら、着実に解析を進めていく必要がある。

成果の社会への還元の一環として、全国データを用いた論文に関してメディカルサポートセンターからは505編のうち35編(令和６(2024)年12月末までの累計)を発表していることは評価できる。また、日本語版ASQ-3（乳幼児発達検査スクリーニング質問紙)、「食物アレルギー診療ガイドライン2021」、「食物アレルギーの診療の手引き 2020」、「小児気管支喘息治療・管理ガイドライン 2023」等においてエコチル調査の成果が活用されたことは高く評価できる。引き続き、中心仮説に係る論文に関しても順次執筆を加速化していくことが望まれる。また、エコチル調査シンポジウムや対話事業において環境省等と連携していることも評価できる。エコチル調査の全体調査に関する成果発表については、論文の質が担保できるような体制構築を、コアセンターと協働して検討することが望まれる。

３－４ ユニットセンター

10万組の親子を対象に実施しているエコチル調査において、より多くの参加者の調査継続と年に２回送付する質問票の回答率を高めることが、調査の質の向上及び国民に対して有益な研究成果を還元するために必要不可欠かつ重要な事項である。調査開始から 15 年目を迎えた現在、現参加者率は高い水準で維持されているにもかかわらず、質問票回収率は参加者の年齢とともに低下傾向にある（表１、表２）。併せて、ユニットセンター間における現参加者率の差は10.7%と大きくないものの、質問票の回収率には依然として格差（13%台）が見られる。各ユニットセンターの業務全般において、PDCAサイクルの中で調査地域の特性や効率性を勘案し、質問票の回収率の向上につながるような取組を行うことを求めたい。特に、全国平均より質問票回収率が著しく低いユニットセンターについては、原因を分析し、改善に導く一層の工夫が必要である。

エコチル調査の開始から 15 年目を迎え、調査の成果が積み重ねられる時期に差し掛かり、今後その成果を社会に適切に還元していくことが重要である。成果還元としては、全国データを用いた論文 505 編（うち中心仮説に係る論文 65 編、令和６（2024）年 12 月末までの累計）のうちユニットセンターからは 434 編（中心仮説 54 編）が学術雑誌に掲載された。また、令和６（2024）年度には、学会での発表 147 件（うちユニットセンター136 件）、一般の方や参加者向けの成果発表（講演会、ホームページ掲載、ニュースレター等）230 件（うちユニットセンター221 件）、論文成果に係るプレスリリース 24 件（うちユニットセンター21 件、いずれも令和６（2024）年１月から令和６（2024）年 12 月末時点）が実施された。以上のようなユニットセンターの研究発表や活動の中のいくつかは、学会等の表彰・褒章も受けていた。

また、妊娠前の BMI 別に算出した妊婦の体重増加曲線の目安の策定においてエコチル調査の成果が活用されたこと、「産婦人科診療ガイドライン　産科編 2023」においてユニットセンター関係者の執筆した論文が引用文献の一つとして掲載されたことは高く評価できる。

エコチル調査を適切に実施するための各種ルールの遵守状況を見ると、個人情報管理に関するルール違反は３件あった。参加者へ検査結果を返却する際に住所の記載を誤ったまま郵送し、個人情報の漏えいはなかったものの、漏えいのおそれがあったにもかかわらず環境省ならびにコアセンターへの報告が遅延した事案があった。また、参加者へ質問票の提出依頼を送る際に名前の記載を間違え、個人情報の漏えいが 166 件発生し、加えて環境省への報告が遅延した事案があった。さらに、参加者へ謝礼を送る際に住所の記載を間違え、郵便物の誤配送につながり、個人情報の漏えいが１件発生し、加えて環境省への報告が遅延した事案があった。今後は、これまで以上に情報セキュリティに対する全スタッフの意識の向上を図るとともに、作業ミスの発生を防止する仕組みづくりが必要である。

また、成果発表の届出・報告について遅延した事例が複数見られた。情報セキュリティ等に対する意識の向上を図るとともに、各ユニットセンターにおいてルールを周知徹底していくことが重要である。

環境省が改定した基本計画に基づき参加者が 18 歳に達するまで調査が継続され、参加者が 13 歳以降の調査においては子ども本人も調査の主体となる。ユニットセンターはエコチル調査の開始時から参加している子どもや保護者に寄り添って調査を進めており、今後は、より一層子どもに寄り添いながらエコチル調査に対する理解を促し、参加意識を高めることが求められる。

特に令和６（2024）年度以降、参加者である子どもは学童期から思春期に移行する時期にある。こうした参加者のライフスタイルの大きな変化をとらえつつ、各ユニットセンターで子どもが参加しやすいよう学童期検査や詳細調査を進めていること、また子ども向けに分かりやすく成果を伝えるなどコミュニケーションを工夫して参加意識の向上に取組んでいることは高く評価できる。

本年度の評価においては、①参加者の参加継続と質問票の回収につながるフォローアップ状況、②エコチル調査の業務全般における PDCA の取組、③エコチル調査の成果、④主要なルールの遵守状況及び管理状況を勘案した評価方法を設定した。②については、参加者の調査参加へのモチベーション維持や質問票回収率の維持・向上、コミュニケーション活動、アウトリーチ活動、その他の成果の社会還元といった多角的視点からユニットセンターの優れた取組を評価した。③については、令

和４（2022）年度から、エコチル調査の研究成果や活動に対する学会等からの表彰・褒章を評価項目として取り入れた。

４．総括

令和５（2023）年度に行った第四次中間評価後、引き続き、現参加者率や質問票回収率が高い水準で維持されていること、着実に学童期検査や化学分析が進んでいること、論文として成果が増えていること、学術発表に加えて広報やコミュニケーション活動・国際連携を行っていること、成果の社会還元を進めていることなど、エコチル調査を着実に進めていることは高く評価できる。また、これまでに、環境保健に理解の深い医師や疫学研究者等の専門家の育成に貢献してきたことも評価できる。今後は、学童期の調査を進めるとともに、子ども本人も調査の主体となる 13 歳以降の調査を実施していくことから、より一層子どものエコチル調査に対する理解を促し、コミュニケーション活動を工夫することにより、調査参加者の参加意識を高めていくことが重要である。

また、エコチル調査の成果を国民に最大限還元できるように、学童期検査の着実な実施や化学分析等の計画的な実施、中心仮説に係る論文をはじめとする論文執筆の加速化、さらには地域に対する成果の還元等を進めることが求められる。

加えて、13 歳以降の調査を視野に入れ、エコチル調査の新たなフェーズに合わせた評価の在り方について検討する必要がある。特に、第五次中間評価の実施が予定されている令和 10（2028）年度は、すべての参加者が 13 歳に達し、基本計画が当初示していたフォローアップ期間が終了する年度である。基本計画と照らし合わせて、調査のねらい等の達成状況を評価することが考えられる。

なお、特記すべき事項として政府の重要文書である「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画 2024 改訂版（令和６年６月閣議決定）」に「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）を効率的・効果的に推進する。」と初めて記載されたことから、エコチル調査の更なる推進が期待されている。

エコチル調査の成果に対する社会的期待を踏まえて、今後とも、エコチル調査関係者が一丸となって調査を着実に推進していくことが求められる。

ユニットセンターにおける総合評価指標

（１）フォローアップ状況

○　現参加者率【表１】

対象である子どもの出生者数に対し、現参加登録者数の比率を算出した。現参加登録者数とは、出生した子どものうち、打ち切り数（本人死亡、代諾者消失など）、他ユニットセンターへの転出、転入を反映した人数である。

［評価］各ユニットセンターの規模を把握するための参考資料としてのみ活用する（評価は行わない）。

○　質問票回収状況（出生後６ヶ月～小６までの合計の質問票回収率）【表２】

令和６（2024）年９月 24 日時点で質問票送付後６ヶ月経過した出生後６ヶ月から小６までの発送数に対する回収数を用いて算出。総合的な質問票の回収状況を確認する指標として位置付ける。

［評価］回収率が 80.0%（平均）以上を◎とする。また、令和５（2023）年度及び

令和６（2024）年度に継続して回収率が全ユニットセンターの平均プラス 0.5SD 以上の場合は◎を加点する。

○　質問票回収率の維持状況（出生後６ヶ月回収率と小６回収率の差）【表２】

出生後６ヶ月の質問票回収率と小６時の質問票回収率の差を算出。直近の質問票回収状況を確認する指標として位置付ける。

［評価］差異 27.8%未満を◎とする。

○　質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）【表３】

６ヶ月からの質問票回収率の推移を示すグラフにおける令和５（2023）年９月 25 日時点と令和６(2024)年９月 24 日時点での年齢別回収率の回帰直線(Y=aX+b)の傾き（a）の差異をみる。直近１年間の質問票回収状況を確認する指標として位置付ける。

［評価］傾き差異がプラスの場合を◎とする。

（２）エコチル調査に係る業務全般に関する取組

○　「参加者の調査参加へのモチベーション維持」や「質問票回収率の維持・向上」に関する取組の PDCA 評価【表４－１】

参加者の調査参加へのモチベーションの維持、質問票回収率の維持・向上について、PDCA サイクルに則って実施されているかを確認する指標として位置付ける。

［評価］PDCA の観点を踏まえ、特に優れた取組を行っている場合を◎とする。

○　成果の社会還元に関する PDCA 評価【参考資料７】

コミュニケーション活動、アウトリーチ活動、その他の成果の社会還元に関する取組について､PDCA サイクルに則って実施されているかを確認する指標として位置付ける。

［評価］PDCA の観点を踏まえ、特に優れた取組を行っている場合を◎とする。

（３）エコチル調査の成果

○　エコチル調査の研究成果や活動に対する学会等からの表彰・褒章【表５－１】

エコチル調査の研究成果や活動への第三者評価を確認する指標として位置づける。

［評価］エコチル調査の研究成果による研究発表やユニットセンターの活動に対し学会や国・自治体等から表彰・褒章があった場合※を◎とする。

※学会賞、若手研究者賞、奨励賞、環境教育・環境保全に関する賞、知事褒章など。研究者個人が受けた賞であっても、エコチル調査の研究成果や活動が主たる授賞理由となっている場合はそれを含む。教職員や学生を対象として大学が行う学内表彰の実績は除く。

○　学術論文等の発表【参考資料８】

エコチル調査成果の社会還元の一環として、学術論文等の発表が実施されているかを確認する指標として位置づける。

［評価］ 令和５年 11 月から令和６年 10 月 31 日までの全国データを用いた論文について、論文数だけでなく、その質も含めた総合的な観点から、特に優れた論文発表を行っている場合を◎とし、S 評価のための加点要素として扱う。

（４）エコチル調査ルールの遵守及び管理状況【表６、表７】

エコチル調査で定める各種ルールの遵守状況やその管理状況を確認するための指標として位置付ける。

［評価］軽微でないルール違反等が確認された場合は、フォローアップ状況が良好であったとしても、総合評価においてS・A評価の対象としない。また、２回以上（年度をまたぐ場合を含む）同じ内容でルール違反した場合は総合評価をCとする。

総合評価の考え方

S：　◎が５個以上あり、且つ、フォローアップ状況の◎が４個
A：　◎が３個以上ある（学術論文発表を除く）
B：　◎が１個又は２個ある（学術論文発表を除く）
C：　◎がない又は２回以上（年度をまたぐ場合も含む）同じルール違反がある
　但し、ルール違反等があった場合は◎が３個以上の場合でもB以下となる

各ユニットセンターの総評

※◎評価され、加点対象となる項目
○評価されたが、加点非対象となる項目

北海道ユニットセンター

総評：B

◎ **エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（参加者のモチベーション維持等）**

子どもを主体とした調査参加の働きかけや、参加者ポータルへ誘導するためのカードの工夫などは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。

◎ **エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（成果の社会還元）**

大学・行政・地域と連携を密にして、オンライン市民講座の開催、小中学校・高校への出張講義などにより積極的に地域への成果還元に取組んでいることは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。

○ **エコチル調査の成果（学術論文等の発表については加点非対象）**

PFAS の健康影響を含む複数の中心仮説に関する論文を発表していること、またインパクトファクターが高いことが高く評価できる。

宮城ユニットセンター

総評：A

◎ **エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（参加者のモチベーション維持等）**

オンラインセミナー、子ども向け情報誌、SNS（X）など幅広い方法で参加者に情報発信していることは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。

◎ **エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（成果の社会還元）**

大学のオープンキャンパスを利用した成果の還元や学内研究者に向けてポータルサイトを立ち上げていることなどは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。

◎ **エコチル調査の成果（研究成果や活動に対する表彰・褒章）**

発表論文に対する学会からの表彰が１件ある。

福島ユニットセンター

総評：B

◎ **エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（参加者のモチベーション維持等）**

質問票の返送率を向上させるためにノベルティを工夫していることなどは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。

◎ **エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（成果の社会還元）**

県内の学校保健・教育関係者と連携を強化していることや、全学を挙げての

研究体制を構築していることは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。

○　エコチル調査の成果（学術論文等の発表については加点非対象）

最も多くの論文を発表していること、さらにインパクトファクターが高いことが高く評価できる。

千葉ユニットセンター

総評：B

◎　質問票回収率の維持状況（６ヶ月回収率と小６回収率の差）

回収率の低減を抑制できている。

◎　エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（参加者のモチベーション維持等）

セミナーやイベントの開催、動画配信などにより参加者の調査継続意識の向上を図っていること、科学への興味を喚起させるノベルティを作成していることは他ユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。

◎　エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（成果の社会還元）

成果紹介動画の作成、子ども向けの論文紹介など、一般市民や子どもにも分かりやすいよう工夫して情報発信を行っていることは他ユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。

・　ルール違反等の状況

参加者へ質問票の提出依頼を送る際に名前の記載を間違え、個人情報の漏えいにつながった事案が１件あった。個人情報の漏えいが 166 件発生し、さらに環境省への報告が遅延した。今後は、これまで以上に情報セキュリティに対する全スタッフの意識の向上を図るとともに、作業ミスの発生を防止する仕組みづくりが必要である。

神奈川ユニットセンター

総評：B

◎　質問票回収状況（６ヶ月～小６までの合計の質問票回収率が平均以上）

高い回収率を維持できている。

◎　質問票回収率の維持状況（６ヶ月回収率と小６回収率の差）

回収率の低減を抑制できている。

甲信ユニットセンター（山梨大学）

総評：A

◎　質問票回収率の維持状況（６ヶ月回収率と小６回収率の差）

回収率の低減を抑制できている。

◎　エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（参加者のモチベーション維持等）

分かりやすいニュースレターや小学校でのカードゲームを使った体験授業

は他ユニットセンターの参考ともなり評価できる。

◎ エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（成果の社会還元）

体験授業を通じ、参加者以外の子どもを含む啓発・教育活動を展開し、かつ学校との連携体制を構築していることは他ユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。

甲信サブユニットセンター（信州大学）

総評：A

◎ 質問票回収状況（６ヶ月～小６までの合計の質問票回収率が平均以上）

高い回収率を維持できている。

◎ 質問票回収状況（６ヶ月～小６までの合計の質問票回収率が継続して全ユニットセンターの平均プラス 0.5SD 以上）

令和５（2023）年度、令和６（2024）年度の回収率が、継続して全ユニットセンターの平均プラス 0.5SD 以上である。

◎ 質問票回収率の維持状況（６ヶ月回収率と小６回収率の差）

回収率の低減を抑制できている。

○ エコチル調査の成果（学術論文等の発表については加点非対象）

PFAS の健康影響を含む複数の中心仮説に関する論文を発表していること、またインパクトファクターが高いことが高く評価できる。

富山ユニットセンター

総評：A

◎ 質問票回収状況（６ヶ月～小６までの合計の質問票回収率が平均以上）

高い回収率を維持できている。

◎ 質問票回収状況（６ヶ月～小６までの合計の質問票回収率が継続して全ユニットセンターの平均プラス 0.5SD 以上）

令和５（2023）年度、令和６（2024）年度の回収率が、継続して全ユニットセンターの平均プラス 0.5SD 以上である。

◎ 質問票回収率の維持状況（６ヶ月回収率と小６回収率の差）

回収率の低減を抑制できている。

◎ エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（参加者のモチベーション維持等）

学童期検査を参加者の自由研究に取り上げてもらう取組は、検査の参加率の向上とともに子ども達のエコチル調査に対する理解促進にも役立つと考えられ、他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。

◎ エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（成果の社会還元）

成果発表の小冊子を行政機関、医療機関、教育機関、企業等に配布し、反響が得られていることは、他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。

◎ エコチル調査の成果（研究成果や活動に対する表彰・褒章）

発表論文に対する学会からの表彰が１件ある。

○ エコチル調査の成果（学術論文等の発表については加点非対象）

妊婦や児の健康に関わる論文発表数が複数あることが高く評価できる。

愛知ユニットセンター

総評：B

◎　**エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（成果の社会還元）**

エコチル調査のしくみや成果を分かりやすい動画にし、参加者や一般市民の理解を促していることなどは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。

・　**ルール違反等の状況**

参加者へ検査結果を返却する際に住所の記載を間違え、郵便物の誤配送につながるおそれがあった事案が１件あった。個人情報の漏えいには至らなかったが、環境省ならびにコアセンターへの報告が遅延した。今後は、これまで以上に情報セキュリティに対する全スタッフの意識の向上を図ることが必要である。

京都ユニットセンター

総評：A

◎　**質問票回収状況（６ヶ月～小６までの合計の質問票回収率が平均以上）**

高い回収率を維持できている。

◎　**質問票回収状況（６ヶ月～小６までの合計の質問票回収率が継続して全ユニットセンターの平均プラス 0.5SD 以上）**

令和５（2023）年度、令和６（2024）年度の回収率が、継続して全ユニットセンターの平均プラス 0.5SD 以上である。

◎　**質問票回収率の維持状況（６ヶ月回収率と小６回収率の差）**

回収率の低減を抑制できている。

◎　**エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（参加者のモチベーション維持等）**

乳歯調査の試料提供者に対する「代わりの歯」のプレゼント、子ども向けの研究体験といった参加者に寄り添った取組などは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。

◎　**エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（成果の社会還元）**

子ども向けの研究体験イベントや保護者向けの成果報告会を開催していることなどは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。

大阪ユニットセンター

総評：B

◎　**質問票回収状況（６ヶ月～小６までの合計の質問票回収率が平均以上）**

高い回収率を維持できている。

◎　**質問票回収率の維持状況（６ヶ月回収率と小６回収率の差）**

回収率の低減を抑制できている。

兵庫ユニットセンター

総評：A

◎ 質問票回収状況（６ヶ月～小６までの合計の質問票回収率が平均以上）
　高い回収率を維持できている。

◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）
　昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。

◎ エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（成果の社会還元）
　市民公開講座を開催したり県主催の若者を対象とした環境イベントへの出展を通じて成果還元を行っていることなどは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。

◎ エコチル調査の成果（研究成果や活動に対する表彰・褒章）
　発表論文に対する学会からの表彰が１件ある。

鳥取ユニットセンター

総評：B

◎ 質問票回収状況（６ヶ月～小６までの合計の質問票回収率が平均以上）
　高い回収率を維持できている。

◎ 質問票回収状況（６ヶ月～小６までの合計の質問票回収率が継続して全ユニットセンターの平均プラス 0.5SD 以上）
　令和５（2023）年度、令和６（2024）年度の回収率が、継続して全ユニットセンターの平均プラス 0.5SD 以上である。

◎ 質問票回収率の維持状況（６ヶ月回収率と小６回収率の差）
　回収率の低減を抑制できている。

◎ エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（参加者のモチベーション維持等）
　13 歳以降の調査に関する継続意思の確認方法や説明資料を工夫していることが他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。

・ ルール違反等の状況：
　参加者へ謝礼を送る際に住所の記載を間違え、郵便物の誤配送につながった事案が１件あった。個人情報の漏えいが１件発生し、さらに環境省への報告が遅延した。今後は、これまで以上に情報セキュリティに対する全スタッフの意識の向上を図るとともに、作業ミスの発生を防止する仕組みづくりが必要である。

高知ユニットセンター

総評：B

◎ エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（成果の社会還元）
　地域のメディア、大学広報等と連携をとり、継続的に地域への成果還元を行っていることは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。

産業医科大学サブユニットセンター

総評：A

◎　**質問票回収状況（６ヶ月～小６までの合計の質問票回収率が平均以上）**

高い回収率を維持できている。

◎　**エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（参加者のモチベーション維持等）**

参加者ポータルから動画やアンケートを配信したり、調査に参加している子どもの意見を聴取して検査の案内資料を作るなど、子どもに寄り添った取組は他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。

◎　**エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（成果の社会還元）**

地域でイベントが行われた際、調査に参加している子ども自身に広報活動を行ってもらい参加意識を高めていることは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。エコチル調査を取り上げたヘルスプロモーションに関する刊行物の執筆は、調査の周知につながる取組として特筆できる。

◎　**エコチル調査の成果（研究成果や活動に対する表彰・褒章）**

エコチル調査を含む研究活動に対する学会等からの表彰が１件ある。

九州大学サブユニットセンター

総評：B

◎　**質問票回収状況（６ヶ月～小６までの合計の質問票回収率が平均以上）**

高い回収率を維持できている。

熊本大学サブユニットセンター

総評：B

◎　**質問票回収率の維持状況（６ヶ月回収率と小６回収率の差）**

回収率の低減を抑制できている。

宮崎大学サブユニットセンター

総評：A

◎　**質問票回収状況（６ヶ月～小６までの合計の質問票回収率が平均以上）**

高い回収率を維持できている。

◎　**質問票回収状況（６ヶ月～小６までの合計の質問票回収率が継続して全ユニットセンターの平均プラス 0.5SD 以上）**

令和５（2023）年度、令和６（2024）年度の回収率が、継続して全ユニットセンターの平均プラス 0.5SD 以上である。

◎　**質問票回収率の維持状況（６ヶ月回収率と小６回収率の差）**

回収率の低減を抑制できている。

琉球大学サブユニットセンター

総評：B

◎　質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）

昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。

ユニットセンター　総合評価一覧

評価項目	フォローアップ状況											エコチル調査に係る業務全般に関する取組				エコチル調査の成果				エコチル調査ルールの遵守及び管理状況【表6、表7】		総合評価					
	現参加者率【暫定】	質問票の回収率（累計）										参加者の調査参加へのモチベーション維持、質問票回収率の維持・向上		成果の社会還元		研究成果や活動に対する表彰・褒章		学術論文等の発表									
	現参加者数÷登録者数【表1】	質問票回収状況（出生後6ヶ月～小6までの合計の質問票回収率）【表2】				質問票回収率の維持状況（出生後6ヶ月回収率と小6回収率の差）【表2】			質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）【表3-1、表3-2】（※2023年9月25日時点から2024年9月24日時点までの期間）			特に優れた取組【表4－1】		特に優れた取組【表4－2】		学会等からの表彰・褒章【表5－2】		特に優れた学術論文や成果発表【表5－3】				フォローアップ状況	エコチル調査に係る業務全般に関する取組	エコチル調査の成果	エコチル調査ルールの遵守及び管理状況	総合評価	ユニット／サブユニットセンター名
評価基準	－	－		◎：令和6年度の回収率が80.0%（平均）以上	◎：令和5年度～令和6年度の回収率が0.5SD以上を継続	◎：回収率の差異が27.8%（平均）未満			◎：傾きの差異がプラス			◎：PDCAの観点を踏まえ、特に優れた取組を行っている場合（互選数6以上に◎）		◎：PDCAの観点を踏まえ、特に優れた取組を行っている場合（互選数4以上に◎）		◎：エコチル調査の研究成果や活動に対する学会等から表彰・褒章があった場合		◎：特に優れた学術論文や成果発表があった場合（互選数6以上に◎）		ルール違反の有無※軽微なものは含まない						
ユニット／サブユニットセンター名	現参加者率（参考）	回収率	ランキング（参考）	評価		回収率の差異	ランキング（参考）	評価	傾きの差	ランキング（参考）	評価	互選数	評価	互選数	評価	表彰等件数	評価	互選数	評価	☑	該当ルールと事案の種類	◎個数	◎個数	◎個数[2]	違反件数		
1 北海道ユニットセンター	92.6	78.5	13			32.7	18		−0.0247	6		10	◎	11	◎	1	－	16	◎	－	－	0	2	0	0	B	北海道
2 宮城ユニットセンター	91.9	74.7	19			35.6	19		−0.1460	19		7	◎	10	◎	1	◎	1		－	－	0	2	1	0	A	宮城
3 福島ユニットセンター	92.4	78.4	14			31.8	17		−0.0492	10		7	◎	6	◎	1	－	8	◎	－	－	0	2	0	0	B	福島
4 千葉ユニットセンター	85.5	79.9	11			26.4	8	◎	−0.0822	15		7	◎	12	◎	－	－	0		✓	個人情報管理[1]	1	2	－	1	B	千葉
5 神奈川ユニットセンター	89.9	81.9	6	◎		27.4	10	◎	−0.0667	13		0		0		－	－	2		－	－	2	－	－	0	B	神奈川
6 甲信ユニットセンター（山梨大学）	87.8	77.1	15			27.0	9	◎	−0.0510	11		6	◎	14	◎	－	－	2		－	－	1	2	－	0	A	山梨大学
7 甲信サブユニットセンター（信州大学）	92.5	87.9	1	◎	◎	22.4	5	◎	−0.0371	8		2		1		－	－	13	◎	－	－	3	－	0	0	A	信州大学
8 富山ユニットセンター	92.4	85.8	3	◎	◎	19.9	3	◎	−0.0143	4		9	◎	8	◎	1	◎	6	◎	－	－	3	2	1	0	A	富山
9 愛知ユニットセンター	94.1	79.9	12			27.9	12		−0.0379	9		3		4	◎	－	－	0		✓	個人情報管理[1]	0	1	－	1	B	愛知
10 京都ユニットセンター	94.1	86.2	2	◎	◎	16.2	1	◎	−0.0542	12		8	◎	5	◎	－	－	0		－	－	3	2	－	0	A	京都
11 大阪ユニットセンター	95.1	81.6	8	◎		22.1	4	◎	−0.1034	16		1		1		－	－	5		－	－	2	－	－	0	B	大阪
12 兵庫ユニットセンター	94.0	80.4	10	◎		30.7	16		0.0388	2	◎	3		4	◎	1	◎	0		－	－	2	1	1	0	A	兵庫
13 鳥取ユニットセンター	94.7	82.8	5	◎	◎	25.7	7	◎	−0.0151	5		7	◎	1		－	－	0		✓	個人情報管理[1]	3	1	－	1	B	鳥取
14 高知ユニットセンター	92.3	76.9	16			27.8	11		−0.0276	7		5		6	◎	－	－	0		－	－	0	1	－	0	B	高知
15 産業医科大学サブユニットセンター	96.3	81.7	7	◎		30.0	15		−0.1325	18		13	◎	11	◎	1	◎	3		－	－	1	2	1	0	A	産業医科大
16 九州大学サブユニットセンター	92.6	81.4	9	◎		29.9	14		−0.0755	14		1		0		－	－	0		－	－	1	－	－	0	B	九州大学
17 熊本大学サブユニットセンター	94.4	76.2	17			23.2	6	◎	−0.1156	17		4		1		－	－	0		－	－	1	－	－	0	B	熊本大学
18 宮崎大学サブユニットセンター	92.7	84.7	4	◎	◎	18.4	2	◎	−0.0074	3		2		0		－	－	0		－	－	3	－	－	0	A	宮崎大学
19 琉球大学サブユニットセンター	90.7	75.4	18			29.4	13		0.0456	1	◎	0		0		－	－	1		－	－	1	－	－	0	B	琉球大学

1）個人情報管理に関する基本ルールに対する違反

2）「学術論文等の発表」はフォローアップ状況の4項目に◎がつかないと総合評価ではカウントしない。

総合評価

- **S：** ◎が5個以上あり、且つ、フォローアップ状況の◎が4個
- **A：** ◎が3個以上ある（学術論文発表等を除く）
- **B：** ◎が1個又は2個ある（学術論文発表等を除く）
- **C：** ◎がない又は2回以上（年度をまたぐ場合も含む）同じルール違反がある
  ※ 但し、ルール違反等があった場合は◎が3個以上の場合でもB以下となる

表１　子どもの現参加者数【令和６年９月末時点】　※現参加者率の高い順に表示

ユニットセンター／ サブユニットセンター	出生数	他 UC への 転出者数	他 UC からの 転入者数	本人 死亡	代諾者 消失	その他 （打ち切り）	子氏名等の情報提供拒否	協力 中止	同意 撤回	完全同意撤回	住所 不明	不明・ その他	集計日	現参加者数 （計算数）	現参加者率 (%)
産業医科大学サブユニットセンター	2,952	20	34	7	11	2	1	74	20	0	9	0	9/24	2,842	96.3
大阪ユニットセンター	7,851	45	63	19	22	86	1	199	18	3	57	0	9/24	7,464	95.1
鳥取ユニットセンター	3,036	20	10	7	17	0	1	116	1	1	9	0	9/24	2,874	94.7
熊本大学サブユニットセンター	3,012	29	27	11	18	0	0	118	12	0	9	0	9/24	2,842	94.4
京都ユニットセンター	3,898	69	71	11	10	46	0	126	28	1	10	0	9/24	3,668	94.1
愛知ユニットセンター	5,554	36	83	11	5	10	0	262	10	5	73	0	9/24	5,225	94.1
兵庫ユニットセンター	5,069	67	55	8	17	56	0	168	22	4	19	0	9/24	4,763	94.0
宮崎大学サブユニットセンター	1,834	33	19	3	11	4	0	72	24	0	6	0	9/24	1,700	92.7
九州大学サブユニットセンター	4,564	20	60	9	10	4	2	197	73	1	80	1	9/24	4,227	92.6
北海道ユニットセンター	7,934	55	68	24	17	8	0	522	19	4	6	0	9/24	7,347	92.6
甲信サブユニットセンター（信州大学）	2,679	19	22	5	5	1	0	150	13	0	31	0	9/24	2,477	92.5
富山ユニットセンター	5,389	66	29	10	8	1	0	228	103	5	16	0	9/24	4,981	92.4
福島ユニットセンター	12,866	249	153	25	184	13	0	419	154	7	67	12	9/24	11,889	92.4
高知ユニットセンター	6,920	74	17	21	12	27	0	360	32	3	24	0	9/24	6,384	92.3
宮城ユニットセンター	8,999	139	193	24	58	2	6	342	245	2	103	0	9/24	8,271	91.9
琉球大学サブユニットセンター	863	13	13	1	5	0	0	51	0	0	21	2	9/24	783	90.7
神奈川ユニットセンター	6,404	43	83	9	22	4	13	511	7	0	121	0	9/24	5,757	89.9
甲信ユニットセンター（山梨大学）	4,491	43	17	12	5	1	0	396	14	0	95	0	9/24	3,942	87.8
千葉ユニットセンター	6,010	87	110	9	15	174	26	548	61	3	57	0	9/24	5,140	85.5
合計	100,325	1,127	1,127	226	452	439	50	4,859	856	39	813	15	9/24	92,576	92.3

※子どもの出生数は確定値。その他の値は、令和６年９月末現在の暫定値である。
※「その他の理由により調査継続不能」は、出生時に児の名前を把握できなかったため調査を打ち切りとしたなど。

表１別紙　現参加者率の推移

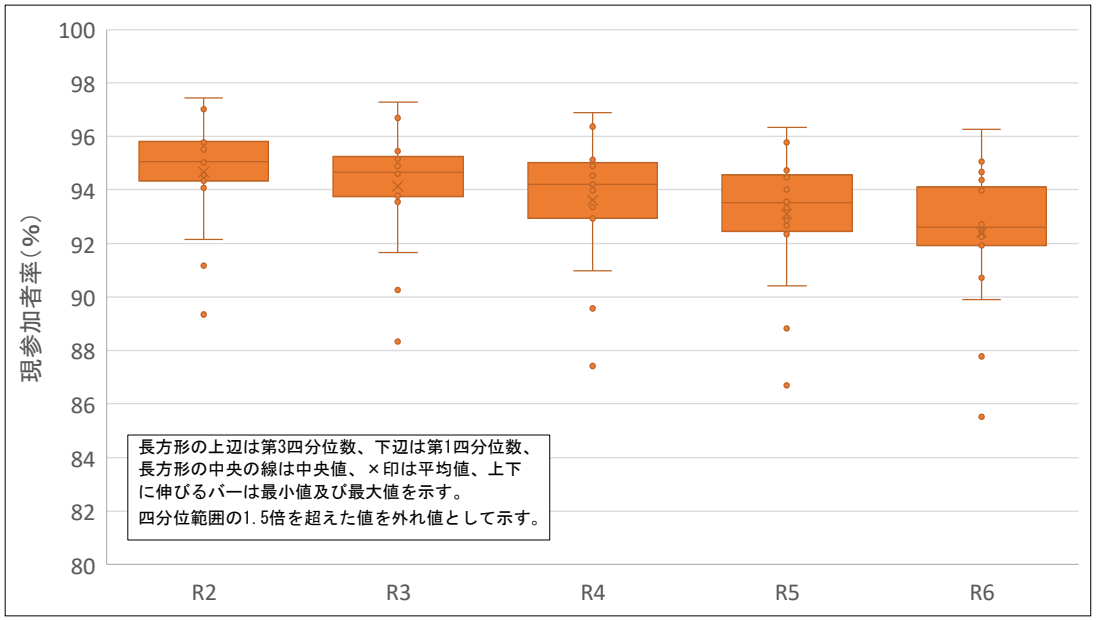


図1　現参加者率のばらつきの推移

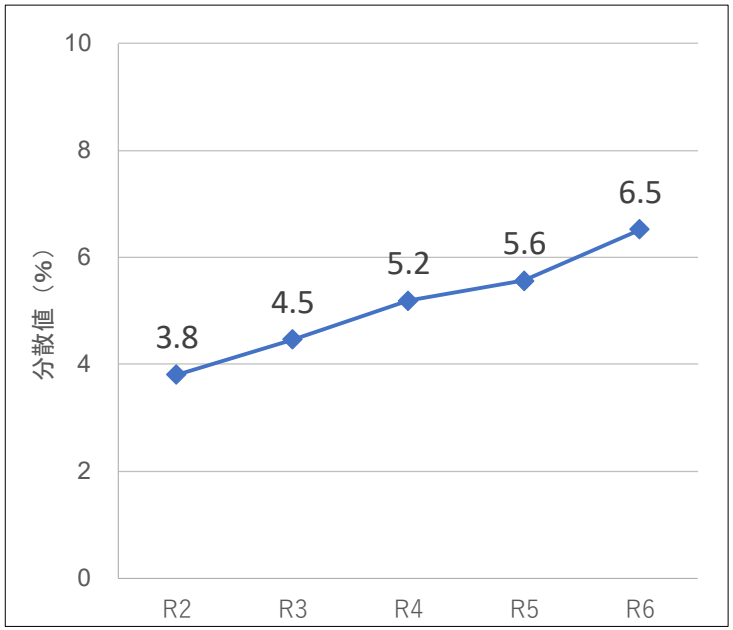


図2　現参加者率　分散値の推移

（%）	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
平均	94.7	94.1	93.6	93.0	92.3
分散値	3.8	4.5	5.2	5.6	6.5
最大値	97.4	97.3	96.9	96.3	96.3
最小値	89.3	88.3	87.4	86.7	85.5
第1四分位数	94.4	93.8	93.0	92.4	92.1
第3四分位数	95.8	95.2	95.0	94.5	94.1
範囲	8.1	9.0	9.5	9.6	10.7

※令和２年度は2020年９月末時点での集計値
※令和３年度は2021年９月末時点での集計値
※令和４年度は2022年９月末時点での集計値
※令和５年度は2023年９月末時点での集計値
※令和６年度は2024年９月末時点での集計値

表２　質問票回収率の維持状況（出生後６ヶ月～12 歳までの合計の質問票回収率）【2024 年 9 月 24 日時点の累積、６ヶ月後】

※回収率の総数（R6）の高い順に表示

ユニットセンター／サブユニットセンター	C−6m			C−1y			C−1.5y			C−2y			C−2.5y			C−3y			C−3.5y			C−4y			C−4.5y			C−5y			C−5.5y			C−6y			C−7y			C−8y			C−9y		
	発送数	完了	回収率(%)	発送数	完了	回収率(%)	発送数	完了	回収率(%)	発送数	完了	回収率(%)	発送数	完了	回収率(%)	発送数	完了	回収率(%)	発送数	完了	回収率(%)	発送数	完了	回収率(%)	発送数	完了	回収率(%)	発送数	完了	回収率(%)	発送数	完了	回収率(%)	発送数	完了	回収率(%)	発送数	完了	回収率(%)	発送数	完了	回収率(%)	発送数	完了	回収率(%)
甲信サブユニットセンター(信州大学)	2,661	2,595	97.5	2,647	2,550	96.3	2,640	2,517	95.3	2,631	2,465	93.7	2,623	2,426	92.5	2,607	2,410	92.4	2,590	2,343	90.5	2,576	2,313	89.8	2,562	2,258	88.1	2,550	2,216	86.9	2,536	2,214	87.3	2,525	2,207	87.4	2,514	2,168	86.2	2,505	2,134	85.2	2,480	2,103	84.8
京都ユニットセンター	3,866	3,704	95.8	3,843	3,600	93.7	3,830	3,524	92.0	3,836	3,493	91.1	3,832	3,455	90.2	3,816	3,408	89.3	3,801	3,319	87.3	3,785	3,281	86.7	3,771	3,242	86.0	3,755	3,150	83.9	3,743	3,166	84.6	3,738	3,177	85.0	3,716	3,148	84.7	3,706	3,170	85.5	3,685	3,107	84.3
富山ユニットセンター	5,343	5,166	96.7	5,337	5,011	93.9	5,326	4,902	92.0	5,312	4,828	90.9	5,300	4,750	89.6	5,284	4,671	88.4	5,256	4,592	87.4	5,229	4,494	85.9	5,209	4,412	84.7	5,189	4,290	82.7	5,171	4,349	84.1	5,152	4,346	84.4	5,133	4,355	84.8	5,086	4,310	84.7	5,064	4,312	85.2
宮崎大学サブユニットセンター	1,827	1,752	95.9	1,823	1,719	94.3	1,814	1,701	93.8	1,808	1,613	89.2	1,805	1,572	87.1	1,798	1,627	90.5	1,794	1,639	91.4	1,788	1,526	85.3	1,786	1,486	83.2	1,788	1,471	82.3	1,778	1,486	83.6	1,777	1,483	83.5	1,768	1,475	83.4	1,745	1,452	83.2	1,735	1,420	81.8
鳥取ユニットセンター	3,023	2,881	95.3	3,021	2,823	93.4	3,016	2,759	91.5	3,013	2,689	89.2	3,004	2,654	88.3	2,988	2,610	87.3	2,975	2,530	85.0	2,970	2,489	83.8	2,955	2,437	82.5	2,943	2,361	80.2	2,936	2,440	83.1	2,925	2,437	83.3	2,905	2,361	81.3	2,882	2,346	81.4	2,870	2,280	79.4
神奈川ユニットセンター	6,361	6,065	95.3	6,342	5,891	92.9	6,318	5,694	90.1	6,301	5,557	88.2	6,246	5,397	86.4	6,190	5,307	85.7	6,161	5,150	83.6	6,101	5,014	82.2	6,068	4,900	80.8	6,030	4,732	78.5	5,987	4,753	79.4	5,964	4,750	79.6	5,904	4,746	80.4	5,874	4,707	80.1	5,828	4,608	79.1
産業医科大学サブユニットセンター	2,930	2,764	94.3	2,917	2,633	90.3	2,912	2,570	88.3	2,921	2,534	86.8	2,923	2,509	85.8	2,917	2,487	85.3	2,912	2,393	82.2	2,903	2,396	82.5	2,893	2,366	81.8	2,885	2,299	79.7	2,867	2,330	81.3	2,859	2,336	81.7	2,846	2,381	83.7	2,831	2,324	82.1	2,821	2,267	80.4
大阪ユニットセンター	7,807	7,270	93.1	7,794	7,072	90.7	7,781	6,916	88.9	7,770	6,733	86.7	7,757	6,612	85.2	7,734	6,520	84.3	7,712	6,301	81.7	7,682	6,219	81.0	7,665	6,091	79.5	7,637	5,924	77.6	7,618	6,112	80.2	7,592	6,091	80.2	7,546	6,144	81.4	7,514	6,086	81.0	7,467	5,927	79.4
九州大学サブユニットセンター	4,543	4,267	93.9	4,529	4,131	91.2	4,513	4,037	89.5	4,500	3,948	87.7	4,488	3,884	86.5	4,469	3,835	85.8	4,451	3,724	83.7	4,426	3,680	83.1	4,414	3,587	81.3	4,393	3,475	79.1	4,371	3,516	80.4	4,358	3,506	80.4	4,348	3,489	80.2	4,337	3,481	80.3	4,310	3,424	79.4
兵庫ユニットセンター	4,954	4,729	95.5	4,946	4,600	93.0	4,948	4,514	91.2	4,938	4,411	89.3	4,932	4,299	87.2	4,923	4,221	85.7	4,905	4,100	83.6	4,893	4,020	82.2	4,876	3,938	80.8	4,863	3,769	77.5	4,851	3,840	79.2	4,835	3,815	78.9	4,817	3,817	79.2	4,816	3,754	77.9	4,794	3,706	77.3
千葉ユニットセンター	5,894	5,417	91.9	5,881	5,294	90.0	5,865	5,194	88.6	5,849	5,058	86.5	5,812	4,930	84.8	5,765	4,780	82.9	5,725	4,613	80.6	5,675	4,491	79.1	5,646	4,365	77.3	5,608	4,190	74.7	5,568	4,244	76.2	5,533	4,225	76.4	5,440	4,263	78.4	5,333	4,225	79.2	5,255	4,162	79.2
愛知ユニットセンター	5,518	5,127	92.9	5,508	5,013	91.0	5,499	4,896	89.0	5,478	4,824	88.1	5,457	4,748	87.0	5,441	4,689	86.2	5,412	4,535	83.8	5,394	4,456	82.6	5,361	4,320	80.6	5,347	4,262	79.7	5,340	4,288	80.3	5,325	4,242	79.7	5,307	4,160	78.4	5,285	4,021	76.1	5,245	3,898	74.3
北海道ユニットセンター	7,713	7,266	94.2	7,671	7,054	92.0	7,656	6,915	90.3	7,646	6,771	88.6	7,645	6,648	87.0	7,640	6,447	84.4	7,609	6,232	81.9	7,573	6,125	80.9	7,542	5,936	78.7	7,521	5,772	76.7	7,498	5,742	76.6	7,475	5,730	76.7	7,440	5,747	77.2	7,388	5,641	76.4	7,346	5,365	73.0
福島ユニットセンター	12,760	12,436	97.5	12,737	11,988	94.1	12,692	11,559	91.1	12,655	11,113	87.8	12,631	10,756	85.2	12,607	10,435	82.8	12,569	10,006	79.6	12,536	9,792	78.1	12,494	9,489	75.9	12,423	9,078	73.1	12,334	9,217	74.7	12,262	9,210	75.1	12,160	9,315	76.6	12,048	9,074	75.3	11,957	8,706	72.8
甲信ユニットセンター(山梨大学)	4,454	4,154	93.3	4,423	3,889	87.9	4,405	3,740	84.9	4,387	3,628	82.7	4,376	3,558	81.3	4,364	3,524	80.8	4,323	3,394	78.5	4,283	3,361	78.5	4,250	3,275	77.1	4,209	3,151	74.9	4,169	3,166	75.9	4,142	3,177	76.7	4,107	3,169	77.2	4,044	3,050	75.4	4,013	2,950	73.5
高知ユニットセンター	6,887	6,315	91.7	6,875	6,129	89.1	6,865	5,955	86.7	6,837	5,839	85.4	6,824	5,777	84.7	6,804	5,462	80.3	6,765	5,132	75.9	6,746	5,053	74.9	6,713	4,824	71.9	6,689	4,768	71.3	6,651	4,764	71.6	6,626	4,841	73.1	6,569	4,980	75.8	6,523	5,036	77.2	6,468	4,877	75.4
熊本大学サブユニットセンター	3,005	2,751	91.5	2,998	2,654	88.5	2,994	2,491	83.2	2,988	2,480	83.0	2,980	2,289	76.8	2,971	2,279	76.7	2,958	2,165	73.2	2,944	2,130	72.4	2,923	2,120	72.5	2,903	2,093	72.1	2,893	2,134	73.8	2,878	2,152	74.8	2,866	2,175	75.9	2,863	2,199	76.8	2,850	2,132	74.8
琉球大学サブユニットセンター	856	824	96.3	854	797	93.3	853	759	89.0	851	704	82.7	849	668	78.7	844	647	76.7	837	624	74.6	832	613	73.7	828	610	73.7	821	600	73.1	819	589	71.9	818	593	72.5	816	602	73.8	813	595	73.2	804	572	71.1
宮城ユニットセンター	8,955	8,091	90.4	8,940	7,749	86.7	8,923	7,588	85.0	8,883	7,475	84.1	8,846	7,345	83.0	8,797	7,220	82.1	8,755	6,993	79.9	8,686	6,768	77.9	8,623	6,586	76.4	8,581	6,360	74.1	8,561	6,420	75.0	8,531	6,291	73.7	8,500	6,219	73.2	8,446	6,130	72.6	8,384	5,954	71.0
コアセンター	51	47	92.2	116	108	93.1	131	122	93.1	77	67	87.0	20	17	85.0																																
合計	99,408	93,621	94.2	99,202	90,705	91.4	98,981	88,353	89.3	98,681	86,230	87.4	98,350	84,294	85.7	97,959	82,579	84.3	97,510	79,785	81.8	97,022	78,221	80.6	96,579	76,242	78.9	96,135	73,961	76.9	95,691	74,770	78.1	95,315	74,609	78.3	94,702	74,714	78.9	94,039	73,735	78.4	93,376	71,770	76.9
標準偏差(SD)																																												

ユニットセンター／サブユニットセンター	C−10y		C−10y子ども		C−11y		C−11y子ども		C−12y		C−12y子ども		S−1		S−2		S−3		S−4		S−5		S−6		総数(R6)			総数(R5)			令和5年度～令和6年度の回収率が0.5SD以上を継続	低減率	
	発送数	回収率(%)	発送数	回収率(%)	発送数	回収率(%)	発送数	回収率(%)	発送数	回収率(%)	発送数	回収率(%)	発送数	回収率(%)	発送数	回収率(%)	発送数	回収率(%)	発送数	回収率(%)	発送数	回収率(%)	発送数	回収率(%)	発送数	回収率(%)	回収率0.5SD以上	発送数	回収率(%)	回収率0.5SD以上		6m⇒S−6(回収率%)	ランキング(参考)
甲信サブユニットセンター(信州大学)	2,021	81.6	2,021	79.9	1,163	81.9	1,163	80.7	458	74.0	458	74.0	2,513	87.0	2,491	85.4	2,481	84.3	1,969	83.5	1,108	82.7	418	75.1	56,911	87.9	○	49,868	88.9	○	◎	22.4	5
京都ユニットセンター	2,996	80.6	2,995	78.4	1,619	78.8	1,617	77.6	426	75.6	426	74.9	3,724	86.4	3,708	84.8	3,691	84.5	2,895	82.3	1,526	80.2	349	79.7	82,695	86.2	○	72,104	87.0	○	◎	16.2	1
富山ユニットセンター	4,230	81.8	4,230	81.0	2,569	81.0	2,569	80.7	1,036	74.9	1,036	74.5	5,132	84.8	5,079	82.7	5,064	84.1	4,125	82.5	2,469	80.2	953	76.8	116,883	85.8	○	102,391	86.5	○	◎	19.9	3
宮崎大学サブユニットセンター	1,462	78.2	1,462	77.9	893	76.5	893	76.4	396	75.5	396	75.3	1,767	84.5	1,741	82.0	1,725	80.7	1,424	80.5	860	78.3	355	77.5	40,208	84.7	○	35,247	85.8	○	◎	18.4	2
鳥取ユニットセンター	2,449	75.6	2,449	74.5	1,488	73.7	1,488	72.9	584	65.8	584	64.6	2,907	84.1	2,883	80.5	2,872	79.9	2,391	77.4	1,414	74.2	523	69.6	66,458	82.8	○	58,140	84.0	○	◎	25.7	7
神奈川ユニットセンター	4,820	75.9	4,820	74.3	2,756	74.7	2,756	73.3	845	69.8	845	68.6	5,900	82.0	5,874	79.1	5,833	78.6	4,695	76.5	2,589	73.8	754	67.9	134,162	81.9		117,476	83.0			27.4	10
産業医科大学サブユニットセンター	2,366	75.6	2,365	74.4	1,419	72.0	1,419	70.1	551	67.3	551	64.4	2,846	84.3	2,830	79.5	2,823	78.7	2,302	76.5	1,363	71.5	505	64.4	64,677	81.7		56,569	82.9			30.0	15
大阪ユニットセンター	6,283	75.2	6,283	73.8	3,802	73.6	3,802	72.5	1,656	68.3	1,656	67.0	7,556	85.6	7,515	82.9	7,483	81.0	6,108	80.1	3,648	78.1	1,489	71.1	172,357	81.6		150,867	82.8			22.1	4
九州大学サブユニットセンター	3,662	75.0	3,662	74.0	2,289	73.8	2,289	72.7	914	64.2	914	63.5	4,345	80.8	4,333	79.3	4,308	78.6	3,570	76.6	2,204	73.7	826	64.0	99,766	81.4		87,354	82.6			29.9	14
兵庫ユニットセンター	4,224	73.3	4,224	69.7	2,636	72.7	2,636	70.4	929	65.2	929	63.3	4,817	79.8	4,812	76.2	4,797	75.8	4,113	74.0	2,523	71.0	803	64.8	110,734	80.4		96,803	81.5			30.7	16
千葉ユニットセンター	4,400	75.4	4,400	74.5	2,727	73.6	2,727	72.9	915	64.8	915	64.6	5,455	78.9	5,320	79.1	5,264	78.6	4,317	76.9	2,602	73.6	811	65.5	124,702	79.9		109,686	80.9			26.4	8
愛知ユニットセンター	4,461	71.2	4,460	69.6	2,569	69.9	2,569	68.7	864	63.3	864	62.5	5,297	80.4	5,282	74.9	5,249	74.9	4,364	72.3	2,438	70.8	768	65.0	120,102	79.9		104,991	81.3			27.9	12
北海道ユニットセンター	5,984	66.9	5,984	65.9	3,310	66.8	3,309	65.9	1,187	61.0	1,187	60.6	7,440	77.5	7,386	73.5	7,345	72.6	5,835	70.9	3,140	69.4	1,043	61.5	166,513	78.5		145,554	80.2			32.7	18
福島ユニットセンター	9,265	67.9	9,265	67.2	3,249	66.4	3,249	65.7	1,023	64.2	1,023	64.0	12,155	78.4	12,026	74.1	11,961	71.8	8,875	69.6	2,891	67.9	916	65.6	262,763	78.4		229,117	80.0			31.8	17
甲信ユニットセンター(山梨大学)	3,365	70.1	3,365	69.2	2,065	68.0	2,065	67.4	858	63.3	858	63.1	4,111	76.6	4,046	73.9	4,016	73.8	3,289	71.0	1,982	69.1	780	66.3	94,749	77.1		83,277	78.4			27.0	9
高知ユニットセンター	5,301	71.4	5,301	70.6	3,076	70.2	3,076	69.6	1,194	63.1	1,194	62.6	6,567	77.6	6,511	75.5	6,472	74.2	5,154	71.7	2,913	69.6	1,082	63.9	148,683	76.9		130,140	77.8			27.8	11
熊本大学サブユニットセンター	2,414	71.3	2,414	70.1	1,457	70.3	1,457	69.7	578	64.7	578	64.4	2,863	77.6	2,860	76.8	2,848	75.8	2,367	74.2	1,403	71.3	527	68.3	65,780	76.2		57,588	77.3			23.2	6
琉球大学サブユニットセンター	691	67.1	691	66.1	397	68.3	397	67.0	163	68.7	163	67.5	815	74.4	814	73.3	807	70.4	671	66.9	374	67.6	145	66.9	18,623	75.4		16,302	76.7			29.4	13
宮城ユニットセンター	7,648	64.2	7,648	63.2	4,892	62.2	4,892	61.4	1,868	52.0	1,868	51.4	8,495	75.0	8,440	73.0	8,387	70.0	7,508	66.6	4,697	62.8	1,616	54.8	198,370	74.7		173,649	76.7			35.6	19
コアセンター																									395	91.4		395	91.4			−	
合計	78,042	72.5	78,039	71.2	44,376	71.3	44,373	70.3	16,445	64.9	16,445	64.2	94,705	80.3	93,951	77.5	93,426	76.4	75,972	74.3	42,144	72.1	14,663	66.4	2,145,531	80.0		1,877,518	81.3			27.8	
標準偏差(SD)																										4.3			4.0				

※質問票の回収率：
全年齢の質問票送付の合計に対する、全年齢の質問票回収数の合計の割合。
送付後 6 ヶ月経過した 2024 年 9 月 24 日時点での出生後 6 か月から 12 歳までの回収数を用いて算出した。

表２別紙　質問票回収率の推移

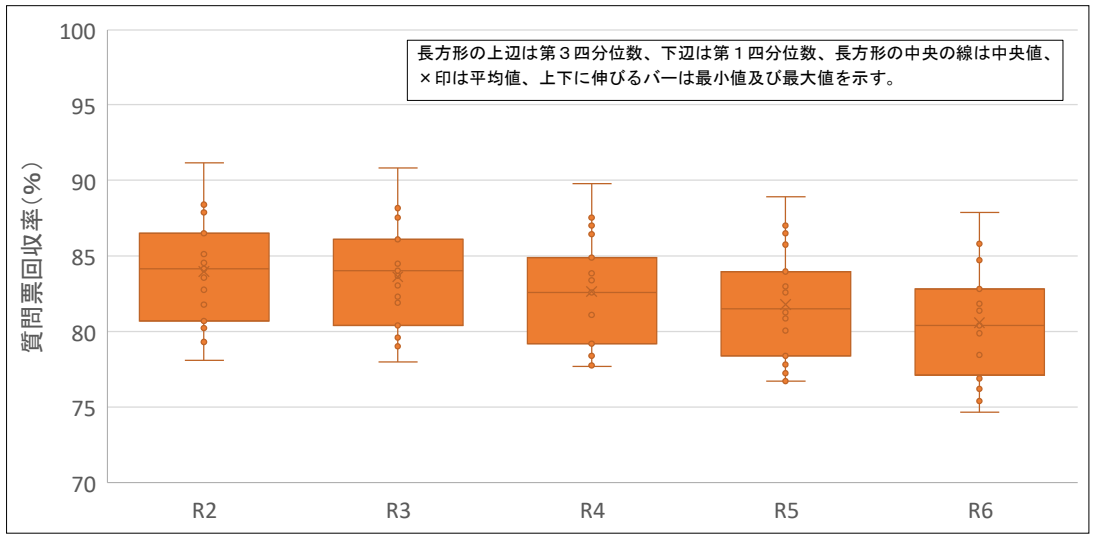


図１　質問票回収率のばらつきの推移

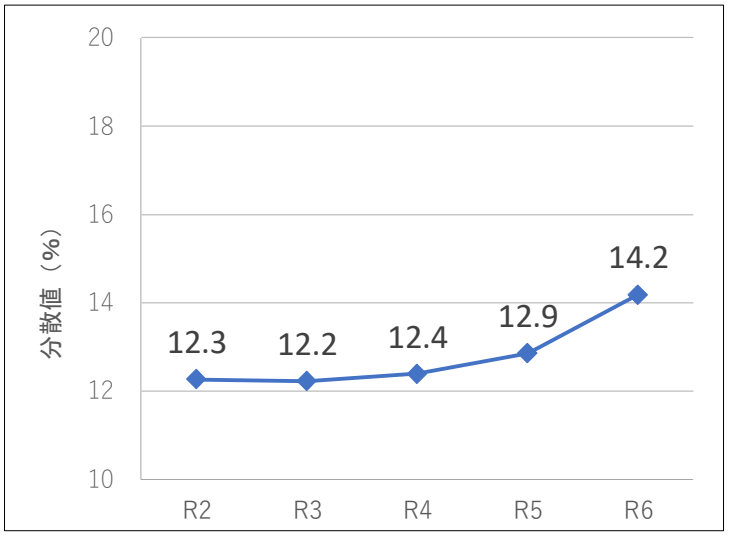


図2　質問票回収率　分散値の推移

（%）	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
平均	83.5	83.2	82.2	81.3	80.0
分散値	12.3	12.2	12.4	12.9	14.2
最大値	91.2	90.8	89.8	88.9	87.9
最小値	78.1	78.0	77.7	76.7	74.7
第1四分位数	81.2	81.2	80.2	79.2	77.8
第3四分位数	85.8	85.4	84.4	83.5	82.3
範囲	13.0	12.9	12.1	12.2	13.2

※令和2年度は2020年9月25日時点での集計値
※令和3年度は2021年9月30日時点での集計値
※令和4年度は2022年9月25日時点での集計値
※令和5年度は2023年9月25日時点での集計値
※令和6年度は2023年9月24日時点での集計値

表３－１ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）
【令和６年９月 24 日時点の累積、６ヶ月後】

※差が正に大きい順に表示

ユニットセンター／サブユニットセンター	R4、R5 の一次直線の傾き[注 1)]		
	R4 [注 2)]	R5 [注 3)]	差 (R5-R4)
琉球大学サブユニットセンター	−0.8301	−0.7845	0.0456
兵庫ユニットセンター	−0.9486	−0.9098	0.0388
宮崎大学サブユニットセンター	−0.6127	−0.6201	−0.0074
富山ユニットセンター	−0.5248	−0.5391	−0.0143
鳥取ユニットセンター	−0.7656	−0.7808	−0.0151
北海道ユニットセンター	−0.9974	−1.0220	−0.0247
高知ユニットセンター	−0.6837	−0.7112	−0.0276
甲信サブユニットセンター（信州大学）	−0.6274	−0.6645	−0.0371
愛知ユニットセンター	−0.8735	−0.9114	−0.0379
福島ユニットセンター	−0.9094	−0.9586	−0.0492
甲信ユニットセンター（山梨大学）	−0.7005	−0.7514	−0.0510
京都ユニットセンター	−0.4697	−0.5239	−0.0542
神奈川ユニットセンター	−0.6554	−0.7221	−0.0667
九州大学サブユニットセンター	−0.7102	−0.7857	−0.0755
千葉ユニットセンター	−0.5664	−0.6486	−0.0822
大阪ユニットセンター	−0.4241	−0.5275	−0.1034
熊本大学サブユニットセンター	−0.3852	−0.5008	−0.1156
産業医科大学サブユニットセンター	−0.6188	−0.7513	−0.1325
宮城ユニットセンター	−0.9377	−1.0836	−0.1460
コアセンター	−	−	−
総計（値は平均値）	−0.6969	−0.7472	−0.0503
標準偏差（SD）	0.1778	0.1667	0.0502

注：

1) 質問票の累積回収率（発送後6か月経過後）を用いて、生後 6 か月～12 歳子ども、小1～小6の質問票回収率の低下を、回帰直線の傾きとして評価

2) R5：2023 年 9 月 25 日時点における、生後 6 か月～11 歳子ども、小1～小5を、それぞれXとして 1～24 を与え、回収率をYとして求めた回帰直線の傾き。

3) R6：2024 年 9 月 24 日時点における、生後 6 か月～12 歳子ども、小1～小6を、それぞれXとして 1～27 を与え、回収率をYとして求めた回帰直線の傾き。（表3－2参照）

表３－２　質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較：グラフ）

【令和６年９月 24 日時点の累積、６ヶ月後】

合計　（ ）内はR5年度

| | 0-4w (0-4w) | 0-1y (0-1y) | 0-1.5y (0-1.5y) | 0-2y (0-2y) | 0-2.5y (0-2.5y) | 0-3y (0-3y) | 0-4y (0-4y) | 0-4.5y (0-4.5y) | 0-5y (0-5y) | 0-5.5y (0-5y) | 0-6y (0-6y) | 0-6.5y (0-6y) | 0-7y (0-7y) | 0-8y (0-8y) | 0-9y (0-9y) | 0-10y (0-10y) | 0-10m (0-10mo) | 0-11y (0-11y) | 0-11m (0-11mo) | 0-12y (0-12y) | 0-12m (0-12mo) | 0-13y (0-13y) | 0-13m (0-13mo) | 0-14y (0-14y) | 0-15y (0-15y) | 0-16y (0-16y) | 0-17y (0-17y) | 0-18y (0-18y) | 0-19y (0-19y) | 0-20y (0-20y) | 0-21y (0-21y) | 0-22y (0-22y) | 0-23y (0-23y) | 0-24y (0-24y) | 0-25y (0-25y) | 0-26y (0-26y) |

表４－１　ユニットセンターでの特に優れた PDCA に沿った取組
（参加者の調査参加へのモチベーション維持」や「質問票回収率の維持・向上」）

※各ユニットセンターの具体的取組は別添 2 参照

ユニットセンター／ サブユニットセンター	PDCAに沿った取組の「特に良い取組」の選定理由（抜粋）
北海道ユニットセンター	○子どもを主体とした調査参加の働きかけや、参加者ポータルへ誘導するためのカードの工夫などは他のユニットセンターの参考ともなる。 ○学童期検査日前の発送物の中に「13歳以降調査の継続手続き完了を依頼する」手紙を同封しており、参考になった。 ○13 歳以降調査継続の障壁を分析し、それに合わせた対応策を構築できている。障壁は局地的なものではなく、他ユニットにとっても参考としやすい分析である。
宮城ユニットセンター	○オンラインセミナー、子ども向け情報誌、SNS（X）など幅広い方法で参加者に情報発信していることは他のユニットセンターの参考ともなる。 ○ポイントカードを利用してポイントが集まればプレゼントがもらえるというワクワク感が検査参加率、13 歳同意、質問票回収率 UP につながると考えられる。 ○ポイントカードによる質問票回収率の改善効果を数値をもって視覚化し独自に検証している点が評価できる。
福島ユニットセンター	○質問票の返送率を向上させるためにノベルティを工夫していることなどは他のユニットセンターの参考ともなる。 ○細かく個別対応をして、きめ細やかな対応に見受けられるところが評価できる。 ○親子会津漆蒔絵制作体験は子どもたちにとって貴重な経験となる機会を提供している。 ○ポータルサイト未ログインの参加者に、毎月通常サイズと大判サイズのハガキで見た目に変化をつけてリマインドをしている。 ○イベントと送付物という両輪で、参加者とのコミュニケーションを切らさずに継続している
千葉ユニットセンター	○セミナーやイベントの開催、動画配信などにより参加者の調査継続意識の向上を図っている。 ○科学への興味を喚起させるノベルティを作成している。 ○参加者にもわかりやすくお知らせする工夫がみられ、寄り添う気持ちが出ているところが評価できる。 ○DNA 折り紙は斬新で、学童期検査に行こうという気持ちを引き出す。 ○ショッピングモールでのイベント開催は画期的。イベント全体は誰でも参加可能としつつ、エコチル参加者限定の企画もあるところがうまいと思う。
神奈川ユニットセンター	－

ユニットセンター／ サブユニットセンター	PDCAに沿った取組の「特に良い取組」の選定理由（抜粋）
甲信ユニットセンター （山梨大学）	○分かりやすいニューズレターや小学校でのカードゲームを使った体験授業は他ユニットセンターの参考ともなる。 ○体験授業を通じ、参加者以外の子どもを含む啓発・教育活動を展開し、かつ学校との連携体制を構築していることは他ユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。 ○中学校入学記念品やニューズレター送付前後の回答率を分析しており、発送時期を考える上で参考になった。 ○参加者ポータルシステムを活用してユニットからお知らせを配信など、Web 質問票回答率アップにも注力している。
甲信サブユニットセンター （信州大学）	○WEB 質問票への子どもの回答率が伸び悩んでいるひとつの理由として、子どもが思春期になるに連れて親子間のコミュニケーションが減少しているという参加者の声をキャッチしたことは、今後の質問票への回答を依頼をする上での大変参考になったため。
富山ユニットセンター	○学童期検査を参加者の自由研究に取り上げてもらう取組は、検査の参加率の向上とともに子ども達のエコチル調査に対する理解促進にも役立つと考えられ、他のユニットセンターの参考ともなる。 ○自由研究に使用してもらうためのパネル展示を行い子どもに興味を持ってもらう事ができた点。 ○学童期検査において、エコチル調査の概要だけでなく参加者自身に役立つ情報（調査項目である体組成、血液および尿の基礎知識）を発信することで、エコチル調査に参加することへのメリットを感じられると考えられた。 ○誕生日配信に併せてメッセージと文具のプレゼントを送付しているのが良い。
愛知ユニットセンター	○エコチル調査のしくみや成果を分かりやすい動画にし、参加者や一般市民の理解を促している。 ○どこでもエコチル調査の情報取得ができる等、参加者の利便性の向上にも貢献している。 ○目標値を明確にして成果を出している。 ○公式 LINE を開設し、参加者との双方向性のやり取りを省力で可能にされている。
京都ユニットセンター	○乳歯調査の試料提供者に対する「代わりの歯」のプレゼント、子ども向けの研究体験といった参加者に寄り添った取組などは他のユニットセンターの参考ともなる。 ○13 歳以降継続の動機になっている事柄を明らかにして今後のフォローアップ活動計画も進めている。

ユニットセンター／ サブユニットセンター	PDCAに沿った取組の「特に良い取組」の選定理由（抜粋）
	○「見込み労力」で所要時間を見える化し、参加者のやる気を引き出す工夫がとても参考になった。 ○配布物のセンスが保護者とお子さんそれぞれに合っていて、気軽に手に取れる雰囲気づくりが上手だと思う。
大阪ユニットセンター	○ホームページに子どもたちが楽しめるコンテンツを盛り込むことはつながりを維持する良いアイディアである。
兵庫ユニットセンター	○参加者によるブログリレーの取組は、参加者自身がエコチル調査を一緒に作り参画していく意識向上に役立つ良い取組と思われる。
鳥取ユニットセンター	○13 歳以降の調査に関する継続意思の確認方法や説明資料を工夫している。 ○子どものログイン、プレ質問票の存在を知らない等、継続手続きに関する理解不足が多いことへも、個々に説明し理解を得るなど地道に対応している。
高知ユニットセンター	○地域メディアや大学広報と連携して広報活動を行っており、エコチル調査の効果的な宣伝と参加者のモチベーションアップにつなげている。 ○子どもが興味を持って楽しく学べるような内容（警察官に会いに行こう！：鑑識作業・護身術・ロープワーク）の体験型イベントを開いている。 ○結果返却での 12 年間の身長と体重の成長曲線グラフの還元は、大変労力がかかるが実施していることに敬意を示すと共に、参加者にとって大変喜ばれる取組であり、継続意欲向上に効果的であると思われる。
産業医科大学サブユニットセンター	○参加者ポータルから動画やアンケートを配信したり、調査に参加している子どもの意見を聴取して検査の案内資料を作るなど、子どもに寄り添った取組は他のユニットセンターの参考ともなる。 ○アプリコンテンツ「独占インタビュー動画」配信のアイディアが面白い。 ○新しい企画の立案、実行がしっかりと行われている。 ○ポータルからアンケート配信を役立てている点がよい。 ○子どもの意見を反映させた LINE スタンプ制作が興味深い。
九州大学サブユニットセンター	○WEB 質問票の次回配信を伝えるハガキが良い。
熊本大学サブユニットセンター	○アンケートを実施してノベルティの満足度を把握し、参加者のモチベーションを向上させている。 ○質問票を早期に提出していただくためのキャンペーンやスタンプラリーなど質問票回収率の向上に向けて様々な取組を行っている。
宮崎大学サブユニットセンター	○質問票回収率向上に向けて協力医療機関に声掛けを依頼している。 ○成長記録カードを工夫し参加者のモチベーションを上げている。
琉球大学サブユニットセンター	－

表４－２　ユニットセンターでの特に優れた PDCA に沿った取組（成果の社会還元）

※各ユニットセンターの具体的取組は別添 2 参照

ユニットセンター／ サブユニットセンター	PDCA に沿った取組の「特に良い取組」の選定理由（抜粋）
北海道ユニットセンター	○大学・行政・地域と連携を密にして、オンライン市民講座の開催、小中学校・高校への出張講義などにより積極的に地域への成果還元に取組んでいることは他のユニットセンターの参考ともなる。 ○地域全体を巻き込んだ「みんなエコチルサポーター」という名称がとても良い。またこの活動が国際的な情報発信に結び付いた点が素晴らしいと思った。 ○子どもに向けた「オンライン市民講座」の継続により、直接参加者からの感想やフィードバックを聞くことができた。 ○低予算で幅広い成果を上げる取り組みが良い。 ○参加者限定サイトで調査意義を感じることができる。 ○成果発表の効果と次世代研究者の育成。成果論文を増加するための取組がある。
宮城ユニットセンター	○大学のオープンキャンパスを利用した成果の還元や学内研究者に向けてポータルサイトを立ち上げていることなどは他のユニットセンターの参考ともなる。 ○子どもや保護者向けにセミナーを実施し、そのアーカイブを YouTube に蓄積するほか、ショート動画の作成を通じて研究成果を分かりやすく届けている。 ○業務効率化と研究チーム力強化の取組みを進めている点。 ○オンライン講座（参加者向け）児のメンタルヘルス講座等は関心が高いと思われるが参加者限定なのが惜しいかも。
福島ユニットセンター	○全学の研究活性化への具体的な施策と研究成果還元資料の作成・配布など精力的に取り組んでいる成果の社会還元の計画を指標を立て、積極的に取組んでいる。 ○県内の学校保健・教育分野との連携強化。 ○プレコンセプションケアに関する講演会は魅力的だと感じた
千葉ユニットセンター	○成果紹介動画の作成、子ども向けの論文紹介など、一般市民や子どもにも分かりやすいよう工夫して情報発信を行っていることは他ユニットセンターの参考ともなる。 ○成果を海外・子ども・一般など、様々な形で紹介している。 ○「メディアを見る時間と発達との関係」をテーマにした成果紹介動画の配信では視聴回数が 2 万回を超えていることから、エコチル調査参加者に限らず、一般の人への周知・成果還元にもつながっていることがわかった。動画の配信方法を知りたいと思った。

ユニットセンター／ サブユニットセンター	PDCA に沿った取組の「特に良い取組」の選定理由（抜粋）
	○メディア発信の数
神奈川ユニットセンター	–
甲信ユニットセンター （山梨大学）	○体験授業を通じ、参加者以外の子どもを含む啓発・教育活動を展開し、かつ学校との連携体制を構築していることは他ユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。 ○ゲームを通じて子供達に環境問題を考えてもらう活動は素晴らしい取り組みだと感じた。 ○既存の枠組みを活用するアイディアがよいと思う。 ○小学校での体験授業は参加児本人に調査参加のお礼を直接伝えられるという点でも有意義だと思う。
甲信サブユニットセンター （信州大学）	○大学内のイベントを活用し、市民に向けて啓発活動を行っている点では、他の UC にとっても参考としやすい取り組みである。
富山ユニットセンター	○成果発表の小冊子を行政機関、医療機関、教育機関、企業等に配布し、反響が得られていることは、他のユニットセンターの参考ともなる。 ○成果発表小冊子において、取り上げるテーマが地域の母子保健に役立つ視点で作成されており、実際に多くの機関での配布や講演依頼など効果につながっていることが大変参考になる取組と考えられる。 ○小冊子の充実度・わかりやすさも特筆すべき点である。
愛知ユニットセンター	○エコチル調査のしくみや成果を分かりやすい動画にし、参加者や一般市民の理解を促していることなどは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。 ○論文の発表は聴いたり、読んだりするだけだとわかりにくいが、動画にすることで身近に感じられるのではないかと思う。 ○成果を理解するための動画を作成し、次への具体的な課題が出されている。
京都ユニットセンター	○子ども向けの研究体験イベントや保護者向けの成果報告会を開催していることなどは他のユニットセンターの参考ともなる。 ○市や学校・医院、商業施設へのポスター配布展開
大阪ユニットセンター	○定期的な研究発表の開催、論文執筆の進捗管理、品質管理など強化体制を行い、大学院講義や学部実習で紹介し人材育成に貢献している。 ○発表済み論文を一般市民向けに分かりやすく解説したサマリーを WEB で公開している。
兵庫ユニットセンター	○市民公開講座を開催したり県主催の若者を対象とした環境イベントへの出展を通じて成果還元を行っていることなどは他のユニットセンターの参考ともなる。
鳥取ユニットセンター	○広報誌で研究結果の紹介、論文作成方法の紹介を行っている。

ユニットセンター／ サブユニットセンター	PDCA に沿った取組の「特に良い取組」の選定理由（抜粋）
	○学会発表や論文発表も積極的に行い、エコチル調査を通じた疫学研究者の育成に貢献している。
高知ユニットセンター	○複数の公式配信媒体が網羅されており、多角的な SNS の使用の効果を感じた。配信媒体の運営をどのように行っているのか、ぜひ参考にしたい。 ○地域のメディア、大学広報等と連携をとり、継続的な成果還元を積極的に実施し受賞など外部からも評価されている点。 ○県内中・高生への大学訪問時の説明など、一般の方や子ども達に効果的にアプローチできている。
産業医科大学サブユニットセンター	○エコチル調査を取り上げたヘルスプロモーションに関する刊行物の執筆は、調査の周知につながる取組である。 ○地域でイベントが行われた際、調査に参加している子ども自身に広報活動を行ってもらい参加意識を高めていることは他のユニットセンターの参考ともなる。
九州大学サブユニットセンター	－
熊本大学サブユニットセンター	○ラジオ番組へ出演することで不特定多数の方にエコチル調査を知っていただく機会となり、エコチル調査の成果を広く発信できている。
宮崎大学サブユニットセンター	－
琉球大学サブユニットセンター	－

表５－１　論文発表状況

（令和６年１月末～令和６年 12 月末）

ユニットセンター／ サブユニットセンター	全国データを 用いた論文		左記 全論文の IF の合計値	IF の 平均値
	論文数	うち、中心 仮説に関す る論文数		
北海道ユニットセンター	7	3	25.900	3.700
宮城ユニットセンター	8	0	24.100	3.013
福島ユニットセンター	13	0	43.824	3.371
千葉ユニットセンター	2	1	9.700	4.850
神奈川ユニットセンター	2	1	7.700	3.850
甲信ユニットセンター（山梨大学）	4	0	19.925	4.981
甲信サブユニットセンター（信州大学）	4	3	24.700	6.175
富山ユニットセンター	12	0	43.400	3.617
愛知ユニットセンター	2	1	9.800	4.900
京都ユニットセンター	1	0	6.600	6.600
大阪ユニットセンター	7	0	37.140	5.306
兵庫ユニットセンター	2	1	7.180	3.590
鳥取ユニットセンター	3	0	11.300	3.767
高知ユニットセンター	3	0	7.923	2.641
産業医科大学サブユニットセンター	2	1	14.900	7.450
九州大学サブユニットセンター	1	0	3.800	3.800
熊本大学サブユニットセンター	2	2	15.800	7.900
宮崎大学サブユニットセンター	－	－	－	－
琉球大学サブユニットセンター	－	－	－	－

※IF（インパクトファクター）が不明な論文を除く。

表５－２　エコチル調査の研究成果や活動に対する学会等からの表彰・褒章

（令和５年９月～令和６年９月末）

ユニットセンター／サブユニットセンター	表彰年月	賞等の名称	表彰機関等の名称	対象となった研究成果や活動
富山ユニットセンター	令和5年 10 月	Outstanding Congress Award Best Congress Award	The 22nd Congress of the Federation of Asian and Oceania Perinatal Societies（FAOPS2023）	受賞課題:「Impacts of Cesarean Section on mother's parenting stress in a Japanese Birth Cohort: The Japan Environment and Children's Study」
兵庫ユニットセンター	令和6年3月	優秀口演賞	日本衛生学会	受賞課題:「Association of air pollution exposure during pregnancy and early childhood with children's cognitive performance and behavior at age six」
宮城ユニットセンター	令和6年 7 月	第 60 回日本周産期・新生児医学会学術集会最優秀演題賞	日本周産期・新生児医学会	受賞課題:「妊婦自身の出生体重と妊娠高血圧症候群との関連:エコチル調査」
産業医科大学サブユニットセンター	令和6年9月	国際ソロプチミスト女性研究者賞クラブ賞	国際ソロプチミスト北九州	受賞対象:「エコチル調査での活動を含む研究活動全般」

表５－３　論文発表について特に優れたユニットセンター及び選定理由

ユニットセンター／サブユニットセンター	論文発表の「特に優れた取組」の選定理由（抜粋）
北海道ユニットセンター	○PFAS の健康影響を含む複数の中心仮説に関する論文を発表していること、またインパクトファクターが高いことが高く評価できる。 ○床材と喘息といった身近な環境との関連に関する研究を評価した。 ○教員と事務員による成果発表支援チームが機能し、早期かつ質の高い論文作成を実現している。
宮城ユニットセンター	○母親または両親の出生体重と妊娠時アウトカムや児との関連という興味深い研究テーマを評価した。
福島ユニットセンター	○最も多くの論文を発表していること、さらにインパクトファクターが高いことが高く評価できる。 ○幅広い分野でエコチルの成果が活かされている。 ○中心仮説に関わる論文はないが、原著が最も多い。 ○成果発表数が多く、組織として勢力的に取り組んでいる。
千葉ユニットセンター	－

ユニットセンター／ サブユニットセンター	論文発表の「特に優れた取組」の選定理由（抜粋）
神奈川ユニットセンター	○中心仮説論文を発表し、且つ高いインパクトファクターの雑誌への掲載を行っているため。 ○論文の内容が充実している。
甲信ユニットセンター （山梨大学）	○PFAS に関する論文を含め，社会的にインパクトの大きい論文を発表している。 ○小児の腹痛の原因の大半を占める機能性便秘と母乳栄養についての関連を報告したことは、小児診療に携わる者としてとても有益な情報であった。
甲信サブユニットセンター （信州大学）	○PFAS の健康影響を含む複数の中心仮説に関する論文を発表していること、またインパクトファクターが高いことが高く評価できる。 ○PFAS と子の染色体異常について興味深かった。 ○中心仮説と中心仮説外論文をバランスよく発表している。 ○社会的要請の高い PFAS に関する重要な成果発表が複数あり、中心仮説の検討の意味でも意義が大きい。
富山ユニットセンター	○妊婦や児の健康に関わる論文発表数が複数あることが高く評価できる。 ○PFAS 研究含め一般市民の健康増進に貢献するテーマに基づいた研究をしている。 ○重要な問題である産後うつに関して、論文の予測モデルは、母子保健の現場で役立つツールの基盤になりうると考えられたため。
愛知ユニットセンター	－
京都ユニットセンター	－
大阪ユニットセンター	○発達・発育に関する論文を多数報告している。母親の自閉傾向と出生帰結のテーマが興味深かった。 ○中心仮説外がメインだが，数が多く，インパクトの高い論文（JAMA Network Open 等）の発表もあった
兵庫ユニットセンター	－
鳥取ユニットセンター	－
高知ユニットセンター	－
産業医科大学サブユニットセンター	○High IF の中心仮説論文や重金属に関する論文を発表している。 ○出産時の両親の年齢と子どもの発達との関連など社会経済的な時事問題にも繋がるような論文を公表することは、多方面に渡ってエコチル調査の重要性が示せると考えられたため。
九州大学サブユニットセンター	－
熊本大学サブユニットセンター	－
宮崎大学サブユニットセンター	－

ユニットセンター／ サブユニットセンター	論文発表の「特に優れた取組」の選定理由（抜粋）
琉球大学サブユニットセンター	○フェノール類曝露と喘息発症について、今後の研究の必要性を感じさせる論文を発表している。

表６　個人情報の管理状況（令和６年１月～令和６年 12 月末）

○：適切な対応を実施している、△：一部改善を要する、×：改善を要する

ユニットセンター／サブユニットセンター	確認項目									特記事項
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
	安全管理手続きに係る文書の作成	個人情報の所在等の特定	管理簿の作成、更新	定期的な利用状況の把握	情報の外部流出を最小限とするための措置	自己点検リストの作成	個人情報に関する基本ルールの周知	パソコンにおけるウイルス対策	違反に関する指摘事例件数	
北海道ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	0	UC 全体で情報リテラシーに関する研修会を実施し、また週 1 回 UC 事務局会議で情報管理状況を報告している。
宮城ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	0	個人情報を含むデータは、個人情報移動管理簿を記入してから移動させ、さらにメールでも差出と受領の確認を行っている。受取時には書類名、件数、受取時刻を記録する。
福島ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	0	UC 独自の個人情報管理マニュアルを作成している。 新たに個人情報を含む資料を作成・保存する場合、その都度申請し責任者の確認を得る仕組みがある。
千葉ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	1	参加者へ質問票の提出依頼をお送りする際に名前の記載を間違え、個人情報の漏えいにつながった事案が1件あった。個人情報の漏えいが 166 件発生し、さらに環境省への報告が遅延した。
神奈川ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	0	業務端末のアクセス状況のモニタリングを定期的に行っている。
甲信ユニットセンター（山梨大学）	○	○	○	○	○	○	○	○	0	UC 独自のルール表を作成し、執務室内に掲示している。 業務専用の携帯電話と iPad について独自に利用管理規定を作成し、使用するスタッフに周知徹底を図っている。
甲信サブユニットセンター（信州大学）	○	○	○	○	○	○	○	○	0	マニュアルに沿った日常管理と点検リストによる定期的な啓蒙により個人情報取り扱いに関する意識の維持向上を図っている。
富山ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	0	UC 独自の点検表を作成し、データ解析者の使用 PC・外付け HDD/SSD を把握して解析 PC にデータが残っていないか確認している。
愛知ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	1	個人情報の漏えいには至らなかったものの、個人情報漏えいのおそれがあったインシデントが 10 月 22 日に発生した。コアセンターへの報告、環境省への報告はそれぞれ、インシデントの判明から 9 営業日後、12 営業日後であった。
京都ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	0	個人情報を持ち出す際には管理簿に記入し、持ち出した者とは別の担当者が返却を確認している。さらに、適切な運用がなされているか情報管理責任者が定期的に確認している。
大阪ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	0	データ・資料の管理簿は、毎日担当者がチェックし、日常点検欄にサインをしている。
兵庫ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	0	UC 独自の個人情報管理マニュアルを作成している。離籍時には紙面を伏せたり、端末画面の作業ウインドウも最小化するなど、個人情報漏えいの防止に注意を払っている。
鳥取ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	1	参加者へ謝礼をお送りする際に住所の記載を間違え、郵便物の誤配送につながった事案が1件あった。個人情報の漏えいが1件発生し、さらに環境省への報告が遅延した。
高知ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	0	独自に作成している自己点検リストのチェック項目に、基本ルールを定期的に再確認することが入っている。
産業医科大学サブユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	0	外部機関に個人情報の郵送を行う場合、発送日時、発送方法、発送者、郵便局交付証冊数等を管理ファイルに記録している。
九州大学サブユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	0	SUC 独自のチェックリストに沿って、情報管理責任者が月 1 回個人情報の管理状況をチェックしている。調査や検査のイベント毎に個人情報の所在を確認し、実施漏れの有無を確認している。
熊本大学サブユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	0	どの部門においても個人情報を取り扱う際には 2 名体制によるダブルチェックを実施している。
宮崎大学サブユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	0	SUC 独自の固定データ取扱確認表を作成し、固定データを扱う研究者に対し提出を義務付けている。
琉球大学サブユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	0	毎月初頭に「個人情報保護チェックシート」を全員が記載して、自己点検している。

※令和６年度自己点検シート（個人情報管理状況等）への回答、及びそれに基づく現地ヒアリング（Web ヒアリング）による。
※「違反事例件数」は令和６年１月から令和６年 12 月末まで。

表７　成果発表ルール等の遵守状況（令和６年１月～令和６年 12 月末）

ユニットセンター／サブユニットセンター	成果発表ルール等※1の遵守状況		成果発表届出・報告システム（ActionPassport）による成果発表届出・報告																		追加調査に関する承認件数※2
			様式 10-1 誌上発表（原著）						様式 12 学会発表			様式 15 一般広報／発表媒体の種類				様式 16	様式 17	様式 18	様式 19	様式 13	合計	
	件数	合計件数	初回論文投稿時	投稿前審査時から変更	アクセプト時	掲載時	その他	原著を引用した総説等	1_口頭	2_ポスター	3_集会	1_広報誌等（紙面）	2_HP	3_イベント・講演等（対面）	4_その他	一般広報(制約のない地域の協力機関への情報提供の場合)	報道機関への情報発信（自ら依頼する場合）	論文掲載時の報道発表	報道機関への情報発信(発信された時)	追加調査に係る外部研究費報告書・公開報告会		
コアセンター	0	0	4		4	4		2	4	1	1			7	1			2			30	1
メディカルサポートセンター	0	0	2			1		1	5						1			1			11	
北海道ユニットセンター	0	0	8		8	9		1	8	1		1	4	12	2	3		3	4	1	65	4
宮城ユニットセンター	0	0	15		12	10			8	1		2		11	1			2	15		77	6
福島ユニットセンター	0	0	8		12	14			3			2		13		24					76	1
千葉ユニットセンター	0	0	4		3	2		1	5	3		5	2	7	5	2		1			40	1
神奈川ユニットセンター	0	0			1	2			2	1		1	2	1			1	3			14	
甲信ユニットセンター（山梨大学）	0	0	9		9	8		2	11	6	1	1	3	2	1		2		2	2	59	10
甲信サブユニットセンター（信州大学）	0	0	3		3	5			1	1								2	3	1	19	
富山ユニットセンター	0	0	7		8	12			15	16		4	15	18	7	2		4	8	6	122	3
愛知ユニットセンター	0	0	2		6	6			8	2		3	1	4	3	6				11	52	2
京都ユニットセンター	0	0	1		1	1			2	2	1	3	1	4	2	2			1		21	5
大阪ユニットセンター	0	0	4		7	7		1	5	1		3	4	19	12	2			3	5	73	13
兵庫ユニットセンター	0	0	3		3	3			3	2		3	3	8	1						29	2
鳥取ユニットセンター	0	0	1		2	2			1	2		2	2								12	
高知ユニットセンター	0	0	5		4	4			7	5		2	8	12	5	3		3		1	59	3
産業医科大学サブユニットセンター	0	0	2		3	3			2	1		3		1				1			16	2
九州大学サブユニットセンター	0	0	2		1	1		1	6	1						1					13	
熊本大学サブユニットセンター	0	0	3		3	3			1	1	1					3	2	2			19	
宮崎大学サブユニットセンター	0	0										2	2								4	
琉球大学サブユニットセンター	0	0										2									2	
計	0	0	83		90	97		9	97	47	4	39	47	119	41	48	5	24	36	27	813	53

注　※1　成果発表ルール等とは以下を指す。
運営委員会決定　令和４年９月６日改正「エコチル調査で収集されたデータの利用と成果発表に関する基本ルール」
運営委員会決定　令和５年 12 月５日改正「エコチル調査における個人情報管理に関する基本ルール」
運営委員会決定　令和６年２月 28 日改正「リスク管理・危機管理マニュアル」
※2　追加調査に関する承認件数は、研究計画変更にかかる承認を含む。

表８　人材育成実績

エコチル調査に関わった大学院生、特任研究員、教員等の主な就職先（転職先）及び現在の役職（令和６年９月末までの実績）

ユニットセンター／サブユニットセンター	主な就職先(転職先)及び現在の役職　※就任先の現在の役職で集計																		
	大学(特任含む)							コアセンター(CC)		メディカルサポートセンター(MSC)		国の研究機関(CC/MSCのぞく)	医療機関			民間		その他(自治体他)	計
	教授	准教授	講師	助教・助手	研究員	大学教員(役職不明)	その他(留学等)	研究員等(役職不明またはなし)	昇進につき役職あり	研究員等(役職不明またはなし)	昇進につき役職あり		医師等(役職なし又は不明)	医長・部長等	院長等組織長	研究機関	その他		
計	32	41	46	89	15	7	8	2	9	4	4	5	16	17	5	3	8	10	321
北海道ユニットセンター	1	6	7	7	3	1	1	0	0	0	0	1	1	2	0	1	2	0	33
宮城ユニットセンター	8	5	7	7	2	1	0	1	1	0	0	0	1	3	1	0	1	1	39
福島ユニットセンター	1	4	3	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	16
千葉ユニットセンター	1	4	3	6	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	18
神奈川ユニットセンター	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
甲信ユニットセンター(山梨大学)	2	1	2	6	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	1	16
甲信サブユニットセンター(信州大学)	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	3
富山ユニットセンター	2	0	5	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	14
愛知ユニットセンター	2	3	2	5	0	3	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	20
京都ユニットセンター	0	2	2	4	1	0	1	0	0	0	0	0	2	1	0	0	1	0	14
大阪ユニットセンター	2	4	1	9	3	0	0	0	0	0	0	1	0	3	1	0	1	2	27
兵庫ユニットセンター	3	1	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	2	14
鳥取ユニットセンター	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
高知ユニットセンター	1	3	2	6	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	15
産業医科大学サブユニットセンター	2	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	8
九州大学サブユニットセンター	1	2	1	6	0	0	1	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	15
熊本大学サブユニットセンター	0	1	2	4	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	9
宮崎大学サブユニットセンター	3	0	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
琉球大学サブユニットセンター	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	3
メディカルサポートセンター	2	1	2	3	0	0	0	0	0	4	4	0	3	1	1	0	0	0	21
コアセンター	0	2	3	6	1	1	2	0	8	0	0	1	0	0	0	1	0	0	25

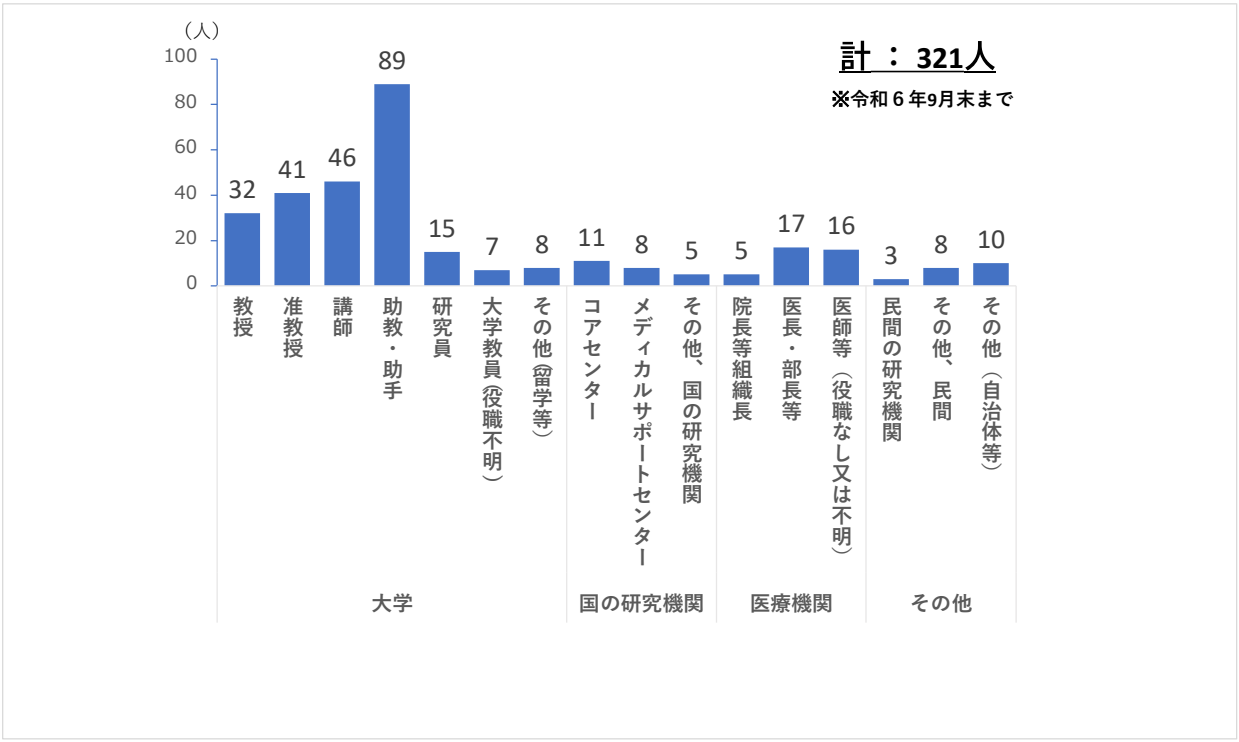


図３　　人材育成の実績（累積人数、令和６年９月末現在）

表９　大学院生等の育成実績

（１）累積人数（令和６年９月まで）

ユニットセンター／サブユニットセンター	修士課程の学生		博士課程の学生		特任研究員、その他		計	
	人数	うち留学生	人数	うち留学生	人数	うち留学生	人数	うち留学生
計	49	(3)	233	(15)	147	4	429	(22)
北海道ユニットセンター	1	(0)	8	(0)	15	(0)	24	(0)
宮城ユニットセンター	16	(0)	29	(0)	40	(0)	85	(0)
福島ユニットセンター	1	(0)	23	(0)	22	(0)	46	(0)
千葉ユニットセンター	2	(0)	16	(2)	7	(0)	25	(2)
神奈川ユニットセンター	2	(0)	10	(0)	1	(0)	13	(0)
甲信ユニットセンター（山梨大学）	1	(0)	9	(2)	3	(0)	13	(2)
甲信サブユニットセンター（信州大学）	0	(0)	7	(0)	0	(0)	7	(0)
富山ユニットセンター	2	(0)	7	(0)	13	(0)	22	(0)
愛知ユニットセンター	7	(2)	3	(1)	11	(0)	21	(3)
京都ユニットセンター	5	(0)	6	(0)	4	(0)	15	(0)
大阪ユニットセンター	0	(0)	19	(2)	19	(4)	38	(6)
兵庫ユニットセンター	0	(0)	8	(0)	5	(0)	13	(0)
鳥取ユニットセンター	0	(0)	5	(0)	0	(0)	5	(0)
高知ユニットセンター	6	(1)	16	(3)	2	(0)	24	(4)
産業医科大学サブユニットセンター	2	(0)	5	(0)	0	(0)	7	(0)
九州大学サブユニットセンター	1	(0)	41	(0)	0	(0)	42	(0)
熊本大学サブユニットセンター	3	(0)	2	(0)	0	(0)	5	(0)
宮崎大学サブユニットセンター	0	(0)	8	(5)	4	(0)	12	(5)
琉球大学サブユニットセンター	0	(0)	3	(0)	1	(0)	4	(0)
メディカルサポートセンター	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
コアセンター	0	(0)	8	(0)	0	(0)	8	(0)

*その他の内容：技術支援員 1 名、MD-PhD コース学生 2 名、特任助手 1 名、客員研究員 1 名、学部生 1 名、助教 1 名、医員 1 名
*留学生の国名：インドネシア 6 名、中国 5 名、バングラディシュ 3 名、ミャンマー3 名、アメリカ 1 名、ベトナム 1 名、エジプト 1 名、ペルー1 名、コンゴ 1 名

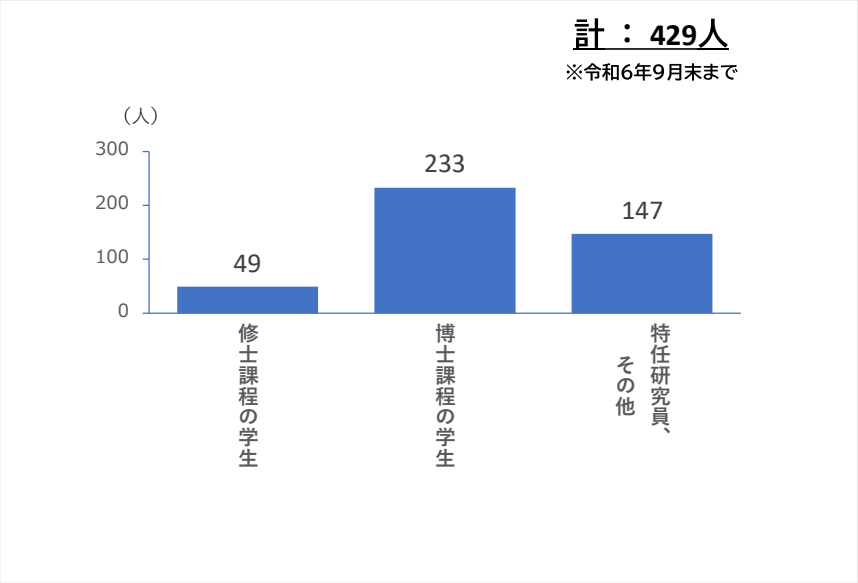


図４　　大学院生等の育成実績（累積人数、令和６年９月末現在）

（２）本年度における在籍人数（令和６年９月末）

ユニットセンター／サブユニットセンター	修士課程の学生		博士課程の学生		特任研究員、その他		計	
	人数	うち留学生	人数	うち留学生	人数	うち留学生	人数	うち留学生
計	8	(2)	109	(4)	63	(0)	157	(6)
北海道ユニットセンター	0	(0)	3	(0)	0	(0)	3	(0)
宮城ユニットセンター	0	(0)	18	(0)	0	(0)	18	(0)
福島ユニットセンター	0	(0)	13	(0)	13	(0)	26	(0)
千葉ユニットセンター	0	(0)	11	(1)	2	(0)	13	(1)
神奈川ユニットセンター	1	(0)	2	(0)	1	(0)	4	(0)
甲信ユニットセンター（山梨大学）	0	(0)	8	(1)	3	(0)	11	(1)
甲信サブユニットセンター（信州大学）	0	(0)	3	(0)	0	(0)	3	(0)
富山ユニットセンター	0	(0)	3	(0)	1	(0)	4	(0)
愛知ユニットセンター	5	(2)	1	(0)	3	(0)	9	(2)
京都ユニットセンター	0	(0)	5	(0)	0	(0)	5	(0)
大阪ユニットセンター	0	(0)	4	(0)	15	(0)	19	(0)
兵庫ユニットセンター	0	(0)	3	(0)	0	(0)	3	(0)
鳥取ユニットセンター	0	(0)	2	(0)	0	(0)	2	(0)
高知ユニットセンター	2	(0)	5	(1)	1	(0)	8	(1)
産業医科大学サブユニットセンター	0	(0)	1	(0)	0	(0)	1	(0)
九州大学サブユニットセンター	0	(0)	18	(0)	0	(0)	18	(0)
熊本大学サブユニットセンター	0	(0)	1	(0)	0	(0)	1	(0)
宮崎大学サブユニットセンター	0	(0)	2	(1)	0	(0)	2	(1)
琉球大学サブユニットセンター	0	(0)	0	(0)	1	(0)	1	(0)
メディカルサポートセンター	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
コアセンター	0	(0)	6	(0)	0	(0)	6	(0)

*その他の内容：助手(大学院生除く)8 名、講座関係者（医師）3 名、大学院研究生 2 名、MD-PhD コース学生 2 名、学部生 1 名、助教 1 名、医員 1 名、客員研究員 1 名、その他 4 名
*留学生の国名：中国 2 名、バングラディシュ 1 名、インドネシア 1 名、不明 2 名

参考①－１　実施体制（全体、令和６年度）

ユニットセンター／サブユニットセンター	総数	委託費での雇用によるエコチル業務従事者																		委託費での雇用ではないエコチル業務従事者			
		教員		研究員		リサーチコーディネーター										事務職員		その他		教員・医師		事務職員等	
						看護師・保健師・助産師		公認心理士・臨床心理士		その他有資格者（国家資格）		無資格者		合計									
		従事時間合計	人数	従事時間合計	人数	従事時間合計	人数	従事時間合計	人数	従事時間合計	人数	従事時間合計	人数	従事時間合計	人数	従事時間合計	人数	従事時間合計	人数	従事時間合計	人数	従事時間合計	人数
北海道ユニットセンター	41	210	6	35	1	5	1	0	0	0	0	210	8	215	9	442	14	0	0	90	10	5	1
宮城ユニットセンター	39	95	5	0	0	34	2	0	0	0	0	648	25	682	27	69	2	0	0	10	2	69	3
福島ユニットセンター	50	163	6	0	0	271	7	0	0	0	0	535	14	806	21	736	19	0	0	3	4	0	0
千葉ユニットセンター	34	68	3	62	2	0	0	0	0	0	0	329	13	329	13	273	7	0	0	46	7	78	2
神奈川ユニットセンター	14	35	1	0	0	20	2	0	0	0	0	51	6	71	8	84	3	0	0	1	2	0	0
甲信ユニットセンター（山梨大学）	25	156	6	0	0	161	8	0	0	0	0	0	0	161	8	213	6	0	0	16	4	2	1
甲信サブユニットセンター（信州大学）	24	64	2	0	0	92	3	0	0	0	0	0	0	92	3	179	8	0	0	57	11	0	0
富山ユニットセンター	28	14	1	116	3	177	11	0	0	0	0	60	2	237	13	258	8	0	0	55	3	0	0
愛知ユニットセンター	29	75	2	10	1	72	6	0	0	0	0	40	6	112	12	210	7	0	0	27	6	7	1
京都ユニットセンター	40	106	3	0	0	422	26	0	0	0	0	0	0	422	26	100	4	0	0	55	7	0	0
大阪ユニットセンター	43	140	4	90	16	0	0	0	0	0	0	18	1	18	1	244	9	136	10	22	3	0	0
兵庫ユニットセンター	46	123	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	553	32	14	2	20	9	0	0
鳥取ユニットセンター	17	39	1	0	0	78	2	0	0	0	0	0	0	78	2	395	12	0	0	20	2	0	0
高知ユニットセンター	34	118	4	87	4	43	2	0	0	108	3	312	12	462	17	99	3	0	0	78	2	155	4
産業医科大学サブユニットセンター	23	40	1	0	0	63	6	0	0	51	2	159	6	273	14	133	4	0	0	24	4	0	0
九州大学サブユニットセンター	25	66	2	28	1	90	3	0	0	0	0	348	12	438	15	135	5	0	0	3	2	0	0
熊本大学サブユニットセンター	22	39	1	60	2	0	0	0	0	0	0	39	1	39	1	237	13	0	0	8	3	40	2
宮崎大学サブユニットセンター	11	39	1	0	0	0	0	0	0	0	0	28	1	28	1	213	7	0	0	12	2	0	0
琉球大学サブユニットセンター	13	35	1	0	0	20	1	0	0	0	0	39	1	59	2	138	4	0	0	25	5	39	1

※裁量労働制の対象者やその者の時間を計上している場合がある。
※従事時間合計は週当たり。

参考①－２　実施体制（学童期検査、令和６年度）

※「○」該当あり、「－」なし

ユニットセンター／サブユニットセンター	学童期検査に係る人員				UC 外の人員(医師、看護婦等)	会場数	追加調査※	外部委託※
	医師・教員	リサーチコーディネーター	事務員	その他				
北海道ユニットセンター	11	6	9	29	20	9	○	○
宮城ユニットセンター	3	25	0	3	9	13	－	－
福島ユニットセンター	10	21	18	0	43	52	－	○
千葉ユニットセンター	7	14	0	0	15	10	○	○
神奈川ユニットセンター	0	0	0	8	5	7	－	－
甲信ユニットセンター(山梨大学)	5	8	6	0	15	1	○	○
甲信サブユニットセンター(信州大学)	0	2	2	1	5	1	－	○
富山ユニットセンター	2	12	7	2	23	5	○	－
愛知ユニットセンター	7	7	2	3	1	3	○	○
京都ユニットセンター	3	19	0	5	2	4	○	－
大阪ユニットセンター	26	0	7	7	14	5	－	○
兵庫ユニットセンター	6	0	3	13	0	7	○	○
鳥取ユニットセンター	1	2	3	0	7	1	－	－
高知ユニットセンター	2	9	0	1	10	3	○	○
産業医科大学サブユニットセンター	2	10	3	0	5	1	－	○
九州大学サブユニットセンター	2	12	0	0	4	1	－	－
熊本大学サブユニットセンター	3	1	4	6	0	6	○	○
宮崎大学サブユニットセンター	2	0	6	1	1	1	－	○
琉球大学サブユニットセンター	2	2	3	1	4	2	－	○

参考①－３　実施体制（詳細調査、令和６年度）

ユニットセンター／サブユニットセンター	詳細調査に係る人員（精神発達検査者除く）					うち精神発達検査者※※
	医師・教員	リサーチコーディネーター	事務員	その他	医師・看護師の外部委託※	
北海道ユニットセンター	20	11	6	50	○	11
宮城ユニットセンター	0	19	0	1	－	4
福島ユニットセンター	10	21	19	11	○	13
千葉ユニットセンター	7	13	0	5	○	6
神奈川ユニットセンター	0	0	0	8	○	7
甲信ユニットセンター(山梨大学)	3	7	6	4	－	4
甲信サブユニットセンター(信州大学)	1	2	2	3	○	3
富山ユニットセンター	5	13	6	12	○	6
愛知ユニットセンター	6	8	1	7	○	5
京都ユニットセンター	1	11	0	6	○	11
大阪ユニットセンター	2	1	1	14	○	5
兵庫ユニットセンター	5	0	3	5	－	2
鳥取ユニットセンター	1	2	0	1	－	1
高知ユニットセンター	1	4	0	4	○	7
産業医科大学サブユニットセンター	2	10	3	6	○	2
九州大学サブユニットセンター	2	6	0	2	－	3
熊本大学サブユニットセンター	1	1	2	8	○	0
宮崎大学サブユニットセンター	2	0	4	2	－	5
琉球大学サブユニットセンター	2	2	3	5	○	2

※「○」該当あり、「－」なし

※※検査補助者は除く

参考②　詳細調査の参加者数【令和６年９月 24 日時点】

ユニットセンター／サブユニットセンター	詳細調査の同意者	詳細調査協力取り止め等			詳細調査現参加者数	【参考】全体調査の協力取り止め等	C-1.5y					C-2y			C-3y				C-4y			C-6y	C-8y			C-10y		
		協力取りやめ等					全体	環境測定記録	住環境調査	生活行動記録	長期的ハウスダスト	全体	医学的検査	精神神経発達検査	全体	環境測定記録	住環境調査	生活行動記録	全体	医学的検査	精神神経発達検査	医学的検査	実施予定	医学的検査	精神神経発達検査	実施予定	医学的検査	精神神経発達検査
			内、試料廃棄	(%)																								
北海道ユニットセンター	405	14	0	3.5%	391	1,009	403	403	403	403	403	395	394	395	381	381	381	381	369	350	357	270	390	314	315	389	240	253
宮城ユニットセンター	451	32	0	7.1%	419	784	446	446	445	446	447	433	429	432	410	410	410	410	388	377	383	313	429	274	329	416	256	131
福島ユニットセンター	633	44	0	7.0%	589	1,135	638	638	638	638	635	620	615	618	579	579	579	579	571	541	561	401	601	427	455	594	377	392
千葉ユニットセンター	303	30	0	9.9%	273	955	301	301	301	301	297	298	295	297	285	285	285	285	276	266	272	221	280	225	225	276	209	145
神奈川ユニットセンター	325	46	0	14.2%	279	754	328	328	328	328	325	312	308	311	300	300	300	300	290	281	284	275	296	213	230	289	201	208
甲信ユニットセンター(山梨大学)	226	18	0	8.0%	208	678	227	227	227	227	227	222	220	222	212	212	212	212	205	205	204	171	212	184	184	210	150	84
甲信サブユニットセンター(信州大学)	131	18	0	13.7%	113	190	131	131	131	131	131	129	128	129	121	121	121	121	117	116	116	108	115	108	107	111	107	39
富山ユニットセンター	269	26	0	9.7%	243	505	271	271	271	271	272	269	264	267	252	252	252	252	251	250	241	215	257	214	214	249	196	108
愛知ユニットセンター	280	9	0	3.2%	271	450	281	281	281	281	278	280	279	279	273	273	273	273	273	272	270	249	270	228	228	271	230	130
京都ユニットセンター	195	12	0	6.2%	183	328	195	195	195	195	192	190	188	190	190	190	190	190	178	172	169	160	186	171	172	184	148	125
大阪ユニットセンター	391	33	2	8.4%	358	370	389	389	389	389	389	382	382	382	370	370	370	370	361	361	345	263	366	197	197	362	163	163
兵庫ユニットセンター	250	5	0	2.0%	245	429	250	250	250	250	250	248	248	248	243	243	243	243	227	227	226	205	246	213	213	244	188	0
鳥取ユニットセンター	149	10	1	6.7%	139	156	147	147	147	147	147	141	141	141	137	137	137	137	127	127	127	117	141	108	108	141	90	85
高知ユニットセンター	338	18	0	5.3%	320	516	339	339	339	339	341	332	332	332	328	328	328	328	302	301	292	270	322	269	269	320	252	226
産業医科大学サブユニットセンター	149	6	0	4.0%	143	160	147	147	147	147	146	147	147	147	139	139	139	139	133	132	131	116	143	127	127	143	113	112
九州大学サブユニットセンター	239	29	0	12.1%	210	388	238	238	238	238	241	231	228	229	215	215	215	215	198	197	188	157	216	166	166	213	124	102
熊本大学サブユニットセンター	148	8	0	5.4%	140	189	148	148	148	148	149	147	147	146	145	145	145	145	140	138	136	127	142	128	130	142	112	97
宮崎大学サブユニットセンター	92	4	0	4.3%	88	128	91	91	91	91	89	90	90	89	89	89	89	89	88	88	87	55	88	46	58	88	66	43
琉球大学サブユニットセンター	44	2	0	4.5%	42	89	43	43	43	43	44	43	43	43	42	42	42	42	41	41	41	26	43	17	17	42	29	20
総計	5,018	364	3	7.3%	4,654	9,213	5,013	5,013	5,012	5,013	5,003	4,909	4,878	4,897	4,711	4,711	4,711	4,711	4,535	4,442	4,430	3,719	4,743	3,629	3,744	4,684	3,251	2,463

※詳細調査の同意者：現所属組織の児の数（リクルート組織、母親の数ではない（多胎で詳細調査に参加している時は多胎の数））

参考③　フォローアップ活動（質問票の回収状況、コミュニケーション活動）

※「○」実施または実施予定、「△」企画していたが中止、「－」なし

ユニットセンター／サブユニットセンター	コミュニケーション活動														備考		
	ニュースレター・広報物の配布		Web				粗品配布	対面イベント			オンラインイベント			その他			
		調査の成果に関する情報提供	HPによる各種情報提供	HPによる調査の成果に関する情報提供	SNS・ブログ	調査参加者の参加型コンテンツ		参加者限定主催イベント	一般向け主催イベント	地域イベントへの参加	参加者限定主催イベント	一般向け主催イベント	地域イベントへの参加		調査の成果に関わるリスクコミュニケーションへの取組	科学コミュニケーションへの取組	参加児の理解促進・参加児向けコンテンツの作成
北海道ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－	－	○	○	○	○
宮城ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	－	－	○	○	－	－	○	○	○	○
福島ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	○	○	○	○
千葉ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○
神奈川ユニットセンター	○	○	○	○	○	－	○	－	－	－	－	－	－	○	○	－	○
甲信ユニットセンター（山梨大学）	○	○	○	○	○	－	○	－	－	○	－	－	－	○	○	－	○
甲信サブユニットセンター（信州大学）	○	○	○	○	○	－	－	－	－	○	－	－	－	○	○	○	○
富山ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	－	○	○	○	○
愛知ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	－	－	○	－	－	－	○	○	○	○
京都ユニットセンター	○	○	○	○	－	○	○	○	－	－	○	－	－	○	○	○	○
大阪ユニットセンター	○	○	○	○	－	○	○	－	－	○	－	－	－	○	○	○	○
兵庫ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	－	－	○	○	○	○
鳥取ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－	－	－	－	○	○	○
高知ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－	－	－	○	○	○	○
産業医科大学サブユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－	－	－	○	○	○	○
九州大学サブユニットセンター	○	○	○	○	○	－	○	－	－	－	－	－	－	－	○	－	○
熊本大学サブユニットセンター	○	○	○	○	－	○	○	－	－	－	－	－	－	○	○	－	○
宮崎大学サブユニットセンター	○	○	○	○	－	○	○	○	－	－	－	－	－	○	－	－	○
琉球大学サブユニットセンター	○	○	○	－	○	○	－	－	－	－	－	－	－	○	○	－	○

参考④　令和６年度地域運営協議会への参加機関呼びかけ数

ユニットセンター／ サブユニットセンター	①健康・ 福祉系	②環境系	③教育系	④その他	合計
北海道ユニットセンター	46	5	15	5	71
宮城ユニットセンター	70	0	16	5	91
福島ユニットセンター	177	1	27	3	208
千葉ユニットセンター	40	7	4	0	51
神奈川ユニットセンター	21	3	1	0	25
甲信ユニットセンター（山梨大学）	19	1	4	6	30
甲信サブユニットセンター（信州大学）	10	1	5	0	16
富山ユニットセンター	18	1	11	0	30
愛知ユニットセンター	26	3	3	5	37
京都ユニットセンター	50	2	3	2	57
大阪ユニットセンター	31	1	9	0	41
兵庫ユニットセンター	25	1	1	0	27
鳥取ユニットセンター	5	1	2	0	8
高知ユニットセンター	23	2	2	0	27
産業医科大学サブユニットセンター	40	1	5	3	49
九州大学サブユニットセンター	11	0	1	3	15
熊本大学サブユニットセンター	34	0	30	8	72
宮崎大学サブユニットセンター	15	1	2	0	18
琉球大学サブユニットセンター	9	2	1	1	13

参考⑤　学位論文数（累積本数）

（令和６年９月末現在）

ユニットセンター／ サブユニットセンター	修士論文		博士論文		計	
	論文数	うち 追加調査	論文数	うち 追加調査	論文数	うち 追加調査
計	24	(11)	80	(18)	104	(29)
北海道ユニットセンター	1	0	6	2	7	(2)
宮城ユニットセンター	6	6	14	6	20	(12)
福島ユニットセンター	0	0	3	2	3	(2)
千葉ユニットセンター	1	0	7	1	8	(1)
神奈川ユニットセンター	2	0	5	0	7	(0)
甲信ユニットセンター（山梨大学）	0	0	0	0	0	(0)
甲信サブユニットセンター（信州大学）	0	0	3	0	3	(0)
富山ユニットセンター	1	0	8	0	9	(0)
愛知ユニットセンター	2	2	4	3	6	(5)
京都ユニットセンター	3	3	2	0	5	(3)
大阪ユニットセンター	0	0	6	0	6	(0)
兵庫ユニットセンター	0	0	4	1	4	(1)
鳥取ユニットセンター	0	0	2	0	2	(0)
高知ユニットセンター	4	0	10	2	14	(2)
産業医科大学サブユニットセンター	1	0	1	0	2	(0)
九州大学サブユニットセンター	0	0	2	0	2	(0)
熊本大学サブユニットセンター	2	0	2	1	4	(1)
宮崎大学サブユニットセンター	0	0	0	0	0	(0)
琉球大学サブユニットセンター	0	0	0	0	0	(0)
メディカルサポートセンター	0	0	0	0	0	(0)
コアセンター	1	0	1	0	2	(0)

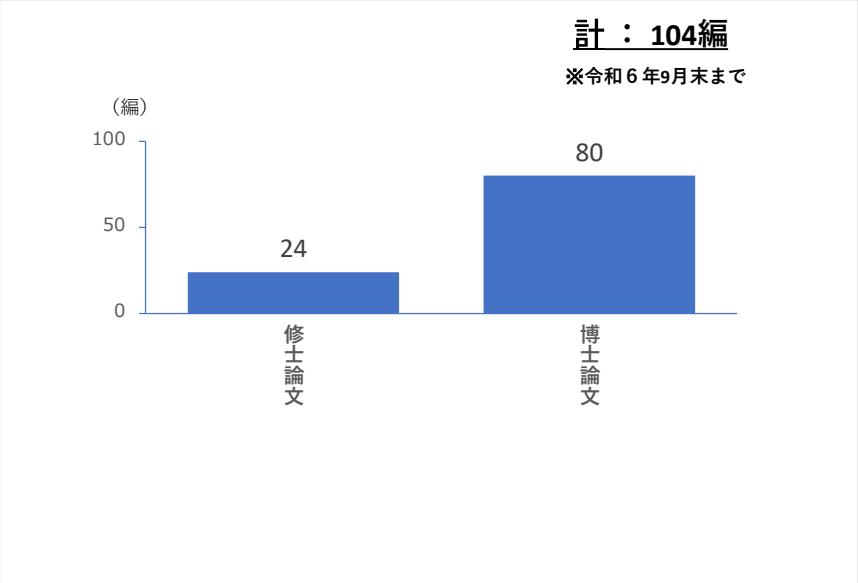


図５　　学位論文数（累積本数、令和６年９月末現在）

令和６年度　エコチル調査企画評価委員会委員名簿

（敬称略、五十音順）

氏　　名	所属・職名
石井　礼花	国立研究開発法人　国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所　客員研究員
板倉　敦夫	公益社団法人　日本産科婦人科学会　周産期委員長
伊藤　隆一	公益社団法人　日本小児科医会　会長
岩澤　美帆	国立社会保障・人口問題研究所　人口動向研究部　部長
岩田　和之	学校法人松山大学　経済学部　経済学科　教授
鈴木　俊治	公益社団法人　日本産婦人科医会　常務理事
千先　園子	公益社団法人　日本小児保健協会
田嶋　敦	国立大学法人　金沢大学　医薬保健研究域医学系　教授
玉腰　暁子	国立大学法人　北海道大学大学院　医学研究院 社会医学分野　公衆衛生学教室　教授
中村　晶子	仙石山法律事務所　弁護士
濵口　欣也	公益社団法人　日本医師会　常任理事
村田　勝敬	国立大学法人　秋田大学　名誉教授
森　　潤	公益社団法人　日本小児科学会
森　　剛志	一般社団法人　日本化学工業協会　化学品管理部　部長

令和６年度エコチル調査評価ワーキンググループ委員名簿

（敬称略、五十音順）

氏　　名	所属・職名
岩田　和之	学校法人松山大学　経済学部　経済学科　教授
岩澤　美帆	国立社会保障・人口問題研究所　人口動向研究部　部長
田嶋　敦	国立大学法人　金沢大学　医薬保健研究域医学系　教授
玉腰　暁子	国立大学法人　北海道大学大学院　医学研究院 社会医学分野　公衆衛生学教室　教授

＜オブザーバー＞

村田　勝敬	国立大学法人　秋田大学　名誉教授

実地調査日程

No	日時		実施方法	実施機関
1	8月5日(月)	14:00-16:00	Web	千葉ユニットセンター
2	9月9日(月)	15:00-17:00	Web	兵庫ユニットセンター
3	9月24日(火)	14:00-16:00	Web	富山ユニットセンター
4	9月25日(水)	14:00-16:00	Web	神奈川ユニットセンター
5	10月2日(水)	10:00-12:00	Web	北海道ユニットセンター
6	10月8日(火)	14:00-15:00	現地訪問	旭川医科大学サブユニットセンター
7	10月9日(水)	10:00-12:00	Web	福岡ユニットセンター（産業医大）
8	10月10日(木)	13:00-15:00	Web	京都ユニットセンター
9	10月18日(金)	14:00-16:00	現地訪問+Web	福岡ユニットセンター（九州大学）
10	10月23日(水)	13:00-15:00	現地訪問+Web	宮崎大学サブユニットセンター（南九州・沖縄ユニットセンター）
11	10月24日(木)	14:00-16:00	Web	高知ユニットセンター
12	11月1日(金)	15:00-17:00	現地訪問+Web	甲信サブユニットセンター（信州大学）
13	11月5日(火)	13:00-15:00	現地訪問+Web	鳥取ユニットセンター
14	11月13日(水)	14:00-16:00	現地訪問+Web	メディカルサポートセンター
15	11月14日(木)	14:00-16:00	Web	甲信ユニットセンター（山梨大）
16	11月15日(金)	14:00-16:00	現地訪問+Web	愛知ユニットセンター
17	11月19日(火)	14:00-16:00	Web	コアセンター
18	11月25日(月)	13:00-15:00	Web	宮城ユニットセンター
19	11月27日(水)	10:00-12:00 15:00-15:30	現地訪問+Web	大阪ユニットセンター(大阪大学及び大阪母子医療センター)
20	11月29日(金)	13:00-15:00 17:10-17:40	現地訪問+Web	福島ユニットセンター（福島医科大学及び郡山事務所）

別添１　エコチル調査に係る成果発表の状況

１－１　エコチル調査の全国データを用いた論文など　505 編
（うち中心仮説に係る論文 65 編：太字）

（令和６年 12 月末時点）

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
505		The impact of maternal prenatal psychological distress on the development of epilepsy in offspring: The Japan Environment and Children's Study	妊娠時ストレスとてんかんとの関連	Arai Y, et al.	PLOS ONE 2024;19(11):e0311666.
504		ガウス過程の遺伝的関連解析への応用	ガウス過程の遺伝的関連解析への応用	Kumasaka N, et al.	応用統計学 2024;53(1):1-14
503	●	**Association between maternal usage of volatile organic compounds and West syndrome, the Japan Environment and Children's study**	**母親の仕事での有機溶剤使用と子どものウエスト症候群発症との関連：エコチル調査**	**Shimomura H, et al.**	**Scientific Reports 2024;14(1):30920**
502		Pre-pregnancy body mass index and lactational mastitis: The Japan Environment and Children's Study	妊娠前の BMI と乳腺炎の関連：エコチル調査	Murata T, et al.	Archives of Gynecology and Obstetrics 2024 Epub ahead of print
501		Association between chest-to-head circumference ratio at birth and childhood neurodevelopment: the Japan Environment and Children's Study	出生時の胸囲頭囲比と小児期の神経発達との関連：エコチル調査	J-P NA, et al.	Journal of Developmental Origins of Health and Disease 2024;15:e34
500		Association of air purifier usage during pregnancy with adverse birth outcomes: the Japan Environment and Children's Study	妊娠中における空気清浄機の使用と出生時の有害転帰との関係：エコチル調査	Inadera H, et al.	BMC Public Health 2024;24(1):3421
499		Relationship between frequency of yogurt consumption at 1 year of age and development at 3 years of age: The Japan Environment and Children's Study	1 歳時点のヨーグルトの摂取頻度と 3 歳時点の神経発達との関連：エコチル調査	Hirai H, et al.	PLOS ONE 2024;19(12):e0308703
498		Bruxism associated with short sleep duration in children with autism spectrum disorder: the Japan Environment and Children's Study	自閉スペクトラム症の子どもの睡眠時間の短さと歯ぎしりの関連について： エコチル調査	Tsuchiya M, et al.	PLOS ONE 2024;19(12):e0313024
497		Advanced maternal age elevates the prevalence of hypertensive disorders in women of Japanese, independent of blood pressure: a study from the Japan Environment and Children's study	年齢階層別、血圧と妊娠高血圧症候群との関連	Uchinuma H, et al.	Hypertension Research 2024 Epub ahead of print

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
496		Group childcare has a positive impact on child development from the Japan Environment and Children's Study	集団保育は子どもの発達に良い影響を与える	Kanamori K, et al.	Scientific Reports 2024;14(1):29550
495		Higher risk of respiratory infections and otitis media in cleft lip and/or palate patients: the Japan Environment and Children's Study	口唇口蓋裂患者における呼吸器感染症および中耳炎の高いリスク：エコチル調査	Kurosaka H, et al.	Environmental Health and Preventive Medicine 2024;29:66
494		Effects of the maternal work environment on psychological distress during pregnancy: A cross-sectional research—The Japan Environment and Children's Study	妊娠中の心理的苦痛に対する母親の職場環境の影響：横断研究-エコチル調査	Kobayashi S, et al.	Journal of Occupational and Environmental Medicine 2024 Epub ahead of print
493		Association between the occupation of pregnant women's partners and risks of infant low birth weight and preterm birth in a prospective birth cohort: the Japan Environment and Children's Study	前向き出生コホートにおける妊婦のパートナーの職業と子どもの低出生体重及び早産との関連：エコチル調査	Kobayashi S, et al.	Journal of Occupational and Environmental Medicine 2024 Epub ahead of print
492		Factors related to sedentary behavior of pregnant women during the second/third trimester: prospective results from the large-scale Japan Environment and Children's Study	妊娠中期・後期における妊婦の座位行動に関連する要因：エコチル調査からの前向きエビデンス	Nagai M, et al.	BMC Public Health 2024;24(1):3182
491		Adherence to healthy prepregnancy lifestyle and risk of adverse pregnancy outcomes: a prospective cohort study	妊娠前の健康的な生活習慣の組み合わせと周産期転帰との関連:前向きコホート研究	Okubo H, et al.	Journal of Obstetrics and Gynecology 2024 Epub ahead of print
490		Association between urinary cotinine level and hypertensive disorders of pregnancy in women with uterine myoma: findings from the Japan Environment and Children's Study	子宮筋腫合併妊婦における尿中コチニンレベルと妊娠高血圧症候群との関連：エコチル調査	Kyozuka H, et al.	Hypertension Research 2024 Epub ahead of print
489	●	**Association between prenatal mercury exposure and pediatric neurodevelopment: the Japan Environment and Children's Study**	**胎児期の水銀ばく露と子どもの精神神経発達およびけいれん発症の関連：エコチル調査**	**Kuraoka S, et al.**	**Science of the Total Environment 2024;957:177489 Epub ahead of print**
488		Breastfeeding and children's cognitive development up to the age of 4 years: The Japan Environment and Children's Study	授乳と子どもの４歳までの神経発達：エコチル調査	Nishigori T, et al.	Breastfeeding Medicine 2024;19(12):911-923 Epub ahead of print

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
487		Chorionicity and psychomotor development from infancy to childhood: The Japan Environment and Children's Study	乳児期から幼児期の絨毛膜性と精神運動発達：エコチル調査	Silventoinen K, et al.	Twin Research and Human Genetics 2024;1-7 Epub ahead of print
486	●	**Associations of maternal urinary nitrophenol concentrations with adverse birth outcomes and neurodevelopment delay at 4 years of age: The Japan Environment and Children's Study**	**妊娠中期の尿中ニトロフェノール類濃度と出生時アウトカムおよび子どもの4歳時精神神経発達との関連：エコチル調査**	**Kaneko K, et al.**	**Environmental Research 2025;264(Pt 1):120290 Epub ahead of print**
485	●	**Associations between maternal per- and polyfluoroalkyl substances exposure and lipid levels in maternal and cord blood: The Japan Environment and Children's Study**	**母親の PFAS ばく露と母体血・さい帯血中の脂質との関連について：エコチル調査**	**Hasegawa K, et al.**	**Environmental Research 2024;263(Pt 3):120217 Epub ahead of print**
484		Periconceptional omega-6 and omega-3 polyunsaturated fatty acid intake plane and postpartum depression: a nationwide birth cohort-the Japan Environment and Children's Study	妊娠前後のオメガ6系及びオメガ3系多価不飽和脂肪酸摂取量と産後うつ：エコチル調査	Matsumura K, et al.	American Journal of Epidemiology 2024;kwae403 Epub ahead of print
483		Decision tree learning for predicting chronic postpartum depression in the Japan Environment and Children's Study	慢性産後うつの決定木学習：エコチル調査	Matsumura K, et al.	Journal of Affective Disorders 2025;369:643-652
482		Maternal exposure to smoking and wheezing phenotypes in children: a cohort study of the Japan Environment and Children's Study	母親の喫煙ばく露と子どもの喘鳴表現型：エコチル調査	Wada T, et al.	BMC Pediatrics 2024;24(1):624
481		Risk of self-harm ideation in mothers of children with orofacial cleft defects: the Japan Environment and Children's Study	口唇裂児の母親における自傷リスク：エコチル調査	Tsuchiya S, et al.	Frontiers in Global Women's Health 2024;5:1302808
480		Effect of swimming initiation period and continuation frequency on motor competence development in children aged up to 3 years: the Japan environment and children's study	スイミングの開始時期や継続頻度が3歳児までの運動能力の発達に及ぼす影響：エコチル調査	Kano H, et al.	BMC Sports Science, Medicine and Rehabilitation 2024;16:192
479		Association of nighttime sleep duration at 1.5 years with height at 3 years: The Japan Environment and Children's Study	1歳半時の夜間睡眠時間と3歳時の身長との関連：エコチル調査	Kawai M, et al.	Journal of Clinical Endocrinology and Metabolism 2024;dgae647

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
478		Association between periconceptional diet quality and hypertensive disorders of pregnancy: The Japan Environment and Children's Study	妊娠前からの母親の食事の質と妊娠高血圧症候群発症との関連：エコチル調査	Okubo H, et al.	Journal of the American Heart Association 2024;e033702
477	●	**Maternal exposure to per- and polyfluoroalkyl substances and offspring chromosomal abnormalities: The Japan Environment and Children's Study**	**母親の PFAS ばく露と子どもの染色体異常：エコチル調査**	**Hasegawa K, et al.**	**Environmental Health Perspectives 2024;132(9):97004**
476		Relationship between sleep position and otitis media in infants: The Japan Environment and Children's Study	乳幼児の睡眠体位と中耳炎との関係：エコチル調査	Kikuchi D, et al.	Auris Nasus Larynx 2024;51(5):880-884
475		Associations of parental education with children's infectious diseases and their mediating factors: the Japan Environment and Children's Study (JECS)	両親の教育歴と子どもの感染症罹患との関連およびその媒介因子：エコチル調査	Narita M, et al.	Journal of Epidemiology 2024 Epub ahead of print
474	●	**Association of phenol exposure during pregnancy and asthma development in children: The Japan Environment and Children's Study**	**妊娠中のフェノールばく露と子どもの喘息発症の関連：エコチル調査**	**Kuraoka S, et al.**	**Environmental Pollution 2024;124801**
473	●	**Prenatal mercury exposure and the secondary sex ratio: The Japan Environment and Children's Study**	**母親の血中およびさい帯血水銀濃度と出生児の性別との関連について：エコチル調査**	**Hasegawa K, et al.**	**Reproductive Toxicology 2024;130:108685 Epub ahead of print**
472		Infants' early recovery from sleep disturbance is associated with a lower risk of developmental delay in the Japan Environment and Children's Study	子どもの睡眠障害の早期回復は発達障害リスクの低下と関連する：エコチル調査	Kikuchi K, et al.	Scientific Reports 2024;14(1):17773
471	●	**Association between blood lipid levels in early pregnancy and urinary organophosphate metabolites in the Japan Environment and Children's Study**	**妊娠初期の尿中有機リン系殺虫剤代謝物濃度と血中脂質濃度の関連について：エコチル調査**	**Morimoto N, et al.**	**Environment International 2024;190:108932 Epub ahead of print**
470		Association between maternal multimorbidity and neurodevelopment of offspring: a prospective birth cohort study from the Japan Environment and Children's Study	妊娠中の多疾患併存と子どもの神経発達の遅れとの関連：エコチル調査	Akagi T, et al.	BMJ Open 2024;14(8):e082585
469	●	**The association between flooring materials and childhood asthma: A prospective birth cohort in the Japan Environment and Children's Study**	**床材による小児喘息・喘鳴への影響：エコチル調査**	**Iwata H, et al.**	**PLOS ONE 2024;19(7):e0305957**

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
468		Associations between paternal autism traits and parenting from the Japan Environment and Children's Study	父親の自閉症特性と子育て行動との関連：エコチル調査	Sakakihara A, et al.	Scientific Reports 2024;14(1):17668
467		Association between atopic dermatitis in pregnant women and preterm births: The Japan Environment and Children's Study	アトピー性皮膚炎合併妊娠と早産の関連：エコチル調査	Isogami H, et al.	Maternal and Child Health Journal 2024;28(9):1570-1577 Epub ahead of print
466	●	**Heavy metals and trace elements in maternal blood and prevalence of congenital limb abnormalities among newborns: the Japan Environment and Children's Study**	**妊娠中母体血中重金属と微量元素と先天性四肢形態異常との関連：エコチル調査**	**Ikeda A, et al.**	**Environmental Health and Preventive Medicine 2024;29:36**
465		Growth and respiratory status at 3 years of age after moderate preterm, late preterm and early term births: the Japan Environment and Children's Study	予定日より妊娠期間が短く出生した子どもの３歳時の発育と呼吸器症状：エコチル調査	Hirata K, et al.	Archives of Disease in Childhood Fetal and Neonatal Editon 2024;fetalneonatal-2024-327033 Epub ahead of print
464		How a family history of allergic diseases influences food allergy in children: the Japan Environment and Children's Study	アレルギー疾患の家族歴が子どもの食物アレルギーに与える影響について：エコチル調査	Saito-Abe M, et al.	Nutrients 2022;14(20):4323
463		Maternal excessive weight gain as a potential risk factor for prolonged labor in Japanese pregnant women: The Japan Environment and Children's Study	妊娠中の過剰な体重増加と分娩遷延との関連：エコチル調査	Shinohara S, et al.	PLOS ONE 2024;19(7):e0306247
462		Relationship between maternal consumption of fermented foods and the development of the offspring at the age of 3 years: The Japan Environment and Children's Study	妊娠中の母親の発酵食品の摂取と子どもの３歳時点における神経発達の関連：エコチル調査	Hirai H, et al.	PLOS ONE 2024;19(6):e0305535
461		Inverse association between mothers' cognitive social capital during pregnancy and postpartum depression: the Japan Environment and Children's Study	妊娠中の認知的ソーシャル・キャピタルと産後うつとの負の関連：エコチル調査	Hatakeyama T, et al.	Neuropsychiatric Disease and Treatment 2024;20:1279-1292
460		Association between preconception dietary fiber intake and hypertensive disorders of pregnancy: The Japan Environment and Children's Study	妊娠前の食物繊維摂取量と妊娠高血圧症候群の関連：エコチル調査	Omoto T, et al.	Pregnancy Hypertension 2024;37:101139 Epub ahead of print

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
459		Association of longitudinal pet ownership with wheezing in 3-year-old children using the distributed lag model: the Japan Environment and Children's Study	Distributed Lag Model を用いた経時的なペット飼育状況と3歳児喘鳴発症との関連	Shirato K, et al.	Environmental Health 2024;23(1):53
458		Association between general anesthesia in early childhood and neurodevelopment up to 4 years of age: the Japan Environment and Children's Study	幼少期に施行された全身麻酔と4歳までの精神神経発達との関連：エコチル調査	Nagai T, et al.	Journal of Anesthesia 2024 Epub ahead of print
457		Maternal pre-pregnancy body mass index and related factors: A cross-sectional analysis from the Japan Environment and Children's Study	妊婦における社会経済要因（教育歴、世帯収入、婚姻状況、就業状況）・喫煙と妊娠前の低体重・肥満の関連	Saijo Y, et al.	PLOS ONE 2024;19(6):e0304844
456		Neonatal transfer and duration of hospitalization of newborns as potential risk factors for impaired mother-infant bonding: The Japan Environment and Children's Study	新生児搬送と子どもの入院期間がボンディング（対児愛着）へ与える影響	Shinohara S, et al.	Journal of Affective Disorders 2024;360:314-321 Epub ahead of print
455		Maternal birth weight is an indicator of preterm delivery: the Japan Environment and Children's Study	妊婦の出生体重と早産との関連	Kudo R, et al.	Journal of Developmental Origins of Health and Disease 2024:15:e11
454		Validity of the ESSENCE-Q neurodevelopmental screening tool in Japan	日本における ESSENCE-Q 神経発達スクリーニングツールの妥当性	Yasumitsu-Lovell K, et al.	Developmental Medicine and Child Neurology 2024 Epub ahead of print
453	●	**Association of placental weight at birth with maternal whole blood concentration of heavy metals (cadmium, lead, mercury, selenium, and manganese): The Japan Environment and Children's Study (JECS)**	**妊婦の血中金属濃度と出生時の胎盤重量との関連：エコチル調査**	**Kinjyo Y, et al.**	**Environment International 2024;188:108725 Epub ahead of print**
452		The effect of parental age on child development at 36 months: Insights from the Japan Environment and Children's Study	出産時の両親の年齢が子どもの発達に与える影響：エコチル調査	Fukuda T, et al.	Research in Developmental Disabilities 2024;150:104741 Epub ahead of print
451		Risk of gestational diabetes in women with PCOS based on body mass index: The Japan Environment and Children's Study	多嚢胞性卵巣症候群を有する女性の体格指数に基づく妊娠糖尿病リスク：エコチル調査	Okoshi C, et al.	The Journal of Clinical Endocrinology & Metabolism 2024;dgae293 Epub ahead of print

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
450	●	**Association between maternal heavy metal exposure and Kawasaki Disease, the Japan Environment and Children's Study (JECS)**	**妊婦の血中重金属濃度と生まれた子どもの川崎病との関連：エコチル調査**	**Yanai T, et al.**	**Scientific Reports 2024;14(1):9947**
449		Association between low MCV in early pregnancy and perinatal mental health in the Japan Environment and Children's Study and the possible effect of iron deficiency	妊娠初期の潜在性鉄欠乏を示唆する平均赤血球容積低値と周産期メンタルヘルスとの関連：エコチル調査	Ohsuga T,et al.	Journal of Affective Disorders 2024;356:34-40
448		Maternal diabetes and risk of offspring congenital heart diseases: the Japan Environment and Children's Study	母親の妊娠期の糖尿病と子どもの先天性心疾患のリスクとの関連	Nagasawa M, et al.	Environmental Health and Preventive Medicine 2024;29:23
447		Parenting attitude towards children with autism spectrum disorders: the Japan Environment and Children's Study	自閉スペクトラム症の子どもに対する養育者の態度	Kanamori K, et al.	BMJ Paediatrics Open 2024;8(1):e002360
446	●	**Prenatal risk factors of indoor environment and incidence of childhood eczema in the Japan Environment and Children's Study**	**妊娠中の室内環境要因と3歳までの小児湿疹の発症リスクとの関連：エコチル調査**	**Ait Bamai Y, et al.**	**Environmental Research 2024; 252(Pt 2):118871**
445		Association of maternal leukocyte, monocyte, and neutrophil counts with hypertensive disorders of pregnancy: The Japan Environment and Children's Study (JECS)	妊婦の白血球数、単球数、好中球数と妊娠高血圧症候群との関連：エコチル調査	Ishiyama S, et al.	Scientific Reports 2024;14(1):7248
444		The association between maternal social support levels during pregnancy and child development at three years of age: the Japan Environment and Children's Study	妊娠中の母親のソーシャルサポートレベルと子どもの3歳時の発達との関連	Imanishi Y, et al.	Environmental Health and Preventive Medicine 2024:29:18
443		Early childhood neurodevelopmental milestones in children with allergic diseases: the Japan Environment and Children's Study (JECS)	アレルギー疾患を持つ子どもにおける精神神経発達のマイルストーン	Nagata A, et al.	Scientific Reports 2024;14(1):6460
442		Maternal fermented food intake and infant neurodevelopment: The Japan Environment and Children's Study	母親の発酵食品摂取と乳児期における神経発達	Tanaka T, et al.	Asia Pacific Journal of Clinical Nutrition 2024;33(1):66-82

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
441		Association between daily breakfast habit during pregnancy and neurodevelopment in 3-year-old offspring: The Japan Environment and Children’s Study	妊婦の朝食摂取と3歳時の精神神経発達	Imaizumi K, et al.	Scientific Reports 2024;14(1):6337
440		Gestational age and neurodevelopmental delay in term births at 6 and 12 months: The Japan Environment and Children’s Study (JECS)	生後6か月と12か月における正期産児の在胎週数と神経発達遅滞の関連	Haneda K, et al.	Maternal and Child Health Journal 2024;28(6):1031-1041
439		Association between preconception dietary fiber intake and preterm birth: The Japan Environment and Children’s Study	妊娠前の食物繊維摂取量と早産の関連：エコチル調査	Omoto T, et al.	Nutrients 2024;16(5):713
438		Maternal birth weight as an indicator of early and late gestational diabetes mellitus: The Japan Environment and Children's Study	妊婦の出生体重と妊娠前半期および妊娠後半期の妊娠糖尿病との関連	Tagami K, et al.	Journal of Diabetes Investigation 2024;15(6):751-761
437		Association of cesarean section and infectious outcomes among infants at 1 year of age: Logistic regression analysis using data of 104,065 records from the Japan Environment and Children's Study	帝王切開と子どもの1歳までの感染症罹患の関連	Maeda H, et al.	PLOS ONE 2024;19(2):e0298950
436		Association between maternal birth weight and prevalence of congenital malformations in offspring: The Japanese Environment and Children’s Study	妊婦の出生体重と出生児の先天異常との関連	Hamada H, et al.	Nutrients 2024;16(4):531
435	●	**Association between maternal blood or cord blood metal concentrations and catch-up growth in children born small for gestational age: an analysis by the Japan environment and children’s study**	**妊婦の血中およびさい帯血金属濃度とSGA児の追いつき成長について：子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）**	**Takatani T. et al.**	**Environmental Health 2024;23(1):18**
434		Maternal prenatal and postnatal psychological distress trajectories and impact on cognitive development in 4-year-old children: the Japan Environment and Children’s Study	母親の妊娠中・産後の精神的ジストレス（不安・抑うつ）と4歳児の認知発達	Nishigori H. et al.	Journal of Developmental Origins of Health and Disease 2023;14(6):781-794 Epub 2024 Feb 8.

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
433		Urinary 8-hydroxy-2'-deoxyguanosine levels and preterm births: a prospective cohort study from the Japan Environment and Children's Study	妊娠中の尿中 8-hydroxy-2′-deoxyguanosine 濃度と早産発症の関連	Murata T, et al.	BMJ Open 2024;14(2):e063619
432		Hypertensive disorders of pregnancy increase the incidence of febrile seizures in offspring	母体の妊娠高血圧症候群と3歳までの熱性けいれん発症との関連	Yabe M. et al.	Pediatric Research 2024;96(1):223-229 Epub ahead of print
431		Discrepancy between caregivers' reports and physicians' evaluation of causative foods in food protein-induced enterocolitis syndrome in Japan: The Japan Environment and Children's Study	医師に診断されたものと保護者の自己申告による食物タンパク誘発胃腸炎の原因食品の差異	Kajita N, et al.	International Archives of Allergy and Immunology 2024;185(4):334-342 Epub ahead of print
430		Association of a low chest-to-head circumference ratio with breech or transverse lie: the Japan Environment and Children's Study	胸囲/頭囲比と逆子、横臥位との関連性：エコチル調査	J-P NA, et al.	The Journal of Maternal-Fetal & Neonatal Medicine 2024;37(1):2305678
429		Parental stress and food allergy phenotypes in young children: A National Birth Cohort (JECS)	親の育児ストレスと幼児の食物アレルギー表現型の関連	Yamamoto-Hanada K, et al.	Allergy 2024; Epub ahead of print
428		Maternal dietary intake of fish and child neurodevelopment at 3 years: a nationwide birth cohort-The Japan Environment and Children's Study	妊娠中の魚の摂取量と子どもの3歳時点の神経発達との関連：エコチル調査	Inoue M, et al.	Frontiers in Public Health 2024;11:1267088
427		Maternal autistic traits and adverse birth outcomes: The Japan Environment and Children's Study	母親の自閉傾向と出生転帰：エコチル調査	Hosozawa M, et al.	JAMA Network Open 2024;7(1):e2352809
426		The impact of maternal and paternal birth weights on infant birth weights: The Japan Environment and Children's Study	両親の出生体重と子どもの出生体重との関連：エコチル調査	Tomita H, et al.	Journal of Developmental Origins of Health and Disease 2024;:1-12
425		Association of allergies in children younger than 3 years with levels of maternal intake of n-3 polyunsaturated fatty acids or fish during pregnancy: A nationwide birth cohort study, the Japan Environment and Children's Study	妊娠中の母親の n-3 系多価不飽和脂肪酸または魚の摂取量と3歳未満児のアレルギーとの関連	Tsuji S, et al.	Allergology International 2024;73(2):282-289 Epub ahead of print

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
424		Differences in health literacy related to gestational weight gain and children's birth weight according to maternal nativity status in the Japan Environment and Children's Study (JECS): a longitudinal cohort study	エコチル調査参加者における妊娠中体重増加量に関する知識と子どもの出生時体重の母親の国籍による違い	Kigawa M, et al.	BMJ Open 2024;14(1):e076899
423		Maternal serum folic acid levels and onset of Kawasaki disease in offspring during infancy	妊娠中の母親の血清葉酸濃度と乳児期の川崎病発症との関連	Fukuda S, et al.	JAMA Network Open 2023;6(12):e2349942
422		Urinary concentrations of environmental Phenol among pregnant women in the Japan Environment and Children's Study	エコチル調査における妊婦の尿中フェノール類濃度及びその予測因子	Suwannarin N, et al.	Environment International 2023;183:108373
421		Association between eating habits during adolescence and gestational diabetes: data from the Japan Environment and Children's Study	思春期の食生活と妊娠糖尿病との関連	Minami M, et al.	Journal of Diabetes and Metabolic Disorders 2023;22(2):1625-1633
420		Cord blood triglyceride and total cholesterol in preterm and term neonates: reference values and associated factors from the Japan Environment and Children's Study	臍帯血清トリグリセリド値と総コレステロール値の参照値とそれらの値に影響を与える周産期因子	Go H, et al.	European Journal of Pediatrics 2023;182(10):4547-4556
419		Association of preconception or antepartum maternal intimate partner violence with autism spectrum disorder in 3-year-old offspring: The Japan Environment and Children's Study	妊婦への身体的心理的DVと生まれた子どもの3歳時の自閉スペクトラム症	Isogami H, et al.	Journal of Women's Health 2024;33(1):80-89
418		Impact of dog and/or cat ownership on functional constipation at 3 years of age: The Japan Environment and Children's Study	ペットの飼育状況と3歳時点における機能性便秘との関連	Motoki N, et al.	BMC Pediatrics 2023;23(1):595
417		Maternal birth weight as an indicator of early-onset and late-onset hypertensive disorders of pregnancy: The Japan Environment and Children's Study	妊婦の出生体重と早発および遅発型妊娠高血圧症候群発症との関連	Tagami K, et al.	Pregnancy Hypertension 2023;34:159-168
416		Teenage and young adult pregnancy and depression: findings from the Japan Environment and Children's Study	若年妊娠と抑うつの関連：エコチル調査	Ishitsuka K, et al.	Archives of Women's Mental Health 2023; Epub ahead of print

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
415		Nonreassuring fetal status during labor and offspring's childhood neurodevelopment at 3 years of age: The Japan Environment and Children's Study	分娩時の胎児機能不全と生まれた子どもの神経発達との関連	Murata T, et al.	International Journal of Gynecology and Obstetrics 2024;165(1):244-255 Epub ahead of print
414	●	**The association between prenatal per-and polyfluoroalkyl substance levels and Kawasaki disease among children of up to 4 years of age: A prospective birth cohort of the Japan Environment and Children's Study**	**妊婦の血中有機フッ素化合物（PFAS）濃度と４歳までの川崎病発症の関連**	**Iwata H, et al.**	**Environment International 2023;183:108321**
413		Association between shift work in early pregnancy, snacking, and inappropriate weight gain during pregnancy: The Japan Environment and Children's Study	妊娠初期の交代勤務と間食及び妊娠中の不適切な体重増加との関連：エコチル調査	Funaki-Ishizu S, et al.	PLOS ONE 2023;18(10):e0291579
412		The association between constipation and subsequent risk of atopic dermatitis in children: the Japan Environment and Children's Study	子どもの便秘とその後のアトピー性皮膚炎発症リスクとの関連	Takano Y, et al.	Environmental Health and Preventive Medicine 2023;28:71
411	●	**Associations between prenatal exposure to per- and polyfluoroalkyl substances and wheezing and asthma symptoms in 4-year-old children: The Japan Environment and Children's Study**	**妊婦の有機フッ素化合物（PFAS）ばく露と生まれた子どもの４歳時におけるぜん鳴・ぜん息症状の有無との関連**	**Atagi T, et al.**	**Environmental Research 2023;240(Pt 1):117499**
410		Impact of breastfeeding during infancy on functional constipation at 3 years of age: The Japan Environment and Children's Study	1歳までの母乳栄養状況と3歳時点における機能性便秘との関連	Motoki N, et al.	International Breastfeeding Journal 2023;18(1):57
409		Infantile peanut introduction and peanut allergy in regions with a low prevalence of peanut allergy: the Japan Environment and Children's Study (JECS)	乳児期のピーナッツ摂取とピーナッツアレルギーの関連：エコチル調査	Kojima R, et al.	Journal of Epidemiology 2023; Epub ahead of print
408		Relationship between growth and food avoidance with food allergy at age 3 years: The Japan Environment and Children's Study (JECS)	食物アレルギー児における除去食が３歳時点の成長に及ぼす影響：エコチル調査	Saito M, et al.	The World Allergy Organization Journal 2023;16(10):100826

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
407		Neurodevelopmental outcomes among offspring exposed to corticosteroid and B2-adrenergic agonists in utero	妊娠中のぜん息薬使用と3歳時点の子どもの発達の関連	Nagata A, et al.	JAMA Network Open 2023;6(10):e2339347
406		Tocolytic treatment and maternal characteristics, obstetric outcomes, and offspring childhood outcomes among births at and after 37 weeks of gestation: The Japan Environment and Children's Study	子宮収縮抑制薬投与と母体・産科的アウトカムと出生児のアウトカムの関連	Murata T, et al.	Archives of Gynecology and Obstetrics 2024;310(2):1089-1098 Epub ahead of print
405	●	**Prenatal metal concentrations and physical abnormalities in the Japan Environment and Children's Study**	**妊娠中の金属濃度と子どもの形態異常との関連**	**Nakamura Y, et al.**	**Pediatric Research 2023; Epub ahead of print**
404		Vitamin D deficiency associated with neurodevelopmental problems in two-year-old Japanese boys	日本人2歳男児におけるビタミンD欠乏と神経発達との関連	Yasumitsu-Lovell K, et al.	Acta Paediatrica 2024;113(1):119-126
403		Periconceptional maternal diet quality and offspring wheeze trajectories: Japan Environment and Children's Study	妊娠前からの母親の食事の質と子どものぜん鳴症状のパターンとの関連	Okubo H, et al.	Allergy 2023; Epub ahead of print
402	●	**Association between maternal urinary neonicotinoid concentrations and child development in the Japan Environment and Children's Study**	**母親の尿中ネオニコチノイド系農薬濃度と子どもの発達との関連について**	**Nishihama Y, et al.**	**Environment International 2023;181:108267**
401		Congenital hypothyroidism and thyroid function in a Japanese birth cohort: data from the Japan Environment and Children's Study	先天性甲状腺機能低下症と子どもの甲状腺機能：エコチル調査	Yang L, et al.	Clinical Pediatric Endocrinology 2023;32(4):213-220
400		Prediction of gestational diabetes mellitus using machine learning from birth cohort data of the Japan Environment and Children's Study	エコチル調査のデータを用いた機械学習による妊娠糖尿病予測	Watanabe M, et al.	Scientific Reports 2023;13(1):17419
399		Maternal factors and one-year-olds' screen time: A cross-sectional study using birth cohort data from the Japan Environment and Children's Study (JECS)	1歳児のメディア視聴時間と養育者（母親）の要因の関連	Fujii M, et al.	Journal of Children and Media 2023;17(4):523-537
398	●	**Occupational exposure of pregnant women to refined oil and infant wheezing: Japan Environment and Children's Study findings**	**妊婦の職業上の原油精製物使用と子どもの生後12か月までのぜん息（ぜん鳴）発症の関連**	**Kawamura M, et al.**	**Clinical and Experimental Allergy 2023;53(12):1302-1306**

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
397	●	**Pediatric leukemia and maternal occupational exposure to anticancer drugs: The Japan Environment and Children's Study**	**小児白血病と母親の抗がん剤に対する職業性ばく露：エコチル調査**	**Yamamoto S, et al.**	**Blood 2023;blood.2023021008**
396		Environments affect blood pressure in toddlers: The Japan Environment and Children's Study	環境因子が小児血圧に与える影響：エコチル調査	Kanamori K, et al.	Pediatric Research 2023; Epub ahead of print
395		Effect of nausea and vomiting during pregnancy on mother-to-infant bonding and the mediation effect of postpartum depression: The Japan Environment and Children's Study	つわりによる対児愛着への影響と産後うつの媒介効果：エコチル調査	Yang G, et al.	BMC Pregnancy and Childbirth 2023;23(1):704
394		Factors associated with postpartum smoking relapse at early postpartum period of Japanese women in the Japan Environmental and Children's Study	日本人女性における産後早期再喫煙の関連要因	Anai A, et al.	Environmental Health and Preventive Medicine 2023;28:56
393		Neurodevelopmental outcomes at age 3 after moderate preterm, late preterm, and early term birth: The Japan Environment and Children's Study	予定日より在胎期間が短く出生した子どもの３歳時の発達状況：エコチル調査	Hirata K, et al.	Archives of Disease in Childhood - Fetal and Neonatal Edition 2023;fetalneonatal-2023-325600
392		Screen time and developmental performance among children at 1-3 years of age in the Japan Environment and Children's Study	1－3歳の子どものテレビ・DVDの視聴時間と発達の関連	Yamamoto M, et al.	JAMA Pediatrics 2023;177(11):1168-1175
391		Association between maternal factors in early pregnancy and congenital heart defects in offspring: the Japan Environment and Children's Study	子どもの先天性心疾患の発生に関する母親のリスク因子の探索	Kawai S, et al.	Journal of the American Heart Association 2023;12(17):e029268
390		Association between maternal fish consumption during pregnancy and preterm births: The Japan Environment and Children's Study	妊娠中の魚介類の摂取量と早産との関連	Ishitsuka K, et al.	Environmental Health and Preventive Medicine 2023;28:47
389		Obesity as a potential risk factor for stillbirth: The Japan Environment and Children's Study	妊娠前の肥満と死産との関連について	Shinohara S, et al.	Preventive Medicine Reports 2023;35:102391
388		Maternal dietary vitamin D Intake during pregnancy is associated with allergic disease symptoms in children at 3 years old: The Japan Environment and Children's Study	妊娠中の食事からのビタミンD摂取量は子どもの３歳時点のアレルギー疾患と関連する：エコチル調査	Shimizu M, et al.	International Archives of Allergy and Immunology 2023;184(11):1106-1115

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
387	●	**Prenatal exposure to selenium, mercury, and manganese during pregnancy and allergic diseases in early childhood: The Japan Environment and Children's Study**	**出生前の水銀、セレン、マンガンばく露と３歳までの子どものアレルギー疾患発生リスクとの関連：エコチル調査**	**Miyazaki J, et al.**	**Environment International 2023;179:108123**
386		Association between gestational age at threatened preterm birth diagnosis and incidence of preterm birth: The Japan Environment and Children's Study	切迫早産の診断時期と早産発症の関連	Murata T, et al.	Scientific Reports 2023;13(1):12839
385		Maternal dietary fiber intake during pregnancy and child development: The Japan Environment and Children's Study	妊娠中の食物繊維摂取と生まれた子どもの３歳時の発達	Miyake K, et al.	Frontiers in Nutrition 2023;10:1203669
384		Health-related quality of life of mothers and developmental characteristics of very low birth weight children at 2.5 years of age: results from the Japan Environment and Children's Study (JECS)	母親の健康関連 QOL と極低出生体重児の 2.5 歳時の発達特性	Sasaki H, et al.	Health and Quality of Life Outcomes 2023;21(1):68
383		Self-reported eating habits and dyslipidemia in men aged 20-39 years: The Japan Environment and Children's Study	20-39 歳の若年男性における食習慣と脂質異常症との関連	Cui M, et al.	Environmental Health and Preventive Medicine 2023;28:41
382		A nationwide, prospective, cohort study on exogenous oxytocin and delays in early child development: The Japan Environment and Children's Study	分娩時のオキシトシン使用と生まれた子どもの３歳時点の神経学的予後との関連	Shinohara S, et al.	European Journal of Pediatrics 2023;182(9):4059-4068
381		Paternal involvement in infant care and developmental milestone outcomes at age 3 years: The Japan Environment and Children's Study (JECS)	乳児期における父親の育児への関わりと子どもが３歳時点の発達との関連：エコチル調査	Kato T, et al.	Pediatric Research 2023; Epub ahead of print
380		Maternal antibiotic exposure and childhood allergies: The Japan Environment and Children's Study	妊娠中の母親の抗生物質使用と小児アレルギーとの関連：エコチル調査	Okoshi K, et al.	Journal of Allergy and Clinical Immunology Global 2023;2(4):100137
379		Association of influenza vaccination or influenza virus infection history with subsequent infection risk among children: The Japan Environment and Children's Study (JECS)	子どもにおけるインフルエンザワクチン接種歴及びインフルエンザウイルス感染歴とその後のインフルエンザウイルス感染リスクとの関連：エコチル調査	Yokomichi H, et al.	Preventive Medicine 2023;173:107599

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
378		Reference blood pressure values obtained using the auscultation method for two-year-old Japanese children: From the Japan Environment and Children's Study	日本人の２歳児における聴診法で得られた血圧の参照値：エコチル調査	Fujita N, et al.	Clinical and Experimental Nephrology 2023;27(10):857-864
377		Association between maternal cholesterol level during pregnancy and placental weight and birthweight ratio: data from the Japan Environment and Children's Study	母親の妊娠中の血中脂質と胎盤重量/出生体重比の関連	Mitsuda N, et al.	BMC Pregnancy and Childbirth 2023;23(1):484
376		Impact of longer working hours on fathers' parenting behavior when their infants are 6 months old: The Japan Environment and Children's Study (JECS)	父親の長時間労働と育児行動との関連：エコチル調査	Kasamatsu H, et al.	Frontiers in Public Health 2023;11:1100923
375		Association between Cesarean section and neurodevelopmental disorders in a Japanese birth cohort: The Japan Environment and Children's Study	帝王切開による出生と神経発達との関係：エコチル調査	Yoshida T, et al.	BMC Pediatrics 2023;23(1):306
374		Pregnancy bias toward boys or girls: The Japan Environment and Children's Study	生まれてくる子どもの性別と子どもの兄弟姉妹の性別の関連	So S, et al.	PLOS ONE 2023;18(6):e0287752
373		Sleep quality and temperament in association with autism spectrum disorder among infants in Japan	乳児の睡眠・気質と自閉症スペクトラム障害の関連	Kikuchi K, et al.	Communications Medicine 2023;3(1):82
372	●	**Association between maternal use of spray formulations and offspring urological anomalies: The Japan Environment and Children's Study**	**母親のスプレー製剤使用と子どもの腎泌尿器異常との関連**	**Taniguchi Y, et al.**	**International Journal of Urology 2023;30(10):883-888**
371		Prenatal folic acid supplement/ dietary folate and cognitive development in 4-year-old offspring from the Japan Environment and Children's Study	妊婦の葉酸摂取と子どもの４歳時の認知能発達	Nishigori H, et al.	Scientific Reports 2023;13(1):9541
370		Maternal dietary zinc intake during pregnancy and childhood allergic diseases up to four years: The Japan Environment and Children's Study	妊娠中の母親の亜鉛摂取量と４歳までの小児アレルギー疾患	Yang L, et al.	Nutrients 2023;15(11):2568
369		Maternal magnesium intake and childhood wheezing in offspring at 3 years of age: The Japan Environment and Children's Study	妊娠中のマグネシウム摂取量と子どもの３歳時の喘鳴	Murata T, et al.	British Journal of Nutrition 2023;130(11):1973-1981

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
368		Meconium-stained amniotic fluid and offspring allergies: The Japan Environment and Children’s Study	分娩時の羊水混濁と子どものアレルギー性疾患	Murata T, et al.	Pediatric Allergy and Immunology 2023;34(5):e13956
367		Association of maternal asthma and total serum immunoglobulin E levels with obstetric complications: The Japan Environment and Children’s Study	気管支喘息合併妊娠における母体血中免疫グロブリンE濃度と産科合併症の関連	Murata T, et al.	Maternal and Child Health Journal 2023;27(7):1229-1237
366	●	**Prenatal metal levels and congenital anomalies of the kidney and urinary tract: The Japan Environment and Children’s Study**	**胎児期の金属ばく露と先天性腎尿路異常との関連：子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）**	**Iwaya Y, et al.**	**Science of the Total Environment 2023;890:164356**
365		Retrospective analysis on gestational weight gain in twin pregnancies with favorable perinatal outcomes: The Japan Environment and Children’s Study (JECS)	良好な周産期結果を得た双胎妊婦における妊娠中の体重増加の後方視的分析:エコチル調査	Takaoka S, et al.	Journal of Japan Academy of Midwifery 2023;37(3):219-230
364		Association between pre-pregnancy weight status and dietary patterns during pregnancy: results from the Japan Environment and Children’s Study	妊娠前の体格と妊娠中の食事パターンの関連	Ishitsuka K, et al.	Public Health Nutrition 2023;26(9):1807-1814
363		Maternal triglyceride levels and neonatal outcomes: The Japan Environment and Children’s Study	妊婦の血清トリグリセリド値と新生児予後	Go H, et al.	Journal of Clinical Lipidology 2023;17(3):356-366
362		Impact of habitual yogurt intake in mother-child dyads on incidence of childhood otitis media: The Japan Environment and Children’s Study (JECS)	母子のヨーグルト摂取習慣が小児中耳炎の発症に及ぼす影響：エコチル調査	Tsuchiya M, et al.	Probiotics and Antimicrobial Proteins 2023; Epub ahead of print
361		Weight-loss behaviors before pregnancy associate with increased risk of postpartum depression from the Japan Environment and Children’s Study	妊娠前の減量行動が産後うつに及ぼす影響：エコチル調査	Taniguchi S, et al.	Scientific Reports 2023;13(1):7363
360		Interpregnancy weight change as a potential risk factor for large-for-gestational-age infants: The Japan Environment and Children’s Study	出産を終えてから次回妊娠までの体重増加とLGA児との関連	Shinohara S, et al.	The Journal of Maternal-Fetal and Neonatal Medicine 2023;36(1):2209251

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
359		Longitudinal study of the relationship between number of prior miscarriages or stillbirths and changes in quality of life of pregnant women: The Japan Environment and Children's Study (JECS)	流死産既往歴の回数と次の妊娠中におけるＱＯＬの変化との関連：エコチル調査	Futakawa K, et al.	BMC Pregnancy and Childbirth 2023;23(1):297
358		Association between neonatal phototherapy and sleep: The Japan Environment and Children's Study	新生児黄疸に対する光療法と睡眠との関係：エコチル調査	Hotta M, et al.	Journal of Sleep Research 2023;32(5):e13911
357		Relationship between prenatal checkup status and low birth weight: A nationwide birth cohort-the Japan Environment and Children's Study	妊婦健診受診状況と低出生体重児割合との関係：エコチル調査	Nagamine M, et al.	Annals of Epidemiology 2023;83:8-14
356		Maternal autistic traits and antenatal pain by cross-sectional analysis of the Japan Environment and Children's Study	横断的分析による成人女性の自閉症傾向と妊娠中の体の痛み	Yamada K, et al.	Scientific Reports 2023;13(1):6068
355		Association of soap use when bathing 18-month-old infants with the prevalence of allergic diseases at age 3 years: The Japan Environment and Children's Study	生後 18 か月での入浴時の石鹸使用と 3 歳時のアレルギー疾患との関係：エコチル調査	Kato T, et al.	Pediatric Allergy and Immunology 2023;34(4):e13949
354		Caesarean section and childhood obesity at age 3 years derived from the Japan Environment and Children's Study	帝王切開出生と 3 歳時点における小児肥満の関係	Terashita S, et al.	Scientific Reports 2023;13(1):6535
353	●	**Relationship between the Mediterranean diet score in pregnancy and the incidence of asthma at 4 years of age: The Japan Environment and Children's Study**	**妊娠中の食事の地中海食指標と４歳時点での１型アレルギー罹患の関係**	**Nakano K, et al.**	**Nutrients 2023;15(7):1772**
352		Association between combined spinal-epidural analgesia and neurodevelopment at 3 years old: The Japan Environment and Children's Study	くも膜下併用硬膜外麻酔と 3 歳時の神経発達との関連	Noda M, et al.	The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research 2023;49(6):1551-1559
351		Associations between fetal or infancy pet exposure and food allergies: The Japan Environment and Children's Study	胎児期・乳児期のペットへのばく露と食物アレルギーの関係	Okabe H, et al.	PLOS ONE 2023;18(3):e0282725
350		Relationship between birth order and postnatal growth until 4 years of age: The Japan Environment and Children's Study	出生順位と出生時から４歳までの身長の関連	Yoshida A, et al.	Children 2023;10(3):557

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
349		Analyzing the relationship between feelings about pregnancy and mother-infant bonding with the onset of maternal psychological distress after childbirth: The Japan Environment and Children's Study	妊娠に対する気持ち及び産後の対児愛着と母親の心理的ストレスの発症との関連：子どもの健康と環境に関する全国調査	Tokuda N, et al.	Journal of Affective Disorders 2023;329:531-538
348		Association between maternal multimorbidity and preterm birth, low birth weight, and small for gestational age: a prospective birth cohort study from the Japan Environment Children's Study	母体の多疾患併存(Multimorbidity)と早産、低出生体重児、Small for gestational age との関連	Nakanishi K, et al.	BMJ Open 2023;13(3):e069281
347		Association between maternal socioeconomic status and breastfeeding: Results from the Japan Environment and Children's Study	母親の社会経済状況と母乳栄養：エコチル調査	Tanaka R, et al.	Journal of Child Health Care 2023; Epub ahead of print
346		Periconceptual diet quality and its relation to blood heavy metal concentrations among pregnant women: The Japan Environment and Children's Study	母親の食事の質と母体血中重金属濃度との関連 － 質の高い食事は、重金属曝露を低減するか？ －	Okubo H, et al.	Environmental Research 2023;225:115649
345		Multiple pregnancy as a potential risk factor for postpartum depression: The Japan Environment and Children's Study	多胎と産後うつとの関連	Shinohara S, et al.	Journal of Affective Disorders 2023;329:218-224
344		Association between labor duration in singleton spontaneous vaginal deliveries and offspring neurodevelopment: The Japan Environment and Children's Study	自然分娩における分娩所要時間と子どもの神経発達との関連	Murata T, et al.	International Journal of Gynecology and Obstetrics 2023;161(3):1097-1101
343		Maternal smoking status before and during pregnancy and bronchial asthma at 3 years of age: a prospective cohort study	妊娠中、出生後の母親および家族の喫煙状況と子どもの３歳時の気管支喘息	Miyake K, et al.	Scientific Reports 2023;13(1):3234
342		Dietary intake of vitamin D during pregnancy and the risk of postpartum depressive symptoms: The Japan Environment and Children's Study	妊娠期間中のビタミンＤ摂取量と産後の抑うつ症状のリスク：エコチル調査	Tsunoda K, et al.	Journal of Nutritional Science and Vitaminology 2023;69(1):14-20
341		Phototherapy and risk of developmental delay: The Japan Environment and Children's Study	新生児黄疸に対する光療法と発達遅滞：子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）	Hotta M, et al.	European Journal of Pediatrics 2023;182(5):2139-2149

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
340		Relationship between food allergy and endotoxin concentration and the toleration status at 2 years: The Japan Environment and Children's Study	食物アレルギー児における環境中のエンドトキシン濃度と耐性獲得状況の関係	Irahara M, et al.	Nutrients 2023;15(4):968
339		Maternal lifestyle and nutrient intakes during pregnancy and exclusive breastfeeding in relation to risk factors for breast cancer: The Japan Environment and Children's Study	乳がんリスク要因に関連する妊娠中の生活習慣及び栄養素の摂取量と完全母乳栄養との関連：子どもの健康と環境に関する全国調査	Minami Y, et al.	Preventive Medicine 2023;168:107446
338		Season of birth and atopic dermatitis in early infancy: results from the Japan Environment and Children's Study	出生した季節と乳児期のアトピー性皮膚炎：エコチル調査の結果より	Tsuchida A, et al.	BMC Pediatrics 2023;23(1):78
337		Secondhand smoke exposure is associated with the risk of hypertensive disorders of pregnancy: The Japan Environment and Children's Study	受動喫煙は妊娠高血圧症候群リスクと関連する：エコチル調査	Tanaka K, et al.	Hypertension Research 2023;46(4):834-844
336	●	**Periconceptional maternal diet quality influences blood heavy metal concentrations and their effect on low birth weight: The Japan Environment and Children's Study**	**妊娠前からの母親の食事の質が母体血中重金属濃度と児の低出生体重に及ぼす影響**	**Okubo H, et al.**	**Environment International 2023;173:107808**
335		Association of infants' feeding pattern up to 2 years postpartum with mothers' mental and physical health: The Japan Environment and Children's Study	産後２年までの授乳パターンと母親の心身の健康との関連：エコチル調査	Tsunoda K, et al.	Journal of Affective Disorders 2023;327:262-269
334		Influence of chest/head circumference ratio at birth on obstetric and neonatal outcomes: The Japan Environment and Children's Study	出生時の胸囲/頭囲比率が産科・新生児転帰に及ぼす影響：エコチル調査	J-P NA, et al.	American Journal of Human Biology 2023;35(6):e23875
333	●	**Paternal occupational exposures and infant congenital heart defects in the Japan Environment and Children's Study**	**父親の職業性ばく露と児の先天性心疾患発生リスクについて**	**Hayama-Terada M, et al.**	**Environmental Health and Preventive Medicine 2023;28:12**
332		Prenatal antibiotic use, caesarean delivery and offspring's food protein-induced enterocolitis syndrome: A national birth cohort (JECS)	出産前の抗生物質使用及び帝王切開と子どもの食物たんぱく誘発胃腸症の関連	Yamamoto-Hanada K, et al.	Clinical and Experimental Allergy 2023;53(4)479-483

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
331		Adverse pregnancy outcomes of cancer survivors and infectious disease in their infants: The Japan Environment and Children's Study	AYA 世代がんサバイバーの妊娠帰結と出生児の感染症	Nishikawa R, et al.	Oncology Letters 2023;25(3):100
330		Effect of birth season on allergic rhinitis and cedar pollinosis considering allergen and vitamin D exposure: The Japan Environment and Children's Study (JECS)	アレルゲンとビタミンDを考慮に入れた生まれた季節と花粉症、アレルギー性鼻炎との関連：エコチル調査	Kojima R, et al.	Allergology International 2023;72(3):411-417
329		Cesarean section and parenting stress: results from the Japan Environment and Children's Study	帝王切開と育児ストレスの関係：エコチル調査	Matsumura K, et al.	European Psychiatry 2023;66(1):e18
328		Maternal prenatal psychological distress and motor/cognitive development in two-year-old offspring: The Japan Environment and Children's Study	妊婦の精神的ジストレス（不安・抑うつ）と子どもの2歳時の神経発達	Mori M, et al.	Journal of Developmental Origins of Health and Disease 2023;14(3):389-401
327		Pre-/perinatal reduced optimality and neurodevelopment at 1 month and 3 years of age: Results from the Japan Environment and Children's Study (JECS)	妊娠中および周産期の準最適性と生後1か月および3歳時点における精神神経発達	Yasumitsu-Lovell K, et al.	PLOS ONE 2023;18(1):e0280249
326		Maternal protein intake in early pregnancy and child development at age 3 years	妊娠中の母親のたんぱく質摂取と3歳時の発達の関連	Miyake K, et al.	Pediatric Research 2023;94(1):392-399
325		Congenital anomalies in infants in Fukushima from 2011 to 2014: The Japan Environment and Children's Study	福島県における子どもの先天性形態異常と全国との比較 ―エコチル調査から―	Nishigori H, et al.	JMA Journal 2023;6(1):36-47
324		Prevalence of infectious diseases in preterm infants: a 2-year follow-up from the Japan Environment and Children's Study	早産での出生と2歳までの感染症罹患との関係	Tamura K, et al.	Scientific Reports 2022;12(1):22488
323		Endotoxin concentration and persistent eczema in early childhood	環境中のエンドトキシン濃度と幼児期の持続する湿疹との関連	Irahara M, et al.	The Journal of Dermatology 2023;50(5):646-655
322		Timing of maternal smoking cessation and newborn weight, height, and head circumference	妊娠女性の禁煙時期の違いが出生児の体格に及ぼす影響	Tatsuta N, et al.	Obstetrics and Gynecology 2023;141(1):119-125
321	●	**Maternal metals exposure and infant weight trajectory: The Japan Environment and Children's Study (JECS)**	**妊娠期の母親の血中元素濃度と3歳までの子どもの体重推移について：子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）**	**Taniguchi Y, et al.**	**Environmental Health Perspectives 2022;130(12):127005**

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
320		Provision of educational events and subsequent questionnaire response rates in a large-scale birth cohort study from Japan	日本の大規模出生コホート調査における教育イベントの開催とイベント後に依頼した質問票返送率の関連	Tsuchida A, et al.	BMJ Open 2022;12(12):e064229
319		Association of labour duration in spontaneous deliveries with low neonatal Apgar scores and foetal acidosis: The Japan Environment and Children's Study	自然分娩における分娩所要時間と新生児の低アプガースコアや胎児アシドーシスとの関連	Murata T, et al.	Scientific Reports 2022;12(1):21519
318		Association of *Chlamydia trachomatis* infection with pregnancy outcomes among Japanese pregnant women: The Japan Environment and Children's Study	日本人妊婦におけるクラミジア・トラコマティス感染と妊娠転帰の関連性：エコチル調査	Yasuda S, et al.	PLOS ONE 2022;17(11):e0275573
317		The duration of neonatal phototherapy and allergic disorders: The Japan Environment and Children's Study	新生児黄疸に対する光療法の実施期間とアレルギー疾患との関係：エコチル調査	Hotta M, et al.	International Archives of Allergy and Immunology 2022;184(3):211-219
316		Elemental dynamics in hair accurately predict future autism spectrum disorder diagnosis: an international multi-center study	ASD(自閉スペクトラム症)診断予測における新規手法(毛髪の元素分析)の開発：国際多施設による共同研究	Austin C, et al.	Journal of Clinical Medicine 2022;11(23):7154
315		Influence of preconception carbohydrate intake on hypertensive disorders of pregnancy: The Japan Environment and Children's Study	妊娠前の炭水化物摂取量と妊娠高血圧症候群の発症の関連：エコチル調査	Omoto T, et al.	The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research 2023;49(2):577-586
314		Impact of stage 1 hypertension in the first and second trimesters on adverse pregnancy outcomes: The Japan Environment and Children's Study (JECS)	第1三半期および第2三半期の Stage 1 Hypertension(ステージ1高血圧)が妊娠分娩転帰に与える影響：子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)	Ishii K, et al.	Pregnancy Hypertension 2022;30:232-237
313		Exposure to house dust mite allergen and endotoxin in early life and sensitization and allergic rhinitis: the JECS	幼少期のエンドトキシンとチリダニ抗原ばく露と抗原感作及びアレルギー性鼻炎との関連：エコチル調査	Kojima R, et al.	International Journal of Environmental Research and Public Health 2022;19(22):14796
312		Association between preconception dietary inflammatory index and neurodevelopment of offspring at 3 years of age: The Japan Environment and Children's Study	妊娠前の食事性炎症指数と3歳時神経発達の関連：エコチル調査	Kyozuka H, et al.	Nutrition 2022;102:111708

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
311		Preconception vitamin D intake and obstetric outcomes in women using assisted reproductive technology: The Japan Environment and Children's Study	生殖補助医療を受けた妊婦における妊娠前ビタミンD摂取量と周産期予後の関連：エコチル調査	Kyozuka H, et al.	BMC Pregnancy and Childbirth 2022;22(1):542
310		Preconception dietary inflammatory index and risk of gestational diabetes mellitus based on maternal body mass index: findings from a Japanese birth cohort study	体格に基づいた妊娠前の食事性炎症指数と妊娠糖尿病発症の関連：エコチル調査	Kyozuka H, et al.	Nutrients 2022;14(19):4100
309		Factor structure of the Parenting Stress Index-Short Form used in the Japan Environment and Children's Study	エコチル調査で使用する育児ストレスショートフォームの因子構造	Hatakeyama T, et al.	Scientific Reports 2022;12(1):19123
308		Dietary intake of yogurt and cheese in children at age 1 year and sleep duration at age 1 and 3 years: The Japan Environment and Children's Study	1歳時点におけるヨーグルトとチーズの摂取頻度と1歳時点および3歳時点における睡眠時間の関係：エコチル調査	Inoue M, et al.	BMC Pediatrics 2022;22(1):624
307		Association between maternal vitamin D intake and infant allergies: The Japan Environment and Children's Study	妊娠中の母親のビタミンD摂取量と子どものアレルギー疾患の関連：エコチル調査より	Shimizu M, et al.	Journal of Nutritional Science and Vitaminology 2022;68(5):375-382
306		Maternal hemoglobin levels and neonatal outcomes: The Japan Environment and Children's Study	母体ヘモグロビン値と新生児予後の関連	Go H, et al.	The Journal of Maternal-Fetal and Neonatal Medicine 2022;35(26):10472-10480
305		Allergic disorders and risk of anemia in Japanese children: findings from the Japan Environment and Children's Study	２歳時点のアレルギーと３歳時点の貧血の関連	Yang L, et al.	Nutrients 2022;14(20):4335
304	●	**Population attributable fraction of risk factors for low birth weight in the Japan Environment and Children's Study**	**低出生体重に関連する要因それぞれの効果の大きさについて：子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)**	**Nishihama Y, et al.**	**Environment International 2022;170:107560**
303		Null association between isolated orofacial clefts and sleep duration: a cohort study from the Japan Environment and Children's Study	口唇口蓋裂を有する子どもの睡眠時間	Sato Y, et al.	The Cleft Palate-Craniofacial Journal 2022; Epub ahead of print

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
302		Associated congenital anomalies and syndromes of 248 infants with orofacial clefts born between 2011 and 2014 in the Japan Environment and Children's Study	口唇口蓋裂を有して生まれた248名に関連する先天性疾患と症候群	Sato Y, et al.	Congenital Anomalies 2022;63(1):9-15
301		Association of epidural analgesia during labor with neurodevelopment of children during the first three years: The Japan Environment and Children's Study	無痛分娩と子どもの3歳までの精神神経発達との関連	Shima M, et al.	Environmental Health and Preventive Medicine 2022;27:37
300		Neurodevelopmental delay up to the age of 4 years in infants born to women with gestational diabetes mellitus: The Japan Environment and Children's Study	妊娠糖尿病から出生した児の4歳までの神経発達	Saito Y, et al.	Journal of Diabetes Investigation 2022;13(12):2054-2062
299		Evaluating association of smoking status during pregnancy with adverse birth outcomes using urinary cotinine concentration: The Japan Environment and Children's Study	妊婦の喫煙と子宮内胎児発育遅延の関連	Kunori Y, et al.	Environmental Research 2022;215(Pt 2):114302
298		Association between gestational weight gain and risk of overweight at 3 years old: The Japan Environment and Children's Study	妊娠中の母親の体重増加量と3歳時点の子どもの肥満との関連	Tanigawa K, et al.	Pediatric Obesity 2023;18(1):e12978
297		Association of sleep quality with temperament among one-month-old infants in the Japan Environment and Children's Study	生後1ヶ月児の睡眠と気質との関連：子どもの健康と環境に関する全国調査	Kikuchi K, et al.	PLOS ONE 2022;17(9):e0274610
296	●	**No association between prenatal lead exposure and neurodevelopment during early childhood in the Japan Environment and Children's Study**	**胎児期の鉛と小児期早期の神経発達との関連：子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）について**	**Inoue H, et al.**	**Scientific Reports 2022;12(1):15305**
295		Low periconceptional dietary intakes among Japanese women: The Japan Environment and Children's Study (JECS)	日本人女性における妊娠前後の低食事摂取量：エコチル調査	Eshak ES, et al.	Journal of Nutritional Science and Vitaminology 2022;68(4):260-269
294		Association between the ratio of placental weight to birthweight and the risk of neurodevelopmental delay in 3-year-olds: The Japan Environment and Children's Study	胎盤重量/出生体重比と3歳での精神神経発達の関連	Mitsuda N, et al.	Placenta 2022;128:49-56

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
293		Maternal dietary folate intake with folic acid supplements and wheeze and eczema in children aged 2 years in the Japan Environment and Children's Study	妊娠中の葉酸サプリメント摂取と2歳児の喘鳴・アトピー性皮膚炎	Masuda H, et al.	PLOS ONE 2022;17(8):e0272968
292	●	**Impaired height growth associated with vitamin D deficiency in young children the Japan Environment and Children's Study**	**幼児期のビタミンD欠乏による成長障害**	**Kuraoka S, et al.**	**Nutrients 2022;14(16):3325**
291		Prospective association of short sleep duration in newborns with bruxism behavior in children: The Japan Environment and Children's Study (JECS)	新生児期の短時間睡眠と歯ぎしり癖との関連性：エコチル調査	Tsuchiya M, et al.	Sleep Medicine 2022;100:71-78
290	●	**Impact of prenatal exposure to mercury and selenium on neurodevelopmental delay in children in the Japan Environment and Children's Study using the ASQ-3 questionnaire: a prospective birth cohort**	**妊婦の血中水銀及びセレン濃度と4歳までの子どもの神経発達との関連**	**Kobayashi S, et al.**	**Environment International 2022;168:107448**
289		Association between maternal fermented food consumption and child sleep duration at the age of 3 years: The Japan Environment and Children's Study	妊娠中の母親の発酵食品摂取と生まれた子どもの3歳時点の睡眠時間との関連	Inoue M, et al.	BMC Public Health 2022;22(1):1504
288		Smoking exposure is associated with serum vitamin D deficiency in children: evidence from the Japan Environment and Children's Study	1歳半時点の子どもの受動喫煙と、2歳時点の子どもの血清ビタミンD (25(OH)D)値の関連	Yang L, et al.	Nutrients 2022;14(15):3121
287		The association between early formula and reduced risk of cow's milk allergy during the first three year of life: a Japanese cohort study	早期の粉ミルク摂取と3歳までの牛乳アレルギーのリスク減少の関連：日本でのコホート研究	Ikari K, et al.	Allergy, Asthma and Clinical Immunology 2022;18(1):71
286		Association of prepregnancy physical activity with obesity in offspring: The Japan Environment and Children's Study (JECS)	妊娠前の身体活動量と3歳児の肥満との関連	Noda M, et al.	Obesity 2022;30(9):1851-1862
285		Pregnancy outcomes after preterm premature rupture of membranes: The Japan Environment and Children's Study	早産期の前期破水の妊娠予後	Hirata K, et al.	The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research 2022;48(11):2756-2765

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
284		Gestational weight gain mediates the effects of energy intake on birth weight among singleton pregnancies in the Japan Environment and Children's Study	妊娠中のエネルギー摂取量と体重増加との出生時体重への影響	Minami M, et al.	BMC Pregnancy and Childbirth 2022;22(1):568
283		Meconium-stained amniotic fluid during labor may be a protective factor for the offspring's childhood wheezing up to 3 years of age: The Japan Environment and Children's Study	分娩時の羊水混濁と3歳までの喘鳴との関連	Murata T, et al.	European Journal of Pediatrics 2022;181(8):3153-3162
282		High maternal total cholesterol is associated with no-catch up growth in full-term SGA infants: The Japan Environment and Children's Study	正期産SGA児における妊娠中期総コレステロール高値と非キャッチアップとの関連	Kaneko K, et al.	Frontier in Endocrinology 2022;13:939366
281		Pet ownership during pregnancy and mothers' mental health conditions up to 1 year postpartum: A nationwide birth cohort - the Japan Environment and Children's Study	妊娠中のペット飼育と産後1年までの母親の精神健康：エコチル調査	Matsumura K, et al.	Social Science and Medicine 2022;309:115216
280		Association between maternal prenatal psychological distress and autism spectrum disorder among three-year-old children: The Japan Environment and Children's Study	妊婦の精神的ジストレス（不安・抑うつ）と3歳児の自閉症スペクトラム症の関連	Nishigori T, et al.	Journal of Developmental Origins of Health and Disease 2022;14(1):70-76
279		Predictors of non-response to successive waves of surveys in the Japan Environment and Children's Study during the 3-year postpartum period: a longitudinal cohort study	エコチル調査における産後3年間の継続調査での無返送の予測因子：縦断的コホート調査	Kigawa M, et al.	BMJ Open 2022;12(7):e050087
278		Male intake of omega-3 fatty acids and risk of intimate partner violence perpetration: a nationwide birth cohort - the Japan Environment and Children's Study	男性のオメガ3系脂肪酸摂取量と配偶者に対する暴力の関連：エコチル調査	Matsumura K, et al.	Epidemiology and Psychiatric Sciences 2022;31:e45
277		Depression symptoms during pregnancy and postpartum in patients with recurrent pregnancy loss and infertility: The Japan Environment and Children's Study	不育症及び体外受精と出産前後の母体の抑うつ症状との関連：エコチル調査	Otani-Matsuura A, et al.	Journal of Reproductive Immunology 2022;152:103659

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
276		Association between maternal antibiotic exposure during pregnancy and childhood obesity in the Japan Environment and Children's Study	妊娠中の母親の抗生物質使用と小児肥満との関連：エコチル調査	Sakurai K, et al.	Pediatric Obesity 2022;17(11):e12956
275		Association between maternal caffeine intake during pregnancy and child development at 6 and 12 months: the Japan Environment and Children's Study	妊娠中の母親のカフェイン摂取と生後6ヶ月/12か月の子どもの発達との関連	Nishihara S, et al.	Early Human Development 2022;171:105607
274		Gestational age, birth weight, and perinatal complications in mothers with diabetes and impaired glucose tolerance: Japan Environment and Children's Study cohort	糖尿病や耐糖能異常を持つ母親から生まれる子どもの在胎期間、出生体重と周産期合併症：エコチル調査	Yokomichi H, et al.	PLOS ONE 2022;17(6):e0269610
273	●	**Individual and mixed metal maternal blood concentrations in relation to birth size: An analysis of the Japan Environment and Children's Study (JECS)**	**妊婦の血中元素濃度と新生児の出生時の体格について**	**Takatani T, et al.**	**Environment International 2022;165:107318**
272	●	**Association between prenatal cadmium exposure and child development: the Japan Environment and Children's Study**	**胎児期のカドミウムばく露が子どもの発達に与える影響**	**Masumoto T, et al.**	**International Journal of Hygiene and Environmental Health 2022;243:113989**
271		Impact of maternal dyslipidemia on infant neurodevelopment: The Japan Environment and Children's Study	妊婦の高コレステロール血症が子どもの精神神経発達に及ぼす影響	Motoki N, et al.	Brain and Development 2022;44(8):520-530
270		Prenatal negative life events and childhood allergies: the Japan Environment and Children's Study (JECS)	妊婦のストレスイベントへのばく露と生まれた子どもの3歳時のアレルギー疾患との関連：エコチル調査より	Kojima R, et al.	International Archives of Allergy and Immunology 2022;183(10):1062-1070
269		Association of the incidence of atopic dermatitis until 3 years old with climate conditions in the first 6 months of life: Japan Environment and Children's Study (JECS)	生まれてから6ヶ月の気象条件と3歳までのアトピー性皮膚炎発症率の関連：エコチル調査	Yokomichi H, et al.	PLOS ONE 2022;17(5):e0268204
268		Effects of breastfeeding on postpartum weight change in Japanese women: the Japan Environment and Children's Study (JECS)	授乳と出産後体重変化に関する検討：エコチル調査	Yamamoto M, et al.	PLOS ONE 2022;17(5):e0268046

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
267		Maternal chronic disease and congenital anomalies of the kidney and urinary tract in offspring: A Japanese cohort study	母親の慢性疾患と子どもの先天性腎尿路異常：日本でのコホート研究	Nishiyama K, et al.	American Journal of Kidney Diseases 2022;80(5):619-628.e1
266		Maternal iodine intake and neurodevelopment of offspring: The Japan Environment and Children's Study	妊娠中のヨウ素摂取と子どもの3歳までの発達の関連	Hisada A, et al.	Nutrients 2022;14(9):1826
265		Maternal urinary cotinine concentrations during pregnancy predict infant BMI trajectory after birth: analysis of 89617 mother-infant pairs in the Japan Environment and Children's Study (JECS)	妊娠中の母親の尿中コチニン濃度は子どもの出生後BMI推移を予測する：エコチル調査89617母子ペアの解析	Hirai H, et al.	Frontiers in Endocrinology 2022;13:850784
264	●	**Association between whole blood metallic elements concentrations and gestational diabetes mellitus in Japanese women: the Japan Environment and Children's Study**	**妊婦の水銀ばく露と妊娠糖尿病との関連：子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）**	**Tatsuta N, et al.**	**Environmental Research 2022;212(Pt B):113231**
263		Tobacco exposure during pregnancy and infections in infants up to 1 year of age: The Japan Environment and Children's Study	妊娠中のたばこへのばく露と子どもの1歳までの感染症との関連：エコチル調査	Hashimoto K, et al.	Journal of Epidemiology 2023;33(10):489-497
262		The association between maternal shaking behavior and inappropriate infant parenting: The Japan Environment and Children's Study	母親の乳児への揺さぶり行為と不適切な養育行動との関連	Sakakihara A, et al.	Frontiers in Public Health 2022;10:848321
261		Neurological development in 36-month-old children conceived via assisted reproductive technology: The Japan Environment and Children's Study	生殖補助医療により生まれた子どもの3歳時点の神経発達	Miyake T, et al.	Reproductive Medicine and Biology 2022;21(1):e12457
260		Association of physical activity and sleep habits during pregnancy with autistic spectrum disorder in 3-year-old infants	妊娠前・妊娠中の身体活動量・睡眠と3歳児の自閉症との関連	Nakahara K, et al.	Communications Medicine 2022;2:35
259		Preconception dietary inflammatory index and hypertension disorders of pregnancy: The Japan Environment and Children's Study	妊娠前の食事性炎症指数と妊娠高血圧症候群の発症の関連：エコチル調査	Kyozuka H, et al.	Pregnancy Hypertension 2022;28:114-120
258	●	**Association of maternal heavy metal exposure during pregnancy with isolated cleft lip and palate in offspring: Japan Environment and Children's Study (JECS) cohort study**	**妊婦の血中重金属濃度と生まれた子どもの口唇口蓋裂との関連について：エコチル調査**	**Takeuchi M, et al.**	**PLOS ONE 2022;17(3):e0265648**

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
257	●	**Prenatal occupational disinfectant exposure and childhood allergies: the Japan Environment and Children's Study**	**妊婦の職業上の医療用消毒殺菌剤使用と生まれた子どもの3歳時のアレルギー疾患との関連について**	**Kojima R, et al.**	**Occupational and Environmental Medicine 2022;79(8):521-526**
256		Effects of screen viewing time on sleep duration and bedtime in children aged 1 and 3 years: Japan Environment and Children's Study	1歳と3歳の子どものスクリーン視聴時間が睡眠時間と就寝時間に及ぼす影響	Nishioka T, et al.	International Journal of Environmental Research and Public Health 2022;19(7):3914
255		Long-term outcomes of children with neonatal transfer: The Japan Environment and Children's Study	新生児搬送を要した子どもの3歳までの発達	Hirata K, et al.	European Journal of Pediatrics 2022;181(6):2501-2511
254		Association of maternal hemoglobin levels during pregnancy with sleep and developmental problems in 1-year-old infants: A cohort study	妊娠中の母親のヘモグロビン濃度と1歳児の睡眠・発達の関連	Nakahara K, et al.	Health Science Reports 2022;5(2):e552
253		Baseline complete blood count and chemistry panel profile from the Japan Environment and Children's Study (JECS)	エコチル調査における生化学検査のベースラインプロファイル	Taniguchi Y, et al.	International Journal of Environmental Research and Public Health 2022;19(6):3277
252		Maternal BMI and allergy in children until 3 years of age (JECS)	母親の妊娠前BMIと子どもの3歳までのアレルギー発症の関係：エコチル調査	Hayashi D, et al.	The Journal of Allergy and Clinical Immunology. Global 2022;1(2):43-50
251		Repeated maternal non-responsiveness to baby's crying during postpartum and infant neuropsychological development: The Japan Environment and Children's Study	泣いている子どもに対する産後の母親の度重なる無反応と乳幼児期の神経心理学的発達との関連	Matsuki T, et al.	Child Abuse and Neglect 2022;127:105581
250		Lack of catch-up in weight gain may intermediate between pregnancies with hyperemesis gravidarum and reduced fetal growth: the Japan Environment and Children's Study	妊娠悪阻と胎児発育不良との関連は、妊娠中後期に体重増加不良を補完できないことが原因かもしれない：エコチル調査	Morisaki N, et al.	BMC Pregnancy and Childbirth 2022;22(1):199
249		Maternal pain during pregnancy dose-dependently predicts postpartum depression: The Japan Environment and Children's Study	妊娠中の痛みは用量依存的に母親の産後うつを予測する	Shigematsu-Locatelli M, et al.	Journal of Affective Disorders 2022;303:346-352

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
248	●	**Impact of ready-meal consumption during pregnancy on birth outcomes: The Japan Environment and Children's Study**	**妊娠中における調理済み食品の摂取頻度と妊娠帰結との関連**	**Tamada H, et al.**	**Nutrients 2022;14(4):895**
247		Association of preconception dysmenorrhea with obstetric complications: the Japan Environment and Children's Study	妊娠前の月経困難症と産科合併症との関連	Murata T, et al.	BMC Pregnancy and Childbirth 2022;22(1):125
246		Neurodevelopmental trajectories in children with cleft lip and palate: A longitudinal study based on the Japan Environment and Children's Study	口唇口蓋裂児の幼児期の発達：エコチル調査による縦断研究	Tsuchiya S, et al.	European Journal of Oral Science 2022;130(2):e12857
245		Severity of low pre-pregnancy body mass index and perinatal outcomes: The Japan Environment and Children's Study	母親の妊娠前の低 BMI と早産、低出生体重児、Small-for-gestational age との関連	Nakanishi K, et al.	BMC Pregnancy and Childbirth 2022;22(1):121
244		Maternal folic acid supplement use / dietary folate intake from preconception to early pregnancy and neurodevelopment in 2-year-old offspring: The Japan Environment and Children's Study	妊婦の葉酸サプリメント使用及び食事からの葉酸摂取と２歳児の神経発達	Suzuki T, et al.	British Journal of Nutrition 2022;128(12):2480-2489
243		High incidence of atopic dermatitis among children whose fathers work in primary industry: The Japan Environment and Children's Study (JECS)	第一次産業に従事する父親を持つ子どものアトピー性皮膚炎発症率に関する研究：エコチル調査	Yokomichi H, et al.	International Journal of Environmental Research and Public Health 2022;19(3):1761
242	●	**Longitudinal analyses of maternal and cord blood manganese levels and neurodevelopment in children up to 3 years of age: The Japan Environment and Children's Study (JECS)**	**妊婦および臍帯の血中マンガン濃度と生まれた子どもの神経発達との関連について**	**Yamamoto M, et al.**	**Environment International 2022;161:107126**
241		Association between screen time exposure in children at 1 year of age and autism spectrum disorder at 3 years of age: The Japan Environment and Children's Study	１歳時のスクリーンタイムと３歳時の自閉スペクトラム症との関連	Kushima M, et al.	JAMA Pediatrics 2022;176(4):384-391
240	●	**Association between maternal insecticide use and otitis media in one-year-old children in the Japan Environment and Children's Study**	**妊婦の殺虫剤使用と生まれた子どもの１歳までの中耳炎との関連について**	**Utsunomiya T, et al.**	**Scientific Reports 2022;12(1):1365**

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
239		Association between a single mother family and childhood undervaccination, and mediating effect of household income: A nationwide, prospective birth cohort from the Japan Environment and Children's Study (JECS)	母子家庭と小児期の不十分な予防接種との関連性、および世帯収入の媒介効果：エコチル調査	Kuroda H, et al.	BMC Public Health 2022;22(1):117
238		Early developmental signs in children with autism spectrum disorder: results from the Japan Environment and Children's Study	乳幼児期の子どもに見られる自閉症スペクトラム障害の早期徴候	Shimomura H, et al.	Children 2022;9(1):90
237	●	**Effects of maternal exposure to lead on secondary sex ratio in Japan: The Japan Environment and Children's Study**	**妊婦の鉛ばく露と生まれた子どもの性比との関連について：子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）**	**Tatsuta N, et al.**	**Science of the Total Environment 2022;817:152726**
236		Causal model of the association of social support during pregnancy with a perinatal and postpartum depressive state: A nationwide birth cohort-the Japan Environment and Children's Study	妊娠中のソーシャルサポートと周産期および産後抑うつ状態の関連について：エコチル調査	Matsumura K, et al.	Journal of Affective Disorders 2022;300:540-550
235		Change in cholesterol level during pregnancy and risk of postpartum depressive symptoms: the Japan Environment and Children's Study (JECS)	妊娠期のコレステロール値の変化と産後うつ病のリスク予測:JECS 研究	Mutsuda N, et al.	Acta Psychiatrica Scandinavica 2022;145(3):268-277
234		Decreased head circumference at birth associated with maternal tobacco smoke exposure during pregnancy on the Japanese prospective birth cohort study	妊娠中の母親の喫煙と出生児の頭囲減少との関係	Shiohama T, et al.	Scientific Reports 2021;11(1):18949
233		Dose-response relationships between maternal urinary cotinine and placental weight and ratio of placental weight to birth weight: the Japan Environment and Children's Study	母体の尿中コチニンと胎盤重量および胎盤重量/出生体重比との用量反応関係 - 子どもの健康と環境に関する全国調査 -	Yamasaki K, et al.	Environmental Research 2022;205:112470
232		Urinary 8-hydroxy-2′-deoxyguanosine levels and small-for-gestational age infants: a prospective cohort study from the Japan Environment and Children's Study	妊娠中の尿中 8-hydroxy-2′-deoxyguanosine 濃度と small-for-gestational age 児出生との関連	Murata T, et al.	BMJ Open 2021;11(12):e054156

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
231		Prenatal folic acid supplementation and autism spectrum disorder in 3-year-old offspring: The Japan Environment and Children's Study	妊婦の葉酸サプリメント摂取と3歳児の自閉症スペクトラム症の関連	Nishigori H, et al.	The Journal of Maternal-Fetal and Neonatal Medicine 2022;35(25):8919-8928
230		Association between pre-pregnancy body mass index and gestational weight gain and perinatal outcomes in pregnant women diagnosed with gestational diabetes mellitus: The Japan Environment and Children's Study	妊娠糖尿病における妊娠前BMIと妊娠中の体重増加と周産期アウトカムの関係	Saito Y, et al.	Journal of Diabetes Investigation 2022;13(5):889-899
229		25-Hydroxyvitamin D levels among 2-year-old children: Findings from the Japan Environment and Children's Study (JECS)	2歳児の血清25ヒドロキシビタミンD値の実態：エコチル調査	Yang L, et al.	BMC Pediatrics 2021;21(1):539
228		Persistent eczema leads to both impaired growth and food allergy: JECS birth cohort	持続する湿疹は成長障害だけではなく食物アレルギーとも関連する	Yamamoto-Hanada K, et al.	PLOS ONE 2021;16(12):e0260447
227		Influence of maternal active and secondhand smoking during pregnancy on childhood obesity at 3 years of age: A nested case-control study from the Japan Environment and Children's Study (JECS)	母親の妊娠中の喫煙および受動喫煙が、子どもの3歳時の肥満に及ぼす影響：ネステッドケースコントロールスタディー	Horiuchi S, et al.	International Journal of Environmental Research and Public Health 2021;18(23):12506
226		Exogenous oxytocin used to induce labor has no long-term adverse effect on maternal-infant bonding: Findings from the Japan Environment and Children's Study	外因性オキシトシンのボンディング（対児愛着）への影響	Kunimi Y, et al.	Journal of Affective Disorders 2022;299:37-44
225	●	**Early life exposure to indoor air pollutants and the risk of neurodevelopmental delays: the Japan Environment and Children's Study**	**幼児期の室内空気汚染物質ばく露と精神神経発達との関連：エコチル調査**	**Madaniyazi L, et al.**	**Environment International 2022;158:107004**
224		Relations of mold, stove, and fragrance products on childhood wheezing and asthma: A prospective cohort study from the Japan Environment and Children's Study	住環境（カビの発生、暖房、芳香剤使用）と子どもの喘鳴・喘息発症との関連	Saijo Y, et al.	Indoor Air 2022;32(1):e12931
223		Breastfeeding and risk of febrile seizures in the first three years of life: The Japan Environment and Children's Study	3歳までの熱性けいれん発症リスクと母乳栄養期間の関連：エコチル調査より	Mitsuda N, et al.	Brain and Development 2022;44(3):203-209

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
222	●	**Association between maternal exposure to chemicals during pregnancy and the risk of foetal death: The Japan Environment and Children's Study**	**妊婦の職業上の化学物質ばく露と胎児死亡との関連について：エコチル調査**	**Ooka T, et al.**	**International Journal of Environmental Research and Public Health 2021;18(22):11748**
221		Relationship between physical activity and physical and mental health status in pregnant women: a prospective cohort study of the Japan Environment and Children's Study	妊婦における身体活動と身体的・精神的健康の関連：エコチル調査	Yamada Y, et al.	International Journal of Environmental Research and Public Health 2021;18(21):11373
220		Age at menarche and risk of adverse obstetric outcomes during the first childbirth in Japan: The Japan Environment and Children's Study	初産婦における初経年齢と妊娠帰結の関連	Kanno A, et al.	Journal of Obstetrics and Gynecology Research 2022;48(1):103-112
219		Association of glycated hemoglobin at an early stage of pregnancy with the risk of gestational diabetes mellitus among non-diabetic women in Japan: The Japan Environment and Children's Study (JECS)	非糖尿病日本人における、妊娠初期の血清糖化ヘモグロビン値と妊娠糖尿病との関係	Sekine T, et al.	Journal of Diabetes Investigation 2022;13(4):687-695
218		Elective caesarean delivery at term and its effects on respiratory distress at birth in Japan: The Japan Environment and Children's Study	選択的帝王切開による満期出生と出生時呼吸障害との関係：子どもの健康と環境に関する全国調査	Horiuchi S, et al.	Health Science Reports 2021;4(4):e421
217		Effects of early-life exposure to dust mite allergen and endotoxin on the development of asthma and wheezing: The Japan Environment and Children's Study	幼少期におけるダニアレルゲンとエンドトキシンへのばく露が喘息及び喘鳴の発症に及ぼす影響	Hasunuma H, et al.	Clinical and Translational Allergy 2021;11(8):e12071
216		Insufficient maternal gestational weight gain and infant neurodevelopment at 12 months of age: The Japan Environmental and Children's Study	妊娠中の母体の体重増加と出生児の精神神経発達との関連	Motoki N, et al.	European Journal of Pediatrics 2022;181(3):921-931
215		Association between household income and allergy development in children: the Japan Environment and Children's Study	妊婦の世帯収入と生まれた子どもの3歳時のアレルギー疾患との関連：エコチル調査より	Kojima R, et al.	International Archives of Allergy and Immunology 2022;183(2):201-209

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
214	●	**Association between the concentrations of metallic elements in maternal blood during pregnancy and prevalence of abdominal congenital malformations: The Japan Environment and Children's Study**	**妊婦の重金属ばく露（Pb、Cd、Se、Mn、Hg）と生まれた子どもの先天性腹部形態異常との関連**	**Miyashita C, et al.**	**International Journal of Environmental Research and Public Health 2021;18(19):10103**
213		Prospective association of air purifier use during pregnancy with the neurodevelopment of toddlers in the Japan Environment and Children's Study	妊娠期における空気清浄機の使用と生まれた子どもの精神神経発達との関連：エコチル調査	Matsumura K, et al.	Scientific Reports 2021;11(1):19454
212		Gestational weight gain growth charts adapted to Japanese pregnancies using a Bayesian approach in a longitudinal study: The Japan Environment and Children's Study	エコチル調査の縦断データを基にベイズ推定法を用いて作成した「妊婦の体重増加指導の目安」に準じた妊娠体重増加曲線	Morisaki N, et al.	Journal of Epidemiology 2023;33(5):217-226
211		Association of cesarean birth with prevalence of functional constipation in toddlers at 3 years of age: results from the Japan Environment and Children's Study (JECS)	分娩方法と生まれた子どもの3歳時点の機能性便秘との関連：エコチル調査	Nakamura M, et al.	BMC Pediatrics 2021;21(1):419
210		A prospective cohort study of the association between the Apgar score and developmental status at 3 years of age: the Japan Environment and Children's Study (JECS)	アプガースコアと3歳時点での発達との関連について	Tsuchida T, et al.	European Journal of Pediatrics 2022;181(2):661-669
209		Hypertensive disorders of pregnancy and risk of allergic conditions in children: Findings from the Japan Environment and Children's Study (JECS)	妊娠中に発症した高血圧と生まれた子どもの3歳時点のアレルギー疾患発症との関連	Yang L, et al.	The World Allergy Organization Journal 2021;14(9):100581
208		Association between mothers' fish intake during pregnancy and infants' sleep duration: a nationwide longitudinal study-The Japan Environment and Children's Study (JECS)	妊婦の魚類摂取と生まれた子どもの1歳時点の睡眠時間との関連	Sugimori N, et al.	European Journal of Nutrition 2022;61(2):679-686
207		Gestational body weight gain and risk of low birth weight or macrosomia in women of Japan: a nationwide cohort study	日本人女性における妊娠中の体重増加量と低出生体重児、巨大児との関連	Uchinuma H, et al.	International Journal of Obesity 2021;45(12):2666-2674
206	●	**Mother's iodine exposure and infants' hypothyroidism: the Japan Environment and Children's Study (JECS)**	**母親のヨードばく露と生まれた子どもの甲状腺機能低下症**	**Yokomichi H, et al.**	**Endocrine Journal 2022;69(1):9-21**

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
205		Physical growth and neurodevelopment during the first year of life: A cohort study of the Japan Environment and Children's Study	生後１年間の身体発育と神経発達の関連：エコチル調査によるコホート研究	Sanefuji M, et al.	BMC Pediatrics 2021;21(1):360
204		Association of maternal total cholesterol with SGA or LGA birth at term: The Japan Environment and Children's Study	妊娠中期の総コレステロール値と在胎不当過小児(SGA)・在胎不当過大児(LGA)との関連	Kaneko K, et al.	The Journal of Clinical Endocrinology and Metabolism 2022;107(1):e118-e129
203		Effect estimate of time-varying social support and trust on the physical and mental health of mothers at 2.5 years postpartum: The Japan Environment and Children's Study (JECS)	経時的に変化するソーシャルサポートおよび地域住民や人に対する信頼感が産後2.5年時の母親の身体的および精神的健康に与える効果の推定：エコチル調査	Matsumura K, et al.	Journal of Epidemiology 2023;33(4):177-185
202		Serum 25-hydroxyvitamin D concentrations and atopic dermatitis in early childhood: Findings from the Japan Environment and Children's Study	２歳時点の血清中ビタミンD 値(25(OH)D 測定値)と３歳時点のアトピー性皮膚炎発症との関連	Yang L, et al.	Nutrients 2021;13(8):2761
201		Maternal psychological distress, education, household income, and congenital heart defects: a prospective cohort study from the Japan Environment and Children's Study	妊婦の心理的苦痛、教育歴、世帯収入と生まれた子どもの先天性心疾患との関連	Saijo Y, et al.	BMC Pregnancy and Childbirth 2021;21(1):544
200		Breast feeding and infant development in a cohort with sibling pair analysis: the Japan Environment and Children's Study	母乳栄養と乳児の発達：エコチル調査のコホートを用いたきょうだい児解析	Sanefuji M, et al.	BMJ Open 2021;11(8):e043202
199		Association between mode of delivery and postpartum depression: The Japan Environment and Children's Study (JECS)	分娩方法と産後うつ状態との関連：子どもの健康と環境に関する全国調査	Baba S, et al.	Journal of Epidemiology 2023;33(5):209-216
198		Maternal blood count parameters of chronic inflammation by gestational age and their associations with risk of preterm delivery in the Japan Environment and Children's Study	妊娠期の慢性炎症母体血中パラメータと早産リスクとの関連	Morisaki N, et al.	Scientific Reports 2021;11(1):15522
197		Relationship between delivery with anesthesia and postpartum depression: The Japan Environment and Children's Study (JECS)	無痛分娩と産後うつとの関連	Suzumori N, et al.	BMC Pregnancy and Childbirth 2021;21(1):522
196		Association between preterm birth and maternal allergy considering IgE level	血清総 IgE 値の違いによる母親のアレルギー疾患と早産の関連	Kojima R, et al.	Pediatric International 2021;63(9):1026-1032

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
195	●	**Infantile neuroblastoma and maternal occupational exposure to medical agents**	**妊婦の職業上の医療用物質の使用と出生児の乳児期の神経芽腫との関連**	**Koga Y, et al.**	**Pediatric Research 2021; Epub ahead of print**
194	●	**Association of prenatal exposure to cadmium with neurodevelopment in children at 2 years of age: The Japan Environment and Children's Study**	**胎児期のカドミウムばく露と 2 歳時点の神経発達との関連：子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）について**	**Ma C, et al.**	**Environment International 2021;156:106762**
193		Association between early life child development and family dog ownership: A prospective birth cohort study of the Japan Environment and Children's Study	家庭での犬の飼育と 3 歳時点の子どもの発達との関連	Minatoya M, et al.	International Journal of Environmental Research and Public Health 2021;18(13):7082
192		Association of the incidence of atopic dermatitis until 3 years old with birth month and with sunshine duration and humidity in the first 6 months of life: Japan Environment and Children's Study	生まれ月・出生地の日照時間・湿度と生後 6 ヶ月から 3 歳までのアトピー性皮膚炎発症率との関連について：エコチル調査	Yokomichi H, et al.	BMJ Open 2021;11(7):e047226
191	●	**Associations between prenatal exposure to volatile organic compounds and neurodevelopment in 12-month-old children: The Japan Environment and Children's Study (JECS)**	**妊婦の揮発性有機化合物へのばく露と生まれた子どもの 1 歳時の精神運動発達との関連について：子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）**	**Nakaoka H, et al.**	**Science of the Total Environment 2021;794:148643**
190		Prospective association between maternal bonding disorders and child toothbrushing frequency: A cross-sectional study of the Japan Environment and Children's Study	母親の対児愛着と子どもの歯磨き習慣の関連について	Tsuchiya S, et al.	International Journal of Paediatric Dentistry 2022;32(1):56-65
189		Influence of maternal postpartum depression on children's toothbrushing frequency	母親の産後うつと子どもの歯磨き習慣の関連について	Tsuchiya S, et al.	Community Dentistry and Oral Epidemiology 2022;50(4):300-310
188		Omega-3 fatty acid intake during pregnancy and risk of infant maltreatment: a nationwide birth cohort - the Japan Environment and Children's Study	妊娠中のオメガ 3 系脂肪酸摂取量と産後の母親による不適切養育行動との関連：エコチル調査	Matsumura K, et al.	Psychological Medicine 2023;53(3):995-1004

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
187		Association between maternal ritodrine hydrochloride administration during pregnancy and childhood wheezing up to three years of age: The Japan Environment and Children's Study	妊娠中の塩酸リトドリン投与と生まれた子どもの3歳時点の喘鳴との関連	Murata T, et al.	Pediatric Allergy and Immunology 2021;32(7):1455-1463
186	●	**Association between gestational hair dye use and allergies at 3 years old: the Japan Environment and Children's Study**	**妊婦の染毛剤使用と生まれた子どもの3歳時のアレルギー疾患との関連：エコチル調査より**	**Kojima R, et al.**	**Environmental Research 2021;201:111530**
185		Exposures associated with the onset of Kawasaki disease in infancy from the Japan Environment and Children's Study	乳児期の川崎病発症に関するばく露要因について―エコチル調査―	Fukuda S, et al.	Scientific Reports 2021;11(1):13309
184		Maternal exposure to smoking and infant's wheeze and asthma: Japan Environment and Children's Study	妊婦の喫煙と生まれた子どもの喘鳴および喘息発症との関連：子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)	Wada T, et al.	Allergology International 2021;70(4):445-451
183		Feelings about pregnancy and mother-infant bonding as predictors of persistent psychological distress in the perinatal period: the Japan Environment and Children's Study.	出産前後の心理的ストレス持続の予測因子としての妊娠に対する気持ちと産後の対児愛着について：子どもの健康と環境に関する全国調査（JECS）	Tokuda N, et al.	Journal of Psychiatric Research 2021;140:132-140
182		Paternal childcare at 6 months and risk of maternal psychological distress at 1 year after delivery: The Japan Environment and Children's Study (JECS)	父親の育児行動と母親の心理的苦痛の低減との関連：子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）より	Kasamatsu H, et al.	European Psychiatry 2021;64(1):e38
181		Infantile hemangioma and the risk factors in a Japanese population: A nationwide longitudinal study-The Japan Environment and Children's Study (JECS)	日本人における乳児血管腫の有病率とリスク因子に関する検討：子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）より	Mizawa M, et al.	Journal of Investigative Dermatology 2021;141(11):2745-2748.e2
180		Association of maternal sleep before and during pregnancy with sleep and developmental problems in 1-year-old infants	妊娠前及び妊娠中の母親の睡眠と、生まれた子どもの1歳時点の睡眠及び発達との関連	Nakahara K, et al.	Scientific Reports 2021;11(1):11834
179		Prenatal alcohol exposure and adverse fetal growth restriction: findings from the Japan Environment and Children's Study	妊婦のアルコール摂取量と胎児発育との関連：エコチル調査からの知見	Cho K, et al.	Pediatric Research 2022;92(1):291-298
178		Estimating monthly concentrations of ambient key air pollutants in Japan during 2010-2015 for a national-scale birth cohort	エコチル調査における大気汚染物質濃度推計(2010-2015)	Araki S, et al.	Environmental Pollution 2021;284:117483

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
177		Urinary metabolites of organophosphate pesticides among pregnant women participating in the Japan Environment and Children's Study (JECS)	エコチル調査における妊婦尿中ジアルキルリン酸濃度及びその予測因子	Nishihama Y, et al.	International Journal of Environmental Research and Public Health 2021;18(11):5929
176	●	**Association between house renovation during pregnancy and wheezing in the first year of life: The Japan Environment and Children's Study**	**妊娠中の自宅の増改築と生まれた子どもの生後１歳までの喘鳴・反復性喘鳴の発症頻度との関連**	**Fujino T, et al.**	**Allergology International 2021;70(4):439-444**
175		Association between maternal smoking history and congenital anomalies in children: results from the Japan Environment and Children's Study	妊婦の喫煙歴と出生児の先天性形態異常の関連：エコチル調査より	Tsuchida A, et al.	Congenital Anomalies 2021;61(5):159-168
174		Lack of concern about body image and health during pregnancy linked to excessive gestational weight gain and small-for-gestational-age deliveries: the Japan Environment and Children's Study	ボディーイメージ及び健康への無関心と妊婦の体重増加及び出生児の SGA（small-for-gestational-age）との関連：子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）	J-P NA, et al.	BMC Pregnancy and Childbirth 2021;21(1):396
173		Adverse obstetric outcomes in early-diagnosed gestational diabetes mellitus: The Japan Environment and Children Study	妊娠初期に診断された妊娠糖尿病妊婦の産科合併症について	Kyozuka H, et al.	Journal of Diabetes Investigation 2021;12(11):2071-2079
172		Teenage pregnancy as a risk factor for placental abruption: Findings from the prospective Japan Environment and Children's Study	10 代の妊娠と常位胎盤早期剥離の関連について	Kyozuka H, et al.	PLOS ONE 2021;16(5):e0251428
171		Immunoglobulin E levels and pregnancy-induced hypertension: Japan Environment and Children's Study	妊娠初期の血中総 IgE が妊娠高血圧症候群に与える影響について	Kyozuka H, et al.	Scientifc Reports 2021;11(1):8664
170		Study design and participants' profile in the Sub-cohort study in the Japan Environment and Children's Study (JECS)	子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）における詳細調査の調査デザインと対象者の基本属性	Sekiyama M, et al.	Journal of Epidemiology 2022;32(5):228-236
169		Association between interpregnancy interval and risk of preterm birth and its modification of folate intake: the Japan Environment and Children's Study	妊娠間隔と早産との関連について	Tanigawa K, et al.	Journal of Epidemiology 2023;33(3):113-119
168		Birth month and infant gross motor development: Results from the Japan Environment and Children's Study (JECS)	子どもの出生月と粗大運動発達の関連について	Yasumitsu-Lovell K, et al.	PLOS ONE 2021;16(5):e0251581

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
167		Effect of preconception selenium intake on the risk for gestational diabetes: The Japan Environment and Children’s Study	妊娠前の食事からのセレニウム摂取が妊娠糖尿病に与える影響について	Kyozuka H, et al.	Antioxidants 2021;10(4):568
166		Association between the serum insulin-like growth factor-1 concentration in the first trimester of pregnancy and postpartum depression	妊娠初期における血清インスリン様成長因子-1の濃度と産後うつとの関連	Adachi S, et al.	Psychiatry and Clinical Neurosciences 2021;75(5):159-165
165		Indoor air quality of 5,000 households and its determinants. Part A: Particulate matter (PM2.5 and PM10-2.5) concentrations in the Japan Environment and Children’s Study	エコチル調査詳細調査における室内・屋内PM2.5及びPM10濃度とその寄与因子	Nishihama Y, et al.	Environmental Research 2021;198:111196
164	●	**House dust avoidance during pregnancy and subsequent infant development: The Japan Environment and Children’s Study**	**妊娠中のハウスダスト忌避行動と子どもの精神神経発達との関連について：エコチル調査**	**Matsumura K, et al.**	**International Journal of Environmental Research and Public Health 2021;18(8):4277**
163		Parental educational level and childhood wheezing and asthma: a prospective cohort study from the Japan Environment and Children’s Study	社会経済要因・住環境と子どもの喘息発症との関連	Saijo Y, et al.	PLOS ONE 2021;16(4):e0250255
162		Influence of physical activity before and during pregnancy on infant’s sleep and neurodevelopment at 1-year-old	妊娠前および妊娠中の母体活動量の、生まれた子どもの1歳時点の睡眠・発達における影響	Nakahara K, et al.	Scientific Reports 2021;11(1):8099
161		Maternal sleep duration and neonatal birth weight: the Japan Environment and Children’s Study	妊婦の睡眠時間と新生児の出生体重の関連	Murata T, et al.	BMC Pregnancy and Childbirth 2021;21(1):295
160		Indoor air quality of 5,000 households and its determinants. Part B: Volatile organic compounds and inorganic gaseous pollutants in the Japan Environment and Children’s Study	エコチル調査詳細調査参加者の室内空気測定パートB：揮発性有機化合物とガス状汚染物質	Jung CR, et al.	Environmental Research 2021;197:111135
159		Pre-pregnancy anti-inflammatory diet in pregnant women with endometriosis: The Japan Environment and Children’s Study	子宮内膜症合併妊婦に対する食生活指導について	Kyozuka H, et al.	Nutrition 2021;85:111129
158		Factors influencing exclusive breastfeeding rates until 6 months postpartum: The Japan Environment and Children’s Study	出産後6か月間までの母乳栄養育児の実施率に影響を与える要因	Inano H, et al.	Scientific Reports 2021;11(1):6841

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
157		Preterm deliveries in women with uterine myomas: The Japan Environment and Children’s Study	子宮筋腫を有する妊婦における早産について	Murata T, et al.	International Journal of Environmental Research and Public Health 2021;18(5):2246
156		Effectiveness of influenza vaccination in infants and toddlers with and without prior infection history: The Japan Environment and Children’s Study	インフルエンザ感染既往のある小児に対するインフルエンザワクチンの効果：エコチル調査	Yokomichi H, et al.	Vaccine 2021;39(13):1800-1804
155		Maternal pre-pregnancy body mass index and foetal acidosis in vaginal and caesarean deliveries: The Japan Environment and Children’s Study	母体妊娠前 BMI と胎児アシドーシスの関連	Murata T, et al.	Scientific Reports 2021;11(1):4350
154		Association of hemoglobin and hematocrit levels during pregnancy and maternal dietary iron intake with allergic diseases in children: The Japan Environment and Children’s Study (JECS)	妊娠中母親のヘモグロビン、ヘマトクリット及び食事による鉄摂取と子どものアレルギーの関連	Yang L, et al.	Nutrients 2021;13(3):810
153		The prevalence of psychological distress during pregnancy in Miyagi Prefecture for three years after the Great East Japan Earthquake	東日本大震災後 3 年間の宮城県における妊娠女性の精神的ジストレス経年変化	Tanoue K, et al.	Environmental Health and Preventive Medicine 2021;26(1):27
152		Better maternal quality of life in pregnancy yields better offspring respiratory outcomes: a birth cohort	母親の妊娠中のＱＯＬが生まれてくる子どもの呼吸器関連のアウトカムをより良くする	Yamamoto-Hanada K, et al.	Annals of Allergy, Asthma and Immunology 2021;126(6),713-721.e1
151		Influence of infants’ feeding patterns and duration on mothers’ postpartum depression: A nationwide birth cohort — The Japan Environment and Children’s Study (JECS)	児への栄養方法とその期間が産後うつに与える影響：エコチル調査のデータより	Shimao M, et al.	Journal of Affective Disorders 2021;285:152-159
150		Gestational weight gain and risk factors for postpartum depression symptoms from the Japan Environment and Children’s Study: a prospective cohort study	妊娠中の体重増加と産後うつリスクとの関連	Yamaguchi A, et al.	Journal of Affective Disorder 2021;283:223-228
149		Association between maternal vegetable intake during pregnancy and allergy in offspring: Japan Environment and Children’s Study	妊娠中の野菜摂取と一歳時点における児のアレルギー発症との関連についての研究	Ogawa K, et al.	PLOS ONE 2021;16(1):e0245782

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
148		Hypertensive disorders of pregnancy in relation to coffee and tea consumption: The Japan Environment and Children’s Study	エコチル調査を用いたコーヒー・茶類摂取と妊娠高血圧症候群の関連性の検討	Kawanishi Y, et al.	Nutrients 2021;13(2):343
147		The association between maternal employment status during pregnancy and risk of depressive symptomatology 1 month after childbirth: The Japan Environment and Children’s Study	妊娠中の母親の雇用形態と産後1か月時の抑うつ症状との関連：子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)	Aochi Y, et al.	Journal of Epidemiology and Community Health 2021;75(6): 531-539
146		Social support, social cohesion and pain during pregnancy: The Japan Environment and Children’s Study	ソーシャルサポート、地域のつながりと妊娠中の痛み	Yamada K, et al.	European Journal of Pain 2021;25(4):872-885
145		Lower respiratory tract infections and orofacial clefts: a prospective cohort study from the Japan Environment and Children’s Study	口唇口蓋裂と下気道感染症の関連の研究	Sato Y, et al.	Journal of Epidemiology 2022;32(6):270-276
144		Impact of preconception sodium intake on hypertensive disorders of pregnancy: The Japan Environment and Children’s Study	妊娠前ナトリウム摂取と妊娠高血圧症候群の関連について	Kyozuka H, et al.	Pregnancy Hypertension 2020;23:66-72
143	●	**Exposure to heavy metal modifies optimal gestational weight gain: a large nationally representative cohort of the Japan Environment and Children’s Study**	**妊娠中の望ましい体重増加量とその決定に与える重金属ばく露の影響**	**Jung CR, et al.**	**Environment International 2021;146:106276**
142		Gestational weight gain and foetal acidosis in vaginal and caesarean deliveries: The Japan Environment and Children’s Study	妊娠中の体重増加と胎児アシドーシスの関連	Murata T, et al.	Scientific Reports 2020;10(1):20389
141		Impact of sleep duration during pregnancy on the risk of gestational diabetes in the Japan Environmental and Children’s Study (JECS)	「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」における、妊娠中の睡眠時間と妊娠糖尿病発症リスクの関連について	Myoga M, et al.	BMC Pregnancy and Childbirth 2019;19(1):483
140		Maternal alcohol consumption and risk of offspring with congenital malformation: The Japan Environment and Children’s Study	妊娠中の母体の飲酒と先天性形態異常の発症について	Kurita H, et al.	Pediatric Research 2021;90(2):479-486
139		Antenatal pain, intimate partner violence, and maternal bonding disorder: data from the Japan environment and children’s study	妊娠中の痛み、パートナーからの暴力と対児愛着障害の関連について	Yamada K, et al.	Pain 2021;162(3):749-759

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
138		Soy consumption and incidence of gestational diabetes mellitus: the Japan Environment and Children's Study	大豆摂取と妊娠糖尿病の発症との関連：エコチル調査	Dong JY, et al.	European Journal of Nutrition 2021;60(2):897-904
137		Dietary inflammatory index during pregnancy and the risk of intrapartum fetal asphyxia: The Japan Environment and Children's Study	妊娠中の向炎症食と分娩時胎児アシドーシスの関連について　エコチル調査	Kyozuka H, et al.	Nutrients 2020;12(11):3482
136		Risk of postpartum depression and very early child mistreatment among mothers reporting higher autistic traits: Evidence from the Japan Environment and Children's Study	自閉傾向が高い妊婦における産後鬱および極早期養育過誤のリスク：エコチル調査からの結果	Hosozawa M, et al.	Journal of Affective Disorders 2021;280(Pt A):11-16
135	●	**Association of prenatal maternal blood lead levels with birth outcomes in the Japan Environment and Children's Study (JECS): a nationwide birth cohort study**	**妊娠中の血中鉛濃度と出生児体格との関連について：子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）**	**Goto Y, et al.**	**International Journal of Epidemiology 2021;50(1):156-164**
134		Antenatal and postnatal association of maternal bonding and mental health in Fukushima after the Great East Japan Earthquake of 2011: the Japan Environment and Children's Study (JECS)	東日本大震災後の福島における母親の妊娠期から産後までのボンディングとメンタルヘルスの関連：子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）	Kuroda Y, et al.	Journal of Affective Disorders 2021;278:244-251
133		Allergy and immunology in young children of Japan: the JECS national birth cohort	JECS に参加している小児における 3 歳までのアレルギー免疫について	Yamamoto-Hanada K, et al.	The World Allergy Organization Journal 2020;13(11):100479
132		Possible association between early formula and reduced risk of cow's milk allergy: the Japan Environment and Children's Study	早期の粉ミルク摂取が牛乳アレルギーのリスク減少と関連する可能性	Tezuka J, et al.	Clinical and Experimental Allergy 2021;51(1):99-107
131		Differences in rate and medical indication of Caesarean section between Germany and Japan	ドイツと日本における帝王切開の医療介入理由の比較	Fröhlich M, et al.	Pediatrics International 2020;62(9):1086-1093
130		Association between maternal hemoglobin concentration and placental weight to birthweight ratio: the Japan Environment and Children's Study (JECS)	妊娠初期のヘモグロビン値が胎盤重量や胎盤重量/出生体重比に与える影響について-子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）より-	Mitsuda N, et al.	Placenta 2020;101:132-138

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
129	●	**Association of blood cadmium levels in pregnant women with infant birth size and small for gestational age infants: The Japan Environment and Children's study**	**妊婦の血中カドミウム濃度と出生児の体格およびSGA（small for gestational age）との関連：エコチル調査より**	**Inadera H, et al.**	**Environmental Research 2020;191:110007**
128		Maternal total energy, macronutrient and vitamin intakes during pregnancy associated with the offspring's birth size in the Japan Environment and Children's Study	エコチル調査における妊娠期の母親のエネルギー、主要栄養素及びビタミンの摂取と児の出生時体格の関連	Ehab S Eshak, et al.	British Journal of Nutrition 2020;124(6):558-566
127		Associations between glycosylated hemoglobin level at less than 24 weeks of gestation and adverse pregnancy outcomes in Japan: The Japan Environment and Children's Study (JECS)	妊娠24週未満に測定されたヘモグロビンA1cと周産期予後：エコチル調査	Iwama N, et al.	Diabetes Research and Clinical Practice 2020;169:108377
126		Maternal intake of one-carbon metabolism-related B vitamins and anorectal malformations in the Japan Environment and Children's Study	妊娠中の葉酸、ビタミンB6、ビタミンB12摂取と直腸肛門奇形（鎖肛）との関連性について	Michikawa T, et al.	British Journal of Nutrition 2020;124(8):865-873
125	●	**Association between pesticide usage during pregnancy and neonatal hyperbilirubinemia requiring treatment: The Japan Environment and Children's Study**	**母体の妊娠中の殺虫剤・防虫剤使用と、治療を要した新生児高ビリルビン血症との関連について**	**Shibazaki T, et al.**	**Pediatric Research 2021;89(6):1565-1570**
124		Characteristics of postpartum Japanese mothers who were nonrespondents to the Japan Environment and Children's Study	エコチル調査における産後時点の質問票が未返送となった母親の特徴	Kigawa M, et al.	Journal of Pediatrics and Congenital Disorders 2020;6(1):105
123		Trajectories of psychological status of mothers of infant with nonsyndromic orofacial clefts: a prospective cohort study from the Japan Environment and Children's Study	口唇口蓋裂と母親の精神状態の関連を検討した研究	Sato Y, et al.	Cleft Palate-Craniofacial Journal 2021;58(3):369-377
122		Association between pre-pregnancy calcium intake and hypertensive disorders during the first pregnancy: the Japan Environment and Children's Study	妊娠前カルシウム摂取量と妊娠高血圧症候群の発症の関連についての調査	Kyozuka H, et al.	BMC pregnancy and Childbirth 2020;20(1):424
121		Impact of individual and neighborhood social capital on the physical and mental health of pregnant women: the Japan Environment and Children's Study (JECS)	個人および近隣地域のソーシャル・キャピタルが妊婦の身体面・精神面の健康状態に与える影響：エコチル調査	Morozumi R, et al.	BMC Pregnancy and Childbirth 2020;20(1):450

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
120		Maternal dietary intake of fish and PUFAs and child neurodevelopment at 6 months and 1 year of age: a nationwide birth cohort-the Japan Environment and Children’s Study (JECS)	妊娠期の魚食および多価不飽和脂肪酸摂取と産後6か月および1歳時の神経発達との関連について	Hamazaki K, et al.	American Journal of Clinical Nutrition 2020;112(5):1295-1303
119		Determination of urinary cotinine cut-off concentrations for pregnant women in the Japan Environment and Children’s Study (JECS)	エコチル調査における妊娠女性の尿中コチニン濃度のカットオフ値の検討	Nishihama Y, et al.	International Journal of Environmental Research and Public Health 2020;17(15):5537
118		Factors correlating with serum birch pollen IgE status in pregnant women in Hokkaido, Japan: The Japan Environment and Children’s Study (JECS)	北海道の妊婦におけるシラカンバ特異IgE陽性率とその関連要因	Saijo Y, et al.	The World Allergy Organization Journal 2020;13(6):100128
117		Effect of the occupational environment of parents on cryptorchidism	両親の職業が停留精巣の発生に与える影響	Mitsui T, et al.	Pediatrics International 2020;62(11):1256-1263
116		Dietary patterns during pregnancy and health-related quality of life: The Japan Environment and Children’s Study	妊娠前期における食事パターンと健康関連QOL：子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）	Miura K, et al.	PLOS ONE 2020;15(7):e0236330
115		Associations between broader autism phenotype and dietary intake: A cross-sectional study (Japan Environment & Children’s Study)	妊婦における自閉症傾向特性と栄養摂取との関連性について	Hirokawa K, et al.	Journal of Autism and Developmental Disorders 2020;50(8):2698-2709
114		Association between surgical procedures under general anesthesia in infancy and developmental outcomes at 1 year: the Japan Environment and Children’s Study	乳児期に施行した全身麻酔下での外科手術と1歳時点の発達との関連	Kobayashi Y, et al.	Environmental Health and Preventive Medicine 2020;25(1):32
113		Factor structure of the Edinburgh Postnatal Depression Scale in the Japan Environment and Children’s Study	エジンバラ産後うつ尺度の因子構造：エコチル調査より	Matsumura K, et al.	Scientific Reports 2020;10(1):11647
112		Association of maternal sleep before and during pregnancy with preterm birth and early infant sleep and temperament	妊娠前・妊娠中の母体睡眠と、早産および新生児期の睡眠や気質の関連	Nakahara K, et al.	Scientific Reports 2020;10(1):11084
111		Non-reassuring foetal status and sleep problems in 1-year-old infants in the Japan Environment and Children’s Study: A cohort study	胎児機能不全と1歳における睡眠の問題との関連	Nakahara K, et al.	Scientific Reports 2020;10(1):11432

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
110		Cumulative inactivated vaccine exposure and allergy development among children: a birth cohort from Japan	JECSに参加している小児における初回予防接種の種類とアレルギー疾患の関連について	Yamamoto-Hanada K, et al.	Environmental Health and Preventive Medicine 2020;25(1):27
109	●	**Association between prenatal exposure to household pesticides and neonatal weight and length growth in the Japan Environment and Children's Study**	**妊娠中の殺虫剤・防虫剤の使用と新生児の体重・身長の発育との関連**	**Matsuki T, et al.**	**International Journal of Environmental Research and Public Health 2020;17(12):4608**
108	●	**Association between blood lead exposure and mental health in pregnant women: results from The Japan Environment and Children's Study**	**血中鉛濃度と妊婦のメンタルヘルスの関連：エコチル調査の結果より**	**Ishitsuka K, et al.**	**Neurotoxicology 2020;79:191-199**
107		Prospective association of air‐purifier usage during pregnancy with infant neurodevelopment: A nationwide longitudinal study-Japan Environment and Children's Study (JECS)	妊娠中における母親の空気清浄機の使用と、その後生まれてきた子の精神神経発達との関係：エコチル調査	Matsumura K, et al.	Journal of Clinical Medicine 2020;9(6):1924
106		Risk of adverse obstetric outcomes in Japanese women with systemic lupus erythematosus: The Japan Environment and Children's Study	全身性エリテマトーデス(SLE)合併妊娠における産科合併症のリスク	Murata T, et al.	PLOS ONE 2020;15(5):e0233883
105		Time course of metabolic status in pregnant women: the Japan Environment and Children's Study	妊娠中母親の血液中の糖・脂質代謝異常について	Sasaki H, et al.	Journal of Diabetes Investigation 2020;11(5):1318-1325
104		Association between maternal active smoking during pregnancy and placental weight: the Japan Environment and Children's Study	妊娠中の喫煙と胎盤重量、胎盤重量/出生体重比の関連性	Mitsuda N, et al.	Placenta 2020;94:48-53
103		Self-reported eating speed and incidence of gestational diabetes mellitus: the Japan Environment and Children's Study	食べる速さと妊娠糖尿病の発症との関連：エコチル調査	Dong JY, et al.	Nutrients 2020;12(5):1296
102		Skipping breakfast before and during early pregnancy and incidence of gestational diabetes mellitus: the Japan Environment and Children's Study	妊娠前・妊娠初期における朝食欠食と妊娠糖尿病の発症との関連について	Dong JY, et al.	American Journal of Clinical Nutrition 2020;111(4):829-834

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
101		Population attributable fractions of modifiable risk factors for nonsyndromic orofacial clefts: a prospective cohort study from the Japan Environment and Children's Study	口唇口蓋裂の発生に関連する既知の危険要因の人口寄与割合	Sato Y, et al.	Journal of Epidemiology 2021;31(4):272-279
100		Association of prenatal psychological distress and postpartum depression with varying physical activity intensity: Japan Environment and Children's Study (JECS)	妊娠中の運動と心理的苦痛の関係	Susukida R, et al.	Scientific Reports 2020;10(1):6390
099		Maternal multivitamin intake and orofacial clefts in offspring: Japan Environment and Children's Study (JECS) cohort study	マルチビタミンサプリメント摂取と口唇口蓋裂発症との関連：子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）	Yoshida S, et al.	BMJ Open 2020;10(3):e035817
098		Pain medications during pregnancy: Data from the Japan Environment and Children's Study (JECS)	妊娠中の痛みに対する薬物治療	Yamada K, et al.	Journal of Anesthesia 2020;34(2):202-210
097		Association between nausea and vomiting of pregnancy and postpartum depression: the Japan Environment and Children's Study	妊娠悪阻と産後うつの関係：エコチル調査	Muchanga SMJ, et al.	Journal of Psychosomatic Obstetrics and Gynaecology 2022;43(1):2-10
096		Influence of parity and mode of delivery on mother-infant bonding: The Japan Environment and Children's Study	分娩経験と分娩形式が対児愛着に与える影響：エコチル調査より	Yoshida T, et al.	Journal of Affective Disorders 2020;263:516-520
095		Assisted reproductive technologies are slightly associated with maternal lack of affection toward the newborn: The Japan Environment and Children's Study	生殖補助医療と母親の新生児への愛情欠如の関連性	Yoshimasu K, et al.	The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research 2020;46(3):434-444
094	●	**The association between gestational use of personal care products and neonatal urological abnormality at birth: The Japan Environment and Children's Study**	**妊娠期のパーソナルケア製品使用と男児新生児の泌尿器異常との関連**	**Nishihama Y, et al.**	**Reproductive Toxicology 2020;93:83-88**
093		No association between prenatal antibiotics exposure and atopic dermatitis among Japanese infants	日本人乳児において胎児期の抗生剤暴露とアトピー性皮膚炎の罹患に関連なし	Sasaki M, et al.	Pediatric Allergy and Immunology 2020;31(2):218-221
092		Does overweight before pregnancy reduce the occurrence of gastroschisis?: The Japan Environment and Children's Study	妊娠前過体重群では腹壁破裂の発生が少ないか？	Michikawa T, et al.	BMC Research Notes 2020;13(1):47

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
091		Breastfeeding and risk of febrile seizures in infants: The Japan Environment and Children's Study	1歳までの熱性けいれん発症リスクと母乳栄養の関連性について（エコチル調査より）	Mitsuda N, et al.	Brain and Development 2019;41(10):839-847
090		Education level and risk of postpartum depression: results from the Japan Environment and Children's Study (JECS)	教育歴と産後うつのリスク：エコチル調査より	Matsumura K, et al.	BMC Psychiatry 2019;19(1):419
089		Changes in dietary intake in pregnant women from periconception to pregnancy in the Japan Environment and Children's Study: A nationwide Japanese birth cohort	妊娠に気づく前と後での女性の食事摂取	Ishitsuka K, et al.	Maternal and Child Health Journal 2020;24(3):389-400
088		Cat and dog ownership in early life and infant development: A prospective birth cohort study of Japan Environment and Children's Study	生後早期のペットの飼育と子どもの発達	Minatoya M, et al.	International Journal of Environmental Research and Public Health 2019;17(1):205
087		Determinants of alcohol consumption in women before and after awareness of conception	妊娠に気づく前と後での女性の飲酒の決定要因	Ishitsuka K, et al.	Maternal and Child Health Journal 2020;24(2):165-176
086		Association of cleft lip and palate on mother-to-infant bonding: a cross-sectional study in the Japan Environment and Children's Study (JECS)	口唇口蓋裂と母親の対児愛着との関連について	Tsuchiya S, et al.	BMC Pediatrics 2019;19(1):505
085		Prenatal tobacco smoking is associated with postpartum depression in Japanese pregnant women: The Japan Environment and Children's Study	日本人女性における妊娠期喫煙状況と産後うつとの関連	Cui M, et al.	Journal of Affective Disorders 2020;264:76-81
084	●	**Paternal occupational exposure to chemicals and secondary sex ratio: results from the Japan Environment and Children's Study**	**父親の化学物質への職業性ばく露と出生児の性比との関連について：子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）での研究成果**	**Adachi S, et al.**	**The Lancet Planetary Health 2019;3(12):e529-e538**
083		Medical and surgical complications in pregnancy and obstetric labour complications in the Japan Environment and Children's Study (JECS) cohort: a birth cohort study	大規模出生コホート研究（JECS)における妊婦の妊娠合併症について	Yang L, et al.	Journal of Obstetrics and Gynaecology 2019;40(7):918-924
082		Risk factors for placenta accreta spectrum: Findings from the Japan Environment and Children's Study	エコチル調査データを用いた癒着胎盤のリスク因子についての検討	Kyozuka H, et al.	BMC Pregnancy and Childbirth 2019;19(1):447

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
081		Update on the prevalence and determinants of folic acid use in Japan evaluated with 91,538 pregnant women: the Japan Environment and Children's Study	91,538 名の妊婦を対象に評価した，日本における葉酸摂取率およびその規定因子：エコチル調査	Ishikawa T, et al.	The Journal of Maternal-Fetal and Neonatal Medicine 2020;33(3):427-436
080		Effect of proinflammatory diet before pregnancy on gestational age and birthweight: The Japan Environment and Children's Study	向炎症食が妊娠週数、出生体重に与える影響について	Ishibashi M, et al.	Maternal and Child Nutrition 2020;16(2):e12899
079		Higher prevalence of hypertensive disorders of pregnancy in women who smoke: the Japan Environment and Children's Study	喫煙妊婦では妊娠高血圧症候群の頻度が高い：エコチル調査	Tanaka K, et al.	Hypertension Research 2019;42(4):558-566
078		Factors of non-responsive or lost-to-follow-up Japanese mothers during the first year post partum following the Japan Environment and Children's Study: a longitudinal cohort study	エコチル調査への参加母親を対象とした出産後 1 年間での未回答および追跡不能の要因：縦断的コホート研究	Kigawa M, et al.	BMJ Open 2019;9(11):e031222
077		Risk of preterm birth, low birthweight, and small-for-gestational-age infants in pregnancies with adenomyosis: A cohort study of the Japan Environment and Children's Study	エコチル調査データを用いた子宮腺筋症合併妊娠における早産・低出生体重児・子宮内胎児発育不全のリスクについての検討	Yamaguchi A, et al.	Acta Obstetricia et Gynecologica Scandinavica 2019;98(3):359-364
076		The effect of maternal age at the first childbirth on gestational age and birth weight: The Japan Environment and Children's Study (JECS)	初産婦において母体年齢が妊娠週数、出生体重に与える影響についての検討	Kyozuka H, et al.	Journal of Epidemiology 2019;29(5):187-191
075		Effects of long working hours and shift work during pregnancy on obstetric and perinatal outcomes: A large prospective cohort study - Japan Environment and Children's Study	妊娠中の長時間労働と交替制勤務が妊娠期及び周産期の母子の健康に及ぼす影響についての大規模前向きコホート研究　エコチル調査	Suzumori N, et al.	Birth 2019;47(1):67-79
074		Chocolate consumption and risk of gestational diabetes mellitus: the Japan Environment and Children's Study	チョコレート摂取と妊娠糖尿病の発症との関連について	Dong JY, et al.	British Journal of Nutrition 2019;122(8):936-941
073		Interannual changes in the prevalence of intimate partner violence against pregnant women in Miyagi prefecture after the Great East Japan Earthquake: The Japan Environment and Children's Study	東日本大震災後の宮城県被災地域における妊婦へのドメスティックバイオレンスの経年変化	Tanoue K, et al.	Journal of Interpersonal Violence 2019;36(21-22):10013-10028

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
072		Infant dietary intake of yogurt and cheese and gastroenteritis at 1 year of age: The Japan Environment and Children's Study	1歳の幼児におけるヨーグルトおよびチーズの摂取と胃腸炎との関連について	Nakamura M, et al.	PLOS ONE 2019;14(10):e0223495
071		Association between maternal alcohol consumption during pregnancy and risk of preterm delivery: the Japan Environment and Children's Study	母親の妊娠中のアルコール摂取量と早産リスクとの関連：エコチル調査	Ikehara S, et al.	BJOG 2019;126(12):1448-1454
070		Association between maternal fermented food consumption and infant sleep duration: The Japan Environment and Children's Study	妊娠中の母親の発酵食品摂取と乳幼児の睡眠時間との関連	Sugimori N, et al.	PLOS ONE 2019;14(10):e0222792
069		Paternal height has an impact on birth weight of their offspring in a Japanese population: the Japan Environment and Children's Study	父親の身長が出生体重に及ぼす影響：JECS データを用いた検討	Takagi K, et al.	Journal of Developmental Origins of Health and Disease 2019;10(5):542-554
068		Dietary intake of fish and n-3 polyunsaturated fatty acids and risk of postpartum depression: a nationwide longitudinal study - the Japan Environment and Children's Study (JECS)	魚介類摂取および n-3 系多価不飽和脂肪酸摂取と産後抑うつとの関連	Hamazaki K, et al.	Psychological Medicine 2019;50(14):2416-2424
067		Benefits of cooperation among large-scale cohort studies and human biomonitoring projects in environmental health research: An exercise in blood lead analysis of the Environment and Child Health International Birth Cohort Group	環境保健研究における大規模コホート研究及びバイオモニタリングプロジェクト間での協力の成果：ECHIBCG グループにおける血中鉛分析での活動	Nakayama SF, et al.	International Journal of Hygiene and Environmental Health 2019;222(8):1059-1067
066		Maternal dietary intake of vitamin A during pregnancy was inversely associated with congenital diaphragmatic hernia: the Japan Environment and Children's Study	妊娠中のビタミン A 摂取と先天性横隔膜ヘルニアとの関連性について	Michikawa T, et al.	British Journal of Nutrition 2019;122(11):1295-1302
065		Understanding the relationship between postpartum depression one month and six months after delivery and mother-infant bonding failure one-year after birth: results from the Japan Environment and Children's study (JECS)	産後 1 か月および 6 か月の産後うつと産後 1 年時の対児愛着との関連の理解：子どもの健康と環境に関する全国調査より	Kasamatsu H, et al.	Psychological Medicine 2020;50(1):161-169

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
064	●	**Maternal exposure to housing renovation during pregnancy and risk of offspring with congenital malformation: The Japan Environment and Children's Study**	**妊娠中の自宅内装工事と児の先天性形態異常との関係について**	**Motoki N, et al.**	**Scientific Reports 2019;9(1):11564**
063		Adverse obstetrical outcomes for women with endometriosis and adenomyosis: A large cohort of the Japan Environment and Children's Study	子宮内膜症および子宮腺筋症により産科合併症が増加する	Harada T, et al.	PLOS ONE 2019;14(8):e0220256
062		Alcohol consumption during pregnancy and risk of placental abnormality: The Japan Environment and Children's Study	飲酒が妊娠に及ぼす影響について：胎盤の異常（前置胎盤、常位胎盤早期剥離、癒着胎盤）	Ohira S, et al.	Scietntific Reports 2019;9(1):10259
061		The relationship between prenatal psychological stress and placental abruption in Japan, the Japan Environment and Children's Study (JECS)	妊娠前後における精神的ストレスと常位胎盤早期剥離リスクの関連：子どもの健康と環境に関する全国調査	Kawanishi Y, et al.	PLOS ONE 2019;14(7):e0219379
060		Analysis of non-respondent pregnant women who were registered in the Japan Environment and Children's Study: a longitudinal cohort study	妊娠期女性における質問票未回収に関する検討；エコチル調査参加者を対象に	Kigawa M, et al.	BMJ Open 2019;9(6):e025562
059	●	**Associations between metal concentrations in whole blood and placenta previa and placenta accreta: the Japan Environment and Children's Study (JECS)**	**妊婦の血中金属類濃度と前置胎盤・癒着胎盤との関係（エコチル調査）**	**Tsuji M, et al.**	**Environmental Health and Preventive Medicine 2019;24(1):40**
058		Fermented foods and preterm birth risk from a prospective large cohort study; The Japan Environment and Children's study	本邦における発酵食品の摂食と早産リスクの関係	Ito M, et al.	Environmental Health and Preventive Medicine 2019;24(1):25
057		Dose-dependent associations between prenatal caffeine consumption and small-for-gestational-age, preterm birth, and reduced birth weight in the Japan Environment and Children's Study	胎児期の母のカフェイン摂取量とSGA(Small-for-gestational-age)、早産および出生体重との関連：エコチル調査	Kobayashi S, et al.	Paediatric and Perinatal Epidemiology 2019;33(3):185-194
056		Preconception folic acid supplementation use and the occurrence of neural tube defects in Japan: A nationwide birth cohort study of the Japan Environment and Children's Study	日本における妊婦の葉酸サプリメント摂取と児の神経管閉鎖障害予防の検討 エコチル調査から	Nishigori H, et al.	Congenital Anomalies 2019;59(4):110-117

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
055		Blood mercury, lead, cadmium, manganese and selenium levels in pregnant women and their determinants: the Japan Environment and Children's Study (JECS)	エコチル調査における妊娠女性の血中水銀、鉛、カドミウム、マンガン、セレン濃度とその予測因子	Nakayama SF, et al.	Journal of Exposure Science and Environmental Epidemiology 2019;29(5):633-647
054		Dietary intake of fish and n-3 polyunsaturated fatty acids and physician-diagnosed allergy in Japanese population: The Japan Environment and Children's Study	日本人における魚介類／n-3系多価不飽和脂肪酸摂取と、今までの生涯で医師によって診断されたアレルギー性疾患との関連：子どもの健康と環境に関する全国調査より	Hamazaki K, et al.	Nutrition 2019;61:194-201
053		Complications and adverse outcomes in pregnancy and childbirth among women who conceived by assisted reproductive technologies: A nationwide birth cohort study of Japan Environment and Children's Study	生殖補助医療による妊娠および分娩の合併症と転帰	Nagata C, et al.	BMC Pregnancy and Childbirth 2019;19(1):77
052		Verbal abuse during pregnancy increases frequency of newborn hearing screening referral: The Japan Environment and Children's Study	妊娠中に受けた暴言による新生児聴覚スクリーニング要精査の増加（JECS）	Komori K, et al.	Child Abuse and Neglect 2019;90:193-201
051		The risk of secondary sex ratio imbalance and increased monozygotic twinning after blastocyst transfer: data from The Japan Environment and Children's Study	胚盤胞移植による出生児性比不均衡と一卵性双胎増加のリスク	Hattori H, et al.	Reproductive Biology and Endocrinology 2019;17(1):27
050	●	**Association between blood manganese level during pregnancy and birth size: the Japan Environment and Children's Study (JECS)**	**妊娠中の血中マンガン濃度と出生児体格との関連**	**Yamamoto M, et al.**	**Environmental Research 2019;172:117-126**
049	●	**Association of blood mercury levels during pregnancy with infant birth size by blood selenium levels in the Japan Environment and Children's Study: A prospective birth cohort**	**妊婦の血中水銀及びセレン濃度と児の出生時体格との関連**	**Kobayashi S, et al.**	**Environment International 2019;125:418-429**
048		Endometriosis and recurrent pregnancy loss as new risk factors for venous thromboembolism during pregnancy and postpartum: the JECS birth cohort	妊娠中の静脈血栓塞栓症の危険因子：エコチル調査による出生コホート	Sugiura-Ogasawara M, et al.	Thrombosis and Haemostasis 2019;119(4):606-617

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
047	●	**Associations between metal levels in whole blood and IgE concentrations in pregnant women, based on data from the Japan Environment and children's Study**	**妊婦の血液中金属濃度とIgE抗体の関係（エコチル調査）**	**Tsuji M, et al.**	**Journal of Epidemiology 2019;29(12):478-486**
046		Impact of intention and feeling toward being pregnant on postpartum depression: the Japan Environment and Children's Study (JECS)	妊娠の意図と妊娠時の気持ちが産後うつへ与えるインパクトについて:子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）	Baba S, et al.	Archives of Women's Mental Health 2020;23(1):131-137
045		Changes in the association between postpartum depression and mother-infant bonding by parity: longitudinal results from the Japan Environment and Children's Study	産後うつと対児愛着の関連と変化：子どもの健康と環境に関する全国調査より	Tsuchida A, et al.	Journal of Psychiatric Research 2018;110:110-116
044		Association between time-related work factors and dietary behaviors: Results from the Japan Environment and Children's Study (JECS)	時間的労働因子と食行動との関連性：エコチル調査全国のデータを用いた研究結果	Tanaka R, et al.	Environmental Health and Preventive Medicine 2018;23(1):62
043		Association between cesarean section and constipation in infants: the Japan Environment and Children's Study (JECS)	帝王切開で出生した児の便秘発症リスクについて	Yoshida T, et al.	BMC Research Notes 2018;11(1):882
042		Sleep status varies by age among Japanese women during preconception and pregnancy in a nationwide birth cohort study (the Japan Environment and Children's Study (JECS))	大規模出生コホート研究（エコチル調査)における妊娠前と妊娠中の日本の女性の年代ごとの睡眠状況について	Konishi M, et al.	Sleep and Biological Rhythms 2019;17:161-172
041		Isoflavone intake in early pregnancy and hypospadias in the Japan Environment and Children's Study	食事からのイソフラボン摂取と尿道下裂との関連性について	Michikawa T, et al.	Urology 2019;124:229-236
040		Adverse pregnancy and perinatal outcome in patients with recurrent pregnancy loss: Multiple imputation analyses with propensity score adjustment applied to a large-scale birth cohort of the Japan Environment and Children's Study	不育症患者の妊娠帰結～エコチル調査１０万人バースコホート	Sugiura-Ogasawara M, et al.	American Journal of Reproductive Immunology 2019;81(1):e13072
039		Severity of nausea and vomiting in singleton and twin pregnancies in relation to fetal sex: the Japan Environment and Children's Study (JECS)	つわりの程度と胎児の性別、胎児数の関連性について：子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）より	Mitsuda N, et al.	Journal of Epidemiology 2019;29(9):340-346

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
038		Association between alcohol consumption during pregnancy and hypertensive disorders of pregnancy in Japan: the Japan Environment and Children's Study	日本における妊娠中の飲酒と妊娠高血圧症候群との関連：エコチル調査	Iwama N, et al.	Hypertension Research 2019;42(1):85-94
037		Preconception dysmenorrhea as a risk factor for psychological distress in pregnancy: The Japan Environment and Children's Study	妊娠前の月経困難症が妊娠中の精神的ジストレスに与える影響	Watanabe Z., et al.	Journal of Affective Disorders 2018;245:475-483
036		Optimal protein intake during pregnancy for reducing the risk of fetal growth restriction: a secondary analysis of the Japanese Environment and Children's Study	胎内発育不全を予防するために最適な妊娠中のタンパク摂取	Morisaki N, et al.	British Journal of Nutrition 2018;120(12):1432-1440
035		Risky health behaviors of teenage mothers and infant outcomes in the Japan Environment and Children's Study: a nationwide cohort study	10代の妊娠と子どもの出生時体重	Ishitsuka K, et al.	Journal of Pediatric and Adolescent Gynecology 2019;32(2):146-152
034		Effects of physical activity during pregnancy on preterm delivery and mode of delivery: the Japan Environment and Children's Study	妊娠前及び妊娠中の身体活動が，分娩週数と分娩方法に及ぼす影響（エコチル調査より）	Takami M, et al.	PLOS ONE 2018;13(10):e0206160
033		Fish consumption in early pregnancy and congenital gastrointestinal tract atresia in the Japan Environment and Children's Study	母親の魚摂取と先天性消化管閉鎖症との関連性について	Michikawa T, et al.	British Journal of Nutrition 2019;121(1):100-108
032		Non-reassuring foetal status and neonatal irritability in the Japan Environment and Children's Study: A cohort study	胎児機能不全と新生児気質との関連性について	Morokuma S, et al.	Scientific Reports 2018;8(1):15853
031		Association between family members and risk of postpartum depression in Japan: does "who they live with" matter? —the Japan Environment and Children's Study	居住形態と産後うつの関連：子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)	Honjo K, et al.	Social Science and Medicine 2018;217:65-72
030	●	**Associations between maternal blood cadmium and lead concentrations and gestational and diabetes mellitus in the Japan Environment and Children's Study**	**妊娠中の血中カドミウムおよび鉛濃度と妊娠糖尿病との関連性**	**Oguri T, et al.**	**International Archives of Occupational and Environmental Health 2018;92(2):209-217**

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
029		Associations between broader autism phenotype (BAP) and maternal attachment are moderated by maternal postpartum depression when infants are one month old: A prospective study of the Japan Environment & Children's Study	母親の自閉症傾向特性と子どもへの愛着形成との関連性について	Hirokawa K, et al.	Journal of Affective Disorders 2019;243:485-493
028		Prevalence of congenital anomalies in the Japan Environment and Children's Study	エコチル調査における先天性形態異常の有病率	Mezawa H, et al.	Journal of Epidemiology 2019;29(7):247-256
027		Questionnaire results on exposure characteristics of pregnant women participating in the Japan Environment and Children Study (JECS)	エコチル調査における妊娠中の母親の曝露に関する質問票調査結果	Iwai-Shimada M, et al.	Environmental Health and Preventive Medicine 2018;23(1):45
026		Blood pressure changes during twin pregnancies: The Japan Environment and Children's Study	双胎妊娠と単胎妊娠における妊娠中母体血圧の比較：エコチル調査	Iwama N, et al.	Journal of Hypertension 2019;37(1):206-215
025	●	**The association between whole blood concentrations of heavy metals inpregnant women and premature births: The Japan Environment and Children's Study (JECS)**	**妊婦の血液中重金属濃度と早産の関係（エコチル調査）**	**Tsuji M, et al.**	**Environmental Research 2018;166:562-569**
024		Nausea and vomiting during pregnancy associated with lower incidence of preterm births: the Japan Environment and Children's Study	つわりの程度と早産リスクの関連性について：子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）より	Mitsuda N, et al.	BMC Pregnancy and Childbirth 2018;18(1):268
023		Variation in men's dietary intake between occupations, based on data from the Japan Environment and Children's Study (JECS)	男性における職業間の食事摂取の違い	Tanaka R, et al.	American Journal of Men's Health 2018;12(5):1621-1634
022		Having small for gestational age infants was associated with maternal allergic features in the JECS birth cohort	母親のアレルギー疾患とsmall-for-gastational-age(SGA)の関連について	Saito M, et al.	Allergy 2018;73(9):1908-1911
021		Dietary differences in male workers among smaller occupational groups within large occupational categories: Findings from the Japan Environment and Children's Study (JECS)	同一職業群内における詳細に分類した職種間での食事摂取の違い	Tanaka R, et al.	International Journal of Environmental Research and Public Health 2018;15(5):961

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
020		Lack of association between receiving ART treatment and parental psychological distress during pregnancy: Preliminary findings of the Japan Environment and Children's Study	生殖補助医療による妊娠における精神的ストレス	Yoshimasu K, et al.	Reproductive Biomedicine and Society Online 2018;5:5-16
019		Dietary intake of fish and n-3 polyunsaturated fatty acids and risks of perinatal depression: The Japan Environment and Children's Study (JECS)	妊娠期および出産後における魚食／ω3系多価不飽和脂肪酸摂取と抑うつとの関連	Hamazaki K, et al.	Journal of Psychiatric Research 2018;98:9-16
018		Allergy and mental health among pregnant women in the Japan Environment and Children's Study	日本における妊婦のアレルギーとメンタルヘルスとQoLについて	Yamamoto-Hanada K, et al.	The Journal of Allergy and Clinical Immunology 2018;6(4):1421-1424.e2
017		Baseline profile of participants in the Japan Environment and Children's Study (JECS)	母親・父親及び出生児に関する基本属性	Michikawa T, et al.	Journal of Epidemiology 2018;28(2):99-104
016		Parental condition and infant sex at birth in the Japan Environment and Children's Study: a test of the Trivers-Willard hypothesis	親のコンディションが子どもの性別に与える影響：トリヴァース・ウィラード仮説の検証	Morita M, et al.	Letters on Evolutionary Behavioral Science 2017;8(2):40-44
015		Preconception gynecological risk factors of postpartum depression among Japanese women: The Japan Environment and Children's Study (JECS)	日本人女性における産後うつと妊娠前の婦人科系リスク要因（JECS）	Muchanga SMJ, et al.	Journal of Affective Disorders 2017;217:34-41
014		Maternal sleep and small for gestational age infants in the Japan Environment and Children's Study: a cohort study	妊婦の睡眠とSmall-for-Gestational-Age（SGA）との関連に関する研究（JECS）	Morokuma S, et al.	BMC Research Notes 2017;10(1):394
013		Allergic profiles of mothers and fathers in the Japan Environment and Children's Study (JECS): a nationwide birth cohort study	妊娠中の母親と父親のアレルギープロファイルーこどもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）	Yamamoto-Hanada K, et al.	The World Allergy Organization Journal 2017;10(1):24
012		Pregnant women's awareness of social capital in the Great East Japan Earthquake-affected areas of Miyagi prefecture: The Japan Environment and Children's Study	東日本大震災後の宮城県被災地における妊婦のソーシャルキャピタルの実態調査	Nishigori H, et al.	Disaster Medicine and Public Health Preparedness 2017;11(3):355-364

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
011		Selective serotonin reuptake inhibitors and risk of major congenital anomalies for pregnancies in Japan: A nationwide birth cohort study of the Japan Environment and Children's Study	日本における妊婦の選択的セロトニン再取り込み阻害薬服用と先天異常との関連：エコチル調査より	Nishigori H, et al.	Congenital Anomalies 2017;57(3):72-78
010		Drug use before and during pregnancy in Japan: The Japan Environment and Children's Study	日本における妊婦の薬剤服用調査	Nishigori H, et al.	Pharmacy 2017;5(2):21
009		Incidence of domestic violence against pregnant females after the Great East Japan Earthquake in Miyagi prefecture: The Japan Environment and Children's Study	東日本大震災後の宮城県被災地における妊婦へのドメスティックバイオレンスの実態調査	Sakurai K, et al.	Disaster Medicine and Public Health Preparedness 2017;11(2):216-226
008		Prevalence and determinants of inadequate use of folic acid supplementation in Japanese pregnant women: the Japan Environment and Children's Study (JECS)	日本人妊婦における不適切な葉酸摂取の頻度と関連要因：エコチル調査	Obara T, et al.	The Journal of Maternal-Fetal and Neonatal Medicine 2017;30(5):588-593
007		Obstetrical complications in women with endometriosis: A cohort study in Japan	子宮内膜症が産科合併症に及ぼす影響	Harada T, et al.	PLOS ONE 2016;11(12):e0168476
006		Relationship between hyperemesis gravidarum and small-for-gestational-age in the Japanese population: the Japan Environment and Children's Study (JECS)	妊娠悪阻と small-for-gestational-age との関連に関する研究 (JECS)	Morokuma S, et al.	BMC Pregnancy Childbirth 2016;16(1):247
005		Association between social capital and the prevalence of gestational diabetes mellitus: An interim report of the Japan Environment and Children's Study	ソーシャルキャピタルと妊娠糖尿病の有病との関連	Mizuno S, et al.	Diabetes Research and Clinical Practice 2016;120:132-141
004		Association between maternal smoking during pregnancy and birth weight: an appropriately adjusted model from the Japan Environment and Children's Study	妊娠中の喫煙と出生体重の関連：「子どもの健康と環境に関する全国調査」のデータによる適切なモデルによる検討	Suzuki K, et al.	Journal of Epidemiology 2016;26(7):371-377
003		Fermented food consumption and psychological distress in pregnant women: a nationwide birth cohort study of the Japan Environment and Children's Study	妊婦の発酵食品摂取と不安障害・うつとの関連	Takahashi F, et al.	The Tohoku Journal of Experimental Medicine 2016;240(4):309-321

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
002		Psychological distress during pregnancy in Miyagi after the Great East Japan Earthquake: The Japan Environment and Children's Study	東日本大震災直後の被災地宮城における妊娠中の精神的ジストレス	Watanabe Z., et al.	Journal of Affective Disorders 2016;190:341-348
001		The Japan Environment and Children's Study (JECS): a preliminary report on selected characteristics of approximately 10,000 pregnant women recruited during the first year of the study	エコチル調査開始年度に登録された約1万組の母子に関する基本属性集計	Michikawa T, et al.	Journal of Epidemiology 2015;25(6):452-458

１－２　エコチル調査の追加調査に係る論文　84 編

（令和６年 12 月末時点）

No	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
084		Association between allergen-specific immunoglobulin E sensitization, allergic rhinitis symptoms, and quality of life in school-aged children	学童期におけるアレルゲン特異的免疫グロブリンＥ感作、アレルギー性鼻炎症状およびQOLの関連性	Watanabe D, et al.	Scientific Reports 2024;14(1):31940
083		Association between antinuclear antibodies status and preterm birth in Japanese pregnant women: A prospective cohort study from Adjunct Study of the Japan Environment and Children's Study	日本人妊婦における抗核抗体保有状況と早産との関連：エコチル追加調査による前向きコホート研究	Fukushige M, et al.	BMC Pregnancy and Childbirth 2024;24(1):879
082		Association of Japanese cedar pollen sensitization in children with *Dermatophagoides pteronyssinus* sensitization and maternal sensitization: Insights from the Yamanashi adjunct study within the Japan Environment and Children's Study (JECS)	子どものスギ花粉感作とヤケヒョウヒダニ感作および母親の感作との関連：子どもの健康と環境に関する全国調査(JECS)山梨追加調査からの知見	Shimamura A, et al.	Allergology International 2024;S1323-8930(24)00125-4 Epub ahead of print
081		Evaluation of the Interaction between the Oral Environments of Mother and Child	細菌学的視点による子どもと母親の口腔環境の相互影響に関する研究	Nagai-Yoshioka Y, et al.	小児歯科学会雑誌 2024;62(3):70-76 Journal of Japanese Society of Pediatric Dentistry 2024;62(3):70-76
080		Vitamin D concentration in maternal serum during pregnancy: Assessment in Hokkaido in adjunct study of the Japan Environment and Children's Study (JECS)	妊娠中の母体血清ビタミンD濃度：子どもの健康と環境に関する全国調査における北海道ユニットセンターの追加調査	Nakanishi K, et al.	PLOS One 2024;19(11):e0312516
079		Maternal alcohol consumption during pregnancy and child development: Role of ADH1B and ALDH2 gene polymorphisms-The Yamanashi Adjunct Study of the Japan Environment and Children's Study	妊娠中の母親の飲酒と子どもの発達：ADH1BおよびALDH2遺伝子多型の役割：エコチル調査追加調査	Miyake K, et al.	Alcohol, Clinical and Experimental Research 2024; Epub ahead of print
078		Associations of 1.5- and 3-year phthalate exposure levels with early adiposity rebound and overweight/obesity in Japanese children: An Adjunct Study of the Japan Environment and Children's Study	日本の1.5歳、3歳のフタル酸エステルばく露レベルと早期アディポシティリバウンドや過体重・肥満との関係：エコチル調査追加調査	Mohanto NC, et al.	Environmental Research 2024;263(Pt 2):120165 Epub ahead of print

No	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
077		Association between maternal LDL level during pregnancy and offspring LDL level at age 8	妊娠中の母親のLDL値と8歳時の子どものLDL値との関連	Oishi T, et al.	Tohoku Journal of Experimental Medicine 2024 Epub ahead of print
076		Investigating the link between temperamental and motor development: a longitudinal study of infants aged 6-42 months	気質と運動の発達との関連に関する月齢６か月から４２か月までの縦断研究	Nakagawa A, et al.	BMC Pediatrics 2024;24(1):614
075		Targeted metabolomic analysis of early-trimester serum identifies potential mechanisms for late-onset preeclampsia	遅発型妊娠高血圧腎症発症機序の解明を目的とした妊娠初期血清に対するメタボローム解析	Okoshi C, et al.	The Journal of Maternal-Fetal & Neonatal Medicine 2024;37
073		Development of temperamental regulation of infants at 6 and 24 months: Associations with maternal soothing and distress	６か月から２４か月の乳幼児の制御機能の発達：母親のあやし方との関連	Nakagawa A, et al.	Health Science Report 2024;7(9):e70036
074		Association of maternal blood and umbilical cord blood plasma fatty acid levels with the body size at birth of Japanese infants	日本人の子どもにおける出生時体格と、母体血およびさい帯血血漿脂肪酸濃度との関連	Matsumoto A, et al.	Prostaglandins, Leukotrienes and Essential Fatty Acids 2024 ; 202:102638 Epub ahead of print
072		Oral hygiene status and vascular aging in schoolchildren and their mothers	学童児とその母親における、口腔衛生状態と血管老化	Nakae S, et al.	Environmental Health and Preventive Medicine 2024:29:42
071		Association between maternal physical activity from pre-pregnancy to child-rearing and their children's physical activity in early childhood among Japanese	日本人における妊娠前から育児期までの母親の身体活動と幼児期の子どもの身体活動の関連	Yamada A, et al.	Journal of Epidemiology 2024; Epub ahead of print
070	●	Exposure to ambient fine particulate matter components during pregnancy and early childhood and its association with asthma, allergies, and sensitization in school-age children	妊娠中および乳幼児期の大気中微小粒子状物質およびその成分へのばく露と学童期の喘息、アレルギー、感作との関係	Ojima K, et al.	Environmental Health and Preventive Medicine 2024;29:34
069		The current status of postpartum menstrual resumption delay and associated risk factors in japanese women: An Adjunct Study of the Japan Environment and Children's Study	邦人女性における分娩後月経再来遅延の実態と関連因子：エコチル調査の追加調査	Samejima A, et al.	Yonago Acta Medica 2024;67(3)
068		Association between filaggrin gene mutations and the clinical features of molluscum contagiosum: the Yamanashi Adjunct Study of the Japan Environment and Children's Study	フィラグリン遺伝子変異と伝染性軟属腫の関連：エコチル山梨追加調査	Kojima R, et al.	The Journal of Dermatology 2024;51(4):484-490

No	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
067		Oral survey of second-grade elementary school students in Hokkaido, Japan: Adjunct study in Sapporo Study Area of the Japan Environment and Children's Study (JECS)	北海道における小学2年生の口腔内調査：エコチル調査の札幌地区での検討	Kikuchi E, et al.	北海道矯正歯科学会雑誌;51(1):1-6 The Journal of Hokkaido Orthodontic Society;51(1):1-6
066		Timing of primary tooth eruption in infants observed by their parents	親が観察した乳幼児の乳歯萌出時期について	Dodo M, et al.	Children 2023;10(11):1730
065		Mother-child correlation of kidney function: data from the Yamanashi Adjunct Study of Japan Environment and Children's Study (JECS)	腎機能の母子相関：エコチル調査の山梨追加調査から	Sawanobori E, et al.	Pediatric Nephrology 2024;39(3):789-797 Epub ahead of print
064		Refractive error and axial length and their related factors in 8-year-old Japanese children: The Yamanashi Adjunct Study of the Japan Environment and Children's Study (JECS)	エコチル調査の山梨追加調査に参加した8歳児の屈折異常と関連因子の検討	Okabe N, et al.	Journal of Clinical Medicine 2023;12(18):5929
063		Factors associated with the age of achieving urinary continence, including nighttime in childhood from a longitudinal cohort study (From the Japan Environment and Children's study): The Yamanashi adjunct study of the Japan Environment and Children's study	小児の夜間を含む尿禁制獲得時期に関与する因子～縦断的コホート研究(エコチル調査より)～：The Yamanashi Adjunct Study of the Japan Environment and Children's study	Shimura H, et al.	日本小児泌尿器科学会雑誌 2023;32(1):62-67 Japanese Journal of Pediatric Urology 2023;32(1):62-67
062	●	Association of air pollution exposure during pregnancy and early childhood with children's cognitive performance and behavior at age six	妊娠中および出生後早期の大気汚染物質ばく露と子どもの6歳時点の認知機能および行動との関連	Tokuda N, et al.	Environmental Research 2023;236(Pt 1):116733
061		Factors associated with new onset of father-to-infant bonding failure from 1 to 6 months postpartum: an Adjunct Study of the Japan Environment and Children's Study	産後6か月で新規発生する父親のボンディング形成不全の関連因子の検討：エコチル調査追加調査	Suzuki T, et al.	Social Psychiatry and Psychiatric Epidemiology 2023;58(11):1603-1624
060		Relationship between floating toes condition and lower limb muscle weight in 8-year-old children: the Yamanashi adjunct study of the Japan Environment and Children's Study (JECS-Y)	8歳児における浮き趾の状態と下肢筋肉重量の関係性	Wako M, et al.	Journal of Physical Therapy Science 2023;35(3):252-256
059		Social capital and physical activity among Japanese pregnant women: Adjunct study of Japan Environment and Children's Study in Miyagi Prefecture	日本人妊婦におけるソーシャル・キャピタルと身体活動：宮城ユニットセンターにおけるエコチル調査の追加調査	Sugiyama S, et al.	The Tohoku Journal of Experimental Medicine 2023;259(4):307-318

No	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
058	●	Association between antinuclear antibody positivity and chemical exposure among pregnant Japanese women: A cross-sectional study based on the Japan Environment and Children's study	日本人妊婦における抗核抗体陽性と化学物質ばく露との関連：エコチル調査による横断的研究	Fukushige M, et al.	International Journal of Hygiene and Environmental Health 2023;248:114094
057		Appropriate procedures to increase the adherence of children to blood collection: A cross-sectional study	小児が採血を支持するための適切な方法―横断的研究	Yui H, et al.	Health Science Reports 2022;6(1):e1036
056		Quantitative measurement of phthalate exposure biomarker levels in diaper-extracted urine of Japanese toddlers and cumulative risk assessment: An Adjunct Study of JECS birth cohort	日本人幼児のオムツから抽出した尿中のフタル酸エステル類曝露マーカー濃度と累積リスク評価：エコチル調査追加調査	Mohanto NC, et al.	Environmental Science and Technology 2023;57(1):395-404
055		Neutralizing and epitope-specific antibodies against espiratory syncytial virus in maternal and cord blood paired samples	母児ペア血清検体を用いたRSウイルスに対する中和抗体と中和エピトープ特異抗体の測定	Mashiyama F, et al.	Viruses 2022;14(12):2702
054		Investigation of umbilical cord serum miRNAs associated with childhood obesity: A pilot study from a birth cohort study	臍帯血清マイクロRNAと小児肥満との関連：探索的研究	Takatani R, et al.	Journal of Diabetes Investigation 2022;13(10):1740-1744
053		Association of egg protein levels in dust with allergy status and related factors	ハウスダスト中の鶏卵タンパク量に関係する要因	Kojima R, et al.	Pediatrics International 2022;64(1):e15372
052		Epidemiological studies of children's gut microbiota: validation of sample collection and storage methods and microbiota analysis of toddlers' feces collected from diapers	疫学研究における子どもの腸内菌叢：検体採取・保存方法の検証と使い捨ておむつから採取した幼児糞便の菌叢解析	Tamada H, et al.	Nutrients 2022;14(16):3315
051		Early neurodevelopmental problems and risk for avoidant/restrictive food intake disorder (ARFID) in 4-7-year-old children: a Japanese birth cohort study	ARFID(回避・制限性食物摂取障害)スクリーニング陽性児の神経発達と臨床的特徴：日本の出生コホート研究	Dinkler L, et al.	JCPP Advances 2022;2(3):e12094
050		Association between media use and bedtime delays in young children: An adjunct study of the Japan Environment and Children's Study	低年齢の小児のメディア利用と就寝の遅れとの関連：エコチル調査追加調査	Yamamoto M, et al.	International Journal of Environmental Research and Public Health 2022;19(15):9464
049		Association of fish intake with menstrual pain; A cross-sectional study of the Japan Environment and Children's Study	魚摂取と月経痛との関連：子どもの健康と環境に関する全国調査の横断研究	Yokoyama E, et al.	PLOS ONE 2022;17(7):e0269042

No	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
048		A cross-sectional study of the correlations between floating toe, plantar arch posture, and body composition in 8-year-old children	浮き趾、足部アーチ形態と体組成の関連性についての８歳児の横断的調査	Wako M, et al.	Foot and Ankle Surgery 2022;28(7):1035-1039
047		Validation of the mother-to-infant bonding scale for infant maltreatment by mothers at one month postpartum: an adjunct study of the Japan Environment and Children's Study	赤ちゃんに対する気持ち質問票'を用いた、母親の乳児へのマルトリートメント（不適切な養育）に対するスクリーニングの有用性	Nishigori T, et al.	JMA Journal 2022;5(3):366-369
046		Simultaneous quantification of pyrethroid metabolites in urine of non-toilet-trained children in Japan	1.5歳児を対象としたピレスロイド系殺虫剤代謝物の一斉定量分析	Ueyama J, et al.	Environmental Health and Preventive Medicine 2022;27:25
045		Investigation of maternal diet and FADS1 polymorphism associated with long-chain polyunsaturated fatty acid compositions in human milk	母乳中の長鎖多価不飽和脂肪酸(LCPUFA)組成と母親の食事、FADS1遺伝子多型との関連	Niwa S, et al.	Nutrients 2022;14(10):2160
044		Vitamin D metabolite ratio in pregnant women with low blood vitamin D concentrations is associated with neonatal anthropometric data	血中ビタミンD濃度が低い妊婦における血中ビタミンD代謝物濃度比と子どもの出生時の体格との関連	Takatani T, et al.	Nutrients 2022;14(11):2201
043		Consistency of parent and physician responses to the physical screening questionnaire for school children: The Yamanashi Adjunct Study of the Japan Environment and Children's Study	学校運動器検診調査票に対する親と医師の回答の一致性	Wako M, et al.	日本小児整形外科学会雑誌 2021;30(2):183-186 Journal of Japanese Paediatric Orthopaedic Association 2020;29(3):183-186
042		Association between maternal gestational diabetes mellitus and high-sensitivity C-reactive protein levels in 8-year-old children: the Yamanashi Adjunct Study of the Japan Environment and Children's Study (JECS)	母親の妊娠糖尿病と８歳時点での子の高感度CRPとの関係：山梨追加調査	Sekine T, et al.	Journal of Diabetes Investigation 2022;13(8):1444-1447
041		Associations of umbilical cord fatty acid profiles and desaturase enzyme indices with birth weight for gestational age in Japanese infants	日本人出生児の在胎期間に応じた出生体重と臍帯血中脂肪酸組成と不飽和化酵素活性指標の関連	Matsumoto A, et al.	Prostaglandins, Leukotrienes and Essential Fatty Acids 2021;165:102233
040		Development of a parent-reported screening tool for avoidant/restrictive food intake disorder (ARFID): Initial validation and prevalence in 4-7-year-old Japanese children	回避・制限性食物摂取障害（ARFID）に関する保護者向け質問票の開発：４歳から７歳の日本人小児における初期検証と有病率	Dinkler L, et al.	Appetite 2022;168:105735

No	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
039		Association of subjective health and abnormal cervical cytology in Japanese pregnant women: an adjunct study of the Japan Environment and Children's Study	日本人妊婦における主観的健康度と子宮頸部細胞診異常との関連：子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）の追加調査	Sasaki S, et al.	Preventive Medicine Reports 2021;24:101525
038		Selective listening in school-age children using Japanese: Development of a selective listening assessment tool for children	学童期における日本語環境下の選択的聴取能力の実態把握―聴覚情報処理に関する児童向けアセスメントツール開発を目指して―	Kato M, et al.	日本音響学会誌 2021;77(8):500-503 The Journal of the Acoustical Society of Japan 2021;77(8):500-503
037		The delivery of a placenta/fetus with high gonadal steroid production contributes to postpartum depressive symptoms	性ステロイドを高く産生する胎盤/胎児の娩出は産後うつ症状に寄与する	Kikuchi S, et al.	Depression and Anxiety 2021;38(4):422-430
036		Prevalence of floating toe and its relationship with static postural stability in children: The Yamanashi adjunct study of the Japan Environment and Children's Study (JECS-Y)	小児における浮き趾の頻度と重心動揺との関係性	Fujimaki T, et al.	PLOS ONE 2021;16(3):e0246010
035		Participant mothers' attitudes toward genetic analysis in a birth cohort study	出生コホートに参加した母親における遺伝子解析に対する意識	Yamamoto M, et al.	Journal of Human Genetics 2021;66(7):671-679
034		Description of maternal physical activity status before and after pregnancy and its predictors among Japanese women: Miyagi regional adjunct study of the Japan Environment and Children's Study (JECS)	日本人女性における妊娠・出産・育児に伴う身体活動量の経時変化とその要因：エコチル調査宮城ユニットセンターによる追加調査	Yamada A, et al.	運動疫学研究 2021;23(1): 70-83 Research in Exercise Epidemiology 2021;23(1): 70-83
033		Comprehensive metabolomic analysis of first-trimester serum identifies biomarkers of early-onset hypertensive disorder of pregnancy	妊娠初期の包括的な血清代謝産物による、早期発症する妊娠高血圧症候群の病態解明および生物学的指標（バイオマーカー）の識別	Kyozuka H, et al.	Scientific Reports 2020;10(1):13857
032		Plasma oxytocin concentrations during and after gestation in Japanese pregnant women affected by anxiety disorder and endometriosis	妊娠中の血中オキシトシン濃度と不安障害と子宮内膜症の既往歴の影響	Masumoto T, et al.	Yonago Acta Medica 2020;63(4):301-307
031		Cumulative exposure assessment of neonicotinoids and an investigation into their intake-related factors in young children in Japan	日本の幼児におけるネオニコチノイド系殺虫剤の総量曝露評価と薬剤体内摂取に関連する要因の探索	Oya N, et al.	Science of the Total Environment 2021;750:141630

No	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
030		The prevalence and risk factors for postpartum depression symptoms of fathers at one and 6 months postpartum: an adjunct study of the Japan Environment & Children's Study	父親の産後うつについて、産後１か月と６ケ月における頻度とリスク要因；エコチル調査宮城ユニットセンター追加調査より	Nishigori H, et al.	The Journal of Maternal-Fetal and Neonatal Medicine 2020;33(16):2797-2804
029		Sexual difference in 2nd-to-4th digit ratio among 1.5-year-old Japanese children: A cross-sectional study of Aichi regional adjunct cohort of the Japan Environment and Children's Study (JECS-A)	日本人の１歳半児における第２指と第４指の比（2D:4D）の性差：エコチル調査の愛知県コホート（JECS-A）における横断的研究	Yamada Y, et al.	Early Human Development 2020;146:105050
028		Within-individual and interlaboratory variability analyses of urinary metabolites measurements of organophosphorus insecticides	尿中有機リン系殺虫剤代謝物測定における個人間内、施設間内変動	Ito Y, et al.	Journal of Exposure Science and Environmental Epidemiology 2020;30(4):721-729
027		Exposure levels of organophosphate pesticides in Japanese diapered children: Contributions of exposure-related behaviors and mothers' considerations of food selection and preparation	使用済みオムツを用いた日本の幼児における有機リン系殺虫剤曝露量の評価：曝露に関連する行動および母親の食意識による寄与	Oya N, et al.	Environment International 2020;134:105294
026		Associations of erythrocyte fatty acid compositions with FADS1 gene polymorphism in Japanese mothers and infants	日本人の母児における赤血球脂肪酸組成とFADS1遺伝子多型との関連	Nita R, et al.	Prostaglandins, Leukotrienes, and Essential Fatty Acids 2020;152:102031
025	●	The impact of exposure to desert dust on infants' symptoms and countermeasures to reduce the effects	黄砂の乳幼児の症状への影響	Itazawa T, et al.	Allergy 2020;75(6):1435-1445
024		Biomonitoring method for neonicotinoid insecticides in urine of non-toilet-trained children using LC-MS/MS	LC-MS/MSを用いた使い捨ておむつ尿中ネオニコチノイド系殺虫剤測定法の開発	Ueyama J, et al.	Food Additives and Contaminants: Part A 2020;37(2):304-315
023		Cohort profile: Aichi regional sub-cohort of the Japan Environment and Children's Study (JECS-A)	エコチル調査愛知ユニットセンターにおけるコホートプロファイル	Ebara T, et al.	BMJ Open 2019;9(11):e028105
022		Relationships between docosahexaenoic acid compositions of maternal and umbilical cord erythrocytes in pregnant Japanese women	日本の妊娠女性における母体血および臍帯血赤血球中ドコサヘキサエン酸組成間の関連性	Yamada K, et al.	Prostaglandins, Leukotrienes, and Essential Fatty Acids 2019;147:1-5
021		Association between neutralizing antibody titers against Parechovirus A3 in maternal and cord blood pairs and perinatal factors	パレコウイルスA3型に対する母体血、臍帯血の中和抗体価と周産期因子との関連	Shimizu H, et al.	Journal of the Pediatric Infectious Diseases Society 2020;9(3):320-325

No	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
020	●	Association between vitamin D deficiency and allergic symptom in pregnant women	ビタミンD欠乏とアレルギーの関連	Kanatani KT, et al.	PLOS ONE 2019;14(4):e0214797
019	●	High frequency of vitamin D deficiency incurrent pregnant Japanese women associated with UV avoidance and hypo-vitamin D diet	妊婦の血中ビタミンD濃度の分布	Kanatani KT, et al.	PLOS ONE 2019;14(3):e0213264
018		Mother-to-infant bonding failure and intimate partner violence during pregnancy as risk factors for father-to-infant bonding failure at one month postpartum: an adjunct study of the Japan Environment & Children's Study	父親の乳児に対する情緒的絆の障害（ボンディング障害）の実態調査；エコチル調査宮城ユニットセンター追加調査より	Nishigori H, et al.	The Journal of Maternal-Fetal and Neonatal Medicine 2020;33(16):2789-2796
017		Exploration of predictive metabolic factors for gestational diabetes mellitus in Japanese women using metabolomic analysis.	メタボローム解析を用いた妊娠糖尿病発症予測マーカーの探索	Sakurai K, et al.	Journal of Diabetes Investigation 2019;10(2):513-520
016		Positive emotion and its changes during pregnancy: Adjunct Study of Japan Environment and Children's Study in Miyagi prefecture	妊娠中の肯定的な感情とその変化-エコチル宮城ユニット追加調査より-	Nakamura Y, et al.	The Tohoku Journal of Experimental Medicine 2018;245(4):223-230
015		Airborne endotoxin concentrations in indoor and outdoor particulate matter and their predictors in an urban city	一都市における屋内外の空気中粒子状物質に含まれるエンドトキシン濃度とその予測因子	Yoda Y, et al.	Indoor Air 2017;27(5):955-964
014		Status of pregnant women's mental and physical stress and influences of work	妊婦の精神的・身体的ストレス状況と労働による影響の調査	Anan A, et al.	JJOMT 2017;65(4):201-210
013		Association of excessive mobile phone use during pregnancy with birth weight: an Adjunct Study in Kumamoto of Japan Environment and Children's Study	妊娠中携帯電話過剰使用と出生時体重の関連（JECS 追加研究）	Lu X, et al.	Environmental Health and Preventive Medicine 2017;22(1):52
012		Determinants of polyunsaturated fatty acid concentrations in erythrocytes of pregnant Japanese women from a birth cohort study: study protocol and baseline findings of an adjunct study of the Japan Environment & Children's Study	日本人妊娠女性の赤血球中多価不飽和脂肪酸濃度の決定因子：エコチル調査における追加調査の研究プロトコルおよびベースラインデータ	Saito S, et al.	Environmental Health and Preventive Medicine 2017;22(1):22
011		Polyunsaturated fatty acid levels in maternal erythrocytes of Japanese women during pregnancy and after childbirth	日本人女性における妊娠期と出産後の母体血赤血球中多価不飽和脂肪酸レベル	Kawabata T, et al.	Nutrients 2017;9(3):245

No	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
010		Quantitative analysis of organophosphate insecticide metabolites in urine extracted from disposable diapers of toddlers in Japan	日本の幼児の使い捨て紙おむつから抽出した尿中有機リン系殺虫剤代謝物の定量分析	Oya N, et al.	International Journal of Hygiene and Environmental Health 2017;220(2 Pt A):209-216
009		Assessment of questionnaire-based PCB exposure focused on food frequency in birth cohorts in Japan	食事摂取頻度調査票（FFQ）をもちいたポリ塩化ビフェニル（PCBs）曝露の推定	Eguchi A, et al.	Environmental Science and Pollution Research International 2017;24(4):3531-3538
008		Association of serum n-3 polyunsaturated fatty acids with psychological distress in the second and third trimesters of pregnancy: Adjunct Study of Japan Environment and Children's Study	妊娠中後期における抑うつ症状と血清 n-3 系多価不飽和脂肪酸に関するケース・コントロール研究	Hamazaki K, et al.	Prostaglandins, Leukotrienes, and Essential Fatty Acids 2017;114:21-27
007		Survey of motivation to participate in a birth cohort	出生コホート参加へのモチベーションに関する研究	Yamamoto M, et al.	Journal of Human Genetics 2016;61(9):787-791
006		The association between prenatal yoga and the administration of ritodrine hydrochloride during pregnancy: An Adjunct Study of the Japan Environment and Children's Study	妊娠中のヨガ（マタニティ・ヨガ）実践と、塩酸リトドリン投与との関連に関する研究：子どもの健康と環境に関する全国調査における追加調査	Kawanishi Y, et al.	PLOS ONE 2016;11(6):e0158155
005	●	Effect of desert dust exposure on allergic symptoms: A natural experiment in Japan	黄砂のアレルギー症状への影響	Kanatani KT, et al.	Annals of Allergy, Asthma and Immunology 2016;116(5):425-430
004		Serum n-3 polyunsaturated fatty acids and psychological distress in early pregnancy: Adjunct Study of Japan Environment and Children's Study	妊娠前期における抑うつ症状と血清 n-3 系多価不飽和脂肪酸に関するケース・コントロール研究	Hamazaki K, et al.	Translational Psychiatry 2016;6(2):e737
003		Heterogeneity of the fatty acid composition of Japanese placentae for determining the perinatal fatty acid status: a methodological study	周産期の脂肪酸状態の判定を目的とした、日本人胎盤の脂肪酸組成の不均一性に関する方法論的研究	Yamazaki I, et al.	Journal of Oleo Science 2015;64(8):905-914
002		Non-specific psychological distress in women undergoing noninvasive prenatal testing because of advanced maternal age	高齢妊娠で無侵襲的出生前検査を受検した妊婦の非特異的メンタルストレスの検討	Suzumori N, et al.	Prenatal Diagnosis 2014;34(11):1055-1060
001	●	Birth cohort study on the effects of desert dust exposure on children's health: protocol of an adjunct study of the Japan Environment & Children's Study	『黄砂と子どもの健康調査』の計画	Kanatani KT, et al.	BMJ Open 2014;4(6):e004863

１－３　その他の学術雑誌等における発表　131 件

（令和６年 12 月末時点）

No	論文	著者名	雑誌名
131	エコチル調査とは	佐藤 未織, 山本 貴和子	プレコンセプションケア 2024:320-322
130	妊娠間隔と早産との関連について	Tanigawa K, et al.	大阪母子医療センター雑誌 2024;40(1):7-15
129	Psychometric profile of the Ages and Stages Questionnaires, Japanese translation	Mezawa H, et al.	Pediatrics International (2019) 61, 1086-1095
128	食事の質と重金属	大久保 公美	食品と容器 2024;65(12):780-786
127	妊婦の血中および臍帯血金属濃度と在胎不当過小（SGA）児の追いつき成長について	高谷 具純	環境と測定技術 2024;51(10):3-7
126	化学物質曝露の健康影響を調査する－子どもの健康と環境に関する全国調査－	磯部 友彦	廃棄物資源循環学会誌 2024;35(4):248-255
125	Overviewing allergy epidemiology in Japan - Findings from birth cohorts (JECS and T-Child study)	Yamamoto-Hanada K, et al.	Allergology International 2024;73(1):20-30
124	出生前のマンガン，カドミウム，鉛，水銀およびセレン曝露が胎児の形態異常発生に及ぼす影響に関する研究	中村 雄一 ほか	北海道医学雑誌 2024;99(1):20
123	妊娠前後の喫煙と子どもの喘息発症との関連	三宅 邦夫	臨床免疫・アレルギー科 2024;81(3):223-228
122	母親の抗がん剤への職業性曝露と小児白血病の関連	山本 俊亮	臨床血液 2024;65(2):124
121	採血を伴う医学研究に対する小児自身による評価ー動的プロセスとしてのインフォームド・アセントー	由井 秀樹	メディカルエシックス 67 2023;67:78-86
120	育児休暇	鈴木 妙子, 西郡 秀和	周産期医学 2023;53(12):1772-1775
119	Sex steroid hormones and allergic diseases in children: a pilot birth cohort study in the Japan Environment and Children’s Study cohort	Miyaji Y, et al.	BMC Pediatrics 2023;23(1):479
118	エコチル調査でわかったこと、わからないこと	磯部 友彦 ほか	現代化学 2023;11:63-65
117	周産期に起こる父親のメンタルヘルス不調とその実態	鈴木 妙子, 西郡 秀和	臨床助産ケア 2023;16(1):44-50
116	エコチル調査におけるデータベース研究	山本 緑	保健医療科学 2023;72(4):327-336
115	メンタルヘルスにおけるω３系多価不飽和脂肪酸の役割	浜崎 景	日本薬理学雑誌 2023;158(6):460-463
114	小児採血では、わかりやすく簡潔な理由の説明が重要	由井 秀樹 ほか	Medical Technology 2023;51(11):1100-1101
113	エコチル調査における環境曝露の評価	高木 麻衣 ほか	現代化学 2023;10:59-61
112	環境が子どもの健康に及ぼす影響　エコチル調査とは？	中山 祥嗣 ほか	現代化学 2023;9:63-65
111	赤ちゃんへの気持ち質問票を用いた、母親の乳児へのマルトリートメントに対するスクリーニングの有用性	森 美由紀, 西郡 秀和	日本周産期メンタルヘルス学会会 2023;9(1):29-33

No	論文	著者名	雑誌名
110	″父親のちから″の発揮につながる周産期メンタルヘルスケアの課題	鈴木 妙子	日本周産期メンタルヘルス学会会誌 2023;9(1):5-10
109	DOHaD と周産期メンタルヘルス	西郡 秀和	日本周産期メンタルヘルス学会会誌 2023;9(1):65-70
108	攻撃性・敵意性におけるω3 系多価不飽和脂肪酸の役割	浜崎 景	食品と容器 2023;64(5):308-312
107	エコチル調査からみえてきた乳児血管腫の有病率と発症要因	三澤 恵	皮膚病診療 2023;45(4):307-314
106	妊婦の血中セレン・水銀濃度と幼児期までの神経発達：エコチル調査	小林 澄貴	環境と測定技術 2023;50(2):13-16
105	エコチル調査に見る妊婦の葉酸サプリメント摂取と幼児の神経発達について	西郡 秀和	食と医療 2023;24:32-40
104	母親の不安・抑うつの発現時期と児の神経発達への影響	西郡 秀和, 鈴木 妙子	ペリネイタルケア 2023;新春増刊:30
103	Fluctuations of aeroallergen-specific immunoglobulins and children's allergic profiles: Japan Environment & Children's Study of a pilot cohort	Irahara M, et al.	Allergology International 2022;71(3):335-344
102	Comparison of simultaneous quantitative analysis of methylmercury and inorganic mercury in cord blood using LC-ICP-MS and LC-CVAFS: the Pilot Study of the Japan Environment and Children's Study	Iwai-Shimada M, et al.	Toxics 2021;9(4):82
101	Associations of dog and cat ownership with wheezing and asthma in children: Pilot study of the Japan Environment and Children's Study	Taniguchi Y, et al.	PLOS ONE 2020;15(5):e0232604
100	分娩形式と母児愛着～エコチル調査からわかったこと～	吉田 丈俊	チャイルドヘルス 2022;25(12):57-59
99	出生体重・早産に関する大規模出生コホート研究からの研究成果：エコチル調査大阪ユニットセンターより	谷川 果菜美 ほか	大阪母子医療センター雑誌 2022;38(1):1-7
98	妊娠初期における血清インスリン様成長因子１値と産後の抑うつ症状との関連	足立 祥 ほか	精神神経学雑誌 2022;124(9):593-600
97	妊娠中の母親の殺虫剤使用は児の中耳炎と関連があるのか	宇都宮 剛 ほか	兵庫医科大学医学会雑誌 2022;48(1):65-69
96	うつ病とω3 不飽和脂肪酸	浜崎 景	医学のあゆみ 2022;282(8):745-748
95	黄砂と気道アレルギー	板澤 寿子, 金谷 久美子	アレルギー 2022;71(5):382-388
94	Current and future research on influence of parental physical activity on children's physical fitness	Monma K, et al.	Journal of Physical Fitness and Sports Medicine 2022;11(3):169-174
93	鉛、水銀、カドミウムの発生毒性に関する近年の疫学的知見	道川 武紘	産業医学レビュー 2022;35(1):13-41
92	妊娠時における飲酒・喫煙のリスク エコチル調査から	目時 弘仁	臨床婦人科産科 2022;76(5):429-434
91	日本人における乳児血管腫のリスクファクター	三澤 恵	臨床皮膚科 2022;76(5):171-173
90	妊娠中にできる児のアレルギー発症予防	足立 雄一	アレルギーの臨床 2022;42(4):261-264

No	論文	著者名	雑誌名
89	エコチル調査 10 年で見えてきたこと	山本 緑 ほか	小児科 2021;62(7):737-745
88	タバコ煙ばく露を定量的に評価する－尿中コチニン濃度のカットオフ値を用いて	西浜 柚季子 ほか	日本小児禁煙研究会雑誌 2021;11(1):8-15
87	出産前後の性ホルモン変化と産後うつの関連～精神科医師の立場から	菊池 紗耶 ほか	ペリネイタルケア 2021;40(9):856-860
86	先天性外科疾患の予防に係る研究の動向	道川 武紘	小児外科 2021;53(7):758-761
85	出生コホート遺伝子解析に関する母親の意識	山本 緑	メディカル・サイエンス・ダイレクト 2021;47(9):486-489
84	魚に含まれるω3 系多価不飽和脂肪酸と健康―疫学的エビデンス―	浜崎 景	保健の科学 2021;63(5):302-307
83	腸内細菌叢と早産	米田 徳子	早産のすべて：基礎から臨床、DoHaD まで 日本早産学会編, メジカルビュー社 2020
82	環境とアレルギー―子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）から考える	山本 貴和子	子ども健康科学 2021;21(1):43-46
81	育児に必要な社会環境とは？	下野 昌幸	北九州市医報 2020;760:18-20
80	父親の産後うつとボンディング障害	西郡 秀和	精神科治療学 2020;35(10):1113-1117
79	「帝王切開分娩と母児関係　新知見」～エコチル調査、産後 1 年時点でのボンディングを評価～	吉田 丈俊	ペリネイタルケア 2020;39(10):1082-1086
78	産業医科大学におけるエコチル調査の成果	辻 真弓 ほか	産業医科大学雑誌 2020;42(3):275-279
77	出生コホート調査６歳児のサイトカインケモカイン	Yamamoto-Hanada K, et al.	Cytokine 2020;130:155051
76	つわりが強いと早産リスクは下がるのか？	満田 直美	臨床婦人科産科 2020;74(5):475-479
75	妊娠中の身体活動は早産や分娩方法に影響するか？	高見 美緒, 土田 暁子	臨床婦人科産科 2020;74(5):469-474
74	分娩回数が増えると産後うつと胎児愛着は改善するか？	土田 暁子	臨床婦人科産科 2020;74(5):456-462
73	メンタルヘルス　妊娠中に暴言を受けると新生児の聴覚に影響するか？	小森 香	臨床婦人科産科 2020;74(5):451-455
72	妊娠が判明したときの気持ちは産後うつに影響を与えるか？	馬場 幸子	臨床婦人科産科 2020;74(5):445-450
71	妊娠中からの魚食は妊産褥婦の抑うつを減らすのか？	浜崎 景	臨床婦人科産科 2020;74(5):439-444
70	母親の自閉症傾向は子どもへの愛着形成に影響するか？	廣川 空美	臨床婦人科産科 2020;74(5):434-438
69	平成から令和につなぐ福島県におけるエコチル調査	橋本 浩一	化学物質と環境 2020;160:9-10
68	富山ユニットセンターでの調査進捗状況と主な研究成果	山崎（長井）輝美	化学物質と環境 2020;160:7-8
67	子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）	満田 直美	日本小児科学会雑誌 2020;124(3):582-582
66	エコチル調査：概要と最近の知見について	山本 緑	子どもの健康科学 2020;20(1):5-10
65	妊婦のビタミン D 不足とアレルギー症状　エコチル調査追加調査より	金谷 久美子	BabLab 紀要 2019;3:20-22

No	論文	著者名	雑誌名
64	気分障害とω3系多価不飽和脂肪酸	浜崎 景	臨床精神薬理誌 2019;22(11):1037-1043
63	静脈穿刺時の鎮痛薬としてリドカイン-プリロカインクリームの局所塗布とリドカインクリームの局所塗布とを比較したランダム化クロスオーバー試験	Michihata N, et al.	Annals of Clinical Epidemiology 2019;1(3):95-101
62	妊娠中の静脈血栓塞栓症の新しい危険因子：子宮内膜症と習慣流産	杉浦 真弓	日本医師会雑誌 2019;148(6):1127
61	エコチル調査における小児領域の母子保健現場への応用	目澤 秀俊	保健師ジャーナル 2019;75(8):659-663
60	将来を担う子ども達の環境づくりのためのエコチル調査	黒沢 洋一	とっとり公衆衛生 2019;70:1
59	Role of omega-3 polyunsaturated fatty acids in mental health－Studies from Japan	Hamasaki K, et al.	Journal of Oleo Science 2019;68(6):511-515
58	妊娠期および産後抑うつとn-3系多価不飽和脂肪酸	浜崎 景	脂質栄養学雑誌 2019;28(1):16-24
57	大規模出生コホート調査における精神神経発達検査の実施状況と課題～エコチル調査福島ユニットセンターでの取り組みから～	尾形 優香 ほか	福島県保健衛生雑誌 2019;33:52-57
56	子どものベッド埃中の鶏卵抗原濃度とダニ抗原濃度の比較　エコチル調査パイロット調査からの報告	Kitazawa H, et al.	Allergology International 2019;68(3):391-393
55	妊娠期および産後におけるω3系多価不飽和脂肪酸と抑うつ	浜崎 景	食品と開発 2019;54(2):4-7
54	エコチル調査追加調査『黄砂と子どもの健康調査』	金谷 久美子	BabLab紀要 2018;2:17-18
53	エコチル調査を用いた東日本大震災後の福島県における妊娠帰結	Kyozuka H, et al.	The Tohoku Journal of Experimental Medicine 2018;246(1):27-33
52	腹臥位で胸部を挙上できない6か月児の発達に関する検討.環境省「子どもの健康と環境に関する全国調査」産業医科大学サブユニットセンターデータから.	Senju A, et al.	Pediatrics International 2018;60(9):811-819
51	出生コホート研究ー子どもたちの健康を守る環境づくりのために	山本 緑	医学のあゆみ 2018;266(2):169-174
50	黄砂のアレルギーへの影響～子どもを包む空気を考える～	金谷 久美子	大気化学研究誌 2018;39
49	Factors associated with occupation changes after pregnancy/delivery: result from Japan Environment & Children's pilot study	Suga R, et al.	BMC Women's Health 2018;18(1):86
48	エコチル調査における化学物質曝露評価	中山 祥嗣	日本衛生学雑誌 2018;73(2):156-163
47	環境保健研究のジレンマ	村田 勝敬 ほか	日本衛生学雑誌 2018;73(2):148-155
46	エコチル調査（千葉UC）における妊婦の血清葉酸とカフェインを含む飲料の関連について	Otake M, et al.	Journal of Epidemiology 2018;28(10):414-419
45	福島県における「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」追跡期間の課題と取り組み	佐藤 晶子	福島県保健衛生雑誌 2018;31:25-31

No	論文	著者名	雑誌名
44	福島県における「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」－リクルート期間の進捗報告	Hashimoto K, et al.	Fukushima Journal of Medical Science 2017;63(2):57-63
43	エコチル調査における国際連携：背景、活動と今後について	Ishitsuka K, et al.	Environmental Health and Preventive Medicine 2017;22(1):61
42	Comparative study on three different methods for arm-span measurement: the Japan environment and Children's study pilot.	Tsuji M, et al.	Environmental Health and Preventive Medicine 2017;22(1):28
41	小児疫学調査における2歳児を対象とした採血実施状況　福島県における「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」詳細調査から	佐藤 晶子,　橋本 浩一	福島県保健衛生雑誌 2017;29:14-18
40	出生コホート調査参加児へ宛てた手紙が質問票回答率に与える影響　環境省「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」パイロット調査から	Senju A,et al.	Pediatrics International 2016;58(12):1328-1332
39	福島県における「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」	橋本 浩一	福島県保健衛生雑誌 2016;27:28-32
38	Relieving pain and distress during venipuncture: Pilot study of the Japan Environment and Children's Study (JECS)	Yamamoto-Hanada K, et al.	Pediatrics International 2015;57(5):1044-1047
37	Harmonizing biomarker measurements in longitudinal studies of children's health and the environment	Etzel R, et al.	Biomonitoring 2014;1:50-62
36	エコチル調査への期待と責任（特集（エコチル調査に求めるもの一環境リスクから子どもを守るために一）の一部）	橋本 浩一	化学物質と環境 2014;125:43289
35	福島ユニットセンターの活動	橋本 浩一	チャイルドヘルス 2014;19:48-49
34	Rationale and study design of the Japan Environment and Children's Study (JECS)	Kawamoto T, et al.	BMC Public Health 2014;14:25
33	ポリ塩化ビフェニル（PCB)と胎盤の合胞体栄養膜細胞と胎盤増殖因子の関係	Tsuji M, et al.	Placenta 2013;34(7):619-23
32	Mental and physical stress of pregnant women and work	Anan A, et al.	日本職業・災害医学会会誌 JJOMT 2012;60:45-54
31	北海道3地区における妊婦の喫煙の実態について：環境省「子どもの環境と健康に関する全国調査（エコチル調査）」北海道ユニットセンター登録者のデータから	荒木 敦子 ほか	北海道公衆衛生学雑誌 2013;27(2):105-113
30	子どもの成長・発達に影響を与える環境要因を明らかにする取り組み―エコチル調査	川本 俊弘	環境情報科学 2013;41(4):16-20
29	東日本大震災後の福島の子どもたちとエコチル調査ができること	橋本 浩一	とやま小児保健 2012;10:16-18
28	上伊那地域における「子どもの健康と環境に関する全国調査」	堺 温哉 ほか	信州公衆衛生雑誌 2012;6(2):101-106
27	妊娠中の体重変化が胎盤アミノ酸輸送機能に与える影響	菅 礼子 ほか	産婦人科治療 2011;103(5):550-556

No	論文	著者名	雑誌名
26	「子どもの健康と環境に関する全国調査」（エコチル調査）始まる	新田 裕史	日本医事新報 2011;4560:48-49
25	エコチル調査の特徴と米国の動向	新田 裕史	ビオフィリア 2011;7(3):71-73
24	エコチル調査が本格スタート 子どもの環境影響に関する大規模調査への理解を	戸高 恵美子	助産雑誌 2011;65(9):810-815
23	子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）の意義と今後の展望	佐藤 洋	公衆衛生 2011;75(7):529-532
22	なぜ子どもへの環境影響が重要なのか？－エコチル調査の科学的背景	藤原 武男	ビオフィリア 2011:7(1):59-62
21	エコチル調査 ―パイロット調査―	諸隈 誠一	ビオフィリア 2010;6(4):72-75
20	子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）の概要	佐藤 洋	保健医療科学 2010;59(4):360-365
19	環境汚染物質と出生性比	須藤 紀子	保健医療科学 2010;59(4):325-329
18	喘息の環境要因	藤原 武男，大澤 万伊子	保健医療科学 2010;59(4):351-359
17	自閉症の環境要因	藤原 武男，高松 育子	保健医療科学 2010;59(4):330-337
16	世界における先行出生コホート研究の教訓	村田 勝敬，間正 理恵	医学のあゆみ 2010;235(11):1127-1132
15	わが国における研究事例：東北スタディ	仲井 邦彦，佐藤 洋	医学のあゆみ 2010;235(11):1123-1126
14	″エコチル調査″に望むもの：小児科の立場から	横田 俊平	医学のあゆみ 2010;235(11):1113-1116
13	環境化学物質の次世代影響に関するわが国における研究事例―北海道スタディの概要とこれまでの成果	岸 玲子，佐々木 成子	医学のあゆみ 2010;235(11):1117-1121
12	″エコチル調査″に望むもの：産科の立場から	江川 美保，小西 郁生	医学のあゆみ 2010;235(11):1107-1112
11	″エコチル調査″に望むもの：公衆衛生・疫学の立場から	山縣 然太朗	医学のあゆみ 2010;235(11):1104-1106
10	″エコチル調査″とメディカルサポートセンターの役割	藤原 武男 ほか	医学のあゆみ 2010;235(11):1100-1103
9	″エコチル調査″の概要とコアセンターの役割	川本 俊弘，新田 裕史	医学のあゆみ 2010;235(11):1093-1098
8	″エコチル調査″に至るまで	塚本 直也	医学のあゆみ 2010;235(11):1087-1092
7	″エコチル調査″前史	佐藤 洋	医学のあゆみ 2010;235(11):1083-1086
6	子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）について	藤原 武男	小児保健研究 2010;69(6):727-734
5	子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）について	丹藤 昌治	公衆衛生 2010;74(8):721-723
4	「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」について	丹藤 昌治	ファルマシア 2010;46(7):677-680
3	エコチル調査 子どもの健康と環境に関する全国調査	丹藤 昌治	ビオフィリア 2010;6(2):75-77
2	わが国の小児環境保健に対する取り組み―エコチル調査の開始にあたって―	稲寺 秀邦	富山大学医学会誌 2010;21(1):23-30
1	環境省「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」	丹藤 昌治	ペリネイタルケア 2009;28(12):66-72

１－４　学会での発表　147 件

（令和６年１月から令和６年 12 月末）

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表形態	学会名	発表タイトル	追加調査
1	コアセンター	2024/3/8	口頭	第 94 回日本衛生学会学術総会	エコチル調査のデータ共有システムを用いた研究成果の社会還元の促進	
2	コアセンター	2024/3/8	口頭	第 94 回日本衛生学会学術総会	母親尿中ネオニコチノイド系農薬濃度と子どもの発達との関連	
3	コアセンター	2024/3/17	集会	日本アレルギー学会第 10 回総合アレルギー講習会	アレルギーの環境要因についてエコチルデータ解析	
4	コアセンター	2024/6/10	ポスター	2024 National PFAS Conference	Exposure Assessment in Japan Environment and Children’s Study (JECS)	
5	コアセンター	2024/10/30	口頭	第 83 回日本公衆衛生学会総会	妊娠期の母親の血中元素類と３歳までの子どもの体重推移との関連：エコチル調査	
6	コアセンター	2024/10/30	口頭	第 83 回日本公衆衛生学会総会	妊娠期の母親の血中元素類と３歳までの子どもの体重推移との関連：エコチル調査	
7	メディカルサポートセンター	2024/2/2	口頭	第 34 回日本疫学会学術総会	エコチル調査でのゲノムを用いた分子疫学研究の意義	
8	メディカルサポートセンター	2024/4/19	口頭	第 127 回日本小児科学会学術集会	総合シンポジウム２　エコチル調査の現状と今後の展望　エコチル調査におけるゲノム解析の現状と今後の展望	
9	メディカルサポートセンター	2024/4/19	口頭	第 127 回日本小児科学会学術集会	1 から 3 歳の子どものテレビ・DVD の視聴時間と発達との関連: エコチル調査より	
10	メディカルサポートセンター	2024/9/6	口頭	the 14th Annual Epidemiology Symposium of Allergic Diseases （韓国、ソウル、オンラインで発表）	Cytokine, microbiome, and allergic features from JECS pilot and TOY Study シンポジウム	
11	メディカルサポートセンター	2024/11/10	口頭	第 51 回日本小児臨床薬理学会学術集会	シンポジウム 3 本邦の出生コホートの位置づけを知り活用する　子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査） の概要と成果	
12	北海道ユニットセンター	2024/3/8	ポスター	第 94 回日本衛生学会学術総会	口唇口蓋裂を有する 1 歳児の下気道感染症罹患リスク：エコチル調査より	
13	北海道ユニットセンター	2024/9/20	口頭	日本臨床環境医学会 環境アレルギー分科会 オンライン講演	妊娠中の室内環境要因と 3 歳までの小児湿疹の発症リスクとの関連: 子どもの健康と環境に関する全国調査（環境省エコチル調査）	
14	北海道ユニットセンター	2024/10/13	口頭	第 12 回日本 DOHaD 学会学術集会シンポジウム	DOHaD の視点で妊婦の体重増加を再考する：大規模出生コーホートより	
15	北海道ユニットセンター	2024/10/19	口頭	第 35 回日本成長学会学術集会	北海道妊婦の血中ビタミン D 濃度の実態調査	○
16	北海道ユニットセンター	2024/10/19	口頭	第 35 回日本成長学会学術集会	エコチル調査における成長研究の成果と今後の展望	
17	北海道ユニットセンター	2024/10/19	口頭	第 35 回日本成長学会学術集会	エコチル調査から見た、口唇口蓋裂を例とした先天異常における環境疫学の役割とその将来	
18	北海道ユニットセンター	2024/11/8	口頭	第 68 回日本新生児成育医学会・学術集会	出生前のマンガン，カドミウム，鉛，水銀およびセレン曝露が胎児の形態異常発生に及ぼす影響に関する研究	

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表形態	学会名	発表タイトル	追加調査
19	北海道ユニットセンター	2024/11/26	口頭	International Society for Sanitation Studies (ISSS) Annual Conference 2024	Impact of flooring materials and pediatric asthma in the Japan Environment and Children's Study	
20	北海道ユニットセンター	2024/12/14	口頭	第14回オホーツク医学大会	エコチル調査：北見地区の進捗状況および今後の進行について	
21	宮城ユニットセンター	2024/2/7	口頭	いわきっ子健やか訪問事業従事者研修会	周産期における母親、父親のメンタルヘルス及びその対応について	○
22	宮城ユニットセンター	2024/2/10	口頭	第42回 青森県・県南周産期セミナー	父親の周産期メンタルヘルス支援の必要性 ～育児参加推進に向けた課題～	○
23	宮城ユニットセンター	2024/2/10	口頭	第29回日本SIDS・乳幼児突然死予防学会学術集会	乳幼児期の肺発達とSIDS	
24	宮城ユニットセンター	2024/3/17	ポスター	日本発育発達学会第22回大会	妊娠前から育児期における母親の身体活動と幼児期の子どもの身体活動の関連：エコチル調査宮城ユニットセンターによる追加調査	○
25	宮城ユニットセンター	2024/7/13	口頭	第60回日本周産期・新生児医学会学術集会	妊婦の出生体重と早発および遅発型妊娠高血圧症候群発症との関連	
26	宮城ユニットセンター	2024/7/26	口頭	第73回東北公衆衛生学会	自閉スペクトラム症の児に対する養育者の態度－エコチル調査より－	
27	宮城ユニットセンター	2024/10/26	口頭	第20回日本周産期メンタルヘルス学会学術集会	育児期に新規発症する父親の産後うつのリスク	○
28	宮城ユニットセンター	2024/11/9	口頭	第13回東北口腔衛生学会	宮城県における乳前歯の萌出時期について	
29	宮城ユニットセンター	2024/11/23	口頭	第40回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会	母体出生体重と前半期および後半期妊娠糖尿病との関連	
30	福島ユニットセンター	2024/4/20	口頭	第76回日本産科婦人科学会学術講演会	Targeted metabolomic analysis of early-trimester serum identifies potential mechanism for late-onset preeclampsia	○
31	福島ユニットセンター	2024/5/18	口頭	第155回東北連合産科婦人科学会学術講演会	続けることが、力になる	
32	福島ユニットセンター	2024/8/22	口頭	第48回日本女性栄養・代謝学会学術集会	妊娠前の食物繊維摂取量と早産の関連：エコチル調査	
33	千葉ユニットセンター	2024/2/1	ポスター	第34回日本疫学会学術総会	1－3歳の子どものテレビ・DVDの視聴時間と発達との関連	
34	千葉ユニットセンター	2024/3/7	口頭	第94回衛生学会学術総会	エコチル調査の中心仮説解明への取り組みと新規統計手法の紹介	
35	千葉ユニットセンター	2024/3/8	ポスター	第94回日本衛生学会学術総会	妊娠期のヨウ素摂取と3歳までの発達の遅れとの関連：エコチル調査	
36	千葉ユニットセンター	2024/3/8	ポスター	第94回日本衛生学会学術総会	つわりによる対児愛着への影響と産後うつの媒介効果：エコチル調査	
37	千葉ユニットセンター	2024/3/8	口頭	第94回　日本衛生学会学術総会	出生コホートデータを用いた機械学習による妊娠糖尿病予測	
38	千葉ユニットセンター	2024/4/19	口頭	第127回日本小児科学会学術集会 総合シンポジウム「エコチル調査の現状と今後の展望」	エコチル調査でわかったこと、千葉ユニットセンター発信のトピックス	
39	千葉ユニットセンター	2024/6/25	口頭	ISEE-AWPC & ISES-AC Conference 2024	Directional associations between screen time and performance on developmental screeners in toddlerhood: the Japan Environment and Children's Study	
40	千葉ユニットセンター	2024/12/6	口頭	日本内分泌撹乱物質学会第26回研究発表会	子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）	

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表形態	学会名	発表タイトル	追加調査
41	神奈川ユニットセンター	2024/2/3	口頭	第 19 回神奈川県川崎病研究会	妊娠中の母親の葉酸血中濃度と乳児期の川崎病発症との関連：エコチル調査より	
42	神奈川ユニットセンター	2024/5/3	ポスター	Pediatric Academic Societies Meeting 2024	Association between maternal serum folic acid levels and onset of Kawasaki disease in offspring during infancy: The Japan Environment and Children's Study	
43	神奈川ユニットセンター	2024/5/4	口頭	PAS meeting 2024	Association between occurrence of congenital heart defects in offspring and maternal environmental factors in early pregnancy: the Japan Environment and Children's Study.	
44	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2024/2/1	ポスター	第 34 回日本疫学会学術総会	幼少期のエンドトキシンとチリダニ抗原曝露と抗原感作とアレルギー性鼻炎との関連：エコチル調査より	
45	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2024/2/22	口頭	第 30 回山梨緑内障研究会	子供の健康と環境に関する全国調査の追加調査における，8 歳児の視神経乳頭と網膜構造の特徴と関連因子	○
46	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2024/3/7	集会	第 94 回日本衛生学会学術総会	エコチル調査の成果：中心仮説外（甲信ユニットセンター）	
47	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2024/4/11	口頭	第 4 回耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会	８歳児におけるアレルギー性鼻炎と腸内細菌叢との関連	○
48	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2024/4/19	口頭	第 128 回日本眼科学学会総会	８歳児の屈折異常・眼軸と体組成、肥満との関連	○
49	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2024/4/19	口頭	第 128 回日本眼科学会	子どもの健康と環境に関する全国調査（JECS）8 歳児の 屈折異常と関連因子の 4 年間の推移	○
50	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2024/4/19	口頭	第 127 回日本小児科学会学術集会	エコチル調査でわかったこと ー甲信ユニットセンター山梨からの発信ー 力	
51	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2024/5/17	口頭	第 125 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会	スギ花粉症におけるダニ感作の影響について	○
52	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2024/7/11	口頭	第 33 回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会	小児の昼間尿失禁と夜尿症に関与する因子：横断的コホート研究（エコチル調査より）	○
53	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2024/7/21	ポスター	第 78 回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会	8 歳から 12 歳における咬合力の推移と口腔悪習癖および歯列との関係：縦断的研究	○
54	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2024/9/6	口頭	第 31 回日本排尿機能学会	小児の昼間尿失禁と夜尿症に関与する因子：エコチル調査による横断的コホート研究	○
55	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2024/10/29	ポスター	第 83 回日本公衆衛生学会総会	日本において乳児期のピーナッツ導入はピーナッツアレルギー予防効果があるのか？：エコチル調査より	
56	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2024/11/3	口頭	第 61 回日本小児アレルギー学会学術大会	フィラグリン遺伝子変異の伝染性軟属腫の臨床的特徴への影響：エコチル山梨追加調査より	

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表形態	学会名	発表タイトル	追加調査
57	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2024/11/7	口頭	第49回日本足の外科学会学術集会	小学生における浮き趾の頻度とその経時的変化	○
58	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2024/11/7	ポスター	第49回日本足の外科学会学術集会	小学生における扁平足の頻度とその経時的変化	○
59	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2024/11/16	ポスター	第78回　日本臨床眼科学会	小児の屈折異常、眼軸と運動能力との関連	○
60	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2024/12/13	口頭	第35回日本小児整形外科学会学術集会	小児における体組成とスポーツテスト結果の関連性について	○
61	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2024/12/16	ポスター	令和6年度 学生主催合同ワークショップ	小児の屈折異常、眼軸と運動能力との関連	○
62	甲信サブユニットセンター（信州大学）	2024/5/30	ポスター	第２３回乳幼児けいれん研究会国際シンポジウム	Hypertensive disorders of pregnancy increase the incidence of febrile seizures in offspring: national birth cohort	
63	甲信サブユニットセンター（信州大学）	2024/10/30	口頭	第83回日本公衆衛生学会総会	妊婦の有機フッ素化合物曝露と４歳児の喘鳴・喘息との関連～エコチル調査より～	
64	富山ユニットセンター	2024/2/2	ポスター	第34回日本疫学会学術総会	妊娠中における犬・猫の飼育と産後1年までの母親の精神健康：エコチル調査	
65	富山ユニットセンター	2024/2/9	口頭	2023年度 富山大学 若手向け研究発表会	妊娠中の母親の魚の摂取と3歳時点における神経発達の関係：子どもの健康と環境に関する全国調査	
66	富山ユニットセンター	2024/3/7	口頭2_ポスター	27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS 2024)	Factors Influencing Exclusive Breastfeeding Rates Until 6 months Postpartum: The Japan Environment and Children’s Study	
67	富山ユニットセンター	2024/3/9	ポスター	第94回 日本衛生学会学術総会	妊娠中における犬・猫の飼育と産後不安・抑うつ・快感消失との関連：エコチル調査	
68	富山ユニットセンター	2024/3/9	ポスター	第94回 日本衛生学会学術総会	入浴時の石けん類使用頻度と幼児期のアレルギー疾患の関連 ：エコチル調査より	
69	富山ユニットセンター	2024/3/9	ポスター	第94回 日本衛生学会学術総会	小学2年生の骨密度と関連する因子の検討：エコチル追加調査より	○
70	富山ユニットセンター	2024/4/19	口頭	第127回日本小児科学会学術集会シンポジウム	総合シンポジウム2 エコチル調査の現状と今後の展望 エコチル調査で分かったこと～富山ユニットセンター発信のトピックス～	○
71	富山ユニットセンター	2024/7/13	ポスター	第60回日本周産期・新生児医学会学術集会	帝王切開が幼児期における母親の子育てストレスに与える影響	
72	富山ユニットセンター	2024/7/15	口頭	第60回日本周産期・新生児医学会学術集会	帝王切開による出生と3歳における神経発達症との関連性	
73	富山ユニットセンター	2024/7/27	口頭	第35回日本レーザー医学会西日本大会	ランチョンセミナー 乳児血管腫 Update ～なぜできる？どう治療する？～	

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表形態	学会名	発表タイトル	追加調査
74	富山ユニットセンター	2024/7/29	ポスター	The 77th Annual Conference of the World Association for Public Opinion Research and the 7th Joint Annual Conference WAPOR Asia Pacific Regional Chapter	Prospective Evidence for a Dose-Dependent Association Between Working Hours and Fathers' Parenting Behaviour with Their Infants: The Japan Environment and Children's Study	
75	富山ユニットセンター	2024/7/29	ポスター	The 77th Annual Conference of the World Association for Public Opinion Research and the 7th Joint Annual Conference WAPOR Asia Pacific Regional Chapter (JECS)	Factors Related to Lack of Response or Loss to Follow-up Among Japanese Mothers During the First Year Postpartum in the Japan Environment and Children's Study	
76	富山ユニットセンター	2024/8/24	口頭	第32回母乳育児シンポジウム	母子同室と早期授乳が生後6か月までの完全母乳率を上げる	
77	富山ユニットセンター	2024/8/24	口頭	第32回母乳育児シンポジウム	母乳育児に関してエコチル調査から見えてきたこと～エコチル調査とは～	
78	富山ユニットセンター	2024/8/24	口頭	第32回母乳育児シンポジウム	母乳育児と産後うつとの関連について	
79	富山ユニットセンター	2024/9/8	ポスター	日本心理学会第88回大会	妊婦健診受診状況と低出生体重児割合との関係 子どもの健康と環境に関する全国調査	
80	富山ユニットセンター	2024/9/20	口頭	第71回北関東医学会総会	特別講演Ⅲ 母子におけるω3系多価不飽和脂肪酸の役割	
81	富山ユニットセンター	2024/10/6	口頭	第63回富山県小児保健学会	妊娠中の魚摂取と生まれてきた子の神経発達の関係－エコチル調査より－	
82	富山ユニットセンター	2024/10/6	口頭	第63回富山県小児保健学会	ウェアラブル端末を用いて測定した小学6年生の睡眠と身体活動の実態（エコチルの追加調査）	○
83	富山ユニットセンター	2024/10/18	口頭	第73回日本アレルギー学会学術大会	アジアの出生コホート研究が明らかにするアレルギーのリスク因子～出生季節や入浴行動などの影響～	○
84	富山ユニットセンター	2024/10/19	ポスター	The 14th Mind-Body Interface International Symposium	Maternal dietary intake of omega-3 polyunsaturated fatty acids and risk of infant maltreatment: results from the Japan Environment and Children's Study	
85	富山ユニットセンター	2024/10/19	ポスター	The 14th Mind-Body Interface International Symposium	Maternal dietary intake of fish and child neurodevelopment at 3 years: results from the Japan Environment and Children's Study	
86	富山ユニットセンター	2024/10/29	ポスター	第83回日本公衆衛生学会総会	妊婦のn-3 PUFA・魚介類摂取と出生児のアレルギー発症：エコチル調査	
87	富山ユニットセンター	2024/10/29	ポスター	第83回日本公衆衛生学会総会	国籍による妊娠中の体重増加量に対する理解の違い、エコチル調査より	
88	富山ユニットセンター	2024/10/30	ポスター	第83回日本公衆衛生学会総会	妊娠中の近隣ソーシャル・キャピタルと産後うつの関連：エコチル調査	

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表形態	学会名	発表タイトル	追加調査
89	富山ユニットセンター	2024/10/31	ポスター	第83回日本公衆衛生学会総会	妊娠中の魚摂取と生まれた子の神経発達の関係 ―子どもの健康と環境に関する全国調査―	
90	富山ユニットセンター	2024/11/16	ポスター	グローバルヘルス合同大会2024 第65回日本熱帯医学会大会・第39回日本国際保健医療学会学術大会・第1回台湾グローバルヘルス大会	国籍による妊娠中の体重増加量に対する理解の違いとその影響、子ども健康と環境に関する全国調査より	
91	富山ユニットセンター	2024/11/22	口頭	Asia Pacific Academy of Pediatric Allergy, Respirology & Immunology 2024 (Shenzhen)	Association of soap use when bathing 18-month-old infants with the prevalence of allergic diseases at age 3 years: The Japan Environment and Children's Study	
92	富山ユニットセンター	2024/12/6	口頭	日本産業衛生学会 第1回関東地方会学会	食と栄養から見た働く人のメンタルヘルス	
93	富山ユニットセンター	2024/12/20	口頭	第58回富山県公衆衛生学会	ウェアラブル端末にて測定した小学6年生の通学日と休日の身体活動の比較（エコチル調査の追加調査より）	○
94	愛知ユニットセンター	2024/2/2	ポスター	第34回　日本疫学会学術集会	出生順位と出生時から4歳までの成長の関連	
95	愛知ユニットセンター	2024/3/6	口頭	日本発達心理学会 第35回大会	青年期における生物学的発達とその意味：青年の制御能力に着目して	
96	愛知ユニットセンター	2024/3/8	口頭	第94階日本衛生学会	エコチル調査参加小6児童のTransient elastographyによる肝硬度と脂肪肝指標について	○
97	愛知ユニットセンター	2024/3/9	ポスター	第93回日本衛生学会	エコチル調査愛知ユニットセンターにおける小６学童期検査の参加者属性と参加動機について	
98	愛知ユニットセンター	2024/6/1	口頭	第６回日本不育症学会学術集会	不育症患者の周産期予後：エコチル調査	
99	愛知ユニットセンター	2024/7/6	口頭	第70回 東海公衆衛生学会学術大会	Investigation of the association between maternal vegetable intake during pregnancy and children's liver function enzyme at the age of 8 years	○
100	愛知ユニットセンター	2024/9/21	口頭	第97回　名市大小児科臨床集談会	出生順位と出生時から4歳までの成長の関連：エコチル調査	
101	愛知ユニットセンター	2024/10/30	口頭	第83回日本公衆衛生学会総会	エコチル調査のこれまでの到達点と成果	
102	愛知ユニットセンター	2024/11/10	口頭	第13回日本情動学会大会	赤ちゃんの気晴らし学習を支えるもの	○
103	愛知ユニットセンター	2024/11/30	口頭	2024年度　日本産業衛生学会　東海地方会学会	エコチル調査参加成人女性における歯磨き回数と高値血圧の関連	○
104	京都ユニットセンター	2024/3/3	ポスター	日本子ども健康科学会2024	小学校低学年の子と親のCOVID-19に関するコミュニケーション：親子へのインタビューによる質的研究	○
105	京都ユニットセンター	2024/4/19	集会	第１２７回日本小児科学会	エコチル調査でわかったこと，京都ユニットセンターの報告から	○
106	京都ユニットセンター	2024/5/11	口頭	第28回生殖医学フォーラム	エコチル調査における妊娠初期の低MCVと周産期メンタルヘルスとの関連	
107	京都ユニットセンター	2024/8/24	ポスター	日本赤ちゃん学会第24回学術集会	小学低学年児童の睡眠の質に及ぼす気質因子	○

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表形態	学会名	発表タイトル	追加調査
108	京都ユニットセンター	2024/11/10	口頭	第 39 回女性医学学会学術集会	環境省エコチル調査における妊娠初期の低 MCV と周産期メンタルヘルスとの関連-鉄欠乏に関する考察-	
109	大阪ユニットセンター	2024/4/19	口頭	第 127 回日本小児科学会学術集会	エコチル調査でわかったこと ―大阪ユニットセンターの報告から―	
110	大阪ユニットセンター	2024/4/19	口頭	第 127 回日本小児科学会学術集会	新生児黄疸に対する光療法と睡眠子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)より	
111	大阪ユニットセンター	2024/4/20	口頭	第 127 回日本小児科学会学術集会	新生児黄疸に対する光療法の期間とアレルギー疾患　子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)より	
112	大阪ユニットセンター	2024/4/20	口頭	第 127 回日本小児科学会学術集会	新生児黄疸に対する光療法と発達遅滞　子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)より	
113	大阪ユニットセンター	2024/10/11	口頭	第 57 回日本小児内分泌学会学術集会	「体内時計が乱れると太る」は、生命現象の本質なのか？	
114	大阪ユニットセンター	2024/10/30	ポスター	第 83 回日本公衆衛生学会総会	既婚女性における家事・育児担当割合が精神健康に及ぼす影響に関する疫学研究	○
115	兵庫ユニットセンター	2024/3/7	口頭	第 94 回日本衛生学会学術総会	妊娠中および出生後の大気汚染曝露と 6 歳時点での子どもの認知能力および行動との関連	○
116	兵庫ユニットセンター	2024/5/18	口頭	第 292 回日本小児科学会兵庫県地方会	妊婦のスプレー製剤使用と子どもの腎泌尿器異常との関連	
117	兵庫ユニットセンター	2024/8/25	ポスター	日本心理臨床学会第 43 回大会	母親の人格傾向および養育態度が 8 歳の子どもの行動に与える影響	○
118	兵庫ユニットセンター	2024/9/11	ポスター	第 65 回大気環境学会年会	一般住宅における室内空気汚染物質濃度と生活環境	○
119	兵庫ユニットセンター	2024/9/14	口頭	公益社団法人日本麻酔科学会 第 70 回関西支部学術集会	特別講演「麻酔と子どもの神経発達～エコチル調査の知見から～」	
120	鳥取ユニットセンター	2024/3/9	ポスター	第９４回日本衛生学会学術総会	妊娠初期の交代制勤務と妊娠中の間食及び不適切な体重増加との関連：エコチル調査	
121	鳥取ユニットセンター	2024/5/31	ポスター	第 66 回日本小児神経学会学術総会	Association of In-Utero Corticosteroid and β-2-Adrenergic Agonist Exposure with Offspring Neurodevelopmental Outcome	
122	鳥取ユニットセンター	2024/10/29	口頭	第 83 回日本公衆衛生学会総会	妊娠中の喘息薬使用と 3 歳時点での子どもの発達の関連：エコチル調査より	
123	高知ユニットセンター	2024/2/14	ポスター	第 23 回 KMS Research Meeeting	ベイズ推論を用いた小児肥満と肥満関連 SNPs との関連性の検討 ―エコチル調査追加調査―	○
124	高知ユニットセンター	2024/2/25	口頭	第 105 回日本小児科学会高知地方会	『こどもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）』 ―進捗報告および今後の展望―	
125	高知ユニットセンター	2024/3/8	口頭	第 94 回日本衛生学会学術総会	Vitamin D and neurodevelopment at 2 years of age - Results from the Japan Environment and Children's Study (JECS)	
126	高知ユニットセンター	2024/3/8	口頭	第 94 回日本衛生学会学術集会	幼児期の身長と体重の増加が 8 歳児の AST/ALT 比に及ぼす影響	○
127	高知ユニットセンター	2024/3/8	ポスター	第 94 回日本衛生学会学術集会	妊娠中の母体喫煙と 8 歳時の脂質プロファイルの関連性について-エコチル調査追加調査より	○

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表形態	学会名	発表タイトル	追加調査
128	高知ユニットセンター	2024/3/8	口頭	第 94 回日本衛生学会学術集会	エコチル調査高知ユニットセンターでのコホート研究拠点運営を通じて	
129	高知ユニットセンター	2024/3/9	ポスター	第 94 回日本衛生学会学術集会	小児肥満と肥満関連 SNPs との関連性 ―エコチル調査追加調査―	○
130	高知ユニットセンター	2024/4/19	口頭	第 127 回日本小児科学会学術集会	エコチル調査でわかったこと、高知ユニットセンターの報告から	
131	高知ユニットセンター	2024/6/28	ポスター	第 67 回日本腎臓学会学術総会	エコチル調査における 8 歳時の血清クレアチニンおよびシスタチン C による推定糸球体濾過量の相関	○
132	高知ユニットセンター	2024/7/7	口頭	第 7 回眼科アレルギー学会	8 歳児の涙液中総 IgE 陽性率とその関連因子について	○
133	高知ユニットセンター	2024/10/20	口頭	第 73 回日本アレルギー学会学術大会	エコチル調査における 8 歳児の涙液中総 IgE 陽性率とその関連因子について	○
134	高知ユニットセンター	2024/10/30	ポスター	第 83 回日本公衆衛生学会総会	Validity of the ESSENCE-Q neurodevelopmental screening tool in Japan	
135	福岡ユニットセンター（産業医大）	2024/4/20	口頭	第 127 回　日本小児科学会	Occupational exposure of pregnant women to refined oil and infant wheezing: Japan environment and children's study findings	○
136	福岡ユニットセンター（産業医大）	2024/5/16	口頭	第 62 回日本小児歯科学会大会	子どもの口腔環境と母親の口腔環境の相互影響に関する研究	○
137	福岡ユニットセンター（産業医大）	2024/11/17	ポスター	日本小児歯科学会　第 42 回九州地方会及び総会	学童期における口腔乾燥の自覚症状と齲蝕の関連性	○
138	福岡ユニットセンター（九州大学）	2024/4/19	口頭	第 127 回日本小児科学会学術集会	妊娠中の金属濃度と先天性腎尿路異常の発症：こどもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）	
139	福岡ユニットセンター（九州大学）	2024/4/19	口頭	第 127 回　日本小児科学会学術集会	両親の医療用物質に対する職業性曝露と 3 歳までの小児がん発症の潜在性リスク： 子どもの健康と環境に関する全国調査	
140	福岡ユニットセンター（九州大学）	2024/4/19	口頭	第 127 回日本小児科学会学術集会	エコチル調査でわかったこと、福岡ユニットセンターからの報告～両親の医療用物質曝露と小児がん～	
141	福岡ユニットセンター（九州大学）	2024/6/7	口頭	日本産婦人科・新生児血液学会	母体の職業性医療用物質曝露が新生児からの造血器腫瘍性疾患の発症に及ぼす可能性	
142	福岡ユニットセンター（九州大学）	2024/7/13	ポスター	The 14th International Symposium of the Japanese Society of Hematology (JSH)	Childhood leukemia and parental occupational exposure: The Japan Environment and Children' s Study	
143	福岡ユニットセンター（九州大学）	2024/7/14	口頭	The 14th International Symposium of the Japanese Society of Hematology (JSH)	Childhood leukemia and parental occupational exposure: The Japan Environment and Children' s Study	
144	福岡ユニットセンター（九州大学）	2024/10/11	口頭	第 86 回 日本血液学会学術集会	Occupational exposure of parents and non-infant leukemia in their offspring in Japan	

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表形態	学会名	発表タイトル	追加調査
145	南九州沖縄ユニットセンター（熊本）	2024/3/7	集会	第 94 回日本衛生学会	エコチル調査のこれまでとこれから	○
146	南九州沖縄ユニットセンター（熊本）	2024/3/8	ポスター	第 94 回日本衛生学会学術総会	妊娠女性の抗核抗体と化学物質曝露との関連性：エコチル追加調査による横断的研究	○
147	南九州沖縄ユニットセンター（熊本）	2024/3/9	口頭	第 94 回 日本衛生学会学術総会	電子機器の過剰使用による身体及びメンタルヘルスへの影響評価	○

１－５　一般広報　230 件

（令和６年１月から令和６年 12 月末）

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
1	コアセンター	2024/2/18	妊娠前からの母親の食事の質が母体血中重金属濃度と児の低出生体重に及ぼす影響	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	イベント講演等（対面）	第 13 回エコチル調査シンポジウム				
2	コアセンター	2024/3/2	【講演① 乳歯調査からわかること】 ご提供いただいた乳歯から、何がわかるの？どんな分析をしているの?	参加者/その他（富山大学関係者）	イベント講演等（対面）	エコチルとやま感謝フェスタ		80	80	
3	コアセンター	2024/6/3	PFAS 曝露と子どもの健康との関連ーエコチル調査による影響評価ー	大学等の学生/その他（セミナー参加登録者（主に学会会員、一部一般参加））	イベント講演等（対面）	2024 年度 一般社団法人日本環境化学会　関東地区部会・POPs 部会共同企画セミナー		140		参加数内訳： 対面 30、オンライン 110
4	コアセンター	2024/10/29	エコチル調査から得られた結果 ばく露要因（化学物質）と健康アウトカムの関係	その他（第 83 回日本公衆衛生学会総会参加者）	イベント講演等（対面）	第 83 回日本公衆衛生学会総会		3,500	80	
5	コアセンター	2024/11/16	エコチル調査　成長期に適正な体重管理と質のよい食事を！	その他（第 70 回日本学校保健学会参加者）	イベント講演等（対面）	第 70 回日本学校保健学会		200	30	
6	コアセンター	2024/11/22	エコチル調査からわかってきたこと ー鉛に着目してー	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）	その他(オンライン開催)	第 11 回幡多・第 34 回地域エコチル調査運営協議会			20	
7	コアセンター	2024/11/22	高知大学：医学科授業「基礎社会医学」での講義	大学等の学生	イベント講演等（対面）	高知大学：医学科授業「基礎社会医学」での講義		93		
8	コアセンター	2024/11/30	エコチル調査から得られた結果	その他（2024 年室内環境学会学術総会参加者）	イベント講演等（対面）	2024 年室内環境学会学術総会		357	30	
9	メディカルサポートセンター	2024/2/8	Parental Stress and Food allergy phenotypes in Young Children: A National Birth Cohort (JECS)	その他（世界の研究者 一般の方）	その他（https://youtu.be/C7dM9Kx9Pmk?f）					
10	北海道ユニットセンター	2024/2/7	北見サブユニット通信すまいる第 12 号	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者	広報誌等（紙面）	北見サブユニット通信すまいる第 12 号	1,133			
11	北海道ユニットセンター	2024/2/17	オンラインアートワークショップ	参加者	その他(オンラインイベント)	オンラインまねっこアートワークショップ		24	24	

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
12	北海道ユニットセンター	2024/3/13	オンライン市民講座７「妊娠糖尿病が周産期の母子に及ぼす影響」	参加者	HP	エコチル調査北海道ユニットセンター内エゾチルランド				
13	北海道ユニットセンター	2024/5/18	エコチル調査北海道ユニットセンター活動紹介	地域の一般住民/参加者	イベント講演等（対面）	第 18 回アースデイ in 円山動物園		5,418	89	
14	北海道ユニットセンター	2024/5/30	母体血の有機フッ素化合物(PFAS)濃度と川崎病発症に関しての解析	大学等の学生	イベント講演等（対面）	北海道大学大学院医学研究院社会医学講座ランチセミナー		20		
15	北海道ユニットセンター	2024/6/21	シンポジウム５　　子どもたちのワクワクな未来を拓く：エコチル調査、大規模出生コーホートの挑戦と展望	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/大学等の学生/その他（学会参加者（医療・行政・教育関係者など））	イベント講演等（対面）	第 71 回日本小児保健協会学術集会 シンポジウム５「子どもたちのワクワクな未来を拓く：エコチル調査、大規模出生コーホートの挑戦と展望」		960	50	
16	北海道ユニットセンター	2024/8/15	オンライン市民講座８「妊娠糖尿病が生後４歳までの子どもの神経発達に及ぼす影響」	参加者	HP	エコチル調査北海道ユニットセンター内エゾチルランド				
17	北海道ユニットセンター	2024/8/20	エコチル調査北海道ユニットセンターの紹介	地域の一般住民/参加者/大学等の学生	イベント講演等（対面）	北海道大学総合博物館令和６年度夏季企画展「北大の探求心 2024」第二期		31,997	31,997	
18	北海道ユニットセンター	2024/9/5	オンライン市民講座 1「環境と健康とは？」 2「環境省子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」 3「エコチル調査からわかったこと：妊娠中の１日当たりのカフェイン摂取量と生まれてきたお子さんの体格との関連」 4「エコチル調査からわかったこと:妊娠中の水銀・セレン濃度と生まれて きたお子さんの体格との関連」	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者/大学等の学生	HP	エコチル調査北海道ユニットセンター				内容は以前に届出済。以前は広報対象：参加者のみとしていたが、どなたでも閲覧できるページに動画公開したため改めて届出。
19	北海道ユニットセンター	2024/9/14	エコチル調査とその成果について	地域の一般住民	イベント講演等（対面）	北大総合博物館主催「土曜市民セミナー」		40		

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
20	北海道ユニットセンター	2024/9/18	Japan Environment and Children’s Study (JECS) at CEHS	その他（フランス大使館科学技術担当官）	イベント講演等（対面）	在日フランス大使館科学技術官北海道大学訪問		9		
21	北海道ユニットセンター	2024/10/9	環境と健康のデータサイエンス	その他（札幌開成中等教育学校参加者・大学等の学生年生）	イベント講演等（対面）	国民との科学・技術対話　アカデミックファンタジスタ		37		
22	北海道ユニットセンター	2024/11/5	エコチル調査　旭川サブユニットセンター　広報誌『ぽっけ』	参加者	広報誌等（紙面）		1,667			
23	北海道ユニットセンター	2024/11/10	予防理学療法研究の可能性：地域での予防研究の経験を通して	その他（学術大会参加者）	イベント講演等（対面）	第 11 回 日本予防理学療法学会学術大会		40		
24	北海道ユニットセンター	2024/11/14	職業体験	その他（札幌市立北辰中学校２年生）	イベント講演等（対面）	職業体験		4		
25	北海道ユニットセンター	2024/11/25	エコチル調査　旭川サブユニットセンター『エコチルサイエンス』	参加者	イベント講演等（対面）	エコチル調査　旭川サブユニットセンター『エコチルサイエンス』		52		
26	北海道ユニットセンター	2024/12/5	口唇口蓋裂の発症リスクおよび健康状態への影響：大規模疫学研究による知見	その他（旭川医科大学の教員）	イベント講演等（対面）	令和６年度旭川医科大学学術研究表彰式・学術奨励賞受賞講演		28		
27	北海道ユニットセンター	2024/12/9	環境と健康のデータサイエンス	その他（北海道釧路湖陵高等学校１年生）	イベント講演等（対面）	国民との科学・技術対話　アカデミックファンタジスタ		200		
28	北海道ユニットセンター	2024/12/12	エコチル調査北海道ユニットセンター 研究成果集	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者	広報誌等（紙面）/HP	エコチル調査北海道ユニットセンター 研究成果集/エコチル調査北海道ユニットセンター（研究成果集）	7,117			
29	北海道ユニットセンター	2024/12/12	Ca・P 代謝の基礎と臨床：くる病と関連病態	その他（北見小児科医会会員、旭川・札幌の小児科医、北見市保健センター保健師））	イベント講演等（対面）/その他（対面および WEB での講演）	小児内分泌疾患 update in オホーツク・Ca・P 代謝の基礎と臨床：くる病と関連病態		31		参加者人数（現地 13 名、Web 視聴 18 名）
30	北海道ユニットセンター	2024/12/13	エゾチル通信　第 23 号 エゾチル通信ミニ　vol.11	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者	広報誌等（紙面）	エゾチル通信第 23 号、エゾチル通信ミニ vol.11	7,117			

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
31	北海道ユニットセンター	2024/12/14	健康をつくる住まいのサイエンス	地域の一般住民/参加者	イベント講演等（対面）	サイエンスフェスタ 2024		43,292	588	当該イベントは公共の通路を利用したものであり、参加人数は下記を参考とした。 ・札幌駅前通地下歩行空間（チ・カ・ホ）通行量データ：基準日 2022/12/10 ・さっぽろ駅全通行者数（144,307人／日）のうち30%が参加したとみなした場合
32	北海道ユニットセンター	2024/12/20	環境と健康のデータサイエンス	その他（北海道札幌東高等学校 1・2 年生）	イベント講演等（対面）	国民との科学・技術対話　アカデミックファンタジスタ		27		
33	宮城ユニットセンター	2024/1/20	第６回エコチルセミナー	地域の一般住民/参加者	イベント講演等（対面）	2023 エコチルオンラインセミナー		12		
34	宮城ユニットセンター	2024/3/16	環境変化がこどもの健康に影響！？未来に向けてできることを考えてみよう	地域の一般住民/参加者	イベント講演等（対面）	早期発見につなげる検査・体験・展示～カラダとココロのおもしろイベント 2024～「みえる」から「あえる」		1,000	50	
35	宮城ユニットセンター	2024/5/11	2024 年度第 1 回エコチルセミナー	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	イベント講演等（対面）	2024 年度第 1 回エコチルセミナー		18		
36	宮城ユニットセンター	2024/6/29	2024 年第 2 回エコチルセミナー	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	イベント講演等（対面）	2024 年第 2 回エコチルセミナー			18	
37	宮城ユニットセンター	2024/7/30	東北大学オープンキャンパス 2024	その他（オープンキャンパス参加者、主に高校生とその父兄、高校関係者）	イベント講演等（対面）	東北大学オープンキャンパス 2024		4,516	520	

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
38	宮城ユニットセンター	2024/8/24	2024 年度第 3 回エコチルセミナー	地域の一般住民/参加者	イベント講演等（対面）	2024 年度第 3 回エコチルセミナー		18		
39	宮城ユニットセンター	2024/10/5	2024 年　第 4 回エコチルセミナー	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	イベント講演等（対面）	2024 年第 4 回エコチルセミナー		8	8	
40	宮城ユニットセンター	2024/10/7	子どもの健康に影響する環境とは？-全国 10 万人の母子の調査結果からわかったこと-	その他（母子保健関係者）	イベント講演等（対面）	イベント名「母子保健セミナー～母子をとりまく生活環境～」 講演名「子どもの健康に影響する環境とは？～全国 10 万人の母子の調査結果からわかったこと～」		73		
41	宮城ユニットセンター	2024/10/19	第 17 回大崎市健康と福祉のつどい	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	イベント講演等（対面）	第 17 回大崎市健康と福祉のつどい		630	70	参加人数は 2 日間の合計
42	宮城ユニットセンター	2024/11/20	令和６年度　地域エコチル調査運営協議会　同　実務担当者会議合同会議	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）	広報誌等（紙面）/その他	令和６年度地域エコチル調査運営協議会　同　実務担当者会議合同会議	165	85		
43	宮城ユニットセンター	2024/12/7	「出生コホート調査で検証する DOHaD 仮説ーエコチル調査でできることー」	その他（医師、医療関係者）	イベント講演等（対面）	第 30 回新生児科指導医教育セミナー		20		
44	宮城ユニットセンター	2024/12/7	2024 年度第 5 回エコチルセミナー	地域の一般住民/参加者	イベント講演等（対面）	2024 年第 5 回エコチルセミナー		13		
45	宮城ユニットセンター	2024/12/20	MUC だより第 22 号	参加者	広報誌等（紙面）	MUC だより第 22 号	7,948			
46	福島ユニットセンター	2024/2/4	令和５年度環境セミナー	参加者	イベント講演等（対面）	令和５年度環境セミナー	15	15		
47	福島ユニットセンター	2024/2/7	いわきっ子健やか訪問事業従事者研修会 エコチル調査からわかったプレコンセプションケアの知見	その他（地域の母子保健関係者）	イベント講演等（対面）	いわきっ子健やか訪問事業従事者研修会	29	29		

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
48	福島ユニットセンター	2024/2/18	ART と周産期合併症-当科の癒着胎盤の対応を含めて-	その他（岡山県の周産期医療関係者（医師・助産師・看護師））	イベント講演等（対面）	第 6 回岡山周産期研究会　特別講演	52	52		
49	福島ユニットセンター	2024/3/2	エコチル★ふくしま「こぼちる通信」2024 年春号	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者	広報誌等（紙面）	エコチル★ふくしま「こぼちる通信」2024 年春号	12,863			
50	福島ユニットセンター	2024/4/21	「RSV 感染症から乳児を守るための新しいアプローチ」	その他（国内医療関係者（主に産婦人科医師））	イベント講演等（対面）	第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会　ランチョンセミナー23	100	100		
51	福島ユニットセンター	2024/5/5	令和 6 年度郡山市こどもまつり	地域の一般住民	イベント講演等（対面）	令和 6 年度郡山市こどもまつり	746	45,000	746	
52	福島ユニットセンター	2024/6/1	エコチル調査からわかったプレコンセプションケアの知見	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/その他（福島県助産師会会員（助産師））	イベント講演等（対面）	福島県助産師会研修会	34	34		
53	福島ユニットセンター	2024/6/24	エコチル★ふくしま「こぼちる通信」2024 年夏号	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者	広報誌等（紙面）	エコチル★ふくしま「こぼちる通信」2024 年夏号	12,520			
54	福島ユニットセンター	2024/7/7	令和 6 年度ふれあい会	参加者	イベント講演等（対面）	令和 6 年度ふれあい会	100	100		
55	福島ユニットセンター	2024/9/26	令和 6 年度 第 6 回 福島市保健業務研修会 「地域で取り組むプレコンセプションケア」	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）	イベント講演等（対面）	令和 6 年度 第 6 回 福島市保健業務研修会		40		
56	福島ユニットセンター	2024/10/12	エコチル調査から分かったプレコンセプションケアの知見	その他（助産師、保健師、医師、看護師、栄養士、保育士、心理士等）	イベント講演等（対面）	2024 年度 JFPA/日本 DOHaD 学会共催セミナー(日本家族計画協会公益事業) DOHaD・プレコン・エコチル調査で考える次世代の未来 ―いま知ってほしいこと、できること。		95		
57	福島ユニットセンター	2024/10/20	令和 6 年度全県イベント	地域の一般住民/参加者	イベント講演等（対面）	全県イベント	244	97	97	

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
58	福島ユニットセンター	2024/11/5	福島産婦人科臨床フォーラム「産婦人科臨床に直結したフォーラムへ」 講演（第15回）「妊婦と新生児の検査値から学ぶ」	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/その他（福島産婦人科臨床フォーラム会員医師）	イベント講演等（対面）	会員限定サイトのため省略/福島産婦人科臨床フォーラム「産婦人科臨床に直結したフォーラムへ」 講演（第15回）「妊婦と新生児の検査値から学ぶ」		323		
59	福島ユニットセンター	2024/11/10	令和6年度生き生き健康づくりフォーラム in 会津若松	地域の一般住民	イベント講演等（対面）	令和6年度いきいき健康づくりフォーラム in 会津若松	244	3,000	244	
60	福島ユニットセンター	2024/11/22	両親と次世代の周産期メンタルヘルス ～父親の育児参加推進の課題も含めて～	その他（宮城県北部地域周産期医療関係者）	イベント講演等（対面）	令和6年度 石巻・登米・気仙沼地域 周産期地域医療研修会		30		
61	福島ユニットセンター	2024/11/25	エコチル★ふくしま「こぼちる通信」2024年秋冬号	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者	広報誌等（紙面）	エコチル★ふくしま「こぼちる通信」2024年秋冬号	12,277			
62	千葉ユニットセンター	2024/3/2	メディア視聴時間と子どもの発達との関係	地域の一般住民	その他(オンライン参加)	千葉大学予防医学センター 第43回市民講座「環境と子どもの健康」		40		
63	千葉ユニットセンター	2024/3/14	子どもたちの体型	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者	広報誌等（紙面）/HP	ちばエコチルつうしん Vol.24/環境省エコチル調査千葉ユニットセンター	4,960			
64	千葉ユニットセンター	2024/9/14	ぴよきちパパのエコチル講座第1-4回 1アレルギー性の鼻炎と結膜炎 2たばことコチニンという化学物質について 3ビタミンD 不足と子どもの成長 4石けんとアトピー性皮ふ炎	地域の一般住民/参加者	広報誌等（紙面）	ぴよきちパパのエコチル講座第1-4回/サンドアートを楽しもう！	200	240	240	
65	千葉ユニットセンター	2024/9/14	健康的なスマホの使い方	地域の一般住民/参加者/（調査参加者、一般イベント参加者）	イベント講演等（対面）	イオンモール木更津でサンドアートを楽しもう エコチル調査ちばユニットセンター　ミニ健康セミナー		50	50	
66	千葉ユニットセンター	2024/9/14	ヨウ素不足と発達	地域の一般住民/参加者	イベント講演等（対面）	サンドアートを楽しもう！		240	240	
67	千葉ユニットセンター	2024/9/17	“永遠の化学物質”PFAS を知っていますか?	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者	広報誌等（紙面）/HP	ちばエコチルつうしん Vol.25/環境省エコチル調査千葉ユニットセンター	4,885			

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
68	千葉ユニットセンター	2024/9/17	子どもがメディアを見る時間と発達	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者	広報誌等（紙面）	ぴよきちパパのエコチル講座第5回	4,885			
69	千葉ユニットセンター	2024/9/25	Japan Environment and Children’s Study（JECS）	大学等の学生/その他（講演者、集中講義運営担当者）	イベント講演等（対面）	Intensive course co-organized by Charité Universitätsmedizin Berlin and Chiba University “Environment, Climate Change and Health”		30		
70	千葉ユニットセンター	2024/9/30	子どもがメディアを見る時間と発達との関係	参加者/その他（一般）	その他(YouTube)	環境省エコチル調査千葉ユニットセンター	543			発表資料は動画
71	千葉ユニットセンター	2024/10/20	エコチル調査	地域の一般住民/参加者	広報誌等（紙面）	ぴよきちパパのエコチル講座/エコメッセちば2024（出展）	200	4,500		参加見込み人数：出展ブース来場者の概数
72	千葉ユニットセンター	2024/10/26	妊婦の血中金属濃度と児の発育	その他（セミナー参加者（研究者等））	イベント講演等（対面）/その他（オンライン参加）	第34回DOHaD疫学セミナー		40		
73	千葉ユニットセンター	2024/10/26	つわりによる対児愛着への影響と産後うつの媒介効果	その他（セミナー参加者（研究者等））	イベント講演等（対面）/その他（オンライン参加）	第34回DOHaD疫学セミナー		40		
74	千葉ユニットセンター	2024/10/26	幼児のメディア視聴時間と発達との関係	その他（セミナー参加者（研究者等））	イベント講演等（対面）/その他（オンライン参加）	第34回DOHaD疫学セミナー		40		
75	千葉ユニットセンター	2024/12/4	ヒトの健康・栄養・運動と 腸内細菌叢	その他（医師会員）	イベント講演等（対面）	千葉市医師会健康スポーツ医学研究委員会講演会		15		
76	神奈川ユニットセンター	2024/3/22	論文動画	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者/その他（HP上へのため、全ての方が対象）	HP	エコチル調査神奈川ユニットセンター				
77	神奈川ユニットセンター	2024/7/30	小中学校へのチラシ配布（金沢区）	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者		エコチル概要のちらし	13,000			

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
78	神奈川ユニットセンター	2024/8/6	小中学校へのチラシ配布（大和市）	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者		エコチル概要のちらし	21,000			
79	神奈川ユニットセンター	2024/10/30	小中学校でのメール配信（小田原市）	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）		エコチル概要のお知らせ	不明			
80	神奈川ユニットセンター	2024/10/31	カレンダー	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）（エコチル調査のポスター付カレンダー）						
81	神奈川ユニットセンター	2024/11/1	エコチルかながわ通信	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	広報誌等（紙面）/HP/イベント講演等（対面）	エコチルかながわ通信/エコチル調査神奈川ユニットセンター/神奈川UC運営協議会	5,600	13		
82	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2024/1/27	・妊娠中の母親の栄養摂取と子どもの発達との関連―エコチル調査甲信ユニットセンターの研究より― ・学童期の生活習慣等の状況	地域の一般住民/その他（小中高校の教員及び養護教員）	イベント講演等（対面）	サイエンスカフェ＠山梨		19	19	
83	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2024/2/8	こぴっと通信第24号	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者/その他（対象地域の幼稚園、保育園、小学校）	広報誌等（紙面）/HP	こぴっと通信24号/エコチル調査甲信ユニットセンター エコチルやまなし	4,000			
84	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2024/2/8	エコチル調査の研究成果が「たまひよWEB」で紹介されました	地域の一般住民/参加者	HP	エコチル調査甲信ユニットセンター　エコチルやまなし				
85	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2024/4/9	Data collection for large-scale birth cohort studies: Experience from the Japan Environment and Children's Study	その他（セミナー参加者）	その他(研究セミナー)	セミナー名：Ethics and Global Governance of Genomic Medicine: From the Perspectives of East Asia		10		
86	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2024/8/1	調査でわかったこと エコチルやまなし研究成果38～41	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	HP	エコチル調査甲信ユニットセンター　エコチルやまなし				

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
87	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2024/10/29	甲州プロジェクトとエコチル調査－山梨県における出生コホート研究－	その他（第83回日本公衆衛生学会参加者）	イベント講演等（対面）	第83回日本公衆衛生学会総会		3,600	50	
88	富山ユニットセンター	2024/1/15	赤芽球性プロトポルフィリン症の新たな概念の確立に挑む	その他（皮膚科臨床医、一般開業医）	広報誌等（紙面）/HP	皮膚科医向けWEB情報誌『Viento』vol.25/大鵬薬品工業会員Webサイト	100			
89	富山ユニットセンター	2024/2/18	富山ユニットセンター	参加者/その他（第13回エコチル調査シンポジウム参加者）	その他(ポスター掲示)	第13回エコチル調査シンポジウム 富山UC紹介ポスター	1			
90	富山ユニットセンター	2024/3/2	エコチル調査でわかったこと 発酵食品と子どもの発達の関連＆睡眠と起立性調節障害に関する追加調査の進捗報告	地域の一般住民/参加者/大学等の学生/その他（参加者同居家族、富山大学教職員、富山UC外部スタッフ及びOG）	イベント講演等（対面）	エコチルとやま感謝フェスタ2024 ラグビー体験＆公開セミナー ※成果発表は公開セミナーのみで実施		24		
91	富山ユニットセンター	2024/3/8	エコチル調査でわかったこと Vol.2	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者/その他（県内全小学校）	広報誌等（紙面）	エコチル調査でわかったこと Vol.2	8,000			
92	富山ユニットセンター	2024/3/8	未来の子どもたちのために－今できること－エコチル調査 これからもエコチル調査は続きます！	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/その他（県内全小学校）	その他(ポスター配布)	富山UC作成A3サイズポスター	500			
93	富山ユニットセンター	2024/3/15	エコチル調査でわかったこと お風呂で石けん類をあまり使わないとアトピー性皮膚炎や食物アレルギーを発症する子が多いの？	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者/その他（県内全小学校）	広報誌等（紙面）/HP	エコチルとやま新聞29号/エコチル富山ホームページ「エコチルとやま新聞」	5,600			
94	富山ユニットセンター	2024/3/19	妊娠中の魚摂取と生まれた子の神経発達の関係(エコチル調査より)	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	HP	エコチル調査富山ユニットセンターHP「エコチル調査でわかったこと」				
95	富山ユニットセンター	2024/3/27	Role of ω3 Polyunsaturated Fatty Acids (PUFAs)in Mother and Child Health	その他（GOED関係者）	その他(オンライン講演)	GOED ： The Global Organization for EPA and DHA Omega-3s でのオンライン講演		10		
96	富山ユニットセンター	2024/4/2	エコチル調査でわかったこと Vol.1	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	HP	エコチル富山ユニットセンター「みんなのひろば 小冊子「エコチル調査でわかったこと」」				

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
97	富山ユニットセンター	2024/4/2	エコチル調査でわかったこと Vol.2	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	HP	エコチル富山ユニットセンター「みんなのひろば 小冊子「エコチル調査でわかったこと」」				
98	富山ユニットセンター	2024/4/2	社会医学実習　身体活動量アップに焦点を当てるスコーピングレビューを書こう	大学等の学生	イベント講演等（対面）	富山大学 社会医学実習		16		
99	富山ユニットセンター	2024/4/11	情報処理特論～食品の安全性を知る・伝える～	大学等の学生	イベント講演等（対面）	富山短期大学講義（情報処理特論）		9		
100	富山ユニットセンター	2024/5/27	母子の心理・社会学　～子どもと社会～	大学等の学生	イベント講演等（対面）	富山県立大学講義（助産学専攻課程　母子と家族の心理・社会学）		10		
101	富山ユニットセンター	2024/6/13	妊娠期の魚食・オメガ3脂肪酸摂取と3歳未満でのアレルギーとの関連	その他（日本脂質栄養学会HP閲覧者）	HP	日本脂質栄養学会「オメガ3-食と健康に関する委員会」				
102	富山ユニットセンター	2024/6/14	研究機関としての大学～疫学研究とエビデンスの活用～	大学等の学生	イベント講演等（対面）	早期基礎臨床体験実習		3		
103	富山ユニットセンター	2024/6/21	研究機関としての大学～疫学研究とエビデンスの活用～	大学等の学生	イベント講演等（対面）	早期基礎臨床体験実習		4		
104	富山ユニットセンター	2024/6/24	妊婦さんの魚食・オメガ3脂肪酸摂取と乳幼児の神経発達　その２	その他（日本脂質栄養学会HP閲覧者）	HP	日本脂質栄養学会「オメガ3-食と健康に関する委員会」				
105	富山ユニットセンター	2024/7/3	母子におけるω3系多価不飽和脂肪酸の役割	その他（第18回KOPEM-MDC参加者）	イベント講演等（対面）/その他（オンライン）	なし（Web参加登録者のみに当日URLを通知）/第18回KOPEM-MDC（慶應義塾大学医学部小児科開催の研究会）		50		
106	富山ユニットセンター	2024/7/8	子どもの健康と環境について考えてみよう	大学等の学生/その他（富山県立富山高等学校の生徒）	イベント講演等（対面）	令和6年度 富山高校訪問 富山大学医学部医学科 模擬授業		17		
107	富山ユニットセンター	2024/7/9	プレコンセプションケア～新しい家族のために今からできること～	その他（厚生センター・市町村の保健師、養護教諭、医療従事者）	イベント講演等（対面）/その他（オンライン）	富山県女性健康相談センター 令和6年度スキル向上研修会		33		

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
108	富山ユニットセンター	2024/7/16	妊娠中の認知的ソーシャル・キャピタルと産後うつとの負の関連：エコチル調査	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	HP	エコチル調査富山ユニットセンターHP「エコチル調査でわかったこと」				
109	富山ユニットセンター	2024/7/17	衛生講話	その他（明治安田生命保険相互会社の社員）	イベント講演等（対面）	衛生講話		70		
110	富山ユニットセンター	2024/7/17	生命科学入門　人間社会を知るための“生物”としてのヒトの特徴	大学等の学生	イベント講演等（対面）	富山大学講義（教養教育　生命科学入門）		146		
111	富山ユニットセンター	2024/7/20	周産期におけるω3系多価不飽和脂肪酸の役割	その他（第47回DOHaD寺子屋の会員）	その他(オンライン講演)	一般社団法人　日本DOHaD学会　（第47回DOHaD寺子屋（Web開催）参加申込フォーム）/第47回DOHaD寺子屋		74		
112	富山ユニットセンター	2024/8/9	「富山新聞」に、エコチル調査をもとに発表した「妊娠中の認知的ソーシャル・キャピタルと産後うつとの負の関連：エコチル調査」の記事が掲載されました。	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	HP	エコチル調査富山ユニットセンターHP「メディアに紹介されました」				
113	富山ユニットセンター	2024/8/20	妊娠中の母親の発酵食品の摂取と子どもの3歳時点における神経発達の関連：エコチル調査	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	HP	エコチル調査富山ユニットセンターHP「エコチル調査でわかったこと」				
114	富山ユニットセンター	2024/8/27	みなさまのご協力からたくさんの研究成果が発表されています	参加者	広報誌等（紙面）	質問票提出への謝礼台紙	6,000			
115	富山ユニットセンター	2024/9/2	「北日本新聞」に、エコチル調査をもとに発表した「妊娠中の母親の発酵食品の摂取と子どもの3歳時点における神経発達の関連：エコチル調査」の記事が掲載されました。	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	HP	エコチル調査富山ユニットセンターHP「メディアに紹介されました」				
116	富山ユニットセンター	2024/9/15	エコチルとやま新聞30号	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者/その他（県内全小学校）	広報誌等（紙面）/HP	エコチルとやま新聞30号/エコチル富山ホームページ「エコチルとやま新聞」	5,500			
117	富山ユニットセンター	2024/10/1	エコチル調査 未来の子どもたちのためによりよい環境づくりをめざす	地域の一般住民/大学等の学生/その他（富山大学HP閲覧者）	HP	富山大学 環境安全推進センター 環境活動（環境報告書2024）				WEB公開のみ

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
118	富山ユニットセンター	2024/10/11	よくねむれているかな？ぐっすりねむるための生活について考えよう！	その他（富山市立奥田小学校の児童、教職員、保護者など）	イベント講演等（対面）	令和 6 年度学校保健委員会		554		
119	富山ユニットセンター	2024/10/27	ω３の昨今の新しい知見	その他（健康未来創造研究会『全国大会 2024』の会員）	イベント講演等（対面）/その他（オンライン講演）	健康未来創造研究会『全国大会 2024』		540		参加人数の内訳：対面 40 名、オンライン 500 名
120	富山ユニットセンター	2024/11/30	衛生学・公衆衛生学からの学び －社会に聴診器をあてて-	その他（富山大学附属病院初期臨床研修医）	イベント講演等（対面）	2024 年度富山大学附属病院 研修医症例発表会 初期臨床研修医スキルアップセミナー		50		
121	富山ユニットセンター	2024/12/9	日本人女性の妊娠前後の座位(ざい)行動の実態と妊娠中の座位時間に関連する要因：エコチル調査	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	HP	エコチル調査富山ユニットセンターHP「エコチル調査でわかったこと」				
122	富山ユニットセンター	2024/12/15	食卓から始める循環器疾患予防	その他（群馬県医師会産業医研修会受講者）	イベント講演等（対面）	群馬県医師会産業医研修会		70		
123	富山ユニットセンター	2024/12/17	小児アトピー性皮膚炎における早期診断と治療の重要性	その他（埼玉県内の小児科医およびメディカルスタッフ）	イベント講演等（対面）	二水会		21		
124	富山ユニットセンター	2024/12/17	エコチル調査から学ぶ　環境曝露とリスク評価	大学等の学生	イベント講演等（対面）	富山大学講義（看護科　ヘルスケアシステム論 II）		80		
125	富山ユニットセンター	2024/12/19	労働環境と母児の健康―エコチル調査からの知見―	その他（日本医師会認定産業医、富山県産業医会会員）	イベント講演等（対面）	令和 6 年度富山県産業医会第 2 回研修会		50		
126	富山ユニットセンター	2024/12/20	さまざまなライフステージにおける多価不飽和脂肪酸の役割	その他（日本臨床栄養学会 e ラーニング学習サイト閲覧者）	HP	日本臨床栄養学会 e ラーニング学習サイト				
127	富山ユニットセンター	2024/12/26	「富山新聞」に、エコチル調査をもとに発表した「日本人女性の妊娠前後の座位(ざい)行動の実態と妊娠中の座位時間に関連する要因：エコチル調査」の記事が掲載されました。	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	HP	エコチル調査富山ユニットセンターHP「メディアに紹介されました」				
128	愛知ユニットセンター	2024/1/21	書籍「チャイルドサイエンスに学ぶ 楽々子育てガイド（名市大ブックス第 15 巻）」執筆	その他（書籍購入者）	その他(書籍)	書籍「チャイルドサイエンスに学ぶ 楽々子育てガイド（名市大ブックス第 15 巻）」	10,000			

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
129	愛知ユニットセンター	2024/1/23	愛知ユニットセンター制作エコチル調査研究成果に関するポスター配布	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	その他(ポスター(A2～A4 サイズ))	エコチル調査研究成果に関するポスター2 種(愛知 UC 制作)	200			
130	愛知ユニットセンター	2024/3/1	令和４年度 自己点検・評価報告書	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者/大学等の学生/その他（一般市民）	HP	名古屋市立大学　医薬学総合研究院　大学院医学研究科・医学部				
131	愛知ユニットセンター	2024/3/15	エコ愛知通信(Volume7/Mar.2024)	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者	広報誌等（紙面）	エコ愛知通信(Volume7/Mar.2024)	4,417			
132	愛知ユニットセンター	2024/3/15	エコ愛知通信(Volume7/Mar.2024)	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者	広報誌等（紙面）	エコ愛知通信(Volume7/Mar.2024)	760			
133	愛知ユニットセンター	2024/4/12	環境毒性学総論	大学等の学生	イベント講演等（対面）	医学科４年生向け講義「環境・労働と健康」の中の「環境毒性学総論」という１コマ		100	100	
134	愛知ユニットセンター	2024/5/10	小児環境保健疫学調査、エコチル調査って何？	大学等の学生				89		
135	愛知ユニットセンター	2024/7/6	対面調査でのアニメーション放映	参加者	その他/(対面調査でのアニメーション放映)			1,200		
136	愛知ユニットセンター	2024/7/19	社会と医学-感染症と予防接種	大学等の学生	イベント講演等（対面）	社会と医学　感染症と予防接種		89		
137	愛知ユニットセンター	2024/8/1	環境化学物質と健康?からだに取り込まれた化学物質の量を知る	その他（名古屋市立の高校の高校生）	イベント講演等（対面）	2022 年度大学丸ごと研究室体験		4	4	
138	愛知ユニットセンター	2024/10/2	エコ愛知通信(Volume8/Sep.2024)	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者	広報誌等（紙面）	エコ愛知通信(Volume8/Sep.2024)	5,158			
139	愛知ユニットセンター	2024/10/20	令和６年度 名古屋市北区区民まつり「きた・きたフェスタ」	地域の一般住民/参加者	イベント講演等（対面）/その他(エコバッグを作成しながら自作アニメーション放映)	令和６年度 名古屋市北区区民まつり「きた・きたフェスタ」		250		

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
140	愛知ユニットセンター	2024/11/15	注意の初期発達：外発的注意から内発的注意へ	大学等の学生/その他（主に脳神経科学に関連する講座教員）	イベント講演等（対面）	第55回IBSセミナー		40		
141	京都ユニットセンター	2024/1/29	Maternal factors and one-year-olds' screen time: A cross-sectional study using birth cohort data from the Japan Environment and Children's Study (JECS)	大学等の学生/その他（webで一般に公開）	その他(京都大学学術情報リポジトリ（KURENAI))					
142	京都ユニットセンター	2024/2/17	黄砂やPM2.5のアレルギーへの影響	参加者	イベント講演等（対面）	エコチル調査京都ユニットセンター成果報告会		8	8	
143	京都ユニットセンター	2024/2/20	父親の育児への関わりの状況と子どもの成長発達との関連	参加者	広報誌等（紙面）	エコチルどすえかわら版 Vol.25	3,650			
144	京都ユニットセンター	2024/2/20	子育てとメディア 家庭でのバランスを考える	参加者	広報誌等（紙面）	エコチルどすえかわら版 Vol.25	3,650			
145	京都ユニットセンター	2024/2/28	子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）でわかってきたこと?Part 2. 妊娠前からの食事や栄養の影響について	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/その他（関連病院の産婦人科医）	その他(オンライン)	京都大学婦人科産科モーニングレクチャー（オンライン）		50		
146	京都ユニットセンター	2024/3/2	黄砂やPM2.5のアレルギーへの影響	参加者	イベント講演等（対面）	エコチル調査京都ユニットセンター成果報告会（長浜）		3	3	
147	京都ユニットセンター	2024/3/2	女性の就労と子育てについて	参加者	イベント講演等（対面）	京都ユニットセンター成果報告会		3	3	
148	京都ユニットセンター	2024/3/2	コロナ禍における 親子のコミュニケーションについて	参加者	イベント講演等（対面）	エコチル調査成果報告会 (3/2,3/9開催)		3	3	
149	京都ユニットセンター	2024/8/23	エコチルキッズからの質問にお答えします！　ピーナツアレルギーはなおりませんか？調べて欲しいです	参加者	広報誌等（紙面）/HP	エコチルどすえ　かわら版 Vol.26/エコチルどすえ@京都	3,800			

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
150	大阪ユニットセンター	2024/2/18	第13回エコチル調査シンポジウム展示用ポスター	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	イベント講演等（対面）	第13回エコチル調査シンポジウム				
151	大阪ユニットセンター	2024/3/12	大阪UCニューズレター「たこチルだより Vol.18」及び大阪UCホームページ	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者	広報誌等（紙面）/HP	たこチルだより Vol.18/大阪UCホームページ	6,900			
152	大阪ユニットセンター	2024/3/25	「たまひよ WEB」タイアップ記事掲載のお知らせ	地域の一般住民/参加者	HP	大阪UCホームページ				
153	大阪ユニットセンター	2024/3/25	大阪UCホームページにおける発表済み論文の掲載	その他（大阪UCのホームページ閲覧者）	HP	大阪UCホームページ				
154	大阪ユニットセンター	2024/3/27	新生児黄疸に対する光療法の期間とアレルギー疾患　子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)より	その他（医師）	イベント講演等（対面）	日本小児科学会に向けた予演会		4		
155	大阪ユニットセンター	2024/3/27	新生児黄疸に対する光療法と発達遅滞　子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)より	その他（医師）	イベント講演等（対面）	日本小児科学会に向けた予演会		4		
156	大阪ユニットセンター	2024/3/27	新生児黄疸に対する光療法と睡眠 子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)より	その他（医師）	イベント講演等（対面）	日本小児科学会に向けた予演会		4		
157	大阪ユニットセンター	2024/3/27	エコチル調査でわかったこと ―大阪ユニットセンターの報告から―	その他（医師）	イベント講演等（対面）	日本小児科学会に向けた予演会		4		
158	大阪ユニットセンター	2024/4/11	エコチル調査について	大学等の学生	その他(配布プリント)	大阪大学医学部「公衆衛生実習」	4	4		
159	大阪ユニットセンター	2024/5/10	母子保健	大学等の学生	イベント講演等（対面）	配布プリント/大阪大学医学部3年次講義「環境医学・公衆衛生学」	100	100		
160	大阪ユニットセンター	2024/6/11	母子保健	大学等の学生	イベント講演等（対面）/その他(配布プリント)	配布プリント/藍野大学看護学科1年講義「公衆衛生学」	110	110		
161	大阪ユニットセンター	2024/7/5	エコチル調査について	大学等の学生	イベント講演等（対面）	配布プリント/大阪大学医学部1年次講義「基礎医学体験実習」 講義担当：池原賢代	5	5		

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
162	大阪ユニットセンター	2024/7/12	エコチル調査について	その他（一般派遣スタッフ）	イベント講演等（対面）/その他(学童期検査)	配布プリント/学童期検査スタッフ研修 担当：池原賢代	19	19		
163	大阪ユニットセンター	2024/7/19	エコチル調査について	その他（一般派遣スタッフ）	イベント講演等（対面）/その他(学童期検査)	配布プリント/学童期検査スタッフ研修 担当：宮嵜潤二	9	9		
164	大阪ユニットセンター	2024/7/26	エコチル調査について	その他（一般派遣スタッフ）	イベント講演等（対面）/その他(学童期検査)	配布プリント/学童期検査スタッフ研修 担当：宮嵜潤二	8	8		
165	大阪ユニットセンター	2024/7/31	エコチル調査について	その他（一般派遣スタッフ）	イベント講演等（対面）/その他(学童期検査)	配布プリント/学童期検査スタッフ研修 担当：宮嵜潤二	4	4		
166	大阪ユニットセンター	2024/8/9	エコチル調査について	その他（一般派遣スタッフ）	イベント講演等（対面）/その他(学童期検査)	配布プリント/学童期検査スタッフ研修 担当：宮嵜潤二	3	3		
167	大阪ユニットセンター	2024/8/14	エコチル調査について	その他（一般派遣スタッフ）	イベント講演等（対面）/その他(学童期検査)	配布プリント/学童期検査スタッフ研修 担当：宮嵜潤二	3	3		
168	大阪ユニットセンター	2024/8/24	ライフコース疫学（エコチル調査について）	大学等の学生	イベント講演等（対面）	大阪大学大学院医科学専攻修士課程「疫学各論」 担当：池原　賢代	なし	50		
169	大阪ユニットセンター	2024/9/13	エコチル調査について	その他（一般派遣スタッフ）	イベント講演等（対面）/その他(学童期検査)	配布プリント/学童期検査スタッフ研修 担当：宮嵜潤二	14	14		
170	大阪ユニットセンター	2024/9/20	エコチル調査について	その他（一般派遣スタッフ）	イベント講演等（対面）/その他(学童期検査)	配布プリント/学童期検査スタッフ研修 担当：宮嵜潤二	7	7		
171	大阪ユニットセンター	2024/10/7	大阪母子医療センター年報でのエコチル調査活動報告	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）	広報誌等（紙面）	大阪母子医療センター　年報2023年度　第42号	650			
172	大阪ユニットセンター	2024/10/18	エコチル調査について	その他（一般派遣スタッフ）	イベント講演等（対面）/その他(学童期検査)	配布プリント/学童期検査スタッフ研修 担当：宮嵜潤二	9	9		
173	大阪ユニットセンター	2024/10/29	第83回日本公衆衛生学会総会 広報出展 エコチル調査大阪ユニットセンター	その他（第83回日本公衆衛生学会総会参加関係者）	イベント講演等（対面）	第83回日本公衆衛生学会総会			50	
174	大阪ユニットセンター	2024/11/8	アルコールと生活習慣病（健康障害）	大学等の学生	その他/大阪大学講義（医学部保健学科社会医学））	大阪大学講義（医学部保健学科社会医学）	42	42		

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
175	大阪ユニットセンター	2024/11/12	大阪大学公衆衛生学ホームページにおける発表済み論文の掲載	その他（大阪大学公衆衛生学のホームページ閲覧者）	HP	大阪大学公衆衛生学ホームページ				
176	大阪ユニットセンター	2024/12/26	2023年度　母子保健情報センター報告書	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）	広報誌等（紙面）	2023年度　母子保健情報センター報告書	171			
177	兵庫ユニットセンター	2024/2/18	第13回エコチル調査シンポジウム	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者/大学等の学生	イベント講演等（対面）	第13回エコチル調査シンポジウム				
178	兵庫ユニットセンター	2024/2/19	エコチルひょうごたより　第9号	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	広報誌等（紙面）/HP	エコチルひょうごたより　第9号/エコチルひょうご	5,547			
179	兵庫ユニットセンター	2024/3/20	アレルギーと環境:屋内外の空気を中心に	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民	イベント講演等（対面）	第4回　大阪赤十字病院アレルギー市民公開講座		108		
180	兵庫ユニットセンター	2024/3/20	エコチル調査のこれまでとこれから	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	イベント講演等（対面）	エコチル調査公開講座		30		
181	兵庫ユニットセンター	2024/6/11	学校検尿とこれからの課題	参加者	広報誌等（紙面）/HP	エコチルひょうご　Vol.23/エコチルひょうご	4,700			
182	兵庫ユニットセンター	2024/7/3	環境保健（化学物質・気候変動の健康影響）	大学等の学生	イベント講演等（対面）	医学部4年生対象の講義「環境保健」		115		
183	兵庫ユニットセンター	2024/7/4	保健統計学	大学等の学生	イベント講演等（対面）	看護学部2年生対象の講義「保健統計」		125		
184	兵庫ユニットセンター	2024/11/11	疫学	大学等の学生	イベント講演等（対面）	関西国際大学看護学部の講義「疫学」		90		
185	兵庫ユニットセンター	2024/12/3	環境中に存在する化学物質の健康影響（阪神シニアカレッジ健康学科講義）	その他（兵庫県が設置するシニアのための学びの場（4年制）の聴講生）	イベント講演等（対面）	阪神シニアカレッジ健康学科講義2年生「環境中に存在する化学物質の健康影響」		50		

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
186	兵庫ユニットセンター	2024/12/14	エコチル調査でわかってきたこと	/地域の一般住民/参加者/大学等の学生	イベント講演等（対面）/その他（第6回ひょうごユースecoフォーラムにおけるポスター展示）	第6回ひょうごユースecoフォーラム	150	200	150	
187	兵庫ユニットセンター	2024/12/16	PFASについて	参加者	広報誌等（紙面）/HP	エコチルひょうごvol.24 2024年秋冬号/エコチルひょうご	4,620			
188	鳥取ユニットセンター	2024/3/5	がいなだよりvol.29	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者/大学等の学生	広報誌等（紙面）/HP	がいなだよりvol.29/エコチル調査鳥取ユニットセンター	2,657			
189	鳥取ユニットセンター	2024/7/9	がいなだよりVol.30	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者/大学等の学生	広報誌等（紙面）/HP	がいなだよりVol.30/エコチル調査鳥取ユニットセンター	2,625			
190	鳥取ユニットセンター	2024/9/21	「病院のお仕事を体験してみよう」	参加者	イベント講演等（対面）	「病院のお仕事を体験してみよう」		40	40	
191	高知ユニットセンター	2024/1/16	第13回エコチル調査シンポジウム開催告知	地域の一般住民/参加者/その他（HP閲覧者）		高知新聞社　高知の子育て応援ウェブメディア「ココハレ」				
192	高知ユニットセンター	2024/2/13	高知大学SDGs報告書『Kochi University SDGs Action Version4.0』に掲載 高知大学SDGsホームページに掲載	地域の一般住民/大学等の学生/その他（HP閲覧者）	HP	高知大学SDGsActionホームページ				
193	高知ユニットセンター	2024/2/18	第13回エコチル調査シンポジウム展示用ポスター	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者/その他（ライブ配信閲覧者）	HP/イベント講演等（対面）	第13回エコチル調査シンポジウム				環境省・コアセンター主催のイベント
194	高知ユニットセンター	2024/2/20	エコチル調査高知ユニットセンター会報誌「ちょるるんNews」vol.23 及びこうちエコチル調査ホームページ	参加者/その他（ホームページ閲覧者）	広報誌等（紙面）/HP	エコチル調査高知ユニットセンター会報誌「ちょるるんNews」vol.23/こうちエコチル調査/	6,064			※環境省成果紹介パンフレット同梱

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
195	高知ユニットセンター	2024/2/28	「たまひよ WEB」と「エコチル調査」のタイアップ記事掲載のお知らせ	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）	その他(メール配信)					
196	高知ユニットセンター	2024/3/13	令和 5 年度高知大学研究顕彰制度（研究功績者賞、若手教員研究優秀賞、大学院生研究奨励賞）の授賞式	地域の一般住民/大学等の学生/その他（HP 閲覧者）	HP/イベント講演等（対面）	高知大学 HP/令和 5 年度高知大学研究顕彰制度（研究功績者賞、若手教員研究優秀賞、大学院生研究奨励賞）の授賞式		8		
197	高知ユニットセンター	2024/3/27	Vitamin D and neurodevelopment at 2 years of age - Results from the Japan Environment and Children's Study (JECS)	地域の一般住民	HP	/高知ギルバーグ発達神経精神医学センター　研究プロジェクト（重点研究プロジェクト）【研究業績・概要】/				
198	高知ユニットセンター	2024/3/27	「生命（いのち）の基金」助成金贈呈式		イベント講演等（対面）/その他(高知新聞 高知放送　)	「生命（いのち）の基金」助成金贈呈式		28		
199	高知ユニットセンター	2024/4/14	「第 90 回赤ちゃん会」における広報資材配布	地域の一般住民	イベント講演等（対面）	第 90 回赤ちゃん会（高知会場、幡多会場）		603	603	
200	高知ユニットセンター	2024/4/15	母体の尿中コチニンと胎盤重量および胎盤重量/出生体重比との用量反応関係 子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）	大学等の学生/その他（HP 閲覧者）	HP	高知大学 HP				
201	高知ユニットセンター	2024/5/22	こうちエコチル調査 SNS 更新　※加熱式・電子たばこについて（6 歳児）	地域の一般住民/参加者/その他（SNS 閲覧者）	その他 (SNS(Instagram、Facebook、Twitter)					
202	高知ユニットセンター	2024/5/30	子どもの健康とエコチル調査（子どもの健康と環境に関する全国調査）	大学等の学生	イベント講演等（対面）	小児看護学概論：子どもの健康とエコチル調査		56		
203	高知ユニットセンター	2024/6/4	エコチル調査高知ユニットセンター会報誌「ちょるるん News」vol.24 及びこうちエコチル調査ホームページ	参加者/その他（ホームページ閲覧者）	広報誌等（紙面）/HP	エコチル調査高知ユニットセンター会報誌「ちょるるん News」vol.24/こうちエコチル調査	6,370			
204	高知ユニットセンター	2024/7/16	令和 5 年度高知ユニットセンター活動報告書	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）	その他(PDF にてメール配信)					

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
205	高知ユニットセンター	2024/8/5	こうちエコチル調査ホームページ更新	地域の一般住民/参加者/その他（ホームページ閲覧者）	HP	こうちエコチル調査（分かってきたこと/学術論文）				
206	高知ユニットセンター	2024/8/12	こうちエコチル調査広報イベント「警察官に会いに行こう！」開催	参加者	イベント講演等（対面）	こうちエコチル調査「警察官に会いに行こう！」		34	34	
207	高知ユニットセンター	2024/9/28	Influence of Chest-to-head Circumference Ratio on Obstetric and Neonatal Outcomes	地域の一般住民/大学等の学生	イベント講演等（対面）	高知大学創立75周年記念事業「未来研究ミュージアム～冒険の扉をひらこう～」		250		
208	高知ユニットセンター	2024/9/28	日本人2歳男児におけるビタミンD欠乏と神経発達との関連 ーエコチル調査よりー	地域の一般住民	イベント講演等（対面）	高知大学創立75周年記念事業「未来研究ミュージアム～冒険の扉をひらこう～」		250		
209	高知ユニットセンター	2024/9/28	高知ユニットセンターにおける成果発表-子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)より-	地域の一般住民/大学等の学生	イベント講演等（対面）	高知大学創立75周年記念事業「未来研究ミュージアム～冒険の扉をひらこう～」		250		
210	高知ユニットセンター	2024/10/1	高知大学医学部環境医学教室	その他（中学生）	イベント講演等（対面）	高知県立高知国際中学校・高等学校　大学訪問		2		
211	高知ユニットセンター	2024/11/2	高知大学ホームカミングデー2024ブース出展	地域の一般住民/参加者/大学等の学生	イベント講演等（対面）	高知大学ホームカミングデー2024		370	40	
212	高知ユニットセンター	2024/11/12	こうちエコチル調査SNS更新　※アトピー・乾燥肌について（3～5歳児）	地域の一般住民/参加者/その他（SNS閲覧者）	その他（SNS(Instagram、Facebook、Twitter)					
213	高知ユニットセンター	2024/12/1	第24回「青少年のための科学の祭典」高知大会ブース出展	地域の一般住民/参加者	イベント講演等（対面）	第24回「青少年のための科学の祭典」高知大会		643	253	
214	福岡ユニットセンター（産業医大）	2024/1/1	産業医科大学サブユニットセンターホームページ・スタッフブログ	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者/その他（HP閲覧者）	HP	エコチル調査ふくおか産業医科大学サブユニットセンタースタッフブログ「ふくちゃんの日々」				

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
215	福岡ユニットセンター（産業医大）	2024/1/1	産業医科大学サブユニットセンターSNS	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者/その他（SNS閲覧者）	その他(SNS（Instagram）)	エコチルふくちゃん				
216	福岡ユニットセンター（産業医大）	2024/1/1	産業医科大学サブユニットセンターYoutube動画配信	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者/その他（Youtube閲覧者）	HP/その他(Youtube（参加者ポータルお知らせ配信含む）)	エコチル調査ふくおか ふくChannel				2025/1/30　エコチルティーンズプロジェクト2024　第3弾　中学3年・受験生応援動画「届けエール!! 2025年のキミへ」配信含む
217	福岡ユニットセンター（産業医大）	2024/1/1	子どもアンケート（10歳・11歳・12歳）同封カード・折本	参加者	広報誌等（紙面）	指令書・御礼の書	2,323			
218	福岡ユニットセンター（産業医大）	2024/2/11	環境省対話事業（大分）における講演ならびにスライド資料・産業医科大学サブユニットセンター紹介チラシの配布	その他（調査対象地域外の一般の子ども達）	広報誌等（紙面）/イベント講演等（対面）	「エコチル調査のご紹介」講演スライド資料（抜粋）・産業医科大学サブユニットセンター紹介チラシ/「エコチル調査のご紹介」	17	17		
219	福岡ユニットセンター（産業医大）	2024/3/4	タイムカプセルカレンダー	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者	その他/(カレンダー)		2,969			
220	福岡ユニットセンター（産業医大）	2024/5/30	エコチル世代における健康づくり	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者/大学等の学生	広報誌等（紙面）	人生100年時代のヘルスプロモーションのすすめ				
221	福岡ユニットセンター（産業医大）	2024/7/5	ニュースレター「はっぴ～エコチル vol.18」	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者	広報誌等（紙面）	はっぴ～エコチル vol.18	2,969			
222	福岡ユニットセンター（産業医大）	2024/7/10	エコチル調査でわかったこと　第5号	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者	広報誌等（紙面）	エコチル調査でわかったこと 第5号	2,969			

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
223	福岡ユニットセンター（産業医大）	2024/9/14	参加者ポータル　参加者限定コンテンツ『産業医大ドクター独占インタビュー』動画配信	参加者	その他(参加者ポータルお知らせ配信（動画はYoutube限定公開）)	エコチルティーンズプロジェクト2024　第1弾				9月に4本・11月に3本、配信済
224	福岡ユニットセンター（産業医大）	2024/12/4	参加児向けクリスマスカード配布	参加者	その他(ハガキ)	クリスマス謎解き	2,873			
225	福岡ユニットセンター（産業医大）	2024/12/22	エコチル調査産業医科大学サブユニットセンター進捗状況紹介チラシ	参加者	広報誌等（紙面）	エコチル調査の進捗状況/楽しい科学教室イベント　九州工業大学の先生と行う「電気のいろいろな作り方」	17	54	54	
226	福岡ユニットセンター（産業医大）	2024/12/22	参加者向けフォローアップイベント（九工大）	参加者	イベント講演等（対面）	楽しい科学教室イベント　九州工業大学の先生と行う「電気のいろいろな作り方」		54	54	
227	南九州沖縄ユニットセンター（宮崎）	2024/1/16	参加者向け広報誌「のべチル NEWS Vol.11」エコチル調査の研究成果から	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	広報誌等（紙面）/HP	エコチル調査　宮崎サブユニットセンター	1,582			
228	南九州沖縄ユニットセンター（宮崎）	2024/12/16	参加者向け広報誌「のべチル NEWS vol.12」	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者	広報誌等（紙面）/HP	のびのびのべチル NEWS vol.12/エコチル調査　宮崎サブユニットセンター	1,490			
229	南九州沖縄ユニットセンター（沖縄）	2024/6/28	エコチル調査　南九州・沖縄ユニットセンター　琉球大学サブユニットセンター　2022年度～2023年度活動報告書	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者	広報誌等（紙面）	エコチル調査　南九州・沖縄ユニットセンター　琉球大学サブユニットセンター　2020年度～2021年度活動報告書	683			
230	南九州沖縄ユニットセンター（沖縄）	2024/12/16	ちゅらちるだよりプラス『エコチル調査で得られた研究成果をご紹介』	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者	広報誌等（紙面）	ちゅらちるだより Vol.20	704			

１－６　地域の協力機関への情報提供　48 件

（令和６年１月から令和６年 12 月末）

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	広報(情報提供)の対象	媒体等	参加人数・配布数
1	北海道ユニットセンター	2024/1/24	第 14 回北海道ユニット北見地区運営協議会	医療機関/保健所/自治体/学校/教育委員会	対面	51
2	北海道ユニットセンター	2024/2/5	エコチル調査北海道ユニットセンター 令和５年度 第１回札幌地区運営協議会	医療機関/保健所/自治体/教育委員会	対面	22
3	北海道ユニットセンター	2024/2/14	エコチル調査北海道ユニットセンター旭川サブユニット 令和５年度旭川地区運営協議会	医療機関/自治体/学校/教育委員会	対面	16
4	福島ユニットセンター	2024/1/15	エコチル調査採血を含む検査の集団方式について	医療機関	対面	1
5	福島ユニットセンター	2024/2/29	エコチル★詳細調査★だより 99 号	医療機関/その他（協力施設、WISC 検査者）	紙面	49
6	福島ユニットセンター	2024/3/8	令和５年度子どもの健康と環境に関する全国調査「エコチル調査」の成果・進捗報告会～DOHaD の夜明け研究会共催～	医療機関/その他（福島県立医科大学関係者、学生、大学院生）	対面/WEB	32
7	福島ユニットセンター	2024/3/17	WISC 検査者情報交換会　詳細調査進捗状況	学校/その他（WISC 検査者）	対面	6
8	福島ユニットセンター	2024/3/23	WISC 検査者情報交換会　詳細調査進捗状況	学校/その他（WISC 検査者）	対面	5
9	福島ユニットセンター	2024/3/26	詳細調査協力医療機関訪問　詳細調査進捗状況	医療機関	対面	30
10	福島ユニットセンター	2024/3/27	エコチル調査　学童期検査（小学６年生）実施状況	医療機関	対面	43
11	福島ユニットセンター	2024/4/13	エコチル調査の集団健診方式での実施について	医療機関	WEB	30
12	福島ユニットセンター	2024/4/26	エコチル★詳細調査★だより 100 号	医療機関/その他（協力施設、WISC 検査者）	紙面	49
13	福島ユニットセンター	2024/5/23	福島県地域運営協議会委員訪問	学校/教育委員会	対面	10
14	福島ユニットセンター	2024/5/23	エコチル調査　採血を含む検査の集団検診方式について	医療機関	対面	1
15	福島ユニットセンター	2024/5/28	エコチル調査　採血を含む検査の集団検診方式について	医療機関	対面	1
16	福島ユニットセンター	2024/6/28	エコチル★詳細調査★だより 101 号	医療機関/その他（協力施設、WISC 検査者）	対面	49
17	福島ユニットセンター	2024/7/7	福島県におけるエコチル調査実施状況と今後の課題	医療機関	対面/WEB	40
18	福島ユニットセンター	2024/7/22	エコチル調査福島ユニットセンター令和６年度福島県地域運営協議会	医療機関/保健所/自治体/学校/教育委員会/報道機関/その他（地域運営協議会委員）	対面/WEB	16
19	福島ユニットセンター	2024/8/24	WISC 検査者情報交換会　詳細調査進捗状況	学校/その他（WISC 検査者）	対面	5
20	福島ユニットセンター	2024/8/30	エコチル★詳細調査★だより 102 号	医療機関/その他（協力施設、WISC 検査者）	紙面	49
21	福島ユニットセンター	2024/9/1	WISC 検査者情報交換会　詳細調査進捗状況	学校/その他（WISC 検査者）	対面	6
22	福島ユニットセンター	2024/10/2	エコチル調査福島ユニットセンター令和６年度県中・県南地域運営協議会	医療機関/保健所/自治体/学校/教育委員会/報道機関/その他（地域運営協議会委員（県中・県南地域)）	対面/WEB	55

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	広報(情報提供)の対象	媒体等	参加人数・配布数
23	福島ユニットセンター	2024/10/25	エコチル★詳細調査★だより 103 号	医療機関/その他（協力施設、WISC 検査者）	紙面	49
24	福島ユニットセンター	2024/10/30	エコチル調査福島ユニットセンター令和 6 年度いわき地域運営協議会	医療機関/保健所/自治体/学校/教育委員会/報道機関/その他（地域運営協議会委員（いわき地域))	対面/WEB	13
25	福島ユニットセンター	2024/11/8	エコチル調査福島ユニットセンター令和 6 年度県北・相双地域運営協議会	医療機関/保健所/自治体/学校/教育委員会/報道機関/その他（地域運営協議会委員（県北・相双地域))	対面/WEB	43
26	福島ユニットセンター	2024/11/13	エコチル調査福島ユニットセンター令和 6 年度会津地域運営協議会	医療機関/保健所/自治体/学校/教育委員会/報道機関/その他（地域運営協議会委員（会津地域))	対面/WEB	27
27	福島ユニットセンター	2024/12/25	エコチル★詳細調査★だより 104 号	医療機関/その他（協力施設、WISC 検査者）	紙面	49
28	千葉ユニットセンター	2024/7/1	2024 年度（令和 6 年度）エコチル調査 千葉ユニットセンター地域運営協議会 エコチル調査の成果	医療機関/自治体/その他（地域運営協議会委員）	対面	38
29	千葉ユニットセンター	2024/8/7	メディアと睡眠について	その他（学校医、勝浦市内教職員、保護者）	対面	30
30	富山ユニットセンター	2024/1/29	令和 5 年度第 1 回エコチル調査富山ユニットセンター運営協議会	医療機関/保健所/自治体/学校/教育委員会	対面/WEB	29
31	富山ユニットセンター	2024/12/19	入善地区の低い早産率の原因について	医療機関/自治体	対面	5
32	愛知ユニットセンター	2024/1/23	名古屋市北区医師会役員会：エコチル調査の紹介とポスター掲示依頼	医療機関/その他（地域の医師会役員）	対面	17
33	愛知ユニットセンター	2024/2/16	第 14 回一宮市エコチル調査推進員会	医療機関/保健所/自治体/教育委員会	対面	24
34	愛知ユニットセンター	2024/3/11	子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）	自治体	対面	21
35	愛知ユニットセンター	2024/3/29	第 14 回エコチル調査愛知ユニットセンター運営協議会	医療機関/保健所/自治体/教育委員会/報道機関	対面/WEB	29
36	愛知ユニットセンター	2024/7/25	エコチル調査から出た成果と実際のデータから得られるサンプルサイズの紹介（名古屋市立大学小児科医局会における発表）	医療機関	対面/WEB	20
37	愛知ユニットセンター	2024/10/25	第 15 回一宮市エコチル調査推進員会	医療機関/保健所/自治体/教育委員会	対面	24
38	京都ユニットセンター	2024/9/19	学童期の睡眠と 生活の実態調査（エコチル調査追加調査）	その他（エコチル参加者及び協力医療機関、自治体、地元医師会）		
39	京都ユニットセンター	2024/12/22	子どもと睡眠	その他（日本眠育推進協議会シンポジウム）		
40	大阪ユニットセンター	2024/3/14	2023 年度第 2 回エコチル調査大阪ユニットセンター地域運営協議会 2023 年度エコチル調査大阪ユニットセンター産科・小児科合同専門委員会	医療機関/保健所/自治体/教育委員会/その他（大阪府医師会、大阪府看護協会、大阪健康安全基盤研究所、大阪府）	対面	40

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	広報(情報提供)の対象	媒体等	参加人数・配布数
41	大阪ユニットセンター	2024/10/24	2024 年度第 1 回エコチル調査大阪ユニットセンター地域運営協議会	医療機関/保健所/自治体/教育委員会/その他（大阪府医師会、大阪府看護協会、大阪健康安全基盤研究所、大阪府）	対面	42
42	高知ユニットセンター	2024/1/26	令和 5 年度　第 32 回　地域エコチル調査運営協議会	その他（地域運営協議会委員）	対面/紙面	27
43	高知ユニットセンター	2024/9/12	令和 6 年度　第 33 回　地域エコチル調査運営協議会	その他（地域運営協議会委員）	対面/WEB	27
44	高知ユニットセンター	2024/11/22	第 11 回幡多・第 34 回地域エコチル調査運営協議会(Web 合同開催)	医療機関/保健所/自治体/その他（地域運営協議会委員）	WEB	27
45	福岡ユニットセンター（九州大学)	2024/10/19	子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）	医療機関/保健所	対面	50
46	南九州沖縄ユニットセンター（熊本)	2024/2/15	・エコチル調査の継続（13 歳以降の調査）について ・フォローアップ状況・乳歯調査について ・10 歳詳細調査について ・学童期検査（小学 6 年生）について ・パイロット調査（13 歳以降の進捗状況）について ・成果発表状況について	医療機関/保健所/自治体/学校/教育委員会/その他（調査対象地域の保育園・幼稚園関係者、民生委員児童委員など）	対面	32
47	南九州沖縄ユニットセンター（熊本)	2024/3/1	・エコチル調査の継続（13 歳以降の調査）について ・フォローアップ状況・乳歯調査について ・10 歳詳細調査について ・学童期検査（小学 6 年生）について ・パイロット調査（13 歳以降の進捗状況）について ・成果発表状況について	医療機関/保健所/自治体/学校/教育委員会/その他（調査対象地域の保育園・幼稚園関係者、民生委員児童委員など）	対面	28
48	南九州沖縄ユニットセンター（熊本)	2024/3/19	・エコチル調査の継続（13 歳以降の調査）について ・フォローアップ状況・乳歯調査について ・10 歳詳細調査について ・学童期検査（小学 6 年生）について ・パイロット調査（13 歳以降の進捗状況）について ・成果発表状況について	医療機関/保健所/自治体/学校/教育委員会/その他（調査対象地域の保育園・幼稚園関係者、民生委員児童委員など）	対面	23

１－７　報道機関への情報提供（自ら依頼する場合)　５件

（令和６年１月から令和６年 12 月末）

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	掲載媒体名
1	神奈川ユニットセンター	2024/1/4 ～2024/1/6	地域情報雑誌（タウンニュース）への掲載	タウンニュース
2	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2024/1/28	対話事業「サイエンスカフェ＠山梨」について	山梨日日新聞
3	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2024/11/4	カードゲーム体験授業について	山梨日日新聞
4	南九州沖縄ユニットセンター（熊本）	2024/3/18 ～2024/3/29	エコチル調査ってなに？	RKK 熊本放送
5	南九州沖縄ユニットセンター（熊本）	2024/3/29 ～2024/3/29	エコチル調査　子どもたちの未来のために	地方紙（熊本県）熊日日新聞

１－８　論文掲載時の報道発表　24 件

（令和６年１月から令和６年 12 月末）

No	ユニット センター等名	報道発表日	発表タイトル	論文タイトル	全国調査・詳細調査	追加調査
1	コアセンター	2024/10/1	妊婦の尿中有機リン系殺虫剤代謝物濃度と血中 LDL コレステロールの関連について： 子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）	Association between blood lipid levels in early pregnancy and urinary organophosphate metabolites in the Japan Environment and Children’s Study	中心仮説	
2	コアセンター	2024/11/26	エコチル調査の研究成果論文が医学論文誌（Journal of the American Heart Association）で評価され、巻頭辞（Editorial）で取り上げられました	Editorial: The Role of Diet in Preventing Hypertensive Disorders of Pregnancy Original: Association Between Periconceptional Diet Quality and Hypertensive Disorders of Pregnancy: The Japan Environment and Children’s Study	中心仮説外	
3	メディカルサポートセンター	2024/3/27	Parental Stress and Food allergy phenotypes in Young Children: A National Birth Cohort (JECS)	Parental Stress and Food allergy phenotypes in Young Children: A National Birth Cohort (JECS)	中心仮説外	
4	北海道ユニットセンター	2024/5/10	妊娠中の室内環境要因と 3 歳までの小児湿疹の発症リスクとの関連:子どもの健康と環境に 関する全国調査(エコチル調査)	Prenatal risk factors of indoor environment and incidence of childhood eczema in the Japan Environment and Children’s Study	中心仮説	
5	北海道ユニットセンター	2024/8/2	妊娠中に母親が過ごした自宅床材とその出生児童の小児喘息への影響についての解析:子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)	The association between flooring materials and childhood asthma: A prospective birth cohort in the Japan Environment and Children’s Study	中心仮説	
6	北海道ユニットセンター	2024/8/6	妊娠中母体血中重金属と微量元素と先天性四肢形態異常との関連:子どもの健康と環境に関 する全国調査(エコチル調査)	Heavy metals and trace elements in maternal blood and prevalence of congenital limb abnormalities among newborns: The Japan Environment and Children’s Study	中心仮説	
7	宮城ユニットセンター	2024/7/22	母親のアクティブな生活習慣は子どもに影響する 子どもの身体活動促進には妊娠中から身体活動を高めることが重要	Association between maternal physical activity from pre-pregnancy to child-rearing and their children’s physical activity in early childhood among Japanese	中心仮説外	○

No	ユニット センター等名	報道発表日	発表タイトル	論文タイトル	全国調査・詳細調査	追加調査
8	宮城ユニットセンター	2024/12/9	保育施設の早期利用は子どもの発達を促進する ３歳児神話に科学的な根拠はない	Group childcare has a positive impact on child development from the Japan Environment and Children's Study	中心仮説外	
9	千葉ユニットセンター	2024/3/12	妊婦の血中およびさい帯血金属濃度と在胎不当過小（SGA）児の追いつき成長について 子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）	Association between maternal blood or cord blood metal concentrations and catch-up growth in children born small for gestational age: an analysis by the Japan environment and children's study	中心仮説	
10	神奈川ユニットセンター	2024/1/9	Maternal serum folic acid levels and onset of Kawasaki disease in offspring during infancy	Maternal serum folic acid levels and onset of Kawasaki disease in offspring during infancy	中心仮説外	
11	神奈川ユニットセンター	2024/1/12	保護者の自己申告と医師の診断による食物蛋白誘発胃腸炎の原因食品の差異	Discrepancy between Caregivers' Reports and Physicians' Evaluation of Causative Foods in Food Protein-Induced Enterocolitis Syndrome in Japan: The Japan Environment and Children's Study	中心仮説外	
12	神奈川ユニットセンター	2024/6/28	妊婦の血中重金属濃度と生まれた子どもの川崎病発症との関連について 子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）	Association between maternal heavy metal exposure and Kawasaki Disease, the Japan Environment and Children's Study (JECS)	中心仮説	
13	甲信サブユニットセンター（信州大学）	2024/9/18	「母親の PFAS ばく露と子どもの染色体異常：子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」に関する研究論文の発表について	Maternal Exposure to Per- and Polyfluoroalkyl Substances and Offspring Chromosomal Abnormalities: The Japan Environment and Children's Study	中心仮説	
14	甲信サブユニットセンター（信州大学）	2024/10/11	母親の血中およびさい帯血水銀濃度と出生児の性別との関連について：子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）	Prenatal mercury exposure and the secondary sex ratio: The Japan Environment and Children's Study	中心仮説	
15	富山ユニットセンター	2024/3/19	妊娠中の魚摂取と生まれた子の神経発達の関係(エコチル調査より)	Maternal dietary intake of fish and child neurodevelopment at 3 years: a nationwide birth cohort-The Japan Environment and Children's Study	中心仮説外	
16	富山ユニットセンター	2024/7/16	妊娠中の認知的ソーシャル・キャピタルと産後うつとの負の関連：エコチル調査	Inverse Association Between Mothers' Cognitive Social Capital During Pregnancy and Postpartum Depression: The Japan Environment and Children's Study	中心仮説外	

No	ユニット センター等名	報道発表日	発表タイトル	論文タイトル	全国調査・詳細調査	追加調査
17	富山ユニットセンター	2024/8/20	妊娠中の母親の発酵食品の摂取と子どもの3歳時点における神経発達の関連：エコチル調査	Relationship between maternal consumption of fermented foods and the development of the offspring at the age of 3 years: The Japan Environment and Children's Study	中心仮説外	
18	富山ユニットセンター	2024/12/9	日本人女性の妊娠前後の座位行動の実態と妊娠中の座位時間に関連する要因：エコチル調査	Factors related to sedentary behavior of pregnant women during the second/third trimester: prospective results from the large-scale Japan Environment and Children's Study	中心仮説外	
19	高知ユニットセンター	2024/6/14	日本における ESSENCE-Q 神経発達スクリーニングツールの妥当性について	Validity of the ESSENCE-Q neurodevelopmental screening tool in Japan	中心仮説外	
20	高知ユニットセンター	2024/6/25	神経発達スクリーニング質問票（ESSENCE-Q）の妥当性を評価	Validity of the ESSENCE-Q neurodevelopmental screening tool in Japan	中心仮説外	
21	高知ユニットセンター	2024/7/4	日本における ESSENCE-Q 神経発達スクリーニングツールの妥当性について	Validity of the ESSENCE-Q neurodevelopmental screening tool in Japan	中心仮説外	
22	福岡ユニットセンター（産業医大）	2024/6/13	妊婦の血中金属濃度と出生時の胎盤重量との関連：環境省子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）での研究成果について	Association of placental weight at birth with maternal whole blood concentration of heavy metals (Cadmium, Lead, Mercury, Selenium, Manganese): The Japan Environment and Children's Study (JECS)	中心仮説	
23	南九州沖縄ユニットセンター（熊本）	2024/9/13	妊娠中のフェノールばく露と子どもの喘息発症の関連	Association of phenol exposure during pregnancy and asthma development in children: The Japan Environment and Children's Study	中心仮説	
24	南九州沖縄ユニットセンター（熊本）	2024/12/13	胎児期の水銀ばく露と子どもの精神神経発達およびけいれん発症の関連について	Association between prenatal mercury exposure and pediatric neurodevelopment: the Japan Environment and Children's Study	中心仮説	

１－９　報道機関への情報発信（発信された場合）　36 件

（令和６年１月から令和６年 12 月末）

No	ユニットセンター等名	発表年月日	内容※	媒体の種類	媒体名等
1	北海道ユニットセンター	2024/5/20	北大、母親が妊娠中である際の住居のカビが小児湿疹につながる可能性を発表	HP	TECH+
2	北海道ユニットセンター	2024/6/20	小児湿疹の発症　妊娠期に住む家の床材も影響か　北大など論文	HP	毎日新聞デジタル
3	北海道ユニットセンター	2024/7/18	PRENATAL METAL CONCENTRATIONS AND PHYSICAL ABNORMALITIES	雑誌	国際学術雑誌 Pediatric Research, EDITOR’S FOCUSVolume95　No.7
4	北海道ユニットセンター	2024/8/20	古畳で小児喘息リスクがわずかに上昇 エコチル調査：母親の妊娠期の室内環境との関連を検討	HP	医学・医療ニュースサイト「MEDICAL TRIBUNE」
5	宮城ユニットセンター	2024/8/26	妊娠前から育児期の母親の累積身体活動量が、子どもが活動的であることと有意に相関	HP	スポーツ栄養 Web
6	宮城ユニットセンター	2024/12/9	保育施設の早期利用は子どもの発達を促進する　３歳児神話に科学的な根拠はない	HP	日本の研究.com
7	宮城ユニットセンター	2024/12/9	半年から３歳までの保育施設利用　意思疎通や運動、課題解決力を強化　東北大	HP	文教速報デジタル版
8	宮城ユニットセンター	2024/12/9	東北大など、保育施設の早期利用は子どもの発達を促進することを解明	HP	日本経済新聞（WEB）
9	宮城ユニットセンター	2024/12/10	0 歳からの保育施設利用は子どもの発達に好影響 － “3 歳児神話”に提言	HP	BIGLOBE ニュース
10	宮城ユニットセンター	2024/12/10	0 歳からの保育施設利用は子どもの発達に好影響 － “3 歳児神話”に提言	HP	マピオンニュース
11	宮城ユニットセンター	2024/12/10	0 歳からの保育施設利用は子どもの発達に好影響 － “3 歳児神話”に提言	HP	マイナビニュース
12	宮城ユニットセンター	2024/12/11	保育施設の早期利用は子どもの発達を促進する　3 歳児神話に科学的根拠はない｜東北大学	HP	アンドラ
13	宮城ユニットセンター	2024/12/12	“「３歳児神話」に科学的根拠なし”東北大大学院研究グループ	テレビ	NHK 仙台放送局『てれまさ』
14	宮城ユニットセンター	2024/12/14	早期保育施設通い、発達に好影響　東北大などのチームが４万人解析	HP	京都新聞
15	宮城ユニットセンター	2024/12/14	早期保育施設通い、発達に好影響　東北大などのチームが４万人解析	HP	静岡新聞 DIGITAL Web
16	宮城ユニットセンター	2024/12/15	（紙媒体）早期保育 発達に好影響-東北大などのグループ- （電子媒体）早期保育施設通い、発達に好影響　東北大などのチームが４万人解析	新聞	地方紙　河北新報（宮城県）2024 年（令和６年）12 月 15 日（日曜日）　社会　P22
17	宮城ユニットセンター	2024/12/15	＜フロンティア発＞3 歳までの保育園　発達促す	HP	東京新聞
18	宮城ユニットセンター	2024/12/16	保育施設の早期利用が子供の発達を促進　１歳未満から利用した子供は発達が良好に　「３歳児神話」は根拠なし？	HP	保健指導リソースガイド

No	ユニットセンター等名	発表年月日	内容※	媒体の種類	媒体名等
19	宮城ユニットセンター	2024/12/16	1歳未満からの保育施設利用児、非利用児に比べ発達が良いと判明－東北大	HP	QLifePro
20	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2024/2/5	「湿疹」「アトピー性皮膚炎」…●●生まれは要注意? 生後6カ月までの「季節」と「発症」に関係があるって本当？【エコチル調査より】	HP	たまひよWEB
21	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2024/3/28	妊娠中の発酵性食物繊維摂取と子どもの神経発達の関係性	HP	mizkanカテゴリー　健康にうれしいことの記事
22	甲信サブユニットセンター（信州大学）	2024/10/4	「PFAS」妊婦の血中濃度が子の染色体異常と関連？　信州大グループが分析、国は「追加調査」に否定的	HP	東京新聞 TOKYO Web
23	甲信サブユニットセンター（信州大学）	2024/10/31	衝撃の調査結果！PFASが子どもの「染色体異常」に関連する可能性を初めて指摘…信州大学が発表	HP	Yahoo!ニュース
24	甲信サブユニットセンター（信州大学）	2024/11/17	PFASについて	新聞	しんぶん赤旗2024年11月17日朝刊
25	富山ユニットセンター	2024/2/5	「湿疹」「アトピー性皮膚炎」…●●生まれは要注意!? 生後6カ月までの「季節」と「発症」に関係があるって本当? 【エコチル調査より】	HP	たまひよWEB
26	富山ユニットセンター	2024/2/13	妊娠中のソーシャルサポートと産後うつについて	テレビ	NHK徳島放送「とく6徳島」
27	富山ユニットセンター	2024/2/19	“つながり”で産後うつゼロ目指したい　NPO法人マチノワの活動を取材　ここは「あなたの居場所」です	HP	NHK徳島　徳島WEB特集
28	富山ユニットセンター	2024/7/25	ソーシャル・キャピタルと産後うつについて	新聞	地方紙　富山新聞（富山県）7月25日付　20ページ
29	富山ユニットセンター	2024/8/23	妊婦の発酵食品摂取と子どもの神経発達について	新聞	地方紙　北日本新聞（富山県）8月23日付　26ページ
30	富山ユニットセンター	2024/8/26	妊娠中のチーズ摂取が子どもの発達に好影響？	HP	Care Net
31	富山ユニットセンター	2024/9/9	Association of soap use when bathing 18-month-old infants with the prevalence of allergic diseases at age 3 years: The Japan Environment and Children's Study	HP	Allergy and Immunology in the Asia Pacific RegionVirtual Issues. First published: 21 August 2024. Last updated: 9 September 2024
32	富山ユニットセンター	2024/12/15	妊娠前後の座位行動と妊娠中の座位時間について	新聞	地方紙　富山新聞（富山県）12月15日付　16ページ
33	京都ユニットセンター	2024/5/29	パパも育児子ども健やか	新聞	中日新聞（中部）
34	大阪ユニットセンター	2024/2/13	“気になる研究結果” 妊娠前からの「朝食抜き」習慣が、妊娠糖尿病につながるかも !? 【エコチル調査より】	HP	たまひよWEB
35	大阪ユニットセンター	2024/3/11	「自閉傾向」が高い妊婦ほど、早産などのリスク上昇	HP	ヘルスデージャパン国内ニュース
36	大阪ユニットセンター	2024/4/2	「自閉傾向」が高い妊婦ほど、早産などのリスク上昇	HP	ケアネット

※注：著作権の関係からWEB等で一般公表されている場合のみタイトルを記載。一般公開されていない(購読等が必要)場合は内容のキーワード（「○○について」など）を記載。

エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況
（令和６年４月～令和６年９月末時点）

調査実施機関名：　北海道ユニットセンター

評価時点	令和６年 10 月 31 日

ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持や質問票回収率の維持・向上の取組	
（P）計画 （D）実施	**目標：学童期参加者のうち、13 歳以降の調査継続率 80%を目指す！** **Plan(P)1：13 歳以降調査に向けた保護者の継続手続き完了と継続的な調査協力の支援** **① 学童期検査での調査継続勧奨と手続きサポート** 学童期検査に来る参加者は、全体のうち調査参加に好意的な集団と考えられることから、検査前に 13 歳以降調査継続手続きの完了状況を事前に確認し、未完了者には積極的に声掛けした。R5 年度の勧奨を分析し、保護者が継続手続きや web 質問票への協力をする上で妨げとなる「壁」を**「A：分かりにくさ（機器の操作が苦手、やり方が分からない）・B: 手間（忙しい、手続きが面倒等）・C: 不安（調査の継続に対する不安や疑念がある）」**の以下の 3 つに分類し、対面調査時にそれぞれ特徴に合わせた対応を行った。検査当日の対応がスムーズに進むよう、学童期検査前の送付物には、「できれば 13 歳以降調査の継続手続きを完了してから来て下さい」と手紙を同封した。 **A:分かりにくさ**：検査時に手続き支援専門スタッフを配置した。検査に来ない参加者には web フォームを設置し、電話やメールでの支援をした。アカウント情報を紛失しないよう、**「エゾチルカード」**を作成し、周知した（図 1）。 **B:手間**：検査時にアカウント情報などを準備し、その場での手続きを案内、実施した。 **C:不安**：気持ちを聞き取り、少しでも協力したい気持ちがあれば無理なく協力できる方法を提案したり、迷っている方にはゆっくり検討することを進め、焦らせないようにした。 **② 質問票回収率維持に向けた取組：「ゆるエコ北海道」** 北海道ユニットセンターでは質問票の回収率を上げるべく、質問票の送付時期を工夫したり、様々な方法で返送依頼を実施しているが、回収率は全国平均を下回っている。全回収率の 9 割が過去の質問票を全て提出している参加者が占めることから、未提出集団への返送依頼の効果は薄いと考えられた。一方で、質問票提出状況が芳

	しくない参加者であっても学童期検査への参加が頻繁にみられることから、得意な参加形態に「多様性」があると思われた。そこで、協力取りやめがない限り、いつかどこかで参加してもらえることを期待し、**「ゆるエコ北海道」:ゆるやかな調査継続スタイル**を尊重し、過度な返送依頼はせず、現状を維持することとした。加えて、調査継続の希望があるにも関わらず転居を知らせ忘れて途切れる参加者がいたことから、意欲がある人を一人でも取りこぼさないよう、住所追跡・住民票閲覧体制を強化した。 **P2: 参加児の主体的な調査参加へのモチベーション向上** **① 子どもに向けた成果発表の報告:「オンライン市民講座」の講義動画とOne page summary の作成・公開を継続** 最年長参加児が小学校高学年になった R3 年度より、アプローチの主軸を保護者から子へ移し、R6 年度も引き続き参加者の調査意欲向上に関する取組を実施することとした。子自身が調査の目的や重要性、貢献度を理解できるよう、子の認識度に合わせたエコチル調査論文紹介を行った。具体的には「オンライン市民講座」動画（参加者限定 Web サイト内）と、ユニットセンターキャラクターを用いた One page summary（web と紙媒体）の新作を公開した（図 2)。
（C）評価	**P1:13 歳以降調査に向けた保護者の継続手続き完了と継続的な調査協力の支援⇒ 概ね達成** **① 学童期検査での調査継続勧奨と手続きサポート** 学童期検査会場では勧奨後の継続手続き完了率は 79.3%、帰宅後等後日の手続き完了を含めると 83.6%と、目標を達成した。検査前に事前の手続きを促すことによって、学童期会場にアカウント情報を持参したり、積極的に質問をしたりと保護者の意識向上がみられており、子どものログインまで操作サポートできる機会も増加した。北海道ユニットセンターの 2012 年度生まれ対象者の 13 歳以降調査への参加意思表明状況は、9/23 時点で保護者の積極的継続可の割合が 33.1%と、全国平均を 6.2%上回った。 さらに保護者継続可の数を分母とした子どもログイン数は 51.3%と、全国平均を 4.3%上回った。学童期会場で保護者のニーズに合わせて勧奨を行ったことや、子ども向けの資材を作成して子どもに直接声をかける勧奨を行ったことなどの効果も出ていると考えられる。 **②質問票回収率維持に向けた取組:「ゆるエコ北海道」** 質問票回収率は全国平均までは依然届いていない。一方①とも共通するが、13 歳以降の調査参加主体が保護者から子へ移る中、質問票提出が滞りがちな保護者に比べ、子が積極的に継続意欲を示すことも多かった。保護者がゆるやかに継続してきたことで、意欲のある子へとバトンを繋げられた結果であると考える。こちらはすぐに成果が出るものではないため、長期間の成果を見守っていきたい。

	P2: 参加児の主体的な調査参加へのモチベーション向上⇒達成 **① 子どもに向けた成果発表の報告:「オンライン市民講座」の講義動画とOne page summary の作成** 期間内に 1,761 人の Web アクセスがあった中、講義動画はトップページに次いで最も視聴数が多く、特に新作公開やイベント後に視聴数のピークが見られた。参加者が研究成果を待ち望んでおり、ニーズに沿った更新ができていると判断した。One page summary は学童期検査の事前案内郵送時に配布をしたことで、検査当日に参加児から内容に関する質問や好意的な感想のフィードバックを直接聞くことができ、調査参加意欲の向上に繋がっていた。
（A）改善	**P1:13 歳以降調査に向けた保護者の継続手続き完了と継続的な調査協力の支援** 調査への過度な参加依頼は協力取りやめを招きかねないため、今後も控え、質問票発送や返送依頼の工夫を続ける一方、学童期検査会場では積極的な勧奨を続ける。また、参加意欲のある人を一人でも取りこぼさないよう住所追跡に注力する。P2 と合わせて本来の調査参加意欲を高め、長期的な視野で調査継続に繋げたい。 **P2: 参加児の主体的な調査参加へのモチベーション向上** 参加児の年齢が上がってきたことに伴い、学術的な内容に関心が高まってきており、ニーズに応えられるよう今後もコンテンツの拡充を目指す。紙媒体の One page summary や広報誌「エゾチル通信」、対面でのイベント企画なども含め、多様なチャネルを効果的に駆使して参加者の意欲を高めることを心掛ける。

イ．成果の社会還元の取組	
（P）計画 （D）実施	**P3:地域全体を巻き込んだ成果の還元:みんなエコチルサポーター** 参加者のみならず、幅広い一般市民にもエコチル調査とその成果を知ってもらうことを目的として、前述 P2「オンライン市民講座」の旧作動画 5 本を一般向けにも公開した。従来、ユニットセンター単独で実施するイベントは企画・運営等に多大な労力を要するうえに運営委託費用も高額なため、開催数が頭打ちだった。R6 年度は大学、行政、地域との連携をより強化し、それらのイベント・講演会等に積極的に関与する形で、低予算・多数の活動を目指した。大学との連携では、科学系イベント実施、博物館への出展や市民セミナーでの講演等、行政・地域との連携では、動物園でのパネル展示や小中高校への出張講義を行った。 **P4: ユニットセンター成果発表体制の強化と、次世代の研究者育成** 以前より、ユニットセンター教員と事務員の成果発表支援チームを作り、成果発表予定課題リストを作成・管理して各課題の執筆責任者へ定期的な進捗確認や会議を随時行って、早期かつ質の高い論文の作成を図っている。R6 年度も**（1）北海道ユニットセンターか**

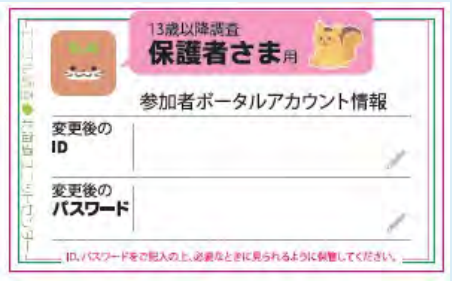
	らの成果発表論文数増加、(2) 大学院生の教育の充実を目標に引き続き実施した。課題の執筆責任者とユニットセンター教員が指導しながら、大学院生や若い研究者が課題執筆に中心的な役割を担うことで次世代の研究者育成を目指した。
（C）評価	**P3:地域全体を巻き込んだ成果の還元 ⇒ 概ね達成** 大学との連携により大学全体に調査活動が周知された。その予想外の波及効果として、駐日フランス大使館科学技術担当官が北海道大学を訪問した折に、調査活動に関する紹介・意見交換の場が設けられ、学内のみならず国外への発信に結びついた。期間内のイベント・講演会等活動回数は 10 回で過去最多であった。「オンライン市民講座」の視聴数も前年同期間比 3 倍超であった。新作動画作成とともに ID 等入力不要の Web 上で公開したことで視聴数が増加した。大学・行政と連携した新しいタイプの活動は未開拓の幅広い市民層へのアプローチとなり、緩やかではあるが市民との協力関係を醸成している。 **P4: 成果発表体制の強化と、次世代の研究者育成 ⇒達成できた** 期間内に 5 本の論文受理があった（うち中心仮説に関わる課題 2 本）。昨年度後半の中心仮説に関わる課題 2 本からは、1 本（筆頭著者が大学院生による学位論文）が R6 年 7 月に Editor's Focus を受賞した。「発表本数増加と質の高い論文」の目標を十分に達成できた。若手研究者によるデータ利用申請も増加しており、次世代研究者の育成増加も達成できている。一方、大学院生の学位中間審査後の発表未届出が発覚した。学童期検査では、北海道大学・日本赤十字北海道看護大学の学部生・大学院生を検査実施スタッフに雇用して調査の推進に協力を得るとともに、様々な学問分野に携わる学生が研究者と触れ合い、疫学調査を学ぶ機会となった。
（A）改善	**P3:地域全体を巻き込んだ成果の還元** 大学・行政のように大きな組織との連携は、低予算で幅広い成果還元が可能である。今後もさらに一般市民を巻き込んだ調査推進、成果還元を行うことで、参加者がエコチル調査への参加意義を再確認し前向きに継続する好循環を作り出していく。一方、参加者への「特別待遇」を維持するため、「オンライン市民講座」の最新作は参加者限定公開を一定期間続け、ログイン ID を目に触れやすくして視聴のハードルを下げる。 **P4： ユニットセンター成果発表体制の強化と、次世代の研究者育成** 成果発表は参加者に加え、大学や行政、一般市民にとっても大きなモチベーションとなる。今後のユニットセンター体制を維持する上でも、成果発表を継続的に支援するとともに、優れた研究成果を持つ若い研究者を育て、安定した運営を目指したい。将来的に、他部局・他分野と研究面で協力を進めるなど、環境保健分野の研究を促進する可能性を大いに感じている。一方、境遇の異なる多数の研究者に対するルールの周知方法を工夫する必要がある。

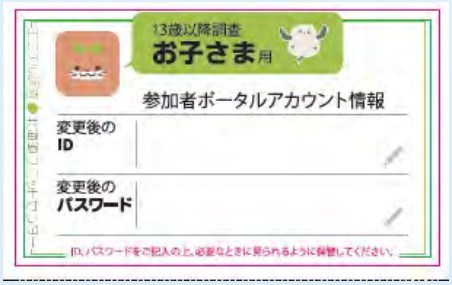
【図 1】アカウント情報を記載した「エゾチルカード」

アカウントを行き来する際、親子のアカウント情報が分からなくならないよう、カードを作り事前に周知

図1：アカウント情報保存のための「エゾチルカード」

カードを作り、親子それぞれの変更後の アカウント情報を 記入して保存するよう案内





アカウント保存の重要性を周知する資材

- ◆ アカウント情報保存のおすすめ
- ◆「エゾチルカード」の使用方法
- ◆ インセンティブ案内
- ◆ 問い合わせフォームのQRコード付記

図 2：オンライン市民講座と One page summary

エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況
（令和６年４月～令和６年９月末時点）

調査実施機関名：　宮城ユニットセンター

評価時点	令和６年 10 月 15 日

ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持や質問票回収率の維持・向上の取組	
（P）計画 （D）実施	**調査参加へのモチベーション維持への対応（P1/D1-P3/D3）** **P1/D1：参加者との双方向コミュニケーション** **P1-1** オンラインセミナーの開催（小児科・精神科・耳鼻咽喉科など） ・事前・事後アンケートを用い双方向性を担保する. ・ライブ配信に加え，YouTube の限定公開でオンデマンド配信を行う. **D1-1** オンラインセミナー開催（2024 年 5，6，8 月，10-2 月） (図 1, 図 12，13-アンケート) 学校心臓健診，頭痛について，子どものメンタルヘルス，いびきと睡眠の関連，など学童期の対象者と保護者が興味を持ちやすい内容とし，東北大学病院および関連病院の医師に講師を依頼し実施した．セミナー後に YouTube (限定公開)で HP 上にアーカイブ配信している. **P1-2** ユニット情報誌で子どもたちとのコミュニケーションを図る. **D1-2** ユニット情報誌「MUC だより」19 号に添付した冊子（エコチルキッズ）で，好きな本についてのアンケート調査を行い，20 号にセンターからの返信を加えた (図 2)．また，20 号に門松を作れる台紙を付録とし，21 号 (4 月号)と HP に写真を掲載した (図 3)．21 号は子ども向け新聞形式（進級・進学おめでとう号）とし，「みんなでつくろう MUC だより　あなたの『エコ活』教えて！」として応募を募った(図 4)．次号の MUC だよりおよび HP に掲載予定. **P2/D2：参加者への定期的な成果のお知らせ** **P2-1** オンラインセミナー開催時に成果報告を行う. **D2-1** オンラインセミナー開催時，参加者に対し，講演前にエコチル調査の紹介と，講演内容と関連するような近年のエコチル成果を紹介した. **P2-2** ユニット情報誌「MUC だより」で成果報告を行う. **D2-2**「MUC だより」で近年の成果報告を行った (図 5)．また 21 号(こども新聞形式)では「受動喫煙を知っていますか」という特集を組んで，受動喫煙に関連する成果物への興味を引く内容を掲載した (図 6)． **P2-3** SNS，HP を活用し成果をお知らせする. **D2-3** 成果をお知らせするため，X (Twitter)での随時掲載を行っている．HP は今年度初めに改定し，以前はタイトルと和文抄録のみだった成果報告コーナーを充実させ，より読みやすい形を工夫した (図 7) ． **P3/D3：学童期(集団)検査参加へのモチベーション維持の工夫** **P3-1** 今年度ユニットとして初めて行った学童期集団検査時に調査参加への感謝や成果への還元の意義を対象者本人・保護者に直接伝える. **D3-1** 集団検査時の積極的な声掛け（「参加してくれたことで社会の色々なところで役に立ってるよ」など），会場への成果ポスターやパネルの貼付およびスタッフ

	による成果の解説を行った (図 8). **P3-2** 学童期集団検査参加時に調査会場限定のプレゼントを準備する. **D3-2** 集団検査会場にプレゼントを配置し (図 9)，さまざまな種類の小さな文房具の中から 3 つを選択できるようにした. **P4/D4：質問票回収率の維持・向上の取り組み** **P4-1** 謝礼やリマインダ方法の工夫による質問票回収率維持，モチベ―ション維持の工夫を行う. **D4-1** S6 対象者に対し，集団調査と質問票回収，13 歳調査へのログインを合わせたポイントカード (図 10)を作成し，調査参加率および質問票回収率，13 歳調査への継続率向上を図った．また，S5 対象者に対し，昨年の福島ユニットセンターの取り組みを参考に，ボールペンの替え芯を選べる仕組みによる質問率回収率向上を図った (図 11). **P4-2** SNS を用いて質問票回収率の維持・向上を図る. **D4-2** 質問票の送付は都度 X (Twitter)でお知らせし返送をお願いした.
（C）評価	**C1：参加者との双方向コミュニケーション** ・エコチルセミナー参加者数は毎回 20－30 人であった. ・エコチルセミナーの事後アンケート調査（図 12）では，満足 81(%)，やや満足 19(%)と非常に好評だった. ・事後アンケートの回答を図 13 に示した. ・好きな本についてのアンケート結果は 10 件寄せられた．台紙を用いて制作し，背景に今年の目標を書いた門松の写真は 15 件寄せられた．好きな本へのユニットセンター側からのコメント掲載，門松写真の掲載 (図 2,3)による双方向コミュニケーションが施行されたと考えられる. **C2：参加者への定期的な成果のお知らせ** ・オンラインセミナーや MUC だより，更新した HP での成果報告に関して，対面調査時に「興味を持ってみています」という声や「このような成果をどんどん発信してほしい」という声が保護者や対象者の子どもたちから挙がった. ・X (Twitter)での成果の随時掲載時には 1500 人以上の視聴数があり (図 14)，参加者および社会への還元に役立っていると考えられる. **C3：学童期(集団)検査参加へのモチベーション維持の工夫** ・集団調査会場における成果ポスターやパネルの掲示，成果集の配布により，会場内で保護者や対象者自身からリサーチコーディネータや教員に対して直接質問が出たり，自分が参加している研究が「世界の人に読まれている，メジャーリーガーだね」という対象者からのポジティブな発言があったり，「このような成果が出ているのに，13 歳以降辞めてしまうのはもったいないですね」という保護者からの意見が出たりする直接的な効果があった. ・調査会場限定のプレゼントは，会場に入ってきたときに目につきやすいように工夫したことで，来場した対象者の多くが調査開始前から「楽しみだ」と口にし，終わった後に嬉しそうに選んでいた．終了後の楽しみがあるとわかることで，調査に積極的に取り組むモチベーションの一つにすることができた. **C4：謝礼やリマインダ方法の工夫** ・S6 のポイントカードによる質問票回収率改善効果は対面調査，13 歳継続勧奨と合わせ，現在評価中であるが，対面調査の際に「ポイントをためることを楽しみにしている」との声が多く聞かれた．S5 に関しては図 15 のように，2024 年度

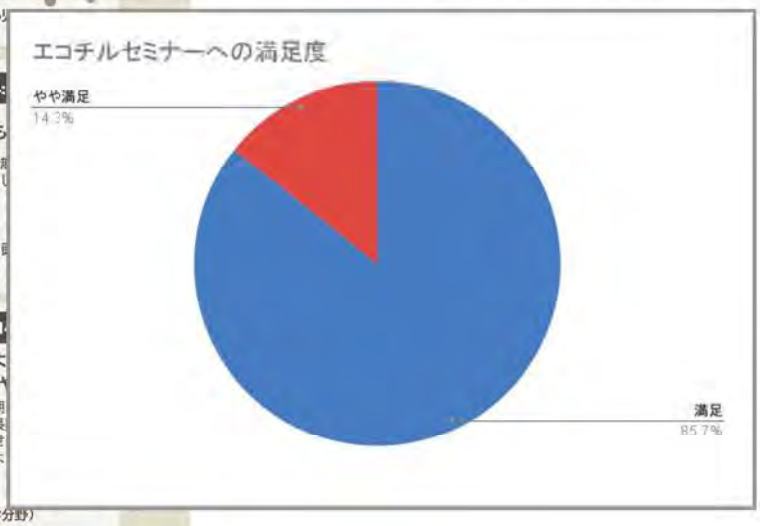
	は 2023 年度に比較して発送後 40 日目までの回収率の上昇が認められた． ・X では質問票送付のお知らせやポイントカードのお知らせなどを頻度高くアップし，リマインダの一つとしている (図 16)．
（A）改善	**A1 :** 来年度に向け，対面・オンラインの両方をうまく組み合わせ，今年度好評だったセミナーを継続する．セミナー内容を YouTube，インスタグラムにアップする． **A2 :** チーム内で研究を推進する仕組み作りをさらに進め成果を上げる．ネット記事やプレスリリースの多用などで成果を還元する．成果を動画にして SNS にアップする（図 17） **A3 :** 今年度の集団調査で課題となった部分，特に日時の設定やリマインダ方法についてさらに検討を重ね，より参加しやすい形の調査形態を考慮する． **A4 :** ポイントカードをはじめ，参加者のモチベーションを上げるリマインダ方法を検討し，効果を見ながら回収率の改善を目指す．

イ．成果の社会還元の取組	
（P）計画 （D）実施	**エコチル調査の成果をさまざまな機会に社会に還元する（P1/D1）** **P1/D1：学会，セミナー，イベント，メディアにおける成果の社会還元** **D1-1** 宮城ユニットセンターで出版した論文をもとに，第 60 回日本周産期・新生児医学会学術集会，日本発育発達学会第 22 回大会，第 29 回日本 SIDS・乳幼児突然死予防学会学術集会などの学会で成果を報告した． **D1-2** エコチルセミナーにて，参加者，一般市民に向け，エコチル調査の成果を発表し社会に還元した．セミナーは X (Twitter)や HP，関連医療機関で案内した． **D1-3** 東北大学医学部オープンキャンパスで科学コミュニケーションを図った．オープンキャンパス全体の来場者 4,516 名のうち，エコチル調査のブースには 520 名が来場し，成果発表ポスターに多くの高校生が興味を持ちディスカッションを行った．MUC だよりやエコチル調査パンフレットを渡しエコチル調査の説明も行った（図 18）． **D1-4** 宮城県医師会主宰のイエローグリーンキャンペーンにて，エコチル調査宮城ユニットセンターの受動喫煙に関する論文を用いたパンフレットを利用し受動喫煙防止を訴えた．東北大学医学部周辺をイエローグリーンにライトアップし，その様子を SNS に掲載した (図 19)． **社会還元のための業務効率化と研究チーム力強化（P2/D2-P3/D3）** **P2/D2：業務効率化のための取り組み** **D2-1** 東北大職員限定使用が可能な Cloud ベースの Google workspace を汎用し，スプレッドシートや Google document，Google site，Form など双方向・同時コミュニケーションによる業務効率化を図っている．今年度は，集団調査を効率的に進めるためのポータルサイト(図 20)や，調査の進行状況が一目でわかるスプレッドシートなどを作成した (図 21)． **D2-2** 成果発表・報告のためのさまざまな手続きを分かりやすくまとめたエコチル研究者ポータルサイトを作成した(図 22)．諸手続きを正確に進めるため成果報告チームを組織し業務を共有した． **P3/D3：研究チーム力強化** **D3-1** 毎月 1 回，大学院生，エコチル調査関係研究者，エコチル調査研究に興

	味のある小児科医などで一同に会したプログレスミーティングを開催している．また，これ以外の時間は Google クラスルームでのオンライン抄読会(図 23)や大学院生用ポータルサイト(図 24)での情報共有，チャットスペースの活用，Google document を用いた双方向論文作成指導など，スピーディーな成果創出のためのシステムを構築している． **D3-2** 大田ユニットセンター長が参画している東北大学医学部内の研究力強化ワーキンググループのネットワーキングイベントでエコチル調査とその取り組み，共同研究のための仕組みについて紹介した(図 25)．
（C）評価	**C1：エコチル調査の成果をさまざまな機会に社会に還元する** ・さまざまな学会で成果を報告することで，エコチル調査の認知度を上げ，興味を持って共同研究をする研究者へのネットワーキングにもつながった． ・エコチルセミナーにはエコチルについて知らなかった一般の方も参加していたため成果の社会還元に寄与した．X に成果を投稿すると，インプレッション数が 1000 を超え，多くの人に関心を持っていただけていることが分かった． ・オープンキャンパスのエコチルブースは反響が大きく，高校生たちとのディスカッションも盛況で，科学コミュニケーションに成功したと考える． **C2：社会還元のための業務効率化と研究チーム力強化** ・集団調査に関する多くの業務に関する情報は，ポータルサイトや Google form を用いて共有したことで，効率化やリサーチコーディネータ同士の風通しのよさにつながった． ・研究者のためのポータルサイトを整備したことで，研究者からの不明点の問い合わせが減り，AP に投稿する手続きなどの迅速化，効率化が進んだ．成果報告チームの組織により，データベースの構築やエコチル関係者登録，AP 投稿などの業務が整理され，スムースに進むようになった． **C3：研究チーム力強化** ・小児科関連の大学院生が 5 人になり，オンライン抄読会，ポータルサイトによる情報共有，チャットスペースでの盛んなディスカッションなどが行われている．現在このチームから複数の論文の発表および投稿準備が行われている． ・エコチル調査について学内でのネットワーキングイベントで紹介したことで，共同研究希望が相次ぎ，4 つのコラボレーション企画が開始されている．
（A）改善	**A1：エコチル調査の成果をさまざまな機会に社会に還元する** 大学広報と連携し，TV による宮城ユニットセンター取材やラジオ出演，各サブセンターの地元の新聞へのコラム執筆を検討中である．Instagram および YouTube チャンネルの開設準備中である． **A2：社会還元のための業務効率化と研究チーム力強化** 業務効率化が進んできたため，調査やリマインダにかけられる時間を増やし，質問票回収率上昇，対面調査参加率上昇，成果創出に向けて働く． **A3：研究チーム力強化** 東北大 Google workspace をフル活用し，効率的で風通しの良い研究環境を整備してきたため，さらなる成果創出に向け，多様なバックグラウンドを持つ多くの共同研究者とコラボレーションを続けながら，レベルアップしていきたい．

図 1　対象者（親と子）向けのオンラインセミナー開催

図 12
オンラインセミナーへの満足度



※セミナー内容でまとめたため，
図の番号が前後しています．

図 13　参加者事後アンケートの回答抜粋

第 1 回　学校心臓検診で心雑音・不整脈を指摘されたら?

- 学校検診で指摘される心疾患についてわかりやすくお話しいただき、理解することができました。
- 年齢に応じて心電図が変化すると知り、学校種ごとの健診をしっかり受けさせたいと思いました。

第 2 回　頭痛のミカタ

- 専門医から詳しく丁寧に教えていただき、大変わかりやすかったです。ありがとうございました。

第 3 回　子どものメンタルヘルス

- まわりで不登校の子どもの話を時々きくので、参加しました。
- こども（小 5）と一緒にききましたが、子供も大変わかりやすかったと言ってました。
- 質問でもありましたが、学校でもこのような授業があってもいいなと思いました。
- 夏休み明け、学校に行きたくない子供たちが増えること、我が子も気を重くしているので聴講いたしました。SNS のメッセージのやり取りを活用してコミュニケーションをとる方法も有効かもしれないと目から鱗でした。仕事では聴くことを心がけていても、我が子となると話をまとめてしまっているなぁと大反省しました。親も子も体と同じように心の不調をセルフモニタリングできるスキルが大切なのだなと大塚先生のお話を聞いて気づくことができました。ありがとうございました。

図 2　ユニット情報誌による子どもたちとのコミュニケーション①（好きな本の募集と掲載）

図 3

ユニット情報誌による子どもたちとのコミュニケーション②（門松の工作）

図 4

ユニット情報誌による子どもたちとのコミュニケーション③
（『エコ活』を募集）

次回、MUC だより 22 号にて、
応募内容を紹介する。

図 5　ユニット情報誌「MUC だより」にて近年の成果報告①

対象者にもわかりやすいよう原著論文をわかりやすい文章で図解。また、著者の顔や情報を掲載し「どんな人が書いているか」を示すことで、調査に対する親近感や信頼感を高める効果を図った

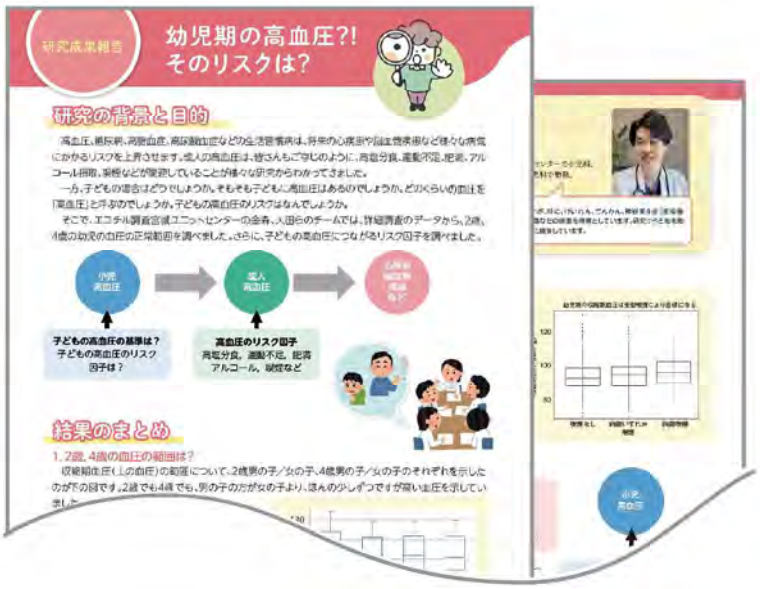


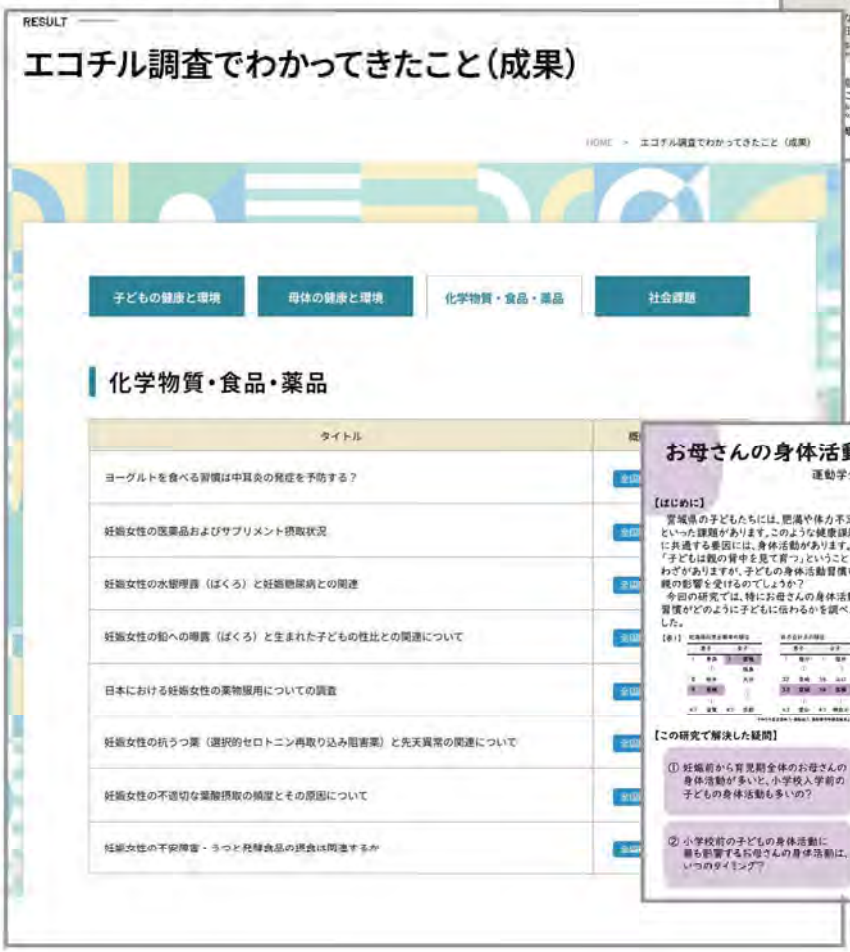
図 6

ユニット情報誌「MUC だより」にて近年の成果報告②
（図 19 に関連項目あり）

図 7

宮城ユニットセンターホームページの成果報告ページの充実

以前はタイトルと和文抄録のみだった成果報告コーナーを充実させ、対象者が読みやすいよう独自の和文成果報告資料を作成し紹介し工夫している。



独自の和文成果報告資料

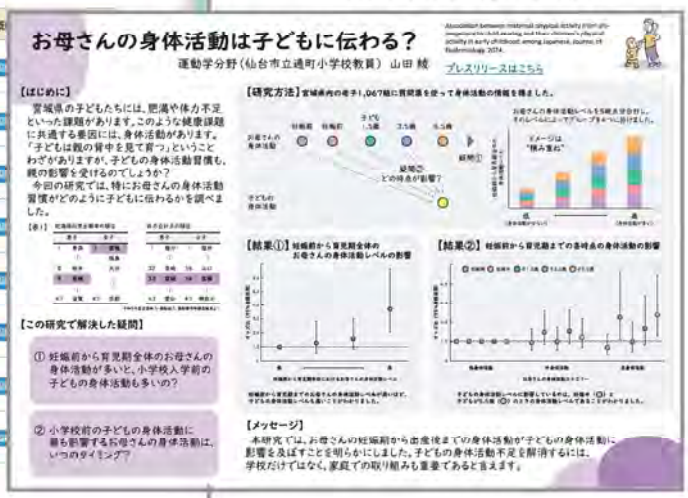


図 8　学童期集団調査時の積極的な声がけ

学童期検査の際、対象者向けにわかりやすく作成した成果のポスターやパネルを掲示し、興味を示した対象者にはスタッフがわかりやすく解説した。

図 9　学童期集団検査参加者に調査会場限定のプレゼントを準備した

さまざまな種類の小さな文房具の中から 3 つを選択できるようにした

図 10　ポイントカードを用いた参加率および回収率向上の取組み

図 11　ポイントを集めた対象者へのプレゼント送付

※図 12、図 13 は、図 1 とともに記載

図 14　SNS を用いた情報の発信

X (Twitter) での成果報告は 1,500 回を超える視聴があった

図 15　ポイントカードによる質問票回収率改善効果を確認

2024 年度は 2023 年度に比較して発送後 40 日目までの回収率の上昇が認められた

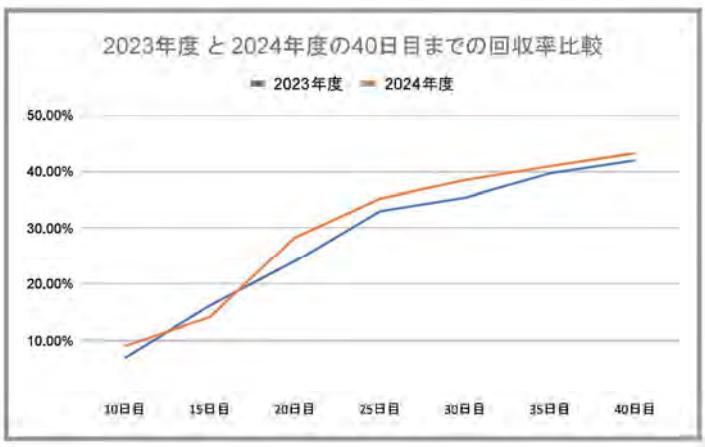


図 16　SNS の効果的利用

頻度が高すぎると逆効果になりうるお知らせを、X (Twitter) に頻度を高く掲載し、リマインダ方法の 1 つとして利用

図 17　多様な成果還元手法の試み

チーム内で研究を推進する仕組み作りをさらに進め成果を上げている。
成果をショート動画化するなど、時代に即した手法を活用。

エコチル成果を用いたショート動画の作成
Environments affect blood pressure in toddlers: The Japan Environment and Children's Study
Pediatric Research, 2023. doi. 10.1038/s41390-023-02796-8

図 18　東北大学オープンキャンパスでの社会還元の取り組み

全体の来場者 4,516 名のうち，エコチル調査のブースには 520 名が来場し，成果発表ポスターに多くの高校生が興味を持ちディスカッションを行った.

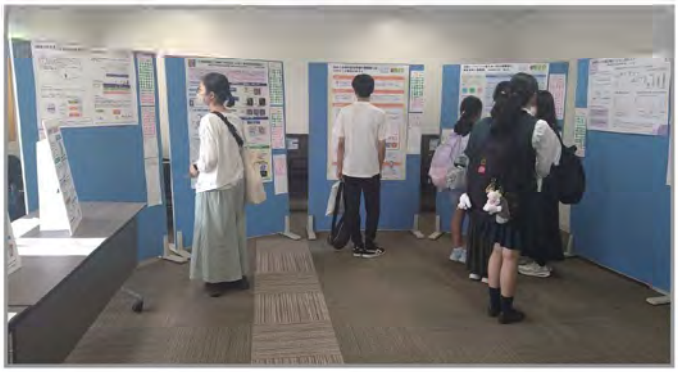


図 19

（図 6 に関連項目あり）

図 20　学童期集団調査効率化ポータルサイト

離れた 5 つのセンターのスタッフ全員が、調査の進捗を逐一共有できる工夫

図 21

学童期集団調査の進行状況の共有

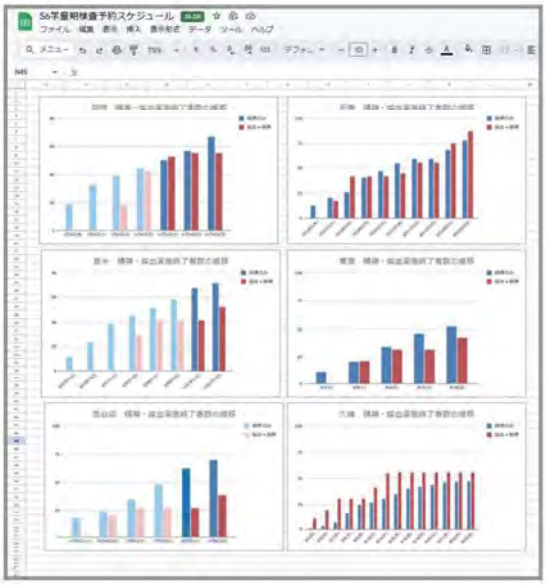
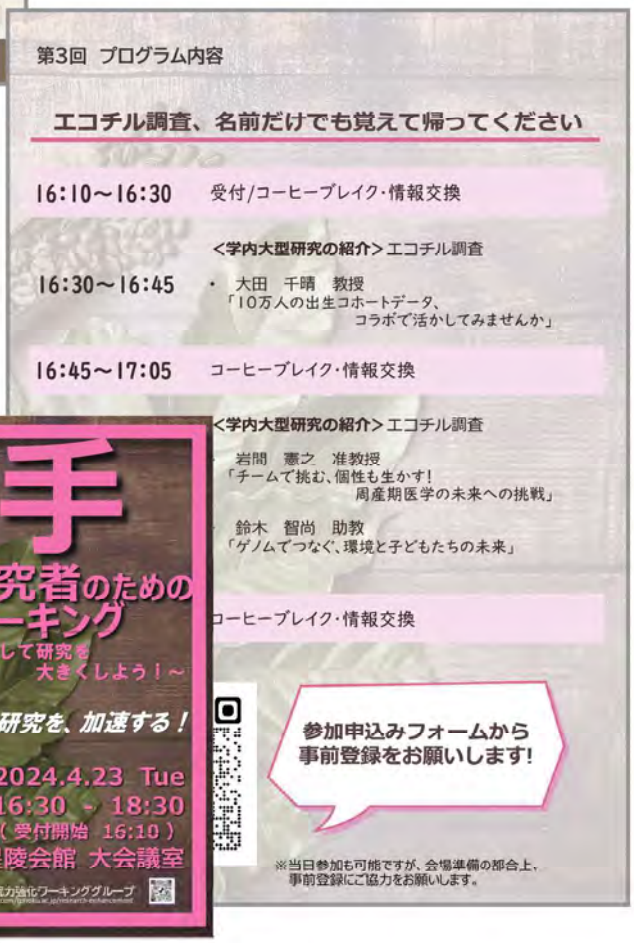


図 22　研究者ポータルサイト

図 23
Google クラスルームでのオンライン抄読会

図 24　大学院生用ポータルサイト

図 25
東北大学内での研究者向け広報活動



エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況
（令和６年４月～令和６年９月末時点）

調査実施機関名： 福島ユニットセンター

評価時点	令和６年 10 月 25 日

※計画実施欄の番号右側( )内記号定義 K:Kaizen（計画拡充・改善） N:New（新規計画）

ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持や質問票回収率の維持・向上の取組	
（P）計画 （D）実施	**〇計画１（K）調査参加のモチベーション維持** 指標：・13 歳までの調査:参加者減少率を 1%以内とする ・13 歳以降調査:13 歳以降調査の継続参加者構成割合を 13 歳までの調査と同程度に維持することができる **取組１-1(K)｜ふれあい会（参加者対象イベント）の開催（図１）** 猪苗代町にある国立磐梯青少年交流の家プログラムを利用し親子会津漆蒔絵制作体験を開催した。センター長による「13 歳以降の調査継続勧奨」に関する講話の時間を設け、参加者との間で顔の見える双方向の交流を図る内容とした。 **取組 1-2(K)｜環境セミナー（参加者対象イベント）の開催** 参加者親子を対象に環境に関する現状・課題を学び会う機会として、県内環境関連施設で施設の見学、専門家による講話を継続して計画した。令和 6 年度は、郡山市クリーンセンター体感型環境学習施設で「地球温暖化と 5R」をテーマに令和 7 年 2 月に親子を対象に開催を計画した。 **取組 1-３(K)｜こどもアンケート回答へのお礼メッセージ（図２）** 子どもとのコミュニケーションの機会として、回答への感謝の気持ちを伝えるお礼メッセージをグリーティングカード(ポップアップカード)で送付しており、参加児氏名は職員が心を込めて手書している。 **取組 1-４(K 一部 N)｜13 歳以降調査継続率の向上** **ア)小学 6 年生へエール集配付(K)** 小学 6 年生へユニットセンターからの応援メッセージを伝えるオリジナル・エール集「キミたちへ贈る言の葉」(図 3)を作成し、小学 6 年学年質問票へ同封した。 **イ)未同意者へ月 1 回リマインドの実施(N)** 案内資料発送後 1 か月毎にハガキでリマインドを実施した。ハガキは通常サイズ、大判サイズ等媒体に変化をつけた。従来の質問票調査との変更点の一覧や期間限定プレ質問票回答特典などを分かりやすくまとめた資料を同封した。 **ウ)相談対応の拡大(K)** 参加者が連絡をしやすい平日夜間、土日昼間の時間帯に電話対応時間を設定し実施した。また、学童期検査会場にて相談対応スタッフを増員配置し、13 才以降調査継続勧奨および手続サポートを実施した。下半期は県内各地域の商業施設等を利用した相談対応を計画した。 **エ)地域運営協議会の体制強化(K)** 13 歳以降調査を円滑に進めるため、中学校教育関係者との連携が必要と考え、昨年度下半期に県中学校校長会長を訪問、及び、中核市中学校校長会においてエコチル調査について説明した。今年度は県内 8 地域の中学校長会役員を訪問し、調査説明、および地域運営協議会への参画を依頼した。

	〇計画２（K）質問票返送率の維持・向上 指標：返送方法の工夫により、質問票返送率を維持することができる **取組 2-1(K)｜学年質問票返送依頼方法の工夫** 返送時期の早期化、返送率向上のため、学年質問票発送後から 1 か月後にハガキでリマインドを行い、2 か月後に質問票の再送を行った。 **取組 2-2(K)｜質問票等郵送用封筒の開封率向上の取組** 開封率向上を狙い、刃物を使わず開封可能なミシン目加工封筒を、質問票調査用に続き、学童期検査資料郵送用封筒（図 4）にも導入した。 また、質問票封筒開封率向上及び参加児同士のコミュニケーションが学校等で深まり、調査参加意識が醸成されることを期待し、全学年質問票にカラフル付箋セット（図 5）を封入した。封筒に「プレゼントが入っているよ」と印字して開封を促した。 **取組 2-3(K)｜年齢質問票返送キャンペーン「カスタマイズボールペン」** 12 歳年齢質問票（食事調査票あり分量が多い）返送率向上対策として、①質問票発送時に 5 色芯ボールペンホルダーと赤黒リフィル芯 2 本を進呈し、②質問票返送時、リフィル芯 3 本の色希望用紙を同封、③希望色 3 本を進呈し、カスタマイズボールペンを完成させるキャンペーンを継続実施した（図 6）。
（C）評価	**〇計画１　調査参加のモチベーション維持** 上半期実施分ほぼ達成 取組 1-1 アンケートでは、「子どもに役立つ調査結果や 13 歳以降調査の内容を直接教えてもらった」など、直接コミュニケーションを評価する感想を得た。 取組 1-4 エ）中学校長会役員への説明の結果、協議会への参画を快諾いただいたことから、13 歳以降調査等への取組強化につなげていく。 取組により、9 月末時点の子ども現参加者数は 11,845 人、現参加率（転出入調整）は、92.8%（前年度同月末から 0.3%減少）であり、目標を達成できた（表 1）。 13 歳以降調査については、9 月末現在の本年度の全体のログイン数に対する当ユニットセンターログイン数の構成割合は 8.0%で、全体の配信対象参加者数に対する当ユニットセンター参加者構成割合（7.2%）以上を維持している。なお、代諾者ログイン率 31.0%、積極的継続可の割合 30.0%ともに、全体の代諾者ログイン率（27.7%）、積極的継続可の割合（26.9%）と比較して高かった。 取組により参加児のモチベーション向上、保護者の参加意欲向上につながったと考えられるが、13 歳以降調査継続につながるよう更なる強化が必要と考える。 **〇計画２：質問票返送率の維持・向上** 上半期実施分一部達成　参加者からカラフル付箋について「便利で使わせてもらっています」、「ケース付きで大変喜んでいます」などの感想が寄せられている。 12 歳質問票の返送状況から、一定の取組の効果は認められるが、今後は小学校卒業と重なる年度末のスケジュールを考慮しながら対応する必要がある（図 7）。 取組を通して、質問票回収率の維持・向上につながったと考えるが、13 歳以降調査継続にも影響があることから、様々な工夫を行いながら取組む必要がある。複数の業務と並行してより多くの方に継続していただける取組を計画する。
（A）改善	**〇計画１　調査参加のモチベーション維持** これまでの取組を継続するとともに、調査内容を共有するため、小学 3 年生までの質問票回答集計結果をまとめた小冊子の発行（イ. 計画 3 参照）を計画した。 次年度、13 歳調査継続意向確認及び学童期検査対象となる小学 6 年生は約

	6,000 人と非常に多くなる（今年度の約 3 倍）ので、より多くの方に継続していただける取組を計画する。 **〇計画２　質問票返送率の維持・向上** 今後もアンケートや対面調査の機会に、参加親子に取組への意見、感想を確認しながら、効果的な取組を進める。

イ．成果の社会還元の取組

（Ｐ）計画
（Ｄ）実施

「次世代の子どもが健やかに育つ環境の実現」（上位目標）に向け、エコチル調査は、成果を国民に最大限還元することが期待されている。

調査実施機関として着実な調査実施とともに、調査フェーズ（「エコチル調査広報戦略指針」より)に沿い、参加者をはじめ福島県民へエコチル調査継続の周知及び成果を広く社会へ還元することを目指した。

〇 計画 1(K) 学術分野における成果還元

指標	中心仮説を含む積極的な論文発表ができる

取組 1-1(K)｜全学の研究活性化を通じた学術論文発表促進

全学での学術成果発表促進のため、学術ワーキンググループ（以下、WG）を運営し、定例勉強会（毎月）・学内査読・研究相談等を実施した。定例勉強会では、令和 5 年度課題募集で応募した中心仮説課題について検討した。

また、データ利用者のおよそ 3 分の 1 が課題申請に至らない状況に対して解析用データセット作成支援員を配置し、新規データ利用者へのデータ取扱オリエンテーション実施、希望者への相談対応を行った。

エコチル調査延長に伴い将来にわたり全学から WG への研究者の参加が重要と考え、全教職員対象一斉メール配信（月 1 回）ではエコチル調査論文紹介に加え調査期間の延長をお知らせし、研究協力の呼びかけを行った。

取組 1-2(K)｜学術の発展・教育活動を通じた人材育成への貢献

エコチル調査の成果等（成果発表届出対象）を含む、学会発表 2 件、学会シンポジウム・セミナー・研修会等講演 4 件を行った。

〇 計画 2(K) 参加者・県民の環境・健康への関心が高まる成果共有

指標	参加者・県民へ調査継続及び成果の周知機会を持つ 環境・健康への関心へつながる取組を実施し、高い（80%以上）満足度（「よかった」、「楽しかった」など）を得る（2-1・2-2）

取組 2-1(K)｜参加児含む県民の調査認知度を高めるイベント開催

感染症対策の緩和により令和 5 年度以降は参加児を含む一般の親子を対象に県内各地域資源を活用して対面で継続した体験学びにつながる企画を当面 2027 年度（全ての参加者が 12 歳に達する年度）まで継続することとした。

2024 年度は 10 月に ACG エレクトロニクス 郡山カルチャーパーク（郡山市観光交流振興公社）にて地域スポーツスクールの協力により「エコチル★ふくしま おやこでダンス教室」を企画し参加者を募った。

取組 2-2(K)｜研究成果還元資料の作成・配付

「エコチル調査からわかってきたこと エコチル★ふくしま版」（A4 サイズ 1 枚両面（小学校のお知らせ仕様））年 1 回発行し、ニューズレターに同封し配付した。また、一般向けにホームページへ掲載して周知を図るよう計画した。

第 3 号は令和 6 年 3 月末に発行し、読後アンケートを実施した。第 4 号は令和 7 年 3 月発行予定である。

	取組 2-3(K)｜県民（一般）との成果共有、調査に対する理解の醸成 自治体等主催イベント2イベント(郡山市こどもまつり(5月)、大学主催地域健康イベント(11月))ブース出展し、調査や成果の周知を計画した。 **取組 2-4 (N)｜「調査からわかったプレコンセプションケア」講演** 令和 5 年度下半期より、福島ユニットセンター副センター長(産婦人科医)によるエコチル調査から得られたプレコンセプションケアに関する知見について、県内保健医療従事者および一般を対象にした講演を 3 回実施した。 **○ 計画 3(K) 県内学校保健・教育分野との連携強化** 指標：学校保健･教育分野の地域運営協議会委員と調査の円滑な実施や成果還元において連携が強化できる **取組 3-1(K)｜中学校教育関係者との関係構築** ア. 参加者の調査参加へのモチベーション維持や質問票回収率の維持･向上の取組　計画 1－4　エ)参照。 **取組 3-2(K)｜質問票回答集計結果をまとめた小冊子掲載データの活用** 令和 4 年度に作成した質問票回答集計結果をまとめた小冊子(以下、小冊子)集計結果データは利用可能と申し添え、データ提供用に各図表の画像(jpeg/png形式)ファイルを準備した。
（C）評価	**計画 1　学術分野における成果の還元** 上半期ほぼ達成　学術 WG 構成員は、全学より 18 講座等から 77 名を登録した(前年度より 3 部門、9 名増(新規 13 名参加))。上半期受理された論文は 5 編であった(図 8)。今後エコチル調査全国データを用いた論文を執筆した 2 名が学位審査申請を予定している。9 月末までに中心仮説課題の JECS-Group 回覧を 6 題行い指標達成に近づいた。 **○ 計画 2 参加者及び県民の環境・健康への関心が高まる成果共有** 上半期実施分ほぼ達成　2-1　おやこダンス教室は、応募者多数で抽選し県内親子 46 組 127 名に参加案内を送付した。2-2 読後アンケート回答(41 件)では 98%が内容に「満足」と回答があった。2-3　会場アンケートでは　224　人(70.1%)が「エコチル調査を知らなかった」と回答があり、周知する機会となった。 下半期実施予定の 2-1、2-2 においても高い満足度を得られるよう計画実施する。 **○ 計画 3 県内学校保健・教育分野との連携強化** 上半期ほぼ達成　3-2　画像ファイルを作成したが、これまでに小冊子データ利用問合せはなかった。
（A）改善	**○ 計画 1　学術分野における成果の還元** 下半期には 6 歳時固定データのリリースが予定されており、より多くの関係者が執筆課題申請することを目指して取組む。 **○ 計画２　参加者及び県民の環境・健康への関心が高まる成果共有** 次年度も 13 歳以降調査の継続につながるよう参加児を含む県民にエコチル調査継続について周知、理解いただくよう取組む。中学生になった参加者との成果共有について次年度以降強化する。今年度コアセンターが作成したポスター、リーフレットを活用し県内の調査認知度を高めるよう取組む。 **○ 計画 3　県内学校保健・教育分野との連携強化** 令和 7 年度にエコチル調査からわかってきたこと vol.3(小学生を対象とした質問票単純集計小冊子)を集計項目について委員に協力いただき発行する。さらに、冊子内容を学校での児童、保護者向けの保健資料としての活用を提案する。

福島ユニットセンターPDCA サイクルにおける取組状況　参考資料

図１　R6 年度ふれあい会「☆すこし早い夏休み　蒔絵体験にチャレンジ！☆」

「わかってきたこと」の講話風景

蒔絵を書いたお皿・お椀

図２　子どもアンケート回答へのお礼 グリーティングカード（毎年デザイン変更）

イラストが飛び出て、立てて飾れる仕様

5

図３　オリジナル・エール集「キミたちへ贈る言の葉」

名言や心に響く言葉からユニットセンター職員が小学６年生に届けたいメッセージを選んだ。

挿絵はイラストレーターに、エール集の主旨を伝え依頼した

図４　学童期検査資料郵送用封筒

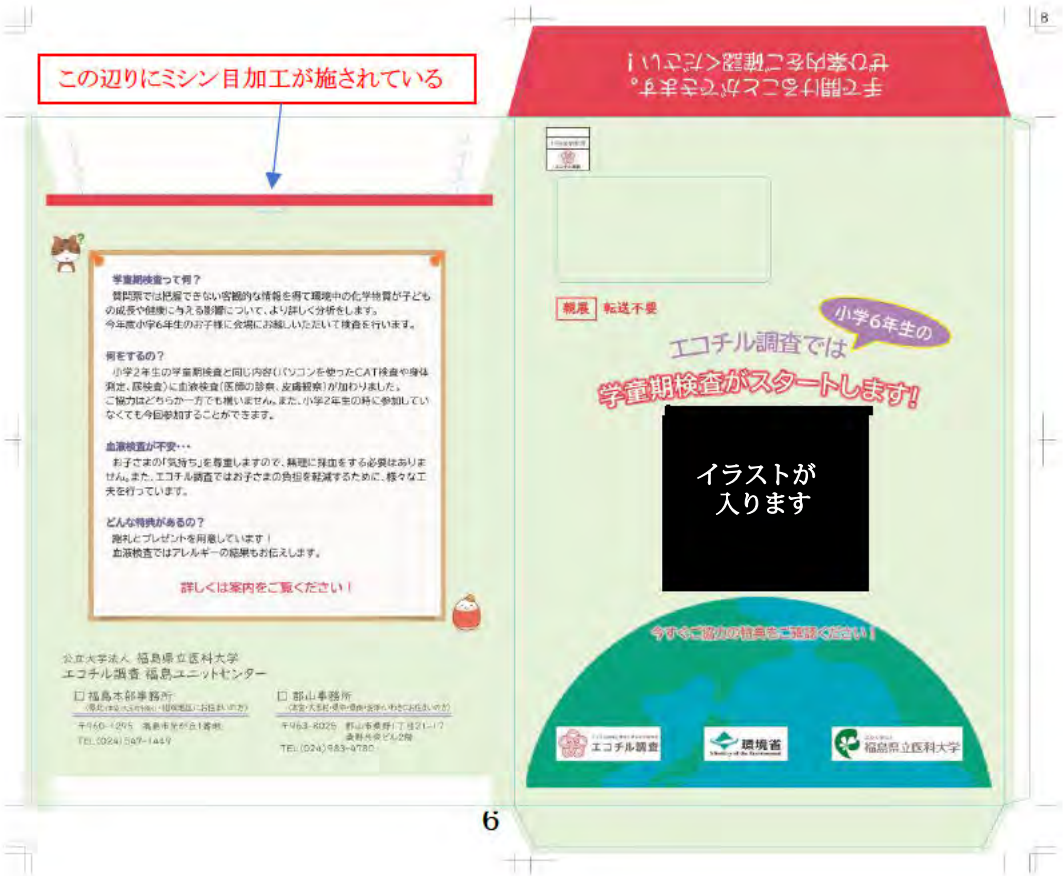


図５　「カラフルふせんセット」

学年質問票郵送封筒に
封入して進呈

図６　カスタマイズボールペンキャンペーン（12 歳質問票）

①
12 歳質問票郵送時、5 色芯が入るボールペンホルダーと黒赤 2 色のリフィル芯を封入して進呈

②
12 歳質問票返送時、自分の好みのリフィル芯色を記入し、申込用紙を返送

リフィル芯の色は、スカイブルー、ライムグリーン、ベビーピンク、オレンジ、バイオレットの 5 色から選択

③
希望色のリフィル芯 3 本を進呈

**届いたリフィル芯を入れたら
カスタマイズボールペンの完成**

リフィル希望色内訳
令和 6 年 10 月 28 日時点

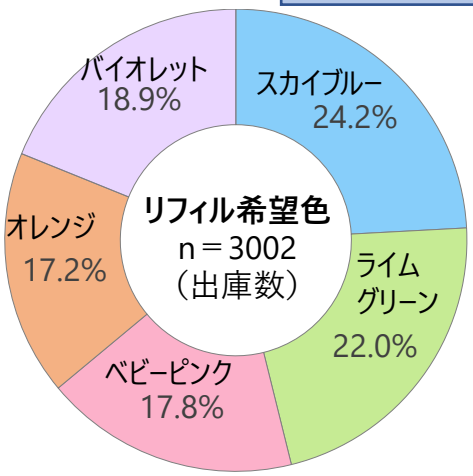


表１　子ども現参加者数（令和５年９月末時点、令和６年９月末時点）

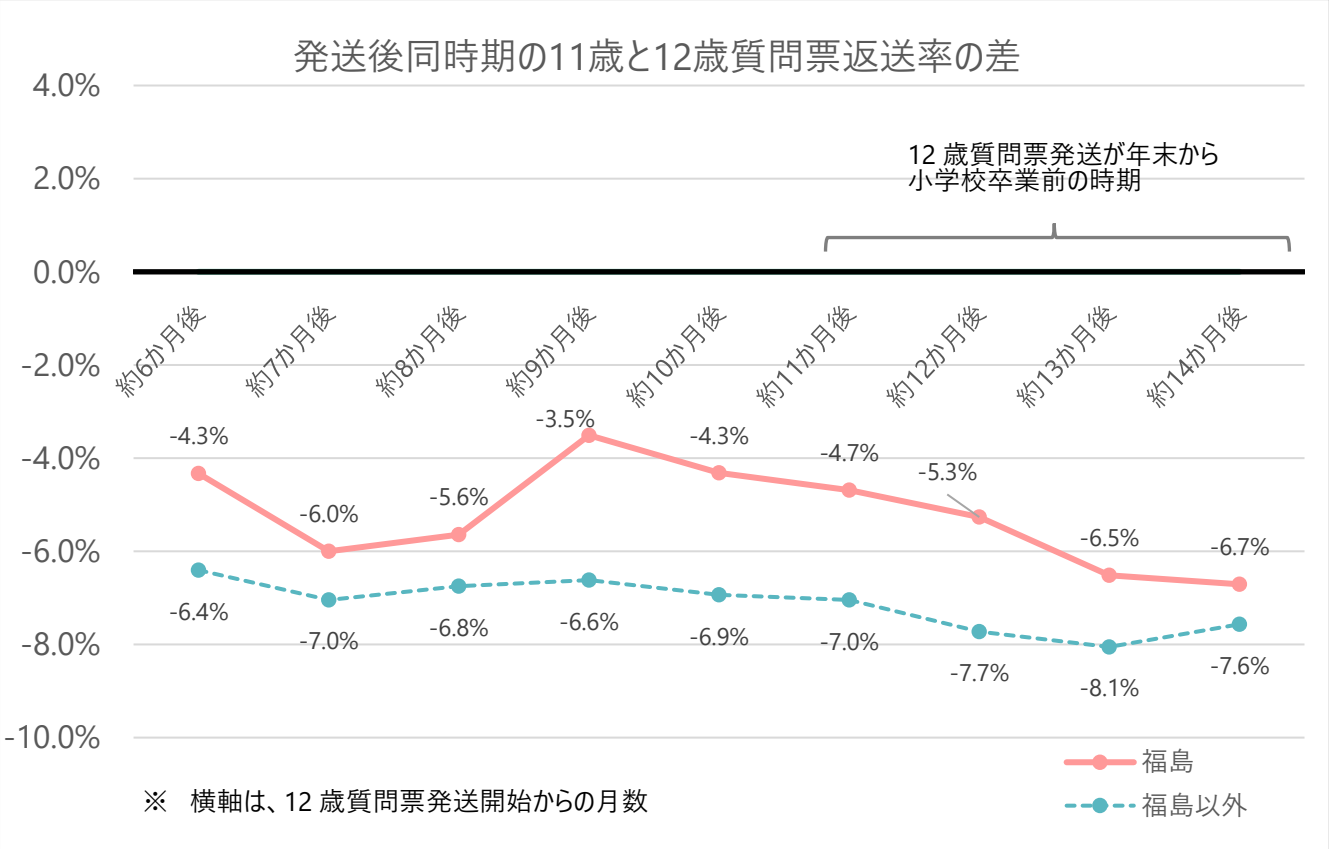
	転出	転入	本人死亡	代諾者消失	住所不明	その他	現参加者	**現参加率** (転出入調整)
令和５年９月末時	230	144	25	780	65	13	11,879	**93.1%**
令和６年９月末時	244	150	25	822	67	13	11,845	**92.8%**

図７　11 歳と 12 歳質問票返送状況の差（12 歳質問票キャンペーン評価）

・実務担当者 WEB 会議質問票調査進捗状況（送付後 6 か月）資料より、11 歳・12 歳質問票返送割合データを利用した。

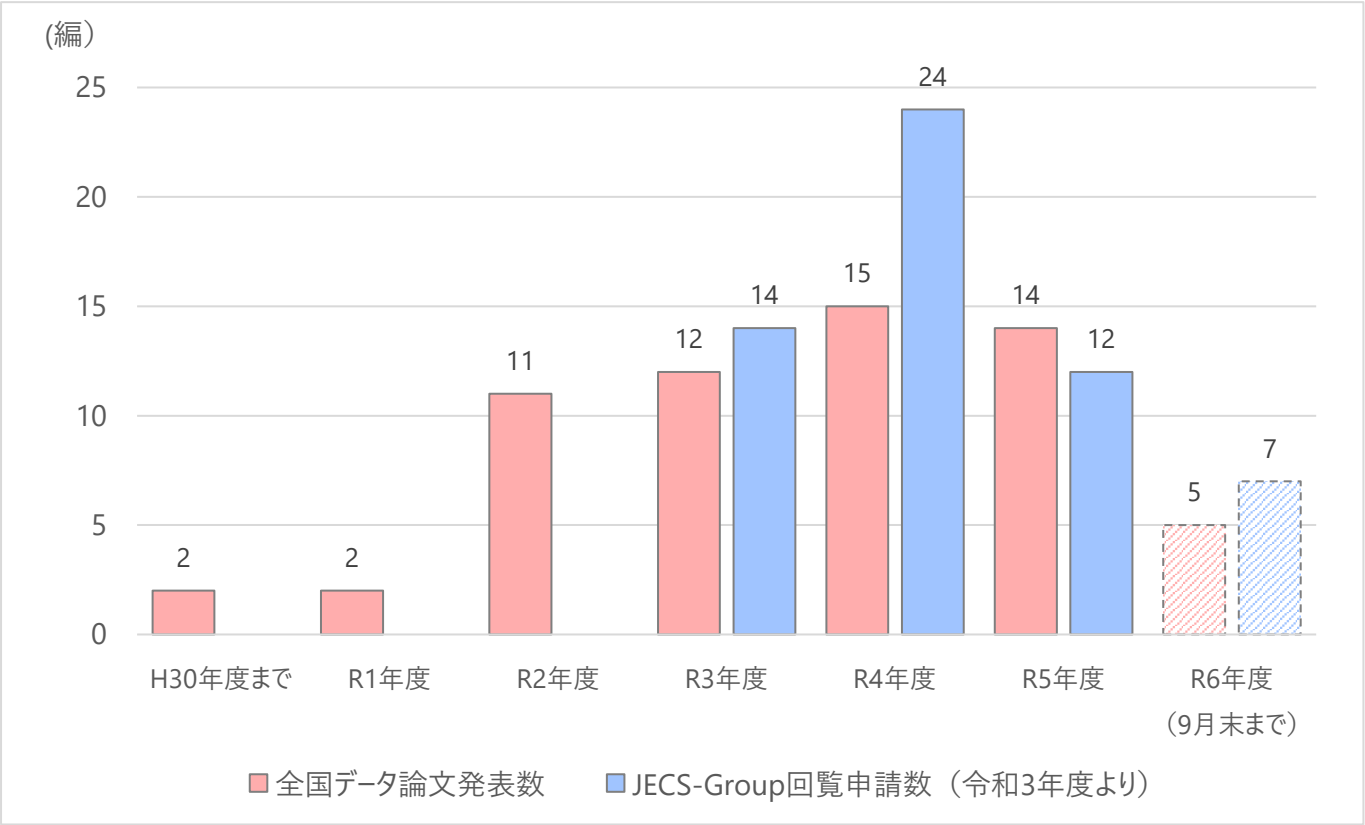
・11 歳質問票は 2023 年 1 月から 9 月、12 歳質問票は 2024 年 1 月から 9 月の情報を用いた。

・発送後の期間が同時期の月ごとの返送割合の差（11 歳質問票-12 歳質問票）を算出した。



12 歳質問票発送開始後しばらくは返送割合低下を押しとどめていた。しかし、小学校卒業前の年末以降に発送した時期あたりから返送割合減少が見られた。

図 8　成果発表状況（令和 6 年 9 月 30 日時点）



エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況
（令和６年４月～令和６年９月末時点）

調査実施機関名：千葉ユニットセンター

評価時点	令和６年９月３０日
回答者	氏名（　山本　緑　　） 役職（　講師　　）

ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持や質問票回収率の維持・向上の取組	
（P）計画	次の４つを目標として計画を立てた。 ①参加者や子どもたちの、環境・健康に関する課題、調査の意義、調査の成果への理解を促進し、主体的な参加につなげる。 **Plan1.** ニュースレターの発行・配付（年２回発行） **Plan2.** キッズマガジンの発行・配付（年２回発行） **Plan3.** 「エコチル調査なるほど！セミナー」 動画作成・配信(年 1 回) **Plan4.** 周知活動（県知事・学校等への調査概要の説明） **Plan5.** 学童期検査参加者配付グッズとして「DNA origami」を配付 **Plan6.** 「10、11、12 歳子どもアンケートお礼カード」 作成・配付 ②子どもたちにエコチル調査に親しみをもってもらう。 **Plan7.** イベント「エコチル川柳コンテスト」 **Plan8.** イベント「イオンモール木更津でサンドアートを楽しもう！」 **Plan9.** ぴよ Tube!! での動画配信 ③小学６年生学童期検査の内容を理解してもらう。 **Plan10.** 「小学６年生学童期検査 検査のご案内」 動画配信 ④質問票回収率の維持・向上に取り組む。 **Plan11.** ニュースレターでの 13 歳以降調査の案内 **Plan12.** 子どもの未ログインへのリマインド **Plan13.** 学童期検査会場でのログイン勧奨 **Plan14.** WEB 質問票未回答に対するリマインド **Plan15.** 紙質問票の返送依頼方法の変更
（D）実施	**P1. ニュースレター**では、調査への理解を促すために毎回、健康や環境に関するテーマを一つとりあげたマンガや記事を掲載している。 (図１)

	P2. キッズマガジンでは、健康や環境について子どもが興味をもてるようわかりやすく解説した記事を掲載している。10 号は「栄養素」を取り上げた。楽しんで読めるようクイズ等を取り入れている。(図 2) **P3.** Web 配信「**エコチル調査なるほど！セミナー**」 第 7 弾「子どもの成長と思春期～子どもから大人へ」では、子どもの成長と思春期についてのセミナーを 12 月 20 日公開予定(図 3)。毎回質問を募集し、動画で答える、双方向イベントとして実施している。 **P4.** エコチル調査紹介ポスターを作成し、対象地域の校長会等にて、**調査の説明および小中学校へのポスター掲示の依頼**を行った。(図 4) **P5.** 小学 6 年学童期検査参加した子どもに、ゲノム・遺伝子解析の理解の一助となるように「**DNA origami**」（DNA の形を作れる折り紙、DNA の説明付き）を配付している。(図 5) **P6.** 子どもアンケートに回答してくれた子どもたちに**お礼カード**を送り、調査の意義を一言で伝えている。 (図 6) **P7.** イベント「**エコチル川柳コンテスト**」では、参加者及び家族限定の投稿型イベントとして川柳を募集し、作品を SNS 等に紹介した。応募した参加者（子）にはノベルティを贈呈した。（図 7） **P8.** イベント「**サンドアートを楽しもう！**」では、商業施設に会場を設置し、エコチル調査の成果を交えたミニ健康セミナー及び、サンドアートショーと体験イベントを開催した。（図 8） **P9. ぴよ Tube!!**では、なるほどセミナーや成果の紹介動画の他、英語を楽しむ動画やクッキング動画を配信している。（図 9） **P10.** 子どもたちに学童期検査の内容を知り、気楽に参加してもらえるよう、「**小学 6 年生学童期検査の案内**」動画を配信している。 **P11. 13 歳以降調査**への理解・参加率向上に向け、ニュースレターにて、13 歳以降調査についてわかりやすく説明する記事を掲載した。 **P12.** 13 歳以降調査の**子どもの未ログイン**を減らすため、**リマインド**ハガキの送付および子のログイン情報を再送した。また、ログイン方法をわかりやすく説明したパンフレットを作成し、ログイン情報と一緒に送付した。 **P13.** 学童期検査会場で積極的に**ログイン勧奨**を行った。 **P14. WEB 質問票**未回答に対する**リマインド**のハガキを送付した。 **P15. 質問票返送依頼**は、質問票再送が効果的であることから、ハガキ、電話に続いて、質問票を再送している。

（C） 評価	**P1.** ニュースレター25 号（9 月発行）のアンケートでは、健康・環境関連記事に対し、「とても良かった」「良かった」の回答は 85%であった。 **P2.** キッズマガジン 10 号（9 月発行）のアンケートでは「とても良かった」「良かった」の回答は 76%であった。 **P3.** 「エコチル調査なるほど！セミナー」 の第 6 弾の動画は 421 回の再生回数であった。親子での視聴が多く、「親子で向き合う良いきっかけになった」など好評であった。以前配信したセミナーの視聴者も増えた。 **P4.** 県知事や小中学校への調査説明を行い、79 校にポスター掲示を依頼した。 **P5.** 「DNA origami」は多くの親子に関心を持っていただいている。 **P6.** 今年度はお礼カードのアンケートは実施していない。 **P7.** 川柳イベント では、72 作品の応募があり、YouTube 再生回数は選出した 12 作品でトータル 1607 回と好評を博した。 **P8.** サンドアートイベントでは、来場者約 240 人、体験ブース参加 96 組であった。アンケートでは「楽しかった」の回答が 86%と高く、「勉強になった」、「エコチル調査への関心が高まった」という回答も得られた。 **P9.** ぴよ Tube!!での動画閲覧数は、最も多いもので 2 万回を超えた。 **P10.** 「小学 6 年生学童期検査の案内」の再生回数は現在 135 回であった。 **P11.** 今後アンケートを実施し解析を行う。 **P12.** 13 歳以降調査の子どものログイン率は、リマインド送付後 1 カ月で、55%→67%に上昇、質問票回答率も 26%→36%に上昇した。 **P13.** 学童期検査会場でのログイン勧奨では、声かけ対象者のうち、同意率は 75%であり、効果が高かった。 **P14.** WEB 質問票未回答に対するリマインド送付後 1 カ月で、保護者は 38%→44%に、子は 36%→43%に上昇した。 **P15.** 年齢質問票回収率は、コピー送付での質問票の返送依頼開始以降、一定の回収率を維持しており、効果はあると考えている。
（A） 改善	①Plan1 から 3 については好評を得ているため、今後も継続して実施する。子どもの成長に合わせ、わかりやすい説明になるよう工夫する。 ②イベント・動画は、調査への関心を高めるような内容と、より多くの人に見てもらえるように広く周知する方法を検討し実施する。

イ．成果の社会還元の取組	
（P）計画	**Plan1.** 学術集会、論文、地域運営協議会、講演等における成果（公表論文）の紹介 **Plan2.** 子ども向け論文紹介作成（年 2 回配布） **Plan3.** ニュースレターの発行・配布（年 2 回配布） **Plan4.** 成果の紹介動画 **Plan5.** イベントの実施（9 月,10 月（予定）,1 月（予定））
（D）実施	**P1.** 地域運営協議会（4 回）、勝浦市学校保健委員会講演会、海外との大学との共同集中講義において、**エコチル調査の概要と公表論文紹介**を行った。また、国内・国際学会（環境ホルモン学会シンポジウム、ISES/ISEE、SOT シンポジウム）での発表を行う。 **P2.** 子ども向けに論文を紹介する「**ぴよきちパパのエコチル講座**」として第 5 回「子どもがメディアを見る時間と発達」を配付した。(図 10) **P3.** 9 月に配付した**ニュースレター**ではエコチル調査で発表された PFAS 論文の内容を掲載した。 **P4.** 「メディアを見る時間と発達との関係」をテーマに**成果の紹介動画**を配信した。 **P5.** 一般の方も参加できる**イベントの開催**を積極的に進めた。
（C）評価	**P1.** 海外でのエコチル調査紹介にも力を入れ、海外の大学講義における成果の紹介、国際学会での発表 2 件を実施及び予定している。 **P2.** 「エコチル講座」は、87%が分かりやすかったと回答した。 **P3.** 記事「PFAS を知っていますか」では 85%の人から「良かった」との回答があった。 **P4.** 動画視聴は 2 万回を超えるものもあり、一般の方へのエコチル調査の周知にもつながっていると考えられた。 **P5.** ポスターおよび講演にて成果を紹介し、多くの方に見ていただいた。
（A）改善	今後も、社会的インパクトの高い内容の論文の報道発表や、シンポジウム・学会等で積極的に成果を紹介する。イベントでの成果の還元について引き続き検討する。文書として配付する「エコチル講座」やニュースレターでは、多くの参加者に成果を紹介できるため、今後もわかりやすく成果を伝えるよう工夫しながら、取組を継続する。15 周年に向けて、成果紹介の内容を盛り込んだ記念誌発行を計画している。

図 1. ニュースレター「ちばエコチル調査つうしん」（年 2 回 3 月・9 月発行）

ちばエコチル調査つうしん
25 号（2024/9 発行）

図 2.「ちばエコチルキッズマガジン」（年 2 回 3 月・9 月発行）

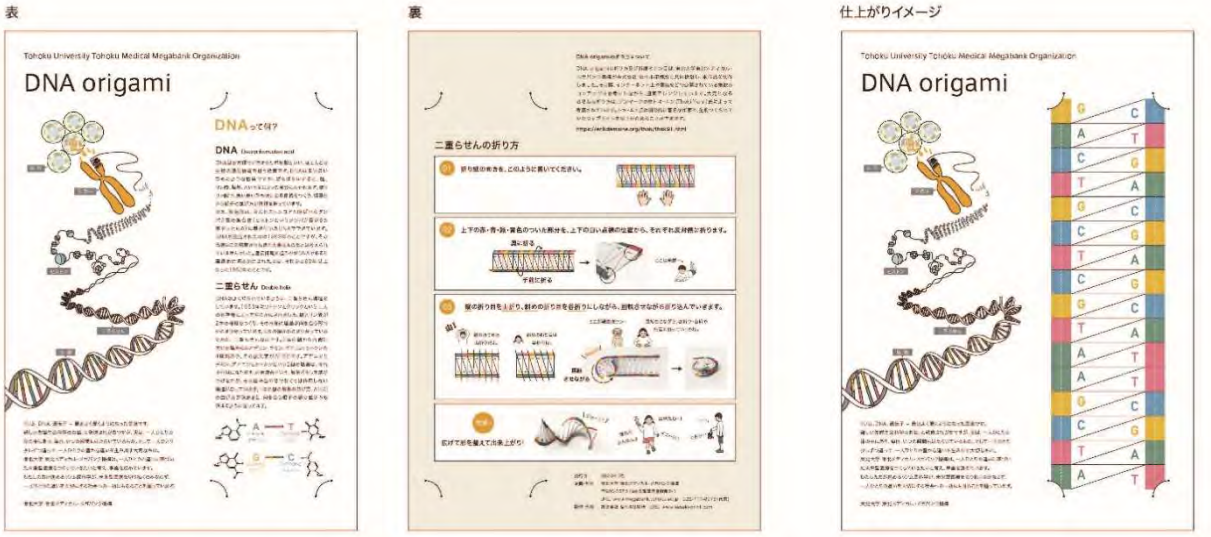
ちばエコチルキッズマガジン
10 号（2024/9 発行）

図 3.「エコチル調査なるほど！セミナー」

第 7 弾「子どもの成長と思春期～子どもから大人へ」YouTube にて 12/20 配信予定

図４．エコチル調査紹介ポスター

図５.「DNA origami」　小学６年生学童期検査で配付



DNA の形を作れる折り紙、*DNA* の説明付き（東北大学　東北メディカル・メガバンク機構作成）

図６．子どもアンケート　お礼カード（10、11、12 歳）　謝礼とともに郵送

図７．夏休みイベント「エコチル川柳コンテスト」

Instagram、ホームページ、Youtube にて紹介
（選考 12 作品）

図８．「サンドアートを楽しもう！」 9/14 周知活動＆参加者イベント

図 9. 「**成果動画の紹介**」YouTube にて 9 月配信

図１０．ぴよきちパパのエコチル講座（年 2 回発行）

第５回「子どもがメディアを見る時間と発達」

エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況
（令和６年４月～令和６年９月末時点）

調査実施機関名：　神奈川ユニットセンター

評価時点	令和６年　10 月　31 日

ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持や質問票回収率の維持・向上の取組	
（P）計画	☆参加者のモチベーション維持に対する取り組み 1.ニュースレター（エコチル通信）を作成し、参加者が知りたいこと・知ってほしいことをわかりやすく記事にまとめ発信することで、モチベーション維持につなげる。 ☆質問票回収率の維持・向上に対する取り組み 1.アメニティを同封することで、参加者のモチベーションアップを図り、回収率の向上に役立てる。 2.質問票回収状況を確認し、未送付者に対し、ショートメールやはがきを使って、返礼依頼をすることで回収率向上を図る。 ☆学童期・詳細調査の参加率アップ 昨年度と同等の参加率（学童期 50%・詳細調査 80%）を目指す。 ☆13 歳以降の継続率向上のための取り組み 2011 年度生まれ アプリの使い方についてのまとめを作成し、各自どの段階で止まっているのかを確認してもらい、回答率アップにつなげる。 また、回答していない参加者には電話連絡をして、回答するように依頼する。 2012 年生まれ 2011 年度の同意は、学童期検査時参加児同意が 1/5・学童期不参加者 1/5・学童期参加で学童期前同意が 3/5 程度の割合だった。 今年度は、発送が遅くなるので、学童期終了後の参加状況を確認し、電話での勧奨やちらしなどを配布して参加を呼び掛ける。
（D）実施	☆参加者のモチベーション維持に対する取り組み 1.ニュースレター（エコチル通信）は、エコチル調査でわかったこと・乳歯調査の必要性・貧血対策などを掲載。 回答してもらうことの重要性などをわかっていただくよう工夫した。 ☆質問票回収率の維持・向上に対する取り組み 1.「(参加児が）私・ぼくへのプレゼント」があるから質問票に答えようと思っていただけるようにするための取り組みとして質問票発送時アメニティ同封を実施した。

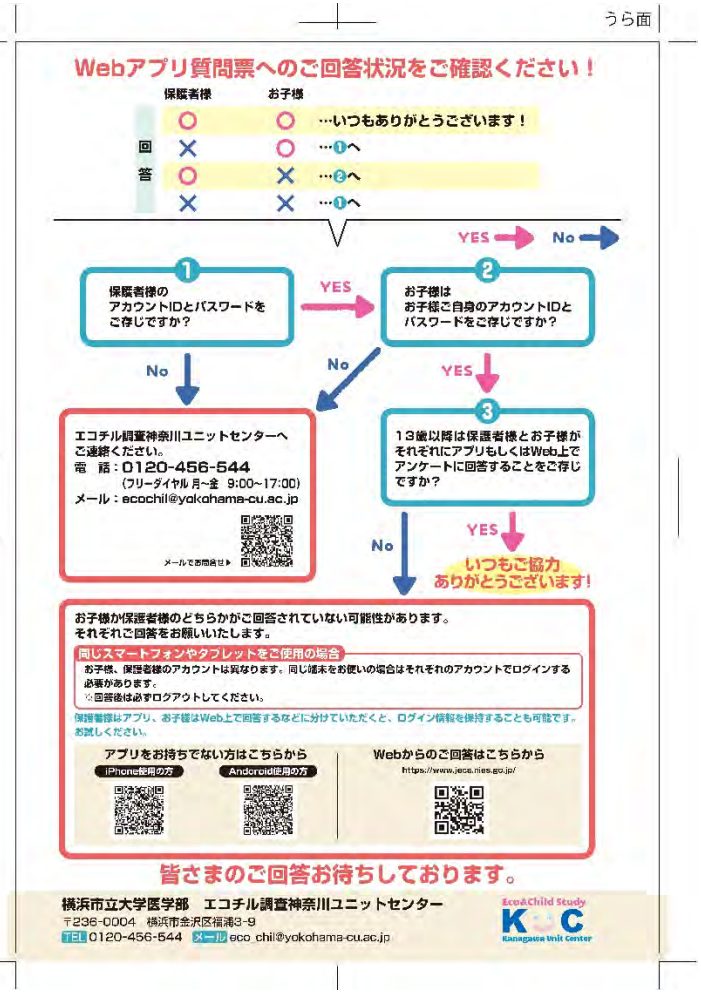
	2.質問票発送後、10 週間・その１か月後・3 か月後にショートメール・はがき・ショートメールで返送依頼をすることで、失念などで記入していなかった場合の思い出しにつなげるように工夫した。 ☆学童期・詳細調査の参加率アップ 学童期：昨年度同様の方法で、学童期検査の実施についてアナウンスし、同意を取る。誕生日順に、ちらしを配布しメール・電話等で予約を取る。連絡がない参加者には、電話による案内も実施。 詳細調査：昨年度同様の方法で、詳細調査の実施についてアナウンスし、同意を取る。 WISC の説明もあるので、最初にちらしを配布し、配布後 1-2 週間後に電話連絡をして、調査の説明・検査日の予約を取る。 中々電話がつながらず、スタッフの勤務時間の調整が難しい。 ☆13 歳以降の継続率向上のための取り組み 2011 年度生まれ A4 ちらしを作成し、対象者へ配布した（添付 1 参照)。 11 月以降、電話による回答依頼をする予定。 2012 年度生まれ 11 月以降、同意状況を確認し、「未」になっている参加者には電話・ショートメール・はがきなどを使って、勧奨していく。
（C）評価	☆参加者のモチベーション維持に対する取り組み 1.ニュースレター（エコチル通信）の作成の評価は、これから発送するため難しいが、多くの参加者に読んでもらえると思うので、一定の効果があると期待している。 ☆質問票回収率の維持・向上に対する取り組み 1.質問票発送時アメニティを同封するのは、全員が喜ぶアメニティを発送するのは難しく、必要品（ノートなど）を選んで発送している。子どもが喜んでいるとのコメントが質問票などに書いてあることもあり、一定の評価はできると考えている。 2.質問票発送後初回の返送依頼では、発送数の平均 48%にショートメールを送っている。2 回目のはがきは平均 35%、3 回目のショートメールは平均 30%であった。1 年前の同時期では、45%・32%・27%だったので、返送依頼の件数は増加傾向にある。しかし、１回目のショートメール後、はがきでの返送依頼までに 13%の人が返送しているので、一定の効果はあると思われる。引き続き同様の方法で、返送依頼を実施していく。 ☆学童期・詳細調査の参加率アップ

	学童期検査・詳細調査ともに参加率が、昨年度よりも落ちている。 学童期検査は、小学 2 年生がコロナ初年度だったこともあり、参加率が落ちていたが、小学 6 年生でも反応が薄い。 詳細調査は、ほぼ同じ程度の参加率である。 ☆13 歳以降の継続率向上のための取り組み 2011 年度生まれ A4 はがき発送後に、問い合わせがあった。 親子で ID パスワードが違うことを認識していなかった・親子とも回答する必要があることを理解していなかったなどで、質問票の回答率が上がっていなかったことがわかった。ただ、問い合わせ件数は多くなく、全体の回答率を上げるまでには至らなかった。 11 月以降に回答していない参加者に対して、電話による依頼をしていく予定のため、評価は今後になる。 2012 年度生まれ 11 月以降に同意していない参加者に対して、電話による依頼をしていく予定のため、評価は今後になる。
（A）改善	☆参加者のモチベーション維持に対する取り組み 1.ニュースレター（エコチル通信）の作成は、参加者のニーズに合わせた内容にしていく必要があるので、参加者の声を聴くようにしていく。 質問票回収率の維持・向上に対する取り組み 1.紙質問票での発送時には、アメニティを同封して発送できるが、WEB 質問票に変わると郵送がなくなるので、モチベーション向上のためのアメニティを今後どのようにしていくのか検討する必要がある、2011 年度生まれの参加者に対しては、特にアメニティの配布はしておらず、どの程度回答してもらえるかを確認し、今後検討していく。 2.定期的な返送依頼の実施は、紙質問票の間は、今回のような方法で依頼をしていく。 WEB 質問票になってからは、2011 年度の参加者の回答状況を見ながら、どのような勧奨方法をすることで効果があるのかを検討していく。 ☆学童期検査・詳細調査の参加率向上に対する取り組み 学童期検査：予約方法は、2 年間継続している現在の方法で混乱なく予約を取ることができると考えている。 採血ありの場合には、2 日に渡ってきていただく必要があるため、来年度以降は、同日実施とし、1 日で全ての検査を実施できるよう検討していく。 詳細調査：学童期検査と同日で実施可能なため、予約も学童期検査と同様の予約方法で対応してみることで、スタッフの負担を軽減していく。

	☆13 歳以降の継続率向上のための取り組み 参加者と直接話をすることで、継続率向上につなげていきたい。

イ．成果の社会還元の取組	
（P）計画	1. 学内外の研究者に向けて、エコチル調査をアピールし、論文執筆意欲が向上するための取り組みの検討 2. 質問票記入もれ対策の検討（より正確なデータ取得のために） 3. 成果を広く情報発信していくための取り組みの検討
（D）実施	1. 学外にも研究者を募り、成果発表の機会を増やしている。研究者の半分は他大学などに所属しており、エコチル調査に興味を持ち、論文作成に取り組んでもらっている。 当校データサイエンス学科などとも連携し、論文執筆数を増やしていく。 2. データの質を上げるために、身長体重のデータなどの問い合わせにショートメールなどを活用している。返信率は 7 割以上となっている。 3. 掲載された論文を参加者にも内容がわかるように、動画での配信を実施する。
（C）評価	1. 学内でのエコチル調査の認知度を上げ、論文作成希望者を募っている。希望者は出てきているが、論文化には時間がかかっている。 2. 返信は 7 割以上帰ってくるが、手元に資料がないとの回答も多く、データを残してもらうための取り組みが不十分であると思われる。 3. 発表された論文を HP 上でみることで、参加者にもエコチル調査での成果を実感してもらうことができる。
（A）改善	1. 論文作成に時間がかかっているが、エコチルでのエフォートがある研究者ではなく、進捗状況を確認するのが難しい。 年 1 回程度は、進捗状況の確認をしていきたい。 2. 手元にないとの回答だった参加者には、次回は手元に残してもらうよう依頼しているが、ショートメールの件数は前年から減っていない。同じお願いをしていくことで、少しでも改善できるよう努めていく。 3. 論文化された内容を、参加者にもわかりやすく伝えることで、エコチル調査でわかったことをより深く理解してもらう。

添付 1.　13 歳以降状況確認はがき



添付 2・成果発表を動画配信（https://ecochil-kanagawa.jp/results/）

エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況
（令和６年４月～令和６年９月末時点）

調査実施機関名：甲信ユニットセンター（山梨大学）

評価時点	令和６年　10 月　25 日

ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持や質問票回収率の維持・向上の取組	
（P）計画	1.　<u>2011 年度生まれの参加者について Web 質問票の回答率を上げる</u> 4 月からスタートした 13 歳以降の Web 質問票について、回答率を上げるための取組を工夫する。 2.　<u>2012 年度生まれの参加者について 13 歳以降調査の再同意数を増やす</u> 本年度、13 歳以降の調査継続に向けて再同意の手続きを進めてもらう対象となる 2012 年度生まれの参加者親子に対し、1 人でも多くの方に調査を継続してもらえるようユニットセンターの支援方法を工夫する。
（D）実施	1.　<u>Web 質問票の回答率を上げる取組について</u> ①　広報活動の工夫 ・ニューズレターで「中学生になったらエコチル調査ここが変わります！」という特集を組み、紙の質問票から Web 質問票への変更点を紹介した（参考資料 1）。 ・ニューズレターの号外として A4 版両面フルカラーの印刷物を発行し、4 月から Web 質問票が始まったことや Web 質問票のメリットなどを紹介した（参考資料 2）。 ②　中学校入学記念品の送付 ・13 歳以降の調査継続に同意した参加者に、中学校に入学した記念品として蛍光ペンのセットを送付し、Web 質問票調査への協力を呼び掛ける手紙を同封した（参考資料 3）。 ③　参加者ポータルシステムの「お知らせ」機能の活用 ・参加者ポータルシステムには参加者ごとにユニットセンターからのお知らせが配信できる機能があり、その機能を使って Web 質問票に未回答のものがないか確認してもらうよう呼び掛けた。 ④　ハガキやショートメールでの協力依頼 ・参加者に情報を伝える手段として、これまでも使用してきたハガキやショートメールも引き続き活用し、Web 質問票への回答を依頼した。 2.　<u>13 歳以降調査の再同意数を増やす工夫について</u> ①　広報活動の工夫 ・参加者へのニューズレターで、13 歳以降の調査に向けた準備についてフロー図などを使って分かりやすく解説した（参考資料 1、2）。

	②　参加者ポータルサイトへのログインアカウント情報を発送する際の工夫 ・2023 年度の取組を検証し、アカウント情報を送る簡易書留は、参加者が在宅の可能性が高い土日に配達されるよう、本年度は金曜に発送作業を行った。 ・参加者が不在等で配達されないまま郵便局の保管期間が切れ、ユニットセンターに返戻された簡易書留については、対象者にショートメールを送り、受け取りを依頼してから再送した。 ③　小学 6 年生の学童期検査の機会を活用した取組 ・毎月 1 回、連続した土日に山梨大学で小学 6 年生への学童期検査を実施しており、この参加親子と直接対話できる機会をとらえて、13 歳以降の調査継続を依頼。保護者の待合室に専属の教員 1 名を配置し、アプリのダウンロードや、Web 質問票の回答方法などを案内している（参考資料 4)。
（C）評価	1.　<u>Web 質問票の回答率を上げる取組について</u> ①　Web 質問票回答率の推移 ・4 月 1 日に保護者と子どもそれぞれに Web 質問票の配信がスタートし、5 月の連休明けから毎週月曜時点での回答数を確認し、回答率を記録した。Web 質問票はこれまでに、6 月 1 日と 9 月 1 日を合わせて 3 回にわたり配信されており、質問ごとに回答率の推移を追った（参考資料 5-1)。 ・中学校入学記念品を送付した 6 月 10 日時点と 1 週間後の 17 日で、6 月配信の保護者質問票の回答率を比較すると、7.1 ポイント（18.9%→26.0%）上昇。子ども回答率も 5.1 ポイント（15.0%→20.1%）上昇した（参考資料 5-2)。 ・ニューズレター号外を発送した 8 月 28 日直前の 26 日時点と、1 週間後の 9 月 2 日の 6 月配信の保護者質問票回答率を比較すると 5.9 ポイント（44.3%→50.2%）上昇、子ども回答率も 5.6 ポイント（32.9%→38.5%）上昇した（参考資料 5-2)。 ・上昇率はいずれもほかの週よりも高く、Web 質問票になっても、参加者とのコミュニケーション活動が回答率を上げる上で有効であることが示唆された。 2.　<u>13 歳以降調査の再同意数を増やす工夫について</u> ①　ログインアカウント情報の受け取り状況 ・2023 年度は対象者 773 人に対し、最終的にアカウント情報の簡易書留を受け取ってもらえなかったのは 32 人（4.1%）だったのに対し、本年度は 1,196 人中 23 人（1.9%）に減少した。 ②　広報活動の成果について ・8 月 28 日にニューズレター号外を発送したところ、30 日から参加者ポータルシステム（アプリ）のログイン数及び再同意が増加した（参考資料 6)。 ③　小 6 学童期検査における協力依頼後の再同意数について ・学童期検査当日の再同意数は以下の通り。 8 月 3 日：5 名、8 月 4 日：8 名、9 月 7 日：12 名、9 月 8 日：11 名、10 月 5 日：8

	名、10 月 6 日：3 名（参考資料 6） これにより、保護者待合室での声掛けが有効手段となることが明らかになった。
（A）改善	13 歳以降の調査継続については、スマートフォンの操作やエコチル調査に対する子どもの理解、協力がポイントになるので、分かりやすい資料を作成し、子どもとコミュニケーションを深める機会を増やしていく必要がある。 また、参加者と直接対話できる学童期検査の機会を最大限生かすために、まずは検査に参加してもらえる親子を増やす方策も工夫していく必要がありそうだ。

イ．成果の社会還元の取組	
（P）計画	**1.　<u>対象地域の小学校で特別授業を開催し、児童や教職員との協力関係を構築する</u>** これまではエコチル調査参加者を対象にイベントやフォーラムなどを開催し、参加者コミュニケーションや成果を還元する活動を展開してきたが、本年度は参加者の周辺にいる一般の方々に対しても調査の認知度を高め、支援・協力関係の輪を広げたいと考えた。その方策としてまずは調査に参加している子どもたちが通う小学校に出向き、子どもたちが楽しく学べるカードゲームを使った体験授業を行う計画を立てた。 カードゲームは SDGs（森林環境保全）を題材にした内容で、環境問題に興味関心を持ってもらうとともに、授業の中でエコチル調査の取組を紹介する時間も設け、調査の内容を紹介するちらしを全児童と教職員に配布して、認知度の向上を図ることとした。ユニットセンターのスタッフが直接、小学校に出向いて児童や教職員らとコミュニケーションを深めることで、小学校現場との協力関係を構築したいと考えた。
（D）実施	カードゲーム「モリトミライ」は、山梨日日新聞社が県内企業や教育機関とともに展開している「やまなし SDGs プロジェクト」の一環として開発したもので、森林環境の現状や持続的な活用について子どもたちが楽しく学べる内容となっている（参考資料 7）。ゲームを進行するファシリテーターを育成し、2022 年から山梨県内の小中学校などで体験授業を開いており、本年度は 10 月から 11 月にかけて、エコチル調査の対象地域にある小学校 5 校で体験授業を実施してもらうことになった。 実施スケジュールは以下の通り。 ①　富士吉田市　下吉田小学校 開催日時：10 月 23 日（水）13:25～15:30 参加児童：6 年生　44 名 ②　甲州市　塩山南小学校 開催日時：11 月 6 日（水）9:30～11:30 参加児童：6 年生　60 名 ③　甲府市　東小学校 開催日時：11 月 7（木）9:20～11:30 参加児童：5 年生　46 名

	④　中央市　玉穂南小 開催日時：11 月 12 日（火）8:45～10:45 参加児童：6 年生　46 名 ⑤　甲府市　池田小学校 開催日時：11 月 18 日（月）9:40～11:40 参加児童：5 年生　81 名 また、エコチル調査の取組を紹介する子ども向けのちらしを新たに作成し、体験授業の機会を活用して全校児童や教職員に配布し、エコチル調査の認知度向上にも努めることとした（参考資料 8）。 参考：「モリトミライ」HP https://www.projectdesign.co.jp/moritomirai/service/
（C）評価	10 月 23 日に実施した下吉田小学校では、6 年生の児童 44 人が参加。森林保全に関する 10 種類の職業別に 4～5 人ずつのグループに分かれて、カードゲームを体験してもらった（参考資料 9）。 豊かな森を育み、成長した木を木材として社会に循環させる仕組みについて学びながら、各グループに課せられた目標を達成させるというゲームに、子どもたちは楽しそうに取り組み、「いろいろな職業の人たちと相談しながら協力することが大切だということが分かった」「森を守るだけではなく、活用することも大事だと思った」などの感想が寄せられた。 ゲーム終了後に、ユニットセンターのスタッフが「エコチル調査」の取組について紹介したところ、話の中で約半数の児童が調査に参加していることが明らかになり、長年にわたる調査協力に対するお礼を伝えるとともに、13 歳以降の調査継続に関しても、子どもたちに直接、協力を呼び掛けることができた。 また、体験授業の様子は山梨日日新聞に掲載されることも決まり、社会的な広報活動にもつなげることができた。
（A）改善	日々多忙な小学校で体験授業を開催するためには、校長先生をはじめ、現場の先生方の理解や協力がないとなかなか受け入れてもらえない状況がある。今回、体験授業の開催が決まった 5 校とは、つながったご縁を大切にし、これからも折に触れてニューズレターや研究成果報告などを提供しながら協力関係を築いていきたい。 また、エコチル調査参加者が在籍する 2027 年度までは定期的にこの活動を続けることとし、できるだけ多くの参加者とその周辺の関係者らに直接、協力を呼びかける機会としたい。

特集

中学生になったら エコチル調査 ここが変わります!

エコチル調査は13歳以降も継続することが決まり、この4月に中学生になる2011年度生まれのお子さんとその保護者の方から、調査の方法が変わります。一番のポイントは、紙の質問票がなくなり、WEB質問票の配信がスタートすること。これにより、皆さんのスマートフォンやパソコンからエコチル調査の質問票に回答したり、謝礼ポイントを受け取ったりすることができるようになります。中学生からの新しいエコチル調査についてご案内します。

専用アプリ、準備はOK?

中学生からのエコチル調査は、質問票をWEB上でやりとりするため、スマホやタブレットにエコチル調査の「アプリ」をダウンロードしていただくと便利です!

ココがポイント!

中学生からのエコチル調査

	小学生まで	中学生から
質問票調査の形式	紙の質問票を郵送でやりとりする。	参加者専用サイト(アプリ)にWEB質問票を配信。
回数と回答時間	年2回。 1回の回答時間は30~40分。	年に10回ほど。 1回の回答時間は1~5分程度。
質問の回答者と謝礼の対象	主に保護者が回答。 10歳からは「子どもアンケート」もあり。 謝礼の対象は保護者のみ。	保護者とお子さんに別々の質問票が配信される。 謝礼は、保護者とお子さんの両方が対象。
謝礼の種類	1冊につき1,000円分の「WAONポイント」が受け取れる。 WAONステーションなどで電子マネーの「WAON」に交換して利用する。	1回につき、100~200円分の「謝礼ポイント」が受け取れる。 年間で保護者は1,000円分、お子さんは2,000円分のポイントがたまる。 ポイントは好きなギフトに交換して利用する。

ポイント1
質問票はスキマ時間にポチっと回答。途中で中断しても続きから再開できます。

ポイント2
お子さんにも謝礼を差し上げます。ポイントは家族でまとめることもできます!

よくある質問にお答えします!

Q 13歳以降もエコチル調査を続けたいのですが、子どもがスマホを持っていません。どうしたらいいですか?

A 保護者の方のスマホやパソコンがあれば大丈夫です。保護者のスマホにエコチル調査のアプリをダウンロードしていただき、お子さん用のIDとパスワードでログインすれば、お子さんの質問票に回答することができます。
お子さんがスマホを持ったら、そのスマホにアプリをダウンロードしてご利用ください。

Q エコチル調査のポイントはどんなギフトに交換できますか?

A 下の表のギフトに交換できます。

Amazonギフト券	Apple Gift Card
nanacoギフト	Google Playギフトコード
au Payギフトカード	デジタルKFC CARD
Pay Payマネーライト	上島珈琲プレシャスギフト
モスカード	ANA SKYコイン
スターバックスドリンクチケット	西松屋チェーンデジタルギフト
ピザーラギフト	すかいらーく ご優待券
タリーズデジタルギフト	出前館クーポン
図書カードネットギフト	日本赤十字への寄付
モンベルクラブ・メンバーズポイント	EdyギフトID
WebMoney	吉野家デジタルギフト
Vプリカ	レコチョク
Book Live!プリペイドカード	

※2024年1月10日現在の情報です。ギフトの種類は変更になることがあります。

小学6年生になったら 13歳以降のエコチル調査に向けた準備をお願いします!

エコチル調査に参加しているお子さんが小学6年生になったご家庭には、エコチルやまなしから13歳以降の調査を継続するための書類を「簡易書留」でお送りします。
ご家族で相談していただき、続けるかどうか決めてください。
1人でも多くの方に調査を続けていってもらえるとうれしいです。

保護者の方のスケジュール

小学6年生の4月~6月ごろ
ご自宅に簡易書留で書類をお届け
・13歳以降のエコチル調査の説明資料
・保護者用のIDとパスワード
説明資料をよく読んで、13歳以降の調査の継続についてご家族で相談してください!

「13歳以降も調査を続けます!」

①保護者のスマホにエコチル調査のアプリをダウンロード
②保護者用のID・パスワードでログイン
③13歳以降の調査について「継続する」を選択
④アプリ内で簡単なアンケートに回答

④のアンケートに回答していただいた謝礼として500円分のポイントを差し上げます

同意した翌日
期間限定プレ質問票(本番前のお試しの質問票)をアプリに配信
期間内にプレ質問票に回答すると、さらに500円分のポイントを差し上げます

お子さんが中学生になったら
アプリに保護者用の質問票が配信されます
・年に10回程度
・回答時間は1~5分程度
・1回ごとに100~200円分のポイントを進呈
年間で合計1,000円分のポイントを差し上げます

「13歳以降の調査には参加しません」または「すぐには決められないから保留にしたい」
→ 特別な手続きは必要ありません。

お子さんのスケジュール

保護者がアプリから同意した後
ご自宅に簡易書留で書類をお届け
・お子さん用の説明資料
・お子さん用のIDとパスワード

お子さん用のID・パスワードでエコチル調査のアプリにログインし、期間内にプレ質問票に回答

お子さんにも500円分のポイントを差し上げます

中学生になったら
アプリにお子さん用の質問票が配信されます。
・年に10回程度
・回答時間は1~5分程度
・1回ごとに100~200円分のポイントを進呈
年間で合計2,000円分のポイントを差し上げます

16歳になったら
お子さんご本人に調査継続の同意確認を行います。保留中の方にもご連絡致します。

お問合せ先
エコチル調査甲信ユニットセンター(エコチルやまなし)
電話:055-273-1258
メール:ecochild-ksuc@yamanashi.ac.jp

料金別納郵便

ゆうメール

エコチルやまなし

こぴっと通信

2024 AUG

号 外

いつもご協力
ありがとうございます！

エコチルやまなしから、
大切なお知らせを
お届けします。

中学1年生のみなさんへ

2024年4月よりWEB質問票が始まりました！

中学生からのエコチル調査は、スマホやパソコンでやり取りするWEB質問票に変わりました。

WEB質問票のよいところ

- ポストに投函する手間がかかりません。
- 1～5分くらいの短い時間で回答できます。
  ※中学生は年に15回、保護者は年に10回配信されます。
- 謝礼ポイントをアプリで受け取ることができ、中学生は年間最大2,000円分、保護者は年間最大1,000円分のポイントがたまります。
- アプリ内で受け取ったポイントは、右の表にあるギフトに交換できます。

アプリにログインするためのID・パスワードがわからない方は、エコチルやまなしまでご連絡ください！

エコチル調査甲信ユニットセンター（エコチルやまなし）
代表電話・・・・・・・・055-273-1258
謝礼ポイント専用電話・・055-273-6775
（いずれも土日祝日を除く9：00～17：00）

【注意】 ポイントには有効期限があるので、アプリ内の「ポイント履歴」で確認して、期限内にギフトに交換してくださいね！

Amazonギフト券	Book Live!プリペイドカード
nanacoギフト	Google Playギフトコード
Au Payギフト	デジタルKFC CARD
PayPayマネーライト	西松屋チェーンデジタルギフト
モスカード	ANA SKYコイン
ピザーラギフト	上島珈琲プレシャスギフト
スターバックスドリンクチケット	すかいらーくご優待券
モンベルクラブ・メンバーズポイント	日本赤十字への寄付
図書カードネットギフト	出前館クーポン
Vプリカ	レコチョク
タリーズデジタルギフト	Edyギフト ID
WebMoney	吉野家デジタルギフト
Apple Gift Card	

※ギフトの種類は変更になることがあります

小学4・5・6年生のみなさんへ

子どもアンケートに協力ください

・お誕生日ごろにとどく 10 歳・11 歳・12 歳の質問票には、「子どもアンケート」が入っています。
・最近の生活の様子、心や体のことなど、あなた自身にしか答えられない調査です。
・あなたが答えた内容を、ほかの人が知ることはありませんので、安心して記入してください。

学年質問票をお届けしています

・４年生は５月、５年生は８月、６年生は７月に、それぞれの学年質問票をお送りしています。
・小学校で測定した身体測定の記録、（身長・体重・実施日）５・６年生にはスポーツテストの結果を記入する欄があります。

学校からこれらの記録が配布されたら、**写真を撮って保存**しておいてください。

小学4年生のみなさんへ

乳歯の回収を行っています！

・「乳歯調査に協力します」とお返事をいただいた方に、乳歯回収キットをお送りしています。
・回収キットがお手元に届きましたら乳歯質問票と、乳歯のご提供をお願いします。

小学6年生のみなさんへ

13歳以降調査の継続手続きはお済みですか？

① まずはお使いのスマホにエコチル調査のアプリをインストールしてください
② 簡易書留でお届けした、保護者用アカウント情報（仮 ID と仮パスワード）を入力してログイン！
③ 「継続します」にチェックを入れてください

iPhon 使用の方　Android 使用の方

こちらの二次元バーコードからアプリをインストールできます

・ID、パスワードがご不明な方は、エコチルやまなし事務局までお問い合わせください。
・12歳学童期検査の会場でも 継続手続きのお手伝いをしています。

12歳学童期検査にご参加ください

・12歳学童期検査は、小学校6年生の間に山梨大学に来ていただき、対面で行う検査です。
・お誕生日に近い検査日を順番にご案内していますが、ご都合に合わせて日程を調整することもできます。

学童期検査に参加していただいたお子さんには、ボランティア活動証明書を発行いたします

保護者のみなさんへ

スマホに WAON カードを取り込まないようご注意ください！

エコチルやまなしからお届けした WAON カードをスマホに取り込んでしまうと、カード番号が変更されてエコチルやまなしからの WAON ポイントがプレゼントできなくなります。
取り込んでしまった方は WAON カードを再発行いたしますのでご連絡ください。
【謝礼ポイント専用電話：055-273-6775（土日祝日を除く 9：00～17：00）】

WAON 謝礼ポイントの受け取り期限が近づいています！

WAON ポイントの受け取り期限→2024 年 9 月 30 日
対象は、2023 年 10 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日までの間に WAON ポイントを付与された方です。
ポイントをダウンロードして、電子マネーの「WAON」に交換してください！

編集後記

今回は、中学生から WEB 質問票に変わることなど、大切なお知らせを号外としてお届けしました。
次号は、通常の「こぴっと通信」を２月ごろにお届けする予定です！
暑い日が続きますが、熱中症に気をつけてお過ごしくださいね！

エコチル調査を続けてくれてありがとう！

感謝をこめて

エコチルやまなしより プレゼントをお届けします！

中学校進学、おめでとうございます！　中学校生活には、もうなれましたか？
勉強や部活動、趣味など、新しいことにどんどん挑戦して、「好きなこと」や「大切なもの」をたくさん発見してくださいね。
エコチルやまなしは、みなさんの中学校生活を応援しています！

エコチル調査は、みなさんのご協力のおかげで、たくさんの研究が進められ、
その成果は、子どもたちの環境と健康を守る活動に役立てられています。
社会に役立つプロジェクトとして認められ、これからも続けていくことになりましたので、
引き続きご協力をお願いします！

中学生からはWEB質問票がスタートしました!

アプリをダウンロードして参加してね★

エコチル調査

エコチル調査

iPhone

Android

年間で最大
2,000円分
ポイントがもらえます

スキマ時間にポチっと回答

ポイントはお好きなギフトに交換できます

ちょっとうれしい特典☺

2024年度のWEB質問票 配信スケジュール

お誕生日にも配信します

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
✉✉ ✉✉		✉✉ ✉✉ ✉✉			✉ ✉			✉			✉

4月と6月に配信した質問票にまだ回答していない方は、お早めに回答してくださいね☺

エコチル調査の継続にご協力をお願いします！

エコチル調査は 13 歳以降も継続して実施することになりました。
13 歳以降は WEB 上で質問票をやり取りし、謝礼も約 20 種類のギフトに交換できるポイントに変わります。お子さんが中学生になってからも、ぜひエコチル調査を続けていってくださいね！

🌟保護者の皆さまにお願いしたいこと🌟

① お持ちのスマホにエコチル調査のアプリをダウンロードしてください（別紙参照）
② 7 月に簡易書留でお送りした保護者用の ID とパスワードでアプリにログインし、「調査を継続します」をクリック！
※ID・パスワードをお持ちでない方は待合室のスタッフに声をかけてください。
③ 同意者限定アンケートがすぐ配信されるので、それに回答すると、その場で 500 円分のポイントをゲット！
④ 翌日には「プレ質問票」が配信されるので、そちらにも回答するとさらに 500 円分のポイントがもらえます。

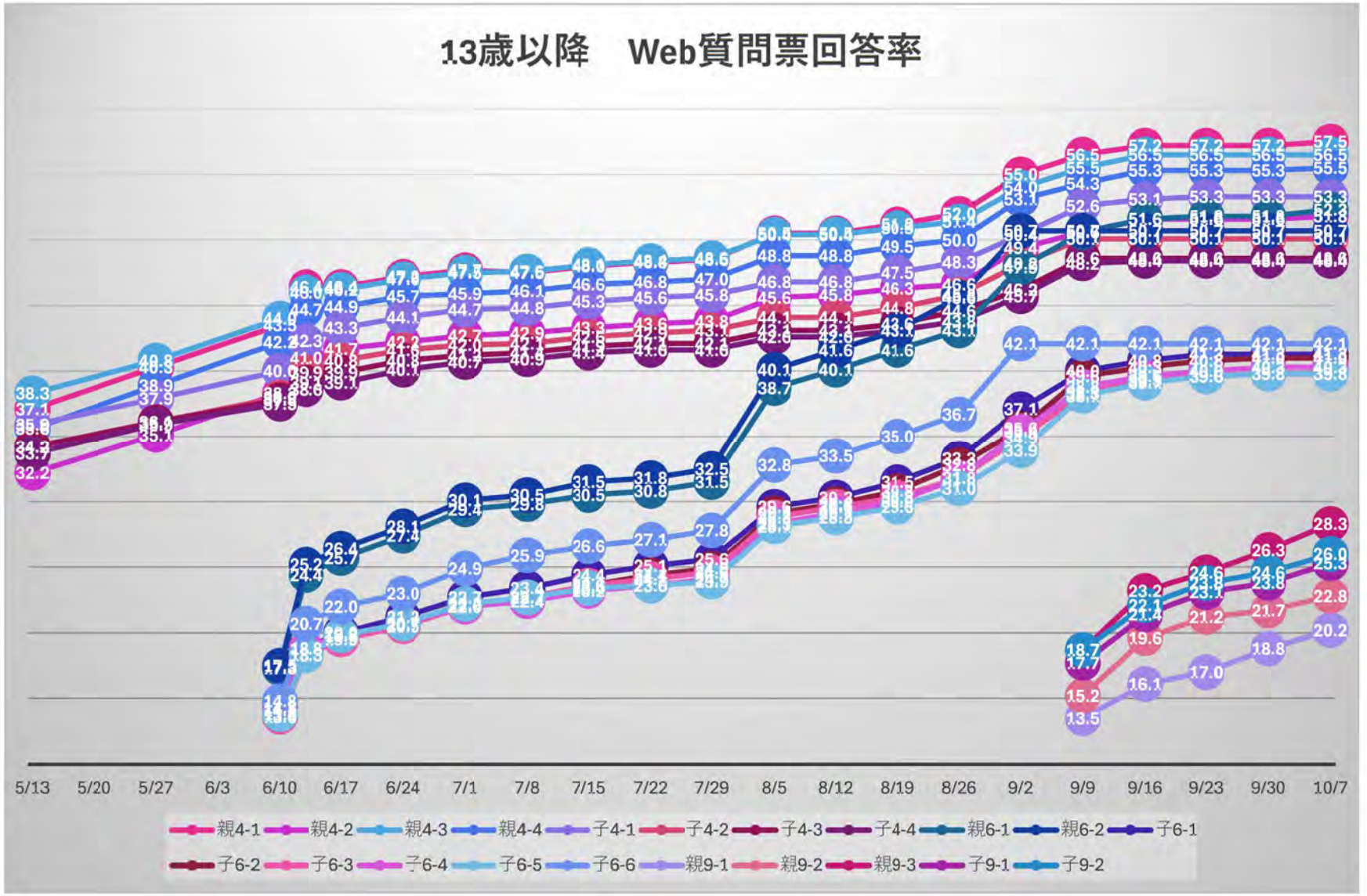
❤️お子さんたちにお願いしたいこと❤️

① お子さんのスマホにエコチル調査のアプリをダウンロードしてください。
※お子さんがスマホを持っていない場合は、保護者のスマホにダウンロードしたアプリをお子さんと一緒に使っていただくこともできます。
② 保護者の方が「継続します」をクリックしていただいた翌日以降に、お子さんの ID とパスワードをアプリ上でお知らせします。メールでもアプリにお知らせが届いたことをお伝えしますが、メールにはパスワードは表示されません。
③ お子さんの ID とパスワードでログインしてください。
※保護者の方のスマホをお子さんも使用する場合は、保護者の方が一旦ログアウトしてからお子さんの ID、パスワードでログインしてください。
④ お子さん用のプレ質問票が配信されているので、それに回答するとお子さんにも 500 円分のポイントを差し上げます！

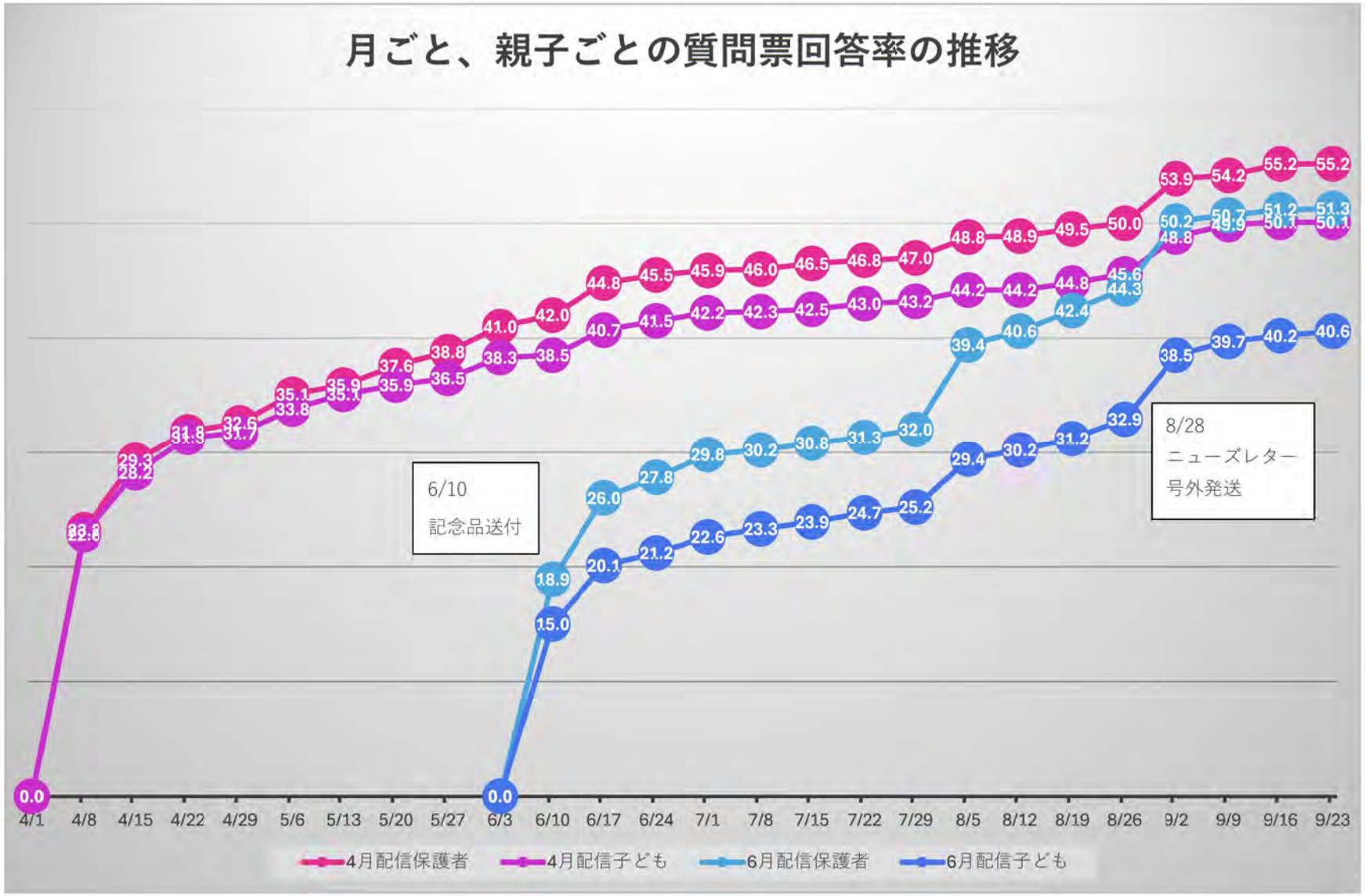
中学 1 年生の 4 月から年に 10 回ぐらい、エコチル調査のアプリに質問票が配信されます。
スキマ時間に気軽にポチっと！回答してくださいね。
ご協力をよろしくお願い致します！

【お問合せ先】
エコチル調査甲信ユニットセンター
電　話：055-273-1258
メール：ecochild-ksuc@yamanashi.ac.jp

参考資料 5-1


13歳以降　Web質問票回答率
5/13
5/20
5/27
6/3
6/10
6/17
6/24
7/1
7/8
7/15
7/22
7/29
8/5
8/12
8/19
8/26
9/2
9/9
9/16
9/23
9/30
10/7
親4-1
親4-2
親4-3
親4-4
子4-1
子4-2
子4-3
子4-4
親6-1
親6-2
子6-1
子6-2
子6-3
子6-4
子6-5
子6-6
親9-1
親9-2
親9-3
子9-1
子9-2

参考資料 5-2


月ごと、親子ごとの質問票回答率の推移
6/10
記念品送付
8/28
ニューズレター
号外発送
4/1
4/8
4/15
4/22
4/29
5/6
5/13
5/20
5/27
6/3
6/10
6/17
6/24
7/1
7/8
7/15
7/22
7/29
8/5
8/12
8/19
8/26
9/2
9/9
9/16
9/23
4月配信保護者
4月配信子ども
6月配信保護者
6月配信子ども

2024年度　13歳以降の調査継続に関する再同意件数

対象者　1196		再同意数	再同意累計	継続率	UCからの働きかけなど
2024/7/1	月	0	0	0.0%	
2024/7/2	火	0	0	0.0%	
2024/7/3	水	0	0	0.0%	
2024/7/4	木	0	0	0.0%	
2024/7/5	金	0	0	0.0%	
2024/7/6	土	1	1	0.1%	
2024/7/7	日	0	1	0.1%	
2024/7/8	月	0	1	0.1%	
2024/7/9	火	0	1	0.1%	
2024/7/10	水	0	1	0.1%	
2024/7/11	木	0	1	0.1%	
2024/7/12	金	0	1	0.1%	
2024/7/13	土	0	1	0.1%	
2024/7/14	日	0	1	0.1%	
2024/7/15	月	0	1	0.1%	
2024/7/16	火	0	1	0.1%	
2024/7/17	水	0	1	0.1%	
2024/7/18	木	0	1	0.1%	
2024/7/19	金	0	1	0.1%	ログイン情報発送
2024/7/20	土	42	43	3.6%	
2024/7/21	日	21	64	5.4%	
2024/7/22	月	17	81	6.8%	
2024/7/23	火	8	89	7.4%	
2024/7/24	水	6	95	7.9%	
2024/7/25	木	2	97	8.1%	
2024/7/26	金	5	102	8.5%	
2024/7/27	土	7	109	9.1%	
2024/7/28	日	6	115	9.6%	
2024/7/29	月	5	120	10.0%	
2024/7/30	火	5	125	10.5%	
2024/7/31	水	3	128	10.7%	

2024/8/1	木	4	132	11.0%	
2024/8/2	金	5	137	11.5%	
2024/8/3	土	5	142	11.9%	小6学童期検査（個別依頼なし）
2024/8/4	日	8	150	12.5%	小6学童期検査（個別依頼なし）
2024/8/5	月	5	155	13.0%	
2024/8/6	火	2	157	13.1%	
2024/8/7	水	2	159	13.3%	
2024/8/8	木	3	162	13.5%	
2024/8/9	金	2	164	13.7%	
2024/8/10	土	0	164	13.7%	
2024/8/11	日	2	166	13.9%	
2024/8/12	月	1	167	14.0%	
2024/8/13	火	3	170	14.2%	
2024/8/14	水	0	170	14.2%	
2024/8/15	木	3	173	14.5%	
2024/8/16	金	5	178	14.9%	
2024/8/17	土	1	179	15.0%	
2024/8/18	日	1	180	15.1%	
2024/8/19	月	0	180	15.1%	
2024/8/20	火	4	184	15.4%	
2024/8/21	水	2	186	15.6%	
2024/8/22	木	2	188	15.7%	
2024/8/23	金	5	193	16.1%	ログイン情報再発送
2024/8/24	土	3	196	16.4%	
2024/8/25	日	7	203	17.0%	
2024/8/26	月	2	205	17.1%	
2024/8/27	火	3	208	17.4%	
2024/8/28	水	1	209	17.5%	こぴっと通信号外送付
2024/8/29	木	2	211	17.6%	
2024/8/30	金	7	218	18.2%	
2024/8/31	土	15	233	19.5%	

2024/9/1	日	9	242	20.2%	
2024/9/2	月	5	247	20.7%	
2024/9/3	火	3	250	20.9%	
2024/9/4	水	2	252	21.1%	
2024/9/5	木	4	256	21.4%	
2024/9/6	金	3	259	21.7%	
2024/9/7	土	12	271	22.7%	小6学童期検査（個別依頼開始）
2024/9/8	日	11	282	23.6%	小6学童期検査（個別依頼あり）
2024/9/9	月	1	283	23.7%	
2024/9/10	火	1	284	23.7%	
2024/9/11	水	1	285	23.8%	
2024/9/12	木	2	287	24.0%	
2024/9/13	金	0	287	24.0%	
2024/9/14	土	1	288	24.1%	
2024/9/15	日	2	290	24.2%	
2024/9/16	月	3	293	24.5%	
2024/9/17	火	0	293	24.5%	
2024/9/18	水	0	293	24.5%	
2024/9/19	木	0	293	24.5%	
2024/9/20	金	0	293	24.5%	
2024/9/21	土	1	294	24.6%	
2024/9/22	日	2	296	24.7%	
2024/9/23	月	2	298	24.9%	
2024/9/24	火	2	300	25.1%	
2024/9/25	水	1	301	25.2%	
2024/9/26	木	0	301	25.2%	
2024/9/27	金	0	301	25.2%	ログイン情報再々発送
2024/9/28	土	1	302	25.3%	
2024/9/29	日	6	308	25.8%	
2024/9/30	月	0	308	25.8%	
2024/10/1	火	0	308	25.8%	
2024/10/2	水	0	308	25.8%	
2024/10/3	木	0	308	25.8%	
2024/10/4	金	2	310	25.9%	
2024/10/5	土	8	318	26.6%	小6学童期検査（個別依頼あり）
2024/10/6	日	3	321	26.8%	小6学童期検査（個別依頼あり）
2024/10/7	月	1	322	26.9%	
2024/10/8	火	0	322	26.9%	

森林の現状や持続的な活用について楽しく学ぶことができるカードゲーム「moritomirai（モリトミライ）」

森は、私たちの生活に欠かすことのできない様々な恩恵を与えてくれます。

- おいしい空気や水、キノコや木の実などの食材
- 昆虫や動植物のすみか
- 田畑や海に栄養を運ぶ
- 木材の供給
- 土砂災害を防ぐ
- 地球温暖化の原因となる二酸化炭素（CO2）を吸収する
- 癒やしや楽しみの提供

このように、私たちの生活は森と密接に関わっていますが、今、私たちの森の現状に関しての理解・関心はまだまだ低く、中には誤った知識が流布しているケースもあります。人が森林に入る機会も減り、森の荒廃は進み、さらに、森林を管理する担い手である林業従事者も大幅に減少しています。

このまま森の荒廃が進むと、私たちは、森からの様々な恩恵を受けられなくなる日がやってくるかもしれません。

では、どうすればいいのか？

カードゲーム「moritomirai（モリトミライ）」は、小学校高学年から大人まで、幅広い年齢層を対象としたカードゲームです。山の所有者、森林組合、猟師、行政職員、住宅メーカー、学校の先生など様々な仕事やゴールを持った10種類のプレイヤーたちが、仕事や生活のアクションを繰り返し、森と私たちの未来が刻々と変化する中で「森の未来」について考えます。

豊かな「森の未来」を取り戻す挑戦を、私たちと一緒に始めましょう！

ゲーム概要

・対象：小学校高学年～大人まで
・1キットあたりの対応人数：10～40名
・所要時間：90～180分

※カードゲーム「moritomirai（モリトミライ）」は、産学官民が手を携え、SDGsに関わる様々なアクションを実行する「やまなしSDGsプロジェクト」の活動の一環として企画され、プロジェクトデザインが開発したゲームです。

≪やまなしSDGsプロジェクト「moritomirai」（山梨日日新聞社）はこちら≫

ゲームで学べること

1. 森の役割と私たちの生活との関わりや正しい知識の理解

「森を守るために、木は使わないほうがいい」。このような認識を持っている人は多いかもしれません。ですが、実は「森を守るためには、木を使うべき」なのです。

世界的には、木材需要の高まりに対して供給が追い付かず、違法伐採や原住民の暮らしを脅かすような開拓が行われるなど、様々な問題が起こっています。

しかし、日本においては実は逆の現象が問題になっています。

戦後一斉に植樹された木材は利用期を迎え、多くの資源として存在していますが、安価な海外産の木材へ利用が流れ、「木が使われない」という問題が起こっています。更に、人手不足に伴い手入れが行き届かず、本来利用出来るはずの森林資源を有効に活用できない状態にしてしまっているのです。

豊かな森の未来を守る為には、森がどのように私たちの生活に関わっているか、また私たちはどの様に行動すればいいのか、といった、正しい知識の理解がとても重要です。

水を蓄える、木材を提供する、空気を生み出す、災害を防ぐなど森が果たす役割は多岐にわたりますが、多くの人が森の役割について部分的な理解に留まっています。

森が抱える様々な問題と可能性を知り、そのために私たちができることを、「仕事」・「日常生活」のそれぞれのアクションを通じて考えて行きます。私たちの生活と森の役割の繋がりについて楽しく学ぶことで、森への関心と正しい知識の理解を促します。

日本の森を取り巻く現状の図

2. 協働歩調の必要性

森は地域全体の財産であり、誰か個人、一組織で守っていくものではありません。豊かで健康な森は、様々な人が関わり合うからこそ実現できるものです。

今後、豊かで健康な森がつくられ続け、適切に循環していくためには、50年～100年という長い年月と多くの人々の協力が必要です。

カードゲーム「moritomirai（モリトミライ）」では、山の所有者、森林組合、猟師、行政職員、住宅メーカー、学校の先生など様々な仕事を持った10種類のプレイヤーがいます。

この10種類のプレイヤーが、各々好き勝手に行動すると森の状況は悪化していきます。どのような森を作りたいか、考え、発信し、協力し合うことで初めて「森と私たちの未来」が明

3. 経済活動と森林資源の好循環を生むことが持続可能な森作りへ繋がる

一度、人の手が入った森（人工林）は、手入れ・管理し続けなければ、健康に育ちません。そのためには、定期的な間伐や枝打ちなどの整備が必要になります。

「森を守るために、森林資源を使わない」と認識されているケースも多くありますが、適切な手入れによって、利用期を迎えた木材や周辺の産物が商品として流通してこそ、森林は資源となります。

私たちがその資源を有効に活用することが林業経営者の収益に繋がり、経済的な側面においても、森林資源という観点においても持続可能な状態が保たれることを理解できます。

エコチル調査ってなあに?

- 環境省が2010年度から実施している国家プロジェクトです。
  正式には「子どもの健康と環境に関する全国調査」といいます。
- 日本国内15の地域で約10万組の親子が参加しています。
  山梨県でも約4,５00組の親子に協力していただいています。
- 身の回りの環境が子どもの健康や成長にどんな影響を与えているのかを調べ、
  子どもたちが安心して健やかに育つ環境をつくることを目指しています。

どうして「エコチル」っていうの?

エコロジー(環境にやさしいこと)とチルドレン(子どもたち)を組み合わせたんだ。
みんなが親しみやすいようにつけたんだよ。

どんな調査をしているの?

参加している親子の血液、尿、毛髪、乳歯などを少し分けてもらって、その中に含まれる化学物質の濃度を測定したり、定期的に質問票に回答してもらって、子どもたちの成長や発達、病気などの情報を集めているの。
お母さんのおなかの中にいる時から10年以上も調べていて、とても貴重なデータなのよ。

今までにどんな成果があったの?

エコチル調査のデータを使った研究が全国の大学や研究所で行われていて、今までに約450の研究が論文にまとめられて世界に発表されているよ。(2024年7月末現在)
国の報告書やガイドラインの指標としてエコチル調査の研究結果が使われたり、高校の保健体育の教科書にエコチル調査が紹介されたり、エコチル調査のデータはさまざまな形で社会の役に立っているんだよ。

**研究成果についてはエコチルやまなしホームページ内「調査でわかったこと」、
または環境省エコチル調査ホームページでも詳しくご紹介しています。ぜひのぞいてみてください。**

エコチルやまなしHP→

環境省HP→

エコチル調査に参加しているみなさんへ

みなさんがお母さんのおなかの中にいる時に、お母さんにエコチル調査へのご協力をお願いしたところ、「未来の子どもたちのためになるなら…」と、全国で10万人を超えるお母さんたちが調査に参加してくださいました。

みなさんが生まれてからは、郵便で質問票をやり取りしながら、みなさんがどんなふうに成長しているのか、病気やけがをしていないか、どんなものをどれくらい食べているのかなど、たくさんの項目に回答し続けてくださっています。

小学4年生からは、みなさんにも「子どもアンケート」に協力してもらうようになりましたね。

小学2年生と6年生の時には、山梨大学に来てもらって、パソコンを使った発達検査や身体測定なども受けてもらっています。忙しい中、いつもエコチル調査に協力していただき、本当にありがとうございます。

みなさんからいただいたたくさんのデータを使った研究が進められ、その成果がたくさん発表されるようになりました。エコチル調査は社会に役立つプロジェクトとして認められるようになり、みなさんが中学生になってからも調査を続けていくことが決まりました。

中学生になると、紙の質問票ではなく、エコチル調査専用のアプリを使って、スマホやパソコン、タブレットなどで気軽に回答できるようになります。ぜひ中学生になっても社会のため、これから生まれてくる未来の子どもたちのために、エコチル調査を続けて行ってもらえるとうれしいです。

ご協力をよろしくお願いいたします。

エコチル調査のアプリはカワウソのキャラクターが目印だよ!▶

先生方やお友達のみなさんへ

山梨県内では2011年～2014年に生まれたお子さんのうち、約4,500人がエコチル調査に参加してくださっています。エコチル調査は参加家族の長年にわたるご協力があったからこそ、続けてこられたプロジェクトであり、これからもたくさんの研究成果を社会に役立ててもらいたいと思っています。

参加者のみなさんがエコチル調査を続けていくためには、周りにいる先生方やお友達のみなさんの温かいご支援が必要です。まずは、「エコチル調査」という言葉を知っていただき、この大規模なプロジェクトを見守り、応援していただけると幸いです。

子どもの健康と環境に関する全国調査
エコチル調査

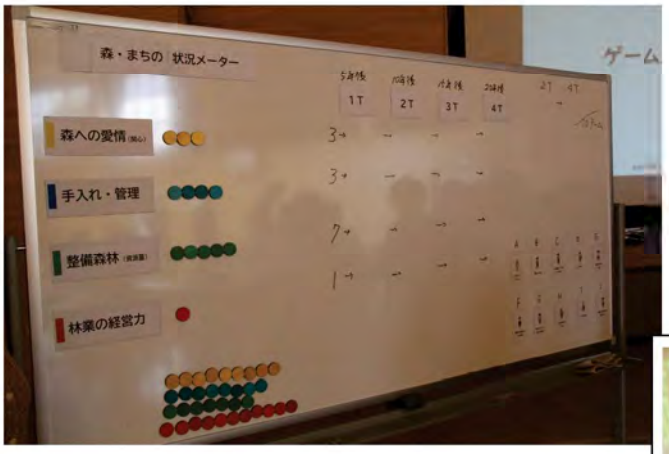
エコチル調査甲信ユニットセンター(エコチルやまなし)
〒409-3898 中央市下河東1110
山梨大学大学院総合研究部附属出生コホート研究センター内
TEL:055-273-1258

参考資料 9

10 月 23 日に行われた「カードゲーム『モリトミライ』体験授業」の様子

エコチル調査の対象地域になっている山梨県富士吉田市の下吉田東小学校で開かれた「モリトミライ」体験授業

グループごとに選んだ「仕事カード」と「生活カード」をファシリテーターに渡し、もらった「結果カード」で得られた報酬や森の状況メーターをよくするヒントを確認する子どもたち



「結果カード」の内容によって「森への愛情（関心）」「手入れ・管理」「整備森林（資源量）」「林業の経営力」を表すメーターの値が増減する

15－20 人が「エコチル調査」を知っていると回答。学童期検査に参加したお子さんも数名確認できた

※写真撮影については小学校でそれぞれの家庭に確認しており、「NG」のお子さんを外して撮影し、使用許可も得てあります。

エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況
（令和６年４月～令和６年９月末時点）

調査実施機関名：　甲信サブユニットセンター（信州大学）

評価時点	令和６年 9 月 30 日

ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持や質問票回収率の維持・向上の取組	
（P）計画	今年度より開始した 13 歳の Web 質問票は、紙の質問票に比べて回答率が伸びずにいた。 特に子の質問票の回答率が伸びず、理由が分からずにいたところ「子どもが思春期でこれまでのようにコミュニケーションが取れない」というお声がいくつか届いた。 これをきっかけに、保護者がお子さまに回答を促すこと自体にハードルがあることも回収率が伸びない一因ではと考え、保護者・お子さまそれぞれの「自主的な回答」に繋がるアプローチを検討した。
（D）実施	まず紙の質問票と Web 質問票の回答率の伸びの差を比較したときに、「目に見える物として手元にあるかどうか」という違いが大きいのではと考えた。アプリでの回答の場合、スマホからアプリを開きその中から質問票を選択して回答という流れになるため、自分からアクセスしていかないと回答まで辿り着かない。 しかし紙の質問票の場合、そこに置いてあるだけで目に付き意識が向きやすいというメリットがあるため、今回の回答依頼も手元に形が残るものと考えハガキをお送りすることにした。 まず「自主的な回答を促す」ため、「質問票の配信が始まっていることを伝えるハガキ」という作成の意図を明確にしてデザインを考えた。 サイズは、視覚的に分かりやすいことを重視し、文字が読みやすく、伝えたい内容をしっかりと入れこむことが出来るよう大き目なハガキ(長 3 封筒より気持ち小さめ)にすることにした。 次に記載する内容を絞った。 「質問票の配信が始まっていること」、「同一端末を使用する場合は、アカウントの切り替えが必要なこと」、「質問票に回答して

	いただいた場合の年間のポイント合計」この 3 つをメインに、他の情報を補足的に入れ込むことに決めた。 まず、ハガキの表面に質問票の配信が始まっていること、またアプリ内のどこに配信されている質問票があるのか、この 2 点がパッと見て視覚的に分かるように実際のスマホ画面を表したイラストを入れた。 このハガキは夏休みに入ってからの発送を計画していたため、裏面に大きくスペースを取り、すでに 4 月・6 月に質問票が配信されていることが分かるよう年間の配信スケジュールを記載した。また、信州では親子で同一端末を利用しているご家庭がほとんどのようなので、その場合はアカウントの切り替えが必要なこと、さらにすべての質問票に回答していただいた場合の年間の合計ポイントについても大きく記載し、情報過多にならないようシンプルで分かりやすいデザインになるように工夫した。 ハガキ 表面 ハガキ 裏面
（C）評価	10/1 に開催された第 170 回実務担当者 Web 会議の資料を用い、ハガキの発送前後 8 週間での質問票の回答率の伸び方を全国平均と比較した。 【4 月配信 保護者質問票】

	発送前	発送後
信州	3.5%	9.5%
全国平均	3.2%	7.9%

【4 月配信 子ども質問票】

	発送前	発送後
信州	3.8%	12.4%
全国平均	4.1%	7.6%

6 月配信質問票は 8 週間で比較するとちょうど配信開始と重なってしまうため、配信 1 週間後からの 7 週間での比較とした。

【6 月配信 保護者質問票】

	発送前	発送後
信州	9.7%	19.2%
全国平均	8.9%	16.1%

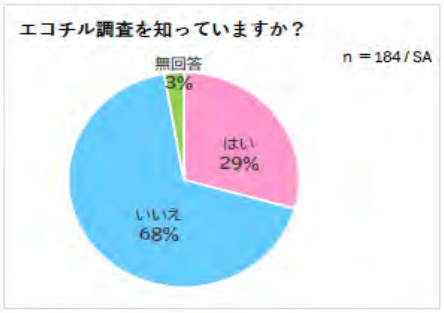
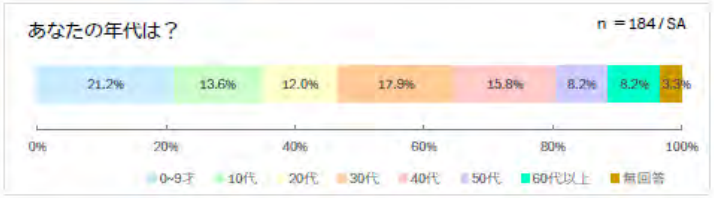
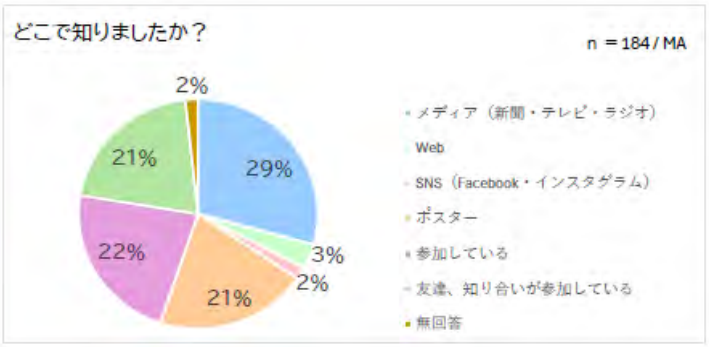
【6 月配信 子ども質問票】

	発送前	発送後
信州	8.4%	21.6%
全国平均	8.9%	15%

いずれも全国平均を上回る回答率の伸び方であったが、
特に 6 月配信の子ども質問票は回答率が大幅に上がった。
ハガキの発送が一斉配信されるリマインドメールと近かったためメールの効果もあるかと思うが、全国平均と比較しても差があるためハガキによる効果があったと言える。
以上のことから、今回の「自主的な回答を促す」という目標は達成できたと考えられる。

（A）改善	内容や発送のタイミングは工夫の余地があると思うので、今後も検討を重ねていきたい。

イ．成果の社会還元の取組	
（P）計画	＜調査地域でのイベント出展による還元＞ 信州大学農学部の一般向けイベントにてブース出展し、市民に向けてエコチル調査のアピールとともに成果を還元した。
（D）実施	信大マルシェ（農学部キャンパスにて 9/21 実施）にて来場者に対してヨーヨー釣りやアンケートに答えるとポップコーンのプレゼントを行い集客を図った。

（C）評価	天候に恵まれず総来場者は 1000 名程度であった。うち約 200 名が来展されアプローチできた。アンケートによると一般市民の認知度は約３割で、うちメディア３割、掲示ポスター２割であった。メディアは以前ＦＭ放送でＰＲしていたこととポスターは学校、保育園や病院等での掲示が効果を発揮している。来展された市民へ楽しく親しみやい活動となった。   
（A）改善	更に集客につながる企画を練るとともに身近でわかりやすい話題を提供し調査の認知度の向上とともに調査参加者の意識維持につなげていく。

エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況
（令和６年４月～令和６年９月末時点）

調査実施機関名：富山ユニットセンター

評価時点	令和６年 9 月 30 日

ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持や質問票回収率の維持・向上の取組	
（P）計画	**「学童期検査で自由研究をしよう！1 日でわかるエコチル調査と学童期検査のこと」** この企画は①エコチル調査、検査に参加する価値、重要性を知ってもらう、②参加者の利益になる体験や経験ができる検査会場の設定、③13 歳以降調査の継続について子ども自身に考えてもらうことを目的に、参加者が検査に参加したくなるような検査体制を整える一貫として立案した。検査会場に来場することで検査の意義や内容、検査に付随した学習や知識獲得ができるように、会場内には「エコチル調査とは？」「体組成ってなぁ～に？骨・筋肉・脂肪のはなし」「血液はなぜ赤い？尿はなぜ黄色い？血液と尿のはなし」をテーマとしたパネル展示、配布資料を設置することとした。なお、この企画については学童期検査日程の案内に記載し、参加者に周知した。また、夏休みの自由研究テーマにエコチル調査を取り上げ、富山ユニットセンターに投稿してくださった参加者にはプレゼントを贈ることとした。 **「13 歳以降調査 Web 質問票配信案内の郵送」** 参加者ポータルアプリからの Web 質問票の回答を促すことと、子どものログイン率向上を目的に、Web 質問票の配信月と誕生日に郵送の通知を送ることとした。
（D）実施	**「学童期検査で自由研究をしよう！1 日でわかるエコチル調査と学童期検査のこと」** 展示パネル(1 テーマ A2 判ヨコ×片面 2 枚)、しおりと配布資料(A4 判×両面 1 枚)、ワークシート(1 テーマ A4 判×1 枚)、クイズと答え(A4 判×両面 1 枚)を作成し、展示パネル、配布資料とワークシートを検査会場に設置した。しおりは受付で参加者に直接配布し、会場内に企画展示していることをお伝えした。

	「13 歳以降調査 Web 質問票配信案内の郵送」 質問票配信月の 1 週目に、子どもがログイン済みの方にはハガキで、未ログインの方には配達記録郵便にてログイン ID と PW を同封した封書で Web 質問票が配信されたことを案内した。案内にはどのような質問票で何ポイントもらえるか、期限があるかなどの情報を加えた。 **Web 質問票配信のお知らせ** また、誕生日を迎えた方を 1 週間ごとに抽出し、誕生日配信の質問票が送られたことを、誕生祝のメッセージと郵送できるサイズの文具をプレゼントとして同封して知らせることとした。 **誕生日配信に送るメッセージとグッズ**
（C）評価	**「学童期検査で自由研究をしよう！1 日でわかるエコチル調査と学童期検査のこと」** 展示パネルを写真撮影したり、パネル前で立ち止まって興味深く見てくださる方が多く見受けられた。また、夏休みの自由研究テーマにエコチル調査を取り上げ、投稿してくださった方がいた。配布資料は検査終了後に数部のみ残っていることが多く、持ち帰られていることがわかった。また、「自由研究」と名目したことで参加者が“夏休み”というイメージを持ち、夏休み以降

	に検査を予約された参加者から「自由研究の資料が欲しい」という問い合わせが数件あったため、配布資料をお送りした。 **「13 歳以降調査 Web 質問票配信案内の郵送」** 同意した保護者に対する子どものログイン率は、82.0%となり、全国平均の 68.7%より高い値となった（2024 年 9 月 Web 会議資料より）。4 月と 6 月の保護者向け、子ども向けの質問票はいずれも、配信した月に回答率が 30%を超え、全ユニットセンターの中でも上位の回答率となったことは配布した郵送物が目に留まったことが奏功したと考えている。また、4 月配信と 6 月配信について、6 月と 9 月の郵送物発送前後の回答率を見たところ、3.7～8.2%の上昇があった。この期間はメールでのリマインドも行われている質問票もあるため郵送物だけの効果とは言えないが、回答率の上昇に寄与していると考えている。 6月郵送案内前後の回答率 / 9月郵送案内前後の回答率 5月27日 / 6月24日 / 上昇分 / 8月26日 / 9月23日 / 上昇分 4月配信 保護者 45.6% 50.7% 5.1% 54.2% 58.2% 4.0% 4月配信 子ども 42.8% 51.0% 8.2% 54.5% 58.2% 3.7% 6月配信 保護者 - - - 48.1% 53.7% 5.6% 6月配信 子ども - - - 42.8% 48.3% 5.5% 2024 年 10 月 Web 会議資料より
（A）改善	**「学童期検査で自由研究をしよう！1 日でわかるエコチル調査と学童期検査のこと」** 会場によって展示場所の明るさや人の動線などが異なっていたため、参加者の目に留まる展示の工夫を行っていきたい。引き続き、検査会場での展示を継続し、検査の時期に関わらず参加者が不利にならないような対応をしていきたい。 **「13 歳以降調査 Web 質問票配信案内の郵送」** 郵送による案内は一定の効果があると考えているが、今後もより多くの回答が得られるよう、配信案内のほかにリマインドについても強化したい。メールによるリマインドはポータルシステムで自動的な配信が行われているため、郵送、メール以外で参加者の関心が得られる手法について引き続き検討してゆく。

イ．成果の社会還元の取組	
（P）計画	**「エコチル調査でわかったこと」成果発表小冊子 vol.2 発行** 昨年度、富山ユニットセンターから得られた研究成果のうち一般の方に有益と思われる情報をわかりやすくまとめた小冊子を作成した。配布した自治体・医療機関を中心に好評だったため、今年度も引き続き作成することとした。目的は vol.1 同様①一般の方、とりわけ妊婦さんや若いお母さんへのエコチル調査の認知度向上、②参加者に「自分がエコチル調査に提供した情報が、未来の子どもたちのために役立っている」と意識してもらうことである。
（D）実施	**「エコチル調査でわかったこと」成果発表小冊子 vol.2 発行** 小冊子は B6 判の見開き 8 ページで、手に取りやすく読み切りやすいボリュームとした。内容は vol.1 で取り上げた妊娠中の過ごし方から出産や産後に視点を進め、「乳児血管腫」「母乳育児」「授乳中の児への語りかけ」「2 人目以降の子育て」「帝王切開と児への愛情」の 5 つのテーマを取り上げた論文を紹介した。 完成した冊子は、参加者のほか、医療機関や行政機関、県内の全小学校等これまでエコチルとやま新聞を配布している関係先に送付した。また、関係先には送付時に「本冊子を配布可能な場があれば追送するので希望部数をお知らせ下さい」という案内を同封し配布先を募った。
（C）評価	**「エコチル調査でわかったこと」成果発表小冊子 vol.2 発行** 13 の企業、行政機関、医療機関、教育機関から合計で 1,800 部以上の追送依頼があった。8 月に開催された第 32 回母乳育児シンポジウムでの講演依頼にもつながり、参加した 500 名の医療関係者にも手渡すことができた。また、富山市のこども健康課からは令和 6 年度に母子手帳を交付する全妊婦に配布したいとの希望があり、これまでに vol.1 を含め 3,300 部を提供した。
（A）改善	**「エコチル調査でわかったこと」成果発表小冊子 vol.2 発行** 各所から高評価を得ているため、今後も同様のスタイルで年 1 回の作成・配布を考えている。今後の配布先については中学校など教育機関を含め拡充を図り、より多くの方に配布していきたい。エコチル調査参加者にとってこれから産まれるお子さんは「未来の子どもたち」であり、この成果発表小冊子は「未来の子どもたち」に渡す貴重な情報である旨をエコチル調査参加者にも伝え、モチベーションアップにもつなげていきたい。

エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況
（令和６年４月～令和６年９月末時点）

調査実施機関名：　愛知ユニットセンター

評価時点	令和６年　10 月 15 日

ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持や質問票回収率の維持・向上の取組	
（P）計画	目標 ① 12 歳までの紙の質問票の回収率の向上 ② 令和 6 年 9 月末時点で 13 歳以降調査における親・子からの Web 質問票回収率が 50%以上に達する。 ③ 令和 6 年 9 月時点で、令和 6 年度小学 6 年生の参加者からの 13 歳以降調査積極的参加率が 50%以上に達する。 ④ 令和 6 年 9 月時点で、令和 6 年度小学 6 年生の学童期対面調査の参加率が 50%以上に達する。 2023 年度の経験と結果から、以下のようなことが判明した。 12 歳までの質問票の未提出者へのショートメールを使ったリマインドにはある程度の有効性がある。 13 歳以降の継続については、初回アカウント情報を用いたログイン，親子間で携帯電話を共有する場合のアカウントの切り替えにトラブルが生じやすく，積極的継続やプレ質問票の回答率減少に繋がる可能性が見出された。 また，親子でアプリの共有をしている場合，通知はログインしている方にしか来ないため，質問票の配布が十分に伝わらない可能性が考えられる。そのため，アプリの通知以外による Web 質問票配布を伝達する方法を計画する必要がある。 13 歳以降の調査継続同意の向上には、小学 6 年生学童期検査会場での対面でのグインや同意手続きのフォローが効果的である。したがって、小学校 6 年生学童期調査への参加者を一人でも多く確保することが大切である。 そこで我々は、以下の計画を立てた。

	1．　12 歳までの紙の質問票未提出者に対するリマインドは質問票の再送を行い、その数カ月後の未提出者にショートメールを使ったリマインドを行う。 2．　Web 質問票配布のお知らせは、アプリによる通知だけでなく、他の方法による伝達も行う。 3．　小学校 6 年生学童期対面調査への参加者を可能な限り多く確保する。 4．　小学校 6 年生学童期対面調査会場において 13 歳以降調査への同意取得への勧奨を行う 5．　児と保護者にエコチル調査への本質的な理解を深め、参加の意義を理解してもらう
（D）実施	1．令和 6 年 3 月に未提出者に質問票を再輸送した後、7 月に未提出者 346 名に対してショートメールによるリマインドを行った。 2―1．13 以降 Web 質問票の回答率向上のため、未回答に対して、コアセンターからの一括のリマインド配信に加えて、愛知ユニットセンター独自の大判ハガキを作成し郵送した。 2－2．従来の Instagram や Facebook に加えて、主に参加者とのやり取りを重視した公式 LINE を開設した。 3．学童期検査参加の申し込みがなくアプリインストールが完了していない参加者に対して、架電による勧誘を行った。リサーチコーディネーターの中で突出して架電による対面調査同意取得率の高いスキルを有する者が、昼休みの時間帯、帰宅後の時間帯（19 時頃まで）を狙って学童期対面調査の予約業務を行った。

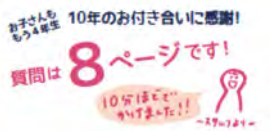
	４．学童期検査来場前の 13 歳以降調査への同意がない参加者に対しては、学童期検査会場において 13 歳以降調査の同意取得を行った。事前にプレ質問票を実施していない親子には会場で実施を試み、エコネコ反射板のキーフォルダーを配布 ５．エコチル調査と出生コホート研究の意義について 12 歳に理解できるような動画を作成し会場で視聴してもらった。保護者（親）に対しては、エコチル調査の成果についての動画を作成し、追加調査の最中にエコチル調査がどのように役に立っているのか理解できるように情報提供した。最後に、学童期検査の参加動機の調査も行った。
（C）評価	１．12 歳までの質問票未提出者に対するリマインドの成果は、質問票の再郵送は 2952 通に対して 548 通の回答（18.6%）で、未提出者へのショートメールによるリマインドでは 346 通に対して 106 通の回答（43.1%）であった。 ２．３．４．５．の実施の成果としては、学童期対面調査への参加申し込みのない 600 名に架電し、約 3 分の 1 は不通だったが、応答者のなかで 218 名が学童期対面調査への参加に同意した。当日のキャンセル率は 1 割程度で、対面調査参加時に 13 歳以降調査に同意をしていなかった者のほとんどが 13 歳以降調査への継続同意を行った。会場でもプレ質問票を行わなかった参加者は後日の実施率が低い。 目標に対する結果 ① 12 歳までの紙の質問票に対する回収率は、80.0%で、低下傾向であるがリマインドによる下げ幅を縮小効果があると思われる ② 令和 6 年 9 月末時点で 13 歳以降調査における親・子からの Web 質問票回収率は 4 月配布に対しては 50%以上に達した。 ③ 令和 6 年 9 月時点で、令和 6 年度小学 6 年生の参加者からの 13 歳以降調査積極的参加率が 50%以上に達した。 ④ 令和 6 年 9 月時点で、令和 6 年度小学 6 年生の学童期対面調査の参加率が 50%以上に達した。
（A）改善	エコチル調査の意義を理解していない参加者にいかに理解してもらうか。また、どのようにその情報を伝えるか工夫が必要。学童期検査会場でプレ質問票をやっていない人に、どのようにそれを完了してもらうかが課題。

イ．成果の社会還元の取組	
（P）計画	エコチル調査の意義を参加者の親子及び関係者に正しく理解してもらい、エコチル調査から出た成果を子どもにもわかりやすく伝えるため、イベントや広報を用いた研究成果の発信・社会還元を行う。加えて，研究成果の創出のための取組を行う。 ユニットセンターに所属する学内外の共同研究者のエコチル調査への関与度を高め、調査の実施および研究成果の発信をより促進する。
（D）実施	エコチル調査のしくみや意義を説明した複数の動画を作成した。エコチル調査の論文からインパクトのあるものを選び動画を作成し、学童期検査の会場で、参加者の親子に動画を見せた。 参加地域の教育委員会を通じた広報によるコミュニケーションを図るための短い動画（２分以内）を作成した。
（C）評価	検査会場における保護者（主に母親）の反応は良好で、エコチル調査の仕組みと意義が理解できたとの声が聴かれた。また、論文成果の動画からは、「勉強になった。自分の体験が理解できた。」などの声が聞かれた。 検査会場における子どもの反応も良好で、エコチル調査のしくみと意義がよく理解できた、との声が多かった。 学童期調査の会場では全ての動画を視聴する時間が不足したため、自宅でも見たいとの意見があった。
（A）改善	学童期検査会場では、時間にゆとりがなく、動画を全部見られない参加者が少なくなかった。それで、エコチル調査への理解が進んだものが多く、動画の作りこみを工夫すれば、より短時間で理解しやすいものに改善することが可能と思われる。また、検査会場だけでなく自宅でも見られるような仕組みの構築が望ましい。 エコチル調査参加者のモチベーション維持のためには、さらにエコチル調査の意義を理解する参加者を増やすこと、地域での知名度の上昇が必要と思われる。エコチル調査非参加者にもわかりやすく理解できる動画の発信を検討している。調査地域の教育委員会に動画を視聴してもらったところ、さらに短い動画で最初に成果について言及した後にエコチル調査について説明があるとよいと助言があった。また地域の推進委員会からは成果の説明の際には難しそうな言葉はできる限り少なく簡単に説明してほしいと意見があった。

エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況
（令和６年４月～令和６年９月末時点）

調査実施機関名：　京都ユニットセンター

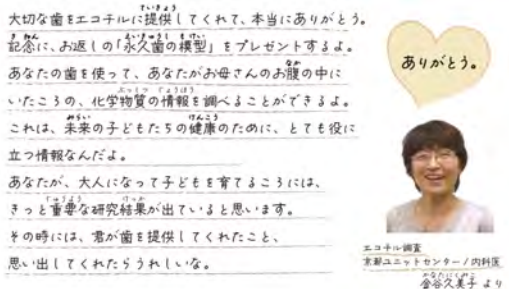
評価時点	令和６年 10 月 31 日

ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持や質問票回収率の維持・向上の取組	
（P） 計画	１、調査が 13 歳以降も続くことを念頭に、参加児本人が調査の意義を理解し、前向きな気持ちで参加を続けてもらえるようにする ２、参加者が、出来るだけストレス少なく質問票に回答できるような工夫を継続する。
（D） 実施	**<u>１：質問票送付封筒に「見込み労力」表示</u>**  参加者との会話から、質問票を開封せずに置いている場合が多いことが判明している。記載に必要な労力があらかじめ分かっていれば、時間が取れた際に封を開けて記載を始めていただきやすいのではないかと考え、質問票回答にかかる概ねの時間（労力）が分かるようなメッセージ（「たったの４ページ」等）を質問票の送付用封筒にラベル貼付している。 **<u>２：質問票返送依頼は、温かくユーモラスに</u>** 質問票回答依頼の際には、手紙に温かくユーモラスなイラストを添える等して、参加者の負担感の軽減をはかっている。 **<u>３：様々な媒体でエコチル調査の意義と成果を発信</u>** 誌面：母親を対象とした「かわら版」（右）、キッズ向けに「かわら版キッズ」を発刊し、参加者と研究者との交流やエコチル調査の意義や成果を発信する場としている。 この他、ポスター、ホームページ、イベント「成果報告会」（次項参照　参加者 14 名）「研究体験してみよう」等にて、エコチル調査の意義を参加者と共有できるよう努めた。

<table>
<tr>
<td></td>
<td>

<u>４：代わりの歯プレゼント（乳歯調査）</u>

参加者と研究者の会話から「抜けた歯を子どもが集めているので、子どもに歯を提供するように言いにくい」ケースがあることが分かっている。そこで、脱落乳歯を提供くださった方で希望する方に、代わりにコレクションケースに収めてもらえる記念の歯をお送りする取り組みを継続している。脱落乳歯の提供は、多くの参加児にとって初めての「皆んなのために自分の大切なモノを提供する」機会である。善意への感謝と共に、どのように役立つのかもしっかり伝えて、エコチル調査を通じて自分が社会の役に立てることを理解してもらえるように努めている。



<u>５：参加児に疫学研究を体験してもらうイベントを開催</u>

参加者や参加児を対象としたイベントをシリーズで開催し、エコチル調査の意義や研究成果について楽しく学べる機会を提供している。今年度は京都・長浜・木津川各地区において対面イベント「研究体験してみよう」を開催中である。エコチル調査を一例に、仮説や検証方法について紹介し、参加児に自由に仮説を作ってもらうことに挑戦している。

<u>５：エコチル参加への認識と 13 歳以降継続についての調査</u>

追加調査として、エコチル調査に参加した経験についてどのように感じているか参加者に問い、13 歳以降継続の動機になっている事柄を明らかにし、今後のフォローアップ活動に繋げる計画を進めている。

</td>
</tr>
<tr>
<td>（C）
評価</td>
<td>

●参加者の質問票返送率・モチベーションの維持

質問票返送率は昨年度からさらに改善しており、また全年齢において全国平均を上回っている（表１）。同意の取りやめも少なく維持できている（R5.3 末の参加率 京都 94.3% 全国 92.6%）。

表１．質問紙返送状況（令和６年９月 24 日集計）

%	8 歳	9 歳	10 歳	10 歳子	11 歳	11 歳子	12 歳	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年

</td>
</tr>
</table>

京都	85.5	84.3	80.6	78.4	78.8	77.6	75.6	84.8	84.5	82.3	80.2	79.7
全国	78.4	76.9	72.5	71.2	71.3	70.3	64.9	77.5	76.4	74.3	72.1	66.4

「代わりの歯プレゼント企画」には、１～２割の参加者が応募してきており、乳歯の回収率も全国平均を上回っている（R4 年度 京都 81% 全国 71%)。またメールでのやり取りを通じて「本人、歯とのお別れを悲しんでいましたので、このような企画をしていただき感謝申し上げます。」等、ニーズについて、確かな手応えを感じている。
さらに、歯のやり取りに関連したコミュニケーションにより、参加児にエコチル調査に参加している自覚が芽生え、また社会貢献について考える機会となることもある様子がうかがえた。そして保護者が、そのような児の様子から児の成長を感じ、その喜びをスタッフと共有できることもあった。信頼関係につながるものであると考えている。

（A） 改善	13 歳以降に向けて、科学や研究への興味や疫学研究への期待を持って積極的に継続いただけるよう、地道に活動を続けていきたい。

イ．成果の社会還元の取組	
（P） 計画	参加者に加えこれから実際に活用いただくことになる一般の方やインフルエンサーに、エコチル調査という大規模調査が進んでいること、研究結果が出てきていることを知っていただく。
（D） 実施	<u>１：ポスター貼付</u> 広く一般の方にエコチル調査を知っていただくため、エコチル調査の現況ポスター（成果へのアクセス付き）を新規作成し、地域エコチル運営委員のご協力のもと、各市や園・学校・医院・商業施設などに合計 800 枚を配布（貼付依頼）した。 <u>２：地域エコチル運営委員への成果報告と連携のお願い</u> 各市の保健医療関係者や教育関係者等、地域エコチル運営委員には今後、エコチル調査の成果を社会に還元していく際のキーパーソンが多く含まれている。これらの方々に、本年も引き続き成果を報告したほか、成果の社会還元においても連携をお願いしていきたい旨、協力を要請した。

	３：対面イベント「成果報告会」（保護者向け） 保護者を対象に、対面イベント「成果報告会」を、対象３地域各地区において実施した（参加者７組）。 ４：対面イベント「研究体験してみよう」（子ども向け） 参加児を対象に、対象３地域各地区において、対面イベント「研究体験してみよう」を開催中である。エコチル調査を一例に、仮説や検証方法について紹介し、参加児に自由に仮説を作ってもらうことに挑戦している。
（C） 評価	・ポスター貼付依頼、地域エコチル運営委員への協力依頼では、あらためてエコチル調査の現況と成果をお知らせし、今後の協力も依頼できる良い機会となっている。 ・対面イベント「成果報告会」では「コロナ禍で起きたことを振り返る機会になりました。」「就労女性の回答から言葉を抽出して、図にしたもの、激しく共感しました」等の感想が、「研究体験してみよう」では、「仮説をたててデータをとって、結果を得る。という流れを子どもに体験させる事ができて大満足でした。」「実際にエコチルの皆さんのお話を聞いて自分たちが日本代表として、未来の子供達の役に立っているのかと思うと感動しました」等の感想が、得られている。エコチルキッズや保護者の方に科学や研究に興味を持って頂く良い機会となっていることが伺える。
（A） 改善	現在の対面イベントは少人数を対象としているが、研究者やスタッフの経験値を上げて、より多くの方に参加いただけるものにしていきたい。

エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況
（令和６年４月～令和６年９月末時点）

調査実施機関名：大阪ユニットセンター

評価時点	令和６年 10 月 31 日

ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持や質問票回収率の維持・向上の取組	
（P）計画	大阪ユニットセンターは現参加者数（子どもの数）が 3 番目に多いユニットセンターでありながら、令和 5 年企画評価委員会資料によれば現参加者率は全国 1 位、質問票回収率の維持状況は全国 2 位、令和 5 年度回収率も全国平均を上回っている。今年度も引き続き、13 歳以降の調査継続の参加率の向上を目指し質問票回収率及び参加者のモチベーション維持に取り組んだ。 1. 13 歳以降の調査継続率向上のため、学童期検査での個別の声掛けと確認を行い、調査への参加継続を促す。 2. Web 質問票に未回答の参加者に対してハガキでリマインド、対面での相談会の開催を計画する。 3. 継続の動機づけのために参加者向けのコミュニケーションを充実させ、帰属意識や参加意識を高める取組を行う。
（D）実施	**1. 質問票の回収率向上に関する取組**：質問票回収率維持のため、年齢質問票と学年質問票の返送依頼を徹底した。 **年齢質問票** ①質問票送付後 4 週間後、メール 1 回目（未回収の人全て対象） ②質問票送付後 7 週間後、メール 2 回目（未回収の人全て対象） ③質問票送付後 12 週間後、電話 1 回目（未回収の人の中で、直近 3 回の質問票のうち少なくとも 1 回返送があった人対象） ⇒1 回目架電時に不通の人に質問票を再送（10 歳～12 歳は留守電の人にも再送） ④ 質問票送付後 21 週間後、電話 2 回目（③で不通かつ未回収の人対象） 10 歳質問票から改善した点として、③で留守電だった場合にメッセージに加え、質問票を再送することとした。送付物の開封を促すため、誕生日プレゼントを同封した。年齢質問票の回収状況も見ながら、年齢質問票と学戦質問票の返送依頼時期が重複しないように調整し、参加者が負担を感じないよう配慮した。

	学年質問票 ①質問票送付後 4 週間後、返送依頼ハガキ送付（未回収の人全て対象） ②質問票送付後 8 週間後、メール 1 回目（未回収の人全て対象） ③質問票送付後 12～15 週間後、質問票コピーを再送付（未回収の人全て対象） ④再送付後、質問票提出状況が良い参加者のみ、メール 2 回目を実施。 ⑤③と④の回収状況により個別に電話での返送依頼を実施するか判断する。 ⇒年齢質問票の回収状況も見ながら、返送依頼時期が重複しないように配慮する。 **2. 13 歳以降の調査継続に関する取組：**学童期検査を採血日と採血以外の検査日の 2 日に分けて実施しているため、それぞれで声がけの機会を作った。特に 2 回目は検査日までにポータルサイトへログインしていない方を抽出し、事前に ID・パスワードを印刷して検査会場に持参することで、会場内でスムーズに登録完了できる環境を整えた。また、不同意であっても、エコチル調査からの案内を受けていただくこと、13 歳までの調査は完遂していただくよう働きかけた。質問票調査を活用した取組として、12 歳質問票送付時に 13 歳以降調査の案内を同封すること、12 歳質問票の返送依頼のハガキに 13 歳以降調査の勧奨及び ID、パスワードが不明な方に問い合わせの連絡を促す旨を記載する等の周知・参加勧奨を行った。 **3. 参加者のモチベーションアップにつなげる取組：**参加児の参加意識や帰属意識を高め、調査を身近に感じて楽しんで調査に協力いただくことを期待して、参加者とのコミュニケーションツールとして大阪ユニットセンターWeb サイトを活用し、子ども向けコーナー「たこチルとあそぼう」を継続した。「たこチルからの挑戦状」は、エコチル調査についてクイズ形式で楽しみながら知ってもらうことを目的としている。「たこチルミュージアム」では、ニューズレターで募集したお子さんたちからのイラストやメッセージの掲載、「ピカッとたこチルひらめいた」では、まちがいさがしやパズルなど毎月更新した。
（C）評価	**1. 質問票の回収率に関する評価：**高い回収率を維持し、昨年度

	に比べ、各年齢とも回収率は維持できている。 **2. 13 歳以降の調査継続に関する評価：**2 日に分けて実施する学童期検査で対面で同意確認を勧奨し同意率の向上に努めることができている。その結果、ログイン率は 9 月 21 日時点で 50.0%、同意率は 40.2%だったが、10 月末時点でそれぞれ 55.1%、43.3%に向上した。不同意であったとしても 2 日目の声掛けによって 13 歳までの調査の協力取りやめにつながる事例はなかった。対面で丁寧に説明することで、参加者の疑問点に細やかに対応し、同意率の向上とモチベーション維持にもつながったと考える。 **3. ホームページのアクセス数：**「たこチルからの挑戦状：395 件」、「たこチルミュージアム：108 件」、「ピカッとたこチルひらめいた：742 件」であった。子ども向けページを新設したことで、子どものアクセスが増えることが期待され、調査への興味や調査継続へのモチベーションにつながるきっかけになっている。
（A）改善	**1. 質問票の回収率への取組に関する改善：**紙ベースの質問票は、来年度も同様に細やかな対応を継続する。Web 質問票については、未回答者にハガキリマインドを行い、アプリや Web ログイン方法について丁寧に説明を行う。回答方法が変更となったことでの不安や疑問を解消するための対応を行う。 **2. 13 歳以降の調査継続勧奨に関する改善：**13 歳以降調査継続の同意については、学童期検査で対面での積極的な勧奨を継続し、2 日目の学童期検査前には、プレ質問票の回答状況を確認し、未回答者にはその状況に合わせて操作方法の説明を丁寧に行う。 **3. 参加者のモチベーションアップへの取組の改善**：ホームページは内容の充実とアクセス数を増やす仕組みづくりとして学童期検査会場での広報等を検討する。さらなる参加者とのコミュニケーションの向上を図る。また、ニーズに合わせたイベントを計画する。

イ．成果の社会還元の取組	
（P）計画	1. 研究成果の発信：中心的な研究仮説を学術論文として積極的に発表した。発表済み論文を一般市民向けに分かりやすく解説したサマリーを Web サイトで公開 2. 市民への情報提供活動：子育て支援に関する知見を Web コラムとして定期的に配信した。調査活動の進捗や成果を広報誌を通じて継続的に発信した。

（D）実施	1. 定期的な研究発表会の開催：月 1 回の頻度で新規研究課題の発表会を実施した・センター長・センター長補佐出席のもと、専門的な指導を提供した。研究手法や分析方法について参加者から建設的な意見を収集した。改善された研究課題をアブストラクトとして申請した。 2. 論文執筆の進捗管理：事務局による著者への定期的な進捗確認した。必要に応じセンター長・センター長補佐との個別面談を設定した。中心仮説に関する研究の論文化を重点的に推進した。 3. 論文の品質管理体制：第 1 著者・第 2 著者による研究手法の精査を徹底した。センター長・センター長補佐による全体的な指導と確認を行った。ユニットセンター内での段階的な査読プロセスで精査した。 4. アウトリーチ活動：大阪ユニットセンターから公表された論文の日本語概要版を合計 31 編アップした。 5. 子育てコラム（年 4 回）の更新 6. 母子医療センター年報への活動報告掲載 7. 第 127 回日本小児科学会学術集会のシンポジウムでの報告 8. エコチル調査から発表された論文について大学院講義、学部生実習で紹介
（C）評価	1. 研究成果：国際誌(インパクトファクター3.9～4.7)3 編掲載、博士論文として 3 編が正式に受理、中心仮説課題 2 編の論文化を継続、新たな研究課題 4 件を申請、論文化 2. 人材育成：博士課程学生 3 名が学位取得、中心仮説ワークショップでの 1 件の発表 3. 情報発信・社会還元：Web コンテンツ閲覧実績（2024 年 4 月～9 月）論文概要版：236 件、子育て応援コラム：45,700 件 4. 波及効果：2 件の追加調査にかかわる他大学との新たな共同研究（文部科研費研究)、2 名の他部局の研究者の参加
（A）改善	1. 研究推進・論文化の強化：中心仮説課題 2 編の論文化を継続的、組織的に支援する、新たな研究課題提案の促進 2. 人材育成の拡充：研究指導体制の更なる充実、若手研究者の育成プログラムの強化 3. 研究成果の社会発信強化：論文概要版の閲覧数増加に向けた施策、大学院講義、学内、病院内での周知活動の実施、その他効果的な広報手段の検討

エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況
（令和６年４月～令和６年９月末時点）

調査実施機関名：　兵庫ユニットセンター

評価時点	令和６年 9 月 30 日

ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持や質問票回収率の維持・向上の取組	
（P）計画	<u>質問票回収率の維持・向上させるための取組</u> ①質問票の返送率の定期的確認と未返送者に対する返送依頼 ②子どもアンケートの返送率向上 <u>参加者の調査参加へのモチベーション維持に対する取組</u> ①ホームページの充実を図り、親しみやすい情報を発信 ②ニュースレターにより調査進捗状況等を発信 ③対面式のイベントの開催 ④学童期検査、詳細調査の参加率の維持・向上 ⑤13 歳以降の調査継続への協力依頼
（D）実施	<u>質問票回収率の維持・向上させるための取組</u> ①毎月開催するユニットセンター定例会議で質問票の返送率及び返送依頼状況を検討していたが、返送率は 70%前後を維持しており、昨年度よりも上昇傾向となっている。学童期検査・詳細調査の集中的開催時期である 7～8 月においては、通常は返送依頼を担当する職員も学童期検査・詳細調査に対応していたために通常の返送依頼で行っているショートメールや電話による勧奨が難しかったが、9 月以降は再開し、更なる返送率の向上を目指している。 現在行っている返送依頼の方法は、以下の通りである。 1）質問票発送 3 週間後にハガキによる返送依頼を実施。 2)ハガキ送付 4 週間後にショートメールによる返送依頼を実施。 3）ショートメール送付 4 週間後に電話による返送依頼を実施。 4）3）で不通であった方（留守電にメッセージを残せなかった方を含む）を対象に、4 週間後に電話による返送依頼を実施。 　なお、返送依頼のハガキには文字だけでなくイラストも掲載し、参加者に親しみを持ってもらえるような工夫をしている。また、文字数を減らしてシンプルなデザインにすることで、視覚的な負担を減らす工夫もしている。

	②子どもアンケートの返送率が全国平均より低い状態が持続しているため、アンケート回答への謝礼の品として、小学校などで使用できるようなランチョンマットや巾着袋を作成し、広報誌及びホームページで周知を図り、子どもアンケートへの協力を呼びかけた。 参加者の調査参加へのモチベーション維持に対する取組 ①ホームページのコンテンツ充実として、『楽しい脳トレ&クイズコーナー、エコチルひょうGOでチャレンジGO!!』を定期更新している。また、参加者によるブログリレーの執筆者を広報誌等で募集し、より多くの参加者に積極的にブログを執筆してもらうことで、エコチル調査への主体的な参加意識が高まるように努めた。多くの参加者に閲覧を促すために、ホームページの情報やQRコードを質問票発送時に同封する送付状に掲載している。 ②定期的に発行しているニュースレターにより、エコチル調査の進捗状況、食物アレルギーに関する情報などを発信した。 ③対面式イベントとして、7月6日（土）に「科学実験教室」を午前と午後の２回開催した。 ④学童期検査及び詳細調査の会場選定は対象者の居住地を地図状にプロットして、徒歩または自転車で来場できるように市内7ヶ所の公共施設を会場とした。小学生が参加しやすいように、夏休み期間を中心に平日および週末合わせて25日間実施した。 ⑤13歳以降の調査継続にあたり、学童期検査に来場された全員を対象に、調査継続の依頼を行った。
（C）評価	質問票回収率の維持・向上させるための取組 ①電話での返送依頼を中止してからは、質問票回収率が全国平均を下回る時期もあったが、電話での返送依頼を再開後には徐々に質問票回収率が上昇した。 ②子どもアンケートの返送率は、送付後 6 ヶ月までは全国平均をやや上回っているが、6ヶ月経過後はやや下回っている。 参加者の調査参加へのモチベーション維持に対する取組 ①ホームページのコンテンツ充実を図るために、『楽しい脳トレ&クイズコーナー、エコチルひょうGOでチャレンジGO!!』は隔週で追加し、本年9月末現在84のコンテンツを掲載している(4～9月の間に19コンテンツ追加)。また、参加者によるブログリレーの執筆者は 4～9 月に 5、合わせて 42 編の投稿があった。2024 年 4～9 月におけるホームページの月平均ページビュー数

	は 4,224（昨年同期 4,700、−89%）、月平均訪問者数は 1,454 人（昨年同期 1,224 人、+118%）であり昨年と同等の推移であった。 ②ニュースレター（2024 年 5 月発行、参加者全員に送付）の記憶に残る記事としては、「イベント情報」（58%）、「気になるおはなし」（50%）が多かった（複数回答）。 ③7 月 6 日（土）に開催した「科学実験教室」では、108 名の参加が得られた。アンケート調査の結果では、「とてもよかった」「まあよかった」を合わせて 94%と好評であった。 ④学童期検査の対象者は 1,726 名であり、9 月末現在の参加者は 660 名（38.2%）である。本年度中にさらに調査を予定しており、参加率は 40%を超える見込みである。詳細調査の対象者は 76 名であり、参加者は 54 名（71.1%）であった。10 月以降の調査への参加予定者を合わせると、80%程度の参加率を見込んでいる。 ⑤13 歳以降の調査継続については、ポータルサイトへのログイン率および調査継続への同意率は全国平均を下回っている。学童期検査に来場した参加者全員に対面で依頼したが、ハガキ等でも調査継続の再依頼を行うために準備中である。
（A）改善	<u>質問票回収率の維持・向上させるための取組</u> 質問票の返送率を向上させるために昨年度より再開した電話による返送依頼が効果的であったため、今後は返送依頼の時期も含めて効果的な返送依頼方法を検討する。特に、子どもアンケートの返送率の向上に向けた取組を検討する必要がある。 <u>参加者の調査参加へのモチベーション維持に対する取組</u> 引き続き、ホームページのコンテンツの充実を図り、ニュースレター等も活用してエコチル調査に関する情報発信を進める。対面式イベントは好評であるため、引き続き開催する。イベントへのアンケートからは、研究成果の発信を期待する声が多数寄せられているため、成果発表にも力を入れていきたい。 学童期検査、詳細調査は本年度までの実施状況を踏まえて、次年度から開始される検査が円滑に進むように準備を進める。 13 歳以降の調査継続への勧奨については、引き続き学童期検査において対面で依頼するとともに、学童期検査に来場していない参加者に対してもハガキなどで勧奨していきたい。

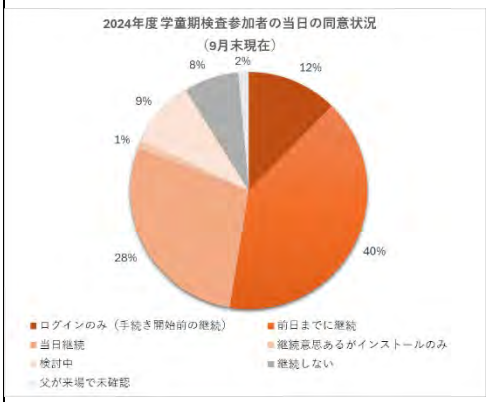
イ．成果の社会還元の取組	
（P）計画	・市民公開講座を行う。 ・エコチル調査で得られた成果を、関連学会、大学ホームページ、広報誌、大学の講義等で紹介する。 ・兵庫県が主催している若者世代による環境活動の活性化を通して将来社会の担い手を育成することを目的とした「ひょうごユース eco フォーラム（兵庫県主催）」に参加する。
（D）実施	・2024 年 3 月 20 日に開催した市民公開講座では、エコチル調査の対象者が安全に暮らせるための防災意識を高めることを考慮して、大阪教育大学教授の藤田大輔氏に「子どもたちの健康と安全を願って」と題してご講演いただくとともに、センター長よりエコチル調査の概要を説明した。また、エコチル調査の成果として、「アレルギー児の食物除去と子どもの成長」および「妊娠中のスプレー製剤使用と子どもの腎泌尿器異常」の報告も行った。 ・医学部、看護学部の講義等において、エコチル調査の概要とこれまでに得られた研究成果について解説した。 ・2023 年 12 月に開催された「第 5 回ひょうごユース eco フォーラム（兵庫県主催）」に参加し、これまでに得られた成果等についてポスター展示を行った。2024 年 12 月に開催される「第 6 回ひょうごユース eco フォーラム」にも参加する予定である。
（C）評価	・市民公開講座への参加者は 30 名と少数であったが、参加者からは「調査に参加できていることを嬉しく思った」「日常生活の中でできることがたくさんあることに気づけた」など日常生活への応用やエコチル調査への参加意欲向上が期待できる感想が寄せられた。 ・広報誌「エコチルひょうごたより」は約 5,500 部発行し、大学の講義等を通じても、エコチル調査で得られた成果を多くの研究者、一般市民、学生に発信して社会還元を行うことができた。 ・大学等での講義やひょうごユース eco フォーラムでは、高校生や大学生など次世代を担う若者にエコチル調査について説明することができた。
（A）改善	今後も参加者や地域住民にエコチル調査の成果をわかりやすく伝えるため、市民公開講座等を定期的に行い、その動画をオンラインで配信するなど、多くの人が視聴しやすい方法を検討する。論文の内容をわかりやすくまとめて広報誌やホームページに掲載することで、エコチル調査の成果を発信することを検討する。

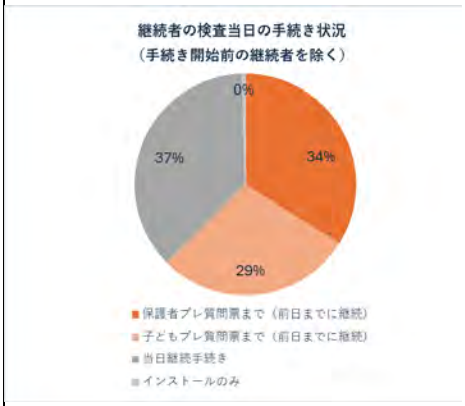
エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況
（令和６年４月～令和６年９月末時点）

調査実施機関名：　鳥取ユニットセンター

評価時点	令和６年 10 月 15 日

ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持や質問票回収率の維持・向上の取組	
（P）計画 （D）実施	**2012 年生まれの 13 歳以降調査継続率、子どもログイン率、プレ質問票回答率向上に向けた取組** **学童期検査（小学 6 年）での取組** ① 予約者に継続の意向を事前に考えてきてもらうため、検査 1 週間前のキット等の発送時に独自で作成した「13 歳以降の調査協力に関する確認書」（図 1）を同封し、記入して来場してもらった。 ② 予約者の継続状況を事前に確認し、その場で手続きが行えるよう保護者と子どものアカウント情報を紙で用意し必要な方に手渡した。また、会場のインターネット環境（Wi-Fi）を整備した。 ③ 参加者に合わせた説明や手続き状況の確認、操作補助を行うため専属の 13 歳以降調査担当スタッフを配置した。 ④ 全親子に「エコチル調査ってなんだろう？～13 歳以降の調査に向けた環境省からのメッセージ～」を視聴してもらい、理解を促進した。 ⑤ 独自に作成したチラシ「質問票の変更点」（図 2）「継続時の流れ」（図 3）「WEB 質問票配信スケジュール」（図 4）「ポイント交換リスト」（図 5）「同じデバイスを使用する場合　ID・パスワードの変更手順」（図 6）を使用しながら説明した。必要時、アプリ画面（デモ）を見せながら視覚的に説明した。 ⑥ 継続する方には「保護者の継続手続き」「プレ質問票の回答」「子どものログイン」「プレ質問票の回答」をアプリ上で確認した。未回答項目があればその場で手続きを促し、必要時操作補助も行った。会場で手続きしない方やできない方には未回答項目を「継続時の流れ」（図 3）に記入したものを持ち帰ってもらい、手続き忘れしないよう説明した。 ⑦ 検査**前日**までに継続手続きした方にプレゼントするキャンペーンを行った（保護者のアカウント情報発送時に案内チラシを同封し、検査前キット等発送時に確認書（図 1）で事前周知した）

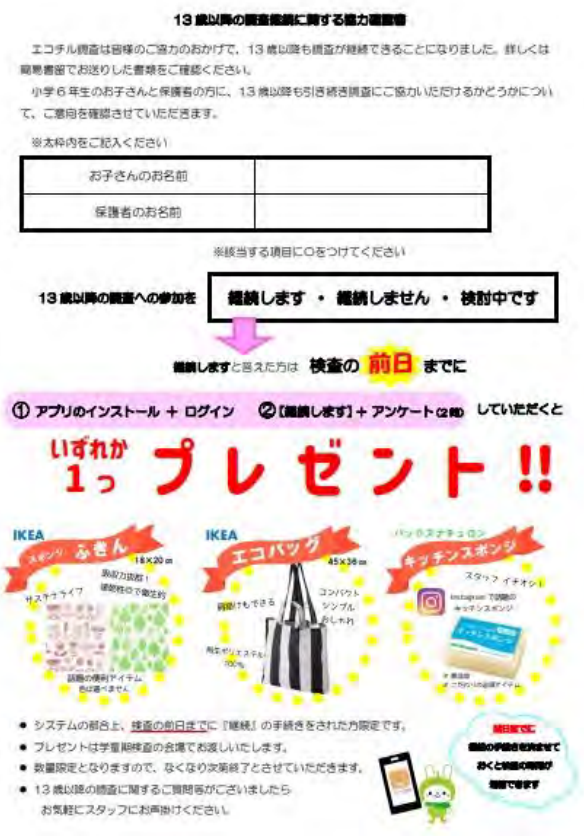
	その他の取組 ① アカウント情報発送前にA4大判ハガキで「13歳以降の調査継続について」を郵送し、先行通知した（図7） ② 小学6年質問票に案内チラシを同封した。 ③ ニューズレター（がいなだより）に掲載した。 ④ 鳥取ユニットセンターのホームページに専用のページを追加した。 ⑤ 問い合わせが24時間可能なQRコードを作成し広報等に取り入れた。 ⑥ 9月末（郵便料金の値上がり前）に継続意思が不明の方と保護者、子どものプレ質問票未回答の方に向けてハガキで勧奨した。 **2011年生まれの子どものログイン率、WEB質問票回答率向上のための取組** 今年度中学1年の子どもログイン率、WEB質問票の回答率が全国平均より低いため、7月にログインがまだの方122人にアカウント情報を再送した。
（C）評価	**2012年生まれの13歳以降調査継続率、子どもログイン率、プレ質問票回答率向上に向けた取組** 昨年度、学童期検査で勧奨すると約8割が継続しており、有効的な勧奨の機会とわかったため、今年度は学童期検査の項目に「調査継続確認」を追加したところ、9月末時点で学童期検査参加者348人中281人（80.0%）が継続すると回答した。独自に作成した確認書（図1）を事前に送付したことで、継続するか否かを考えて来場されるため、スムーズに丁寧な説明が行えた。また、手続き状況を参加者と一緒にアプリ上で確認でき、未回答項目をその場で行ってもらった。 参加者からは「聞きたいことが聞けて良かった」「丁寧に説明してもらいわかりやすかった」など肯定的な感想が聞けた。ID、PWがわからずログインできない、子どものログイン、プレ質問票の存在を知らない等、継続手続きに関する理解不足が多く見受けられたため、個々に説明し理解してもらったことは大きい。  検査前日までに継続手続きキャンペーンの目的は、前日までに継続手続きを行うと検査当日会場で「保護者プレ質問票」「子どものログイン」「子どものプレ質問票」の手続きが行うことができ、回答率の向上につながるためである。9月末時点で検査前日までに継続手続きした人は140人（63.0%）、当日会場で継続した人は83人（37.0%）であった（手続き開

	始前の継続 58 人除く）さらに前日までに継続手続きした 140 人のうち、会場で保護者プレ質問票まで行った人は 76 人（34.0%）、子どもログインとプレ質問票まで行った人は 64 人（29.0%）で、効率的に手続きを促すことができた。「キャンペーンを見て前日にログインしました」との声も聞くことができた。しかし、子どものログインについては別デバイスでログイン希望の人が 76 人あり、会場で行うことができずログイン率向上にはつなげにくかった。  **2011 年生まれの子どものログイン率、WEB 質問票回答率向上のための取組** WEB 質問票の回答にはログインが必須だが、アカウント情報が不明でログインできずにいるのではないかと考え、アカウント情報を再送することにした。再送 2 週間後には 31 人（25.4%）、2 ヶ月半後には 49 人（40.2%）のログインがあった。ログイン率は再送前（5/27）が 54.6%（全国平均 64.6%）で全国平均より低かったが、再送後 1 か月半（8/26）は 71.3%（全国平均 68.7%）と全国平均を上回った。同時に 4 月、6 月配信の WEB 質問票の回答率もアカウント情報再送前は全国平均より低かったが、9 月 23 日時点で、いずれも全国平均を約 4.0%上回った。ログインができれば WEB 質問票も回答してもらえる傾向にあることがわかり、アカウント情報の再送は効果的な勧奨であったと考える。
（A）改善	参加者と直接コミュニケーションを図ることは参加者に寄り添った対応ができ、今後の調査継続のモチベーション維持につながると考える。今年度の取組は一定の効果があったことから、業務量の増加や多様化する中ではあるが、今後も継続して実施していく。

イ．成果の社会還元の取組	
（P）計画	・サイエンスコミュニケーション活動 論文作成したあと、大学を通じてプレスリリースを行い、広く市民に研究結果を知ってもらう。 鳥取ユニットセンターの広報紙に研究結果の紹介を行い、参加者にエコチル調査で得られた結果について知っていただく。 ・学会発表/論文発表 論文作成の内容の学会発表を行い、広く研究者にも研究結果を知って

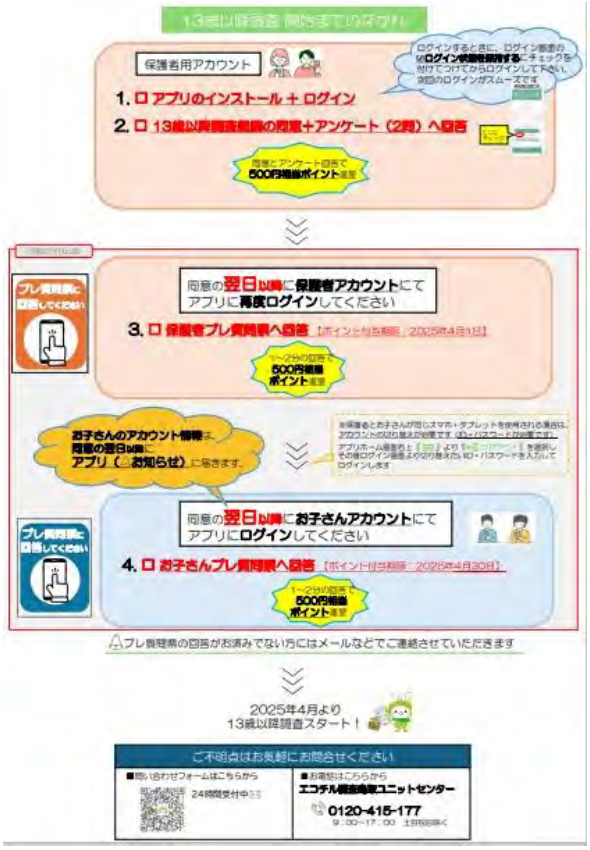
	もらう。また、論文作成数を増やしていく。 ・エコチル調査を通じた疫学研究者の育成 エコチル調査の目的の一つに疫学研究者の育成がある。そのため、大学院生の学位取得を目指す。
（D）実施	・サイエンスコミュニケーション活動 鳥取ユニットセンターの広報紙で研究結果の紹介および論文作成方法の紹介を行った。 ・学会発表/論文発表 日本疫学会、日本衛生学会、で発表を行った。 今年度は現段階で論文採択数 2 本、査読中論文 2 本作成できた。 ・エコチル調査を通じた疫学研究者の育成 今年度は一人の大学院生を新たに受け入れ、支援を行っている。
（C）評価	・サイエンスコミュニケーション活動 参加者から感想をもらうことができ、エコチル調査の重要性を知ってもらうことができた。 ・学会発表/論文発表 学会発表を通じ、他の研究者から様々な意見を頂いた。 ・エコチル調査を通じた疫学研究者の育成 今年度は一人の大学院生の学位論文を作成支援している。
（A）改善	・サイエンスコミュニケーション活動 今後も継続してサイエンスコミュニケーション活動を行っていく。具体的には、鳥取ユニットセンターの広報紙に研究結果の紹介だけでなく、例えば論文ができるまでの紹介やエコチル調査の進行方向など、子どもたちが研究に興味を持っていただけるような内容を盛り込んでいく。 ・学会発表/論文発表 来年度も学会発表を行い、広く研究者にエコチル調査の内容を知っていただく。 鳥取ユニットセンターの論文発表数の向上を目指す。特に中心仮説論文の増加を目標とする。 ・エコチル調査を通じた疫学研究者の育成 来年度も大学院生の育成を行う。更に、疫学研究者を増やすために学内でエコチル調査の広報活動を行い、研究者の育成に貢献する。

（図 1）13 歳以降の調査協力に関する確認書



（図 2）質問票の変更点

（図 3）13 歳以降調査継続時の流れ

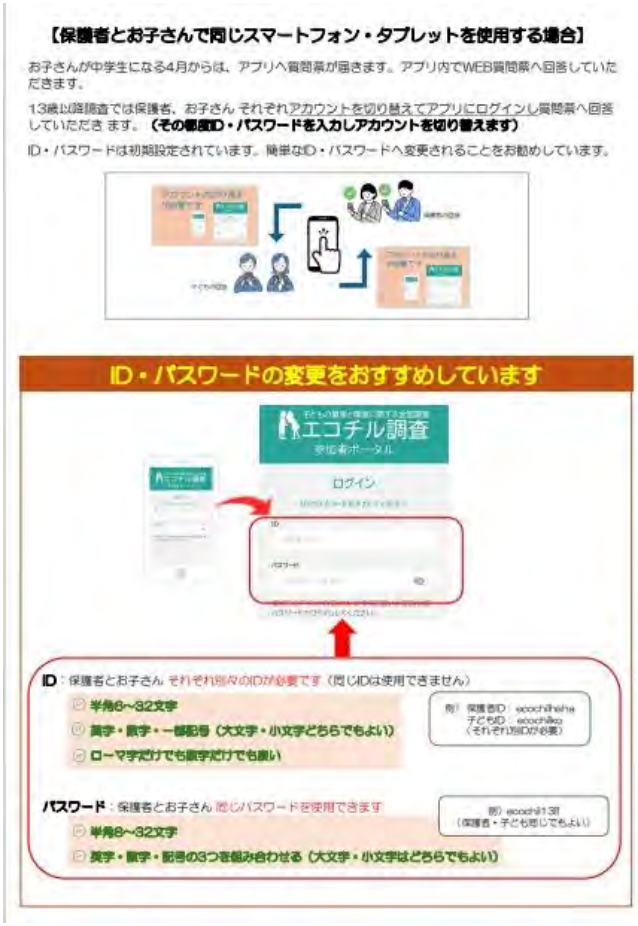


（図 4）WEB 質問票配信スケジュール

（図 5）ポイント交換リスト

（図 6）同じデバイスを使用する場合　ID・パスワードの変更手順

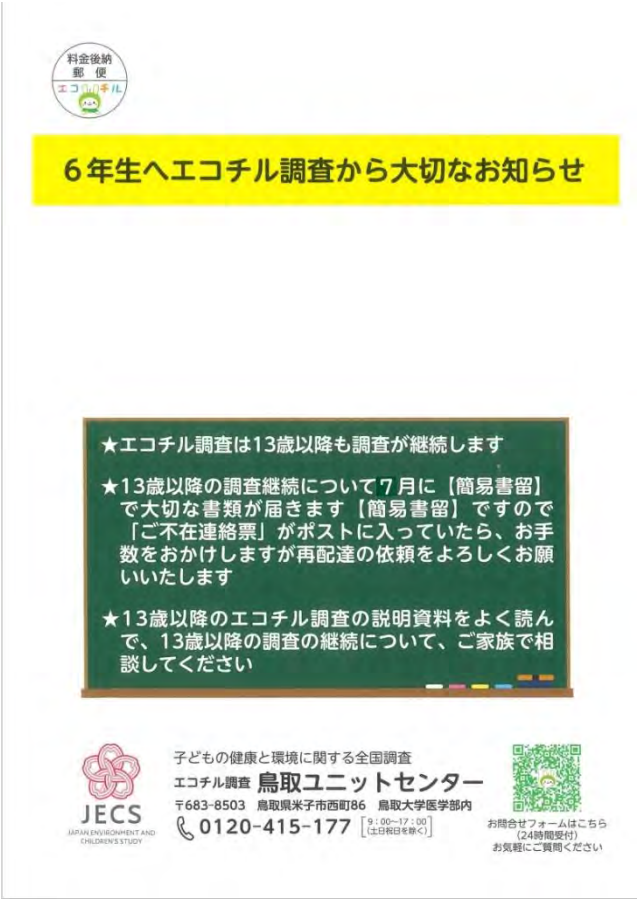
表



裏

（図 7）13 歳以降の調査継続について（A4 大判ハガキ）

表



裏

エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況
（令和６年４月～令和６年９月末時点）

調査実施機関名：　高知ユニットセンター

評価時点	令和６年１０月２８日

ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持や質問票回収率の維持・向上の取組	
（P）計画 （D）実施	質問票回収率の維持・向上の取組を継続しつつ、特に、13 歳以降調査継続を主軸に参加者のモチベーション維持に注力した。 **●13 歳以降調査継続に向けた取組** **・学童期検査（＝対面の機会）の最大活用** ①学童期検査案内に「13 歳以降調査の案内及び会場でお手伝いできます」チラシを同封。②会場に「13 歳お手伝いブース」を設置し、背景と今後について説明し、同意の場合は、継続手続きを一緒に行い、今後もアプリをスムーズに使えるようサポート。③当日ログインのための書類を忘れてきても円滑に作業ができるよう、学童期検査 ID、保護者のログイン ID、パスワードのみを記載した用紙を準備し、希望者には持ち帰りも可能にした（個人情報保護のため名前は併記せず）。きょうだいで参加している場合で、年長の参加児の継続について意思不明であれば、そのログイン ID とパスワードを、2012～2013 年度生まれのきょうだい児については 6 年生になる時期を把握し、直近の質問票回収状況も併せ、開催日毎に一覧を作成し、個々の状況に合わせた声がけを実施。④検査参加への感謝を込めて鉛筆型ペンシルとブッククリップをプレゼント。⑤検査結果返却時には、親子共の継続へのモチベーション向上のため、過去の質問票データも合わせ、参加児の 12 年間の身長と体重の成長曲線グラフとして還元。 **・小学 6 年質問票にプレゼント同梱** 親子共に感謝を伝え、小学 6 年質問票の回収率維持・向上および 13 歳以降継続のモチベーション向上を目的とし、質問票に①鉛筆型ペンシルとノート（小中学生に人気のあるものを吟味）、②感謝状、③参加者ポータルログイン時の ID パスワード記録用紙（感謝状の裏面）、④感謝状・ポータル ID パスワード記録用紙保管用のクリアファイルを同梱。

	・小学 6 年生向けのイベントの開催 前年の取材企画の好評価を受け、今年度は少し規模を拡大し、13 歳以降調査継続のモチベーション向上を目的とし、小学 6 年生の参加児 17 名とその保護者を招待し、子どもが興味を持って楽しく学べるような内容（警察官に会いに行こう！：鑑識作業・護身術・ロープワーク）の体験型イベントを開催。開始前の待ち時間に「第 13 回エコチル調査シンポジウム」のサイエンスショーの動画を流し、エコチル調査について楽しく学べる導入をした。イベントの最初では、環境省のパンフレット、コアセンターのアセント説明書をもとに小学生にもわかりやすいスライドを用い、エコチル調査が世界でも貴重な全国規模のコホート調査であることを説明した。この内容は冬号会報誌でも掲載する。 **・多様な媒体による広報** 学童期検査は、対面で検査ができる貴重な機会であるとともに、13 歳以降調査に関する理解と協力を得る観点からも大変重要であることから、学童期検査と 13 歳以降調査継続についてリマインドを発信する際には必ず他方についても記載することで「周知の相乗効果」を図っている。予算の有効活用のため、学童期検査・13 歳以降調査については会報誌に毎回記載し全参加者に周知している。会報誌は、小学生は学年質問票に同梱、中学 1 年生は会報誌発送の機会を活かし、13 歳以降継続に関するリマインドレターを同封した。このほかホームページ、SNS 等でも調査継続および Web 質問票に関する情報を発信。 **●参加者アンケートの実施** Web アンケートおよびイベント・対面調査の機会を活用し、定期的に参加者の声を聞く機会を設け、次年度の調査活動に反映できるよう PDCA に活用。集計結果を会報誌やホームページに掲載し、参加者の意見を基にユニットセンターの活動を改善していることを報告し、双方向コミュニケーションを図っている。 **●エコチル調査の周知・成果還元** 参加者の方々が、エコチル調査について目にする機会が増えたり、認知度の高い調査に参加していると実感できたりすることがモチベーション向上に繋がると考え、一般市民、特に参加者と同じ年代層や調査対象地区を念頭に広報活動を実施。子育てのコツに関するコラムとその記事に関連する高知のエコチル調査の集計データを掲載した地方紙（高知新聞）連載「ずっと、ぎゅ

	っと！」第3弾全20回（高知の子育て応援Webサイトでは全5回）を外部予算を取得し、冊子に纏め、参加者を含む一般市民（県内小学校、行政等）に配布予定。後述の「成果の社会還元」にも繋げている。 **●参加者への個別対応** 13歳以降調査の意思確認時やポイント交換時の困りごとなど、電話や対面調査時、イベント時を利用して個々の状況に応じたフォローアップ業務を丁寧に行っている。
（C）評価	イベント後の参加者アンケートでは「普段できない体験がたくさんできて楽しかった」「これからも未来のために調査に協力したいです」などの声が聞け、「また参加したいですか」の問いでは94.1%が「参加したい」と回答し、満足度が高い結果となった。また、今年度のWebアンケート（回答数454、回収率約7%）では、85%が13歳以降調査継続に意欲的な回答を示した。学童期検査会場で、同意を得られた代諾者数の数は148人/187人で79%(9月末時点)であり、父親の来場、携帯トラブル等による未同意を考慮すると実質的な同意率は更に高いと推定できる。
（A）改善	引き続きWebアンケート実施、対面調査やイベント会場等でのコミュニケーションを通じ、参加者のニーズを聞き取るほか、質問票回収の促進、13歳以降調査継続に関する周知を実施する。13歳以降調査リマインドハガキについては、12～1月(2回目)、3月(3回目)に発送を予定。学童期検査会場以外でのよろず相談の場を設けるなど対面にて声掛けができる機会を増やすほか、即ログインできるような案内方法の仕組を検討する。

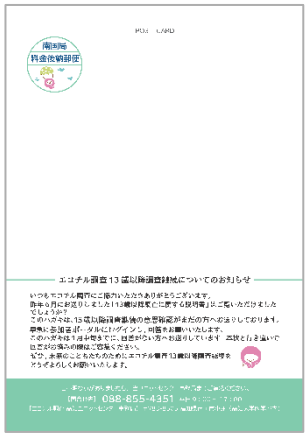
イ．成果の社会還元の取組	
（P）計画 （D）実施	**●地域メディアの活用** 高知新聞（全20回）連載の子育てコラム「ずっと、ぎゅっと！」第3弾とエコチル調査の研究成果を冊子に纏め、参加者および一般市民に向けて今年度末の配布に向け準備中である。同社の子育てWebサイト(登録者数:8857名)では、連載のバックナンバー、イベント告知も掲載している。印刷物発行の際はHPやSNSのQRコードを載せ、アクセスを促している。 **●大学広報との連携** 論文掲載時やイベント開催時に、大学広報室よりプレスリリー

	スを行うほか、常時コミュニケーションを取り、大学よりエコチル調査に関する情報を発信している。学内イベント（若手研究者向けシンポジウム・ホームカミングデー）の際にもブース出展を行うほか、成果紹介ポスター展示、環境省パンフレット（概要・成果紹介）や独自成果紹介チラシ等を配布。 **●イベント** 県内中・高生による大学訪問の際、エコチル調査の概要や研究成果等について説明し、環境省パンフレット、ユニットセンター独自の報告書など広報資材を配布。長年ブース出展をしている「青少年のための科学の祭典高知大会」に今年度も出展予定。バルーンロケット作りを通じ科学に親しむ機会を提供する中で、成果紹介ポスター展示、広報資材配布により成果還元に努める。 **●会報誌の充実** 高知および他ユニットセンター研究者の論文の成果をわかりやすく書いた記事を会報誌に掲載。
（C）評価	今年度の Web アンケートにおいて、調査に期待することは「調査結果をもっと知らせる」(56%) が最も多く、「思春期の子育ての困りごと相談」(56%)、「グッズなど景品のプレゼント」(38%)、「イベント開催」(24%)、「参加していない方への周知」(13%)、「SNS の充実」(12%)、「ホームページの充実」(6%)であったことから、成果を還元しつつ子育てのコツを伝える「ずっと、ぎゅっと！」連載第 3 弾は参加者の期待に沿うものと思われる。2024 年度上期 SNS(X, Facebook, Instagram)投稿は計 52 回（前年度上期と同等)、フォロワー数は計 423 人（同+47 人）であった。子育てコラム連載については、小冊子作成のための助成金獲得、学内で継続的な広報活動が評価され広報顕彰制度「優秀広報貢献賞」の受賞など外部からも評価されている。
（A）改善	参加者や一般市民が求める調査結果には、学術的なものだけでなく、子育てや生活に役に立つ身近な情報も含まれることから今後も質問票から得られる集計結果を活用し、親しみやすい形で成果還元を実施する。学術論文の紹介も、分かりやすい形で発信する。引き続き、高知ユニットセンターに限らず全国の研究者による成果の発信、また、大学広報・地域メディアとの連携を行う。子育てコラムは、2026 年第 4 弾連載に向け計画中。

高知 UC 別添資料

●13 歳リマインドハガキ

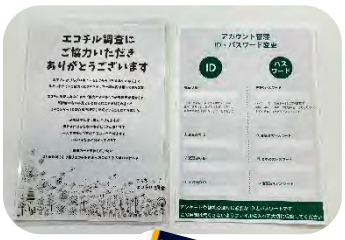
2024 年 1 月発送



2024 年 11 月発送予定

2024 年 10 月発送　※期日以降

●小学 6 年生対象プレゼント



学童期検査お土産

学年質問票同梱物

●参加者 WEB アンケート（2024 年 2 月 HP 掲載）

詳細はこちら👇

●ずっと、ぎゅっと！第 3 部（ココハレ掲載）

記事はこちら👇

●高知ユニットセンター　公式配信媒体

ホームページ　Instagram　X(旧 Twitter)　Facebook　YouTube

エコチル調査に係る業務全般に関するPDCAサイクルにおける取組状況
（令和６年４月～令和６年９月末時点）

調査実施機関名：　産業医科大学サブユニットセンター

評価時点	令和６年１０月３１日

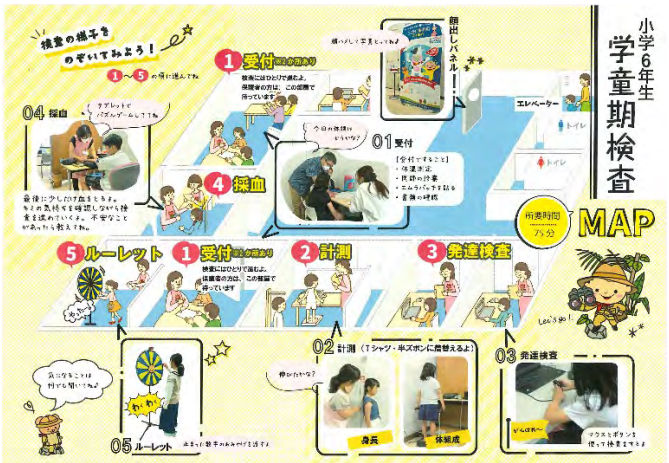
ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持や質問票回収率の維持・向上の取組	
（P）計画 （D）実施	13歳以降調査の開始に伴い、学年に応じた広報フォローアップ活動が必要と考え、本年度「中長期広報戦略スケジュール」を策定した。小学生・中学生に分けた活動を計画し、小学生は13歳以降調査継続を一つの目標としているが、中学生は今後16歳での子ども本人同意を中間ゴールと考え、それに向けた意欲醸成に向け「エコチル調査を一緒に作る」という意識向上を目指し、以下の取組を実施した。 **(1)中学生対象「エコチルティーンズプロジェクト2024」始動** 中学生（参加者ポータルログイン後の小学6年生含む）向けの一連の活動をプロジェクトとして始動し、WEBによる調査開始という新たなフェーズに対応した取組を開始した。 【第一弾】アプリコンテンツ「独占インタビュー動画」配信 参加者ポータルのお知らせ配信を活用し、9月よりアプリコンテンツ動画の配信を開始した。内容は、産業医科大学サブユニットセンターの複数のドクターへの独占インタビューとし、医師の仕事の紹介から中学生に向けた勉強アドバイス、参加者へのメッセージなど、職業紹介の観点も含めつつ興味や親しみを持って貰える内容とした。小学6年生から中学生が対象である事を考慮し、1分以内のショート動画に編集し、WEB質問票回答期限やポイント失効期限がある月に合わせて月3～4回程度の配信とする事、年度内に配信される動画に出てくる文字を組み合わせる事でメッセージを完成させ年度末に参加者ポータルから応募してもらう事、といった工夫を行った。こうした工夫により、特に子どもの定期的なログイン率向上とそれに伴うWEB質問票回答率向上を目指すと共に、アプリコンテンツ配信の告知により、未ログイン者へのリマインドにも活用した。

【第二弾】エコチル LINE スタンプ作ってみらん？！

中学生の子ども達が興味を持つ内容を検討し「オリジナル LINE スタンプ」制作を開始した。参加者ポータルよりアンケートを配信、及びハガキでも同時に告知をし、子ども達の意見を反映させたスタンプを制作している。スタンプは子ども達が興味を持ちやすいよう「北九州弁」を用いたワードとサブユニットセンターキャラクターのイラストで制作予定、ワードは子ども達の回答で決定する。完成は令和 6 年度末を予定し、クリエイターズスタンプとして無料で配布する予定である。自分達の意見が反映され形になることで、一緒に調査を作っている意識の醸成、さらにそれを使って貰うことで、調査への親近感と一般の方への認知度向上にも役立つと考えている。

(2)子どもの意見を取入れた学童期検査の案内資料刷新

学童期検査で特性を持った参加児の保護者の方より、検査後のアンケートにて「事前にもっと検査の様子が具体的に分かっていたら、子どもの不安がより少なくなったのではと思う」と意見を頂いた。そこで、リサーチコーディネーターが保護者の方及び子ども自身にも電話にて詳しく意見や希望を伺った。特性を持った子も含め全ての子ども達がより安心して学童期検査に参加頂けるよう、実際の子どもの意見を反映させた案内資料及びプレパレーション資料の刷新を行った。部屋のレイアウトや検査の流れなどを視覚的に提示し、どの部屋でどんな内容を実施するのか、どこで保護者と別れるのか等、写真を交えてイメージが出来る内容に工夫した。さらに資料に用いた図は、リマインドで送付した大判 A4 ハガキにも掲載し、学童期検査の参加率向上にも役立てた。



（C）評価	「エコチルティーンズプロジェクト 2024」については、アプリコンテンツ配信開始前後の 8 月末と 9 月末のログイン率を比べると、小学 6 年生では、保護者が 30.0%から 34.0%、子どもが保護者同意者を分母とし 71.2%から 72.8%の向上が見られた。中学 1 年生の WEB 質問票回答率では、動画配信前後の 9 月 2 日と 9 月 23 日を比べた場合、4 月配信分では保護者が 0.7%の伸びに対し、子どもは 1.6%、6 月配信分では保護者が 0.6%の伸びに対し、子どもは 1.9%と、いずれも子どもにおいてより顕著な回答率向上が見られた。いずれも学童期検査での声かけやリマインドはがきなど他の取組も含めた複合的な結果と考えられるが、特に WEB 質問票回答率において、子どもの方が向上がみられた点は、種々の取組を評価できると考えられる。LINE スタンプについては、10 月現在 24 件の回答があり、「楽しみにしてます」等子ども達のメッセージも届いている状況である。 また他の効果として、サブユニットセンター長が学会参加時、面識の無かった参加者（保護者）より声を掛けられた事例があった。当該参加者はアプリコンテンツの動画を視聴し、センター長に親しみを持ったため声をかけて頂いたとの事であった。実際の経験として、参加者の親近感向上に役立った効果が伺える。 学童期検査の案内資料刷新については、資料配布前後を比べると、8 月時点での学童期検査予約率が約 30%だったのに対し、現在は約 37%程度まで予約率の向上がみられている。こちらも電話やショートメール等による各種リマインドと合わせての効果と考えられるが、一方、この取組を通して参加者の保護者や子どもの意見をこれまで以上に詳しく聞き取り、子ども達への案内資料やプレパレーション資料を見直すきっかけとなった点、全ての参加者が学童期検査により参加しやすくなるよう、実際に参加児の声を反映させて改善が出来た点は、スタッフの意識を高める上で大変貴重な経験になったと考えている。
（A）改善	今後も子ども達のログイン率及び WEB 質問票回答率向上に向け「エコチルティーンズプロジェクト 2024」をさらに発展させていく予定である。動画配信は引き続き配信前後の状況を注視する。LINE スタンプは回答募集中の状況であるため、本年度のアンケート回答数やスタンプ完成後の使用状況などの検証が必要である。また今後は中学生への定期的な WEB アンケートも計画しており、さらに子ども達の意見を反映させた調査の実施を

	進めていきたいと考える。 　学童期検査の刷新した案内資料およびプレパレーション資料については、今後の検査当日のアンケートにおいて、意見を収集する予定である。また今回意見をくださった参加者にも刷新した資料の報告を行い、さらに今後のより良い改善につなげていくことが望ましいと考えている。

イ．成果の社会還元の取組	
（P）計画 （D）実施	<u>地域イベントでの子どもメンバーズによる広報活動実施</u> 参加児に調査の一員としての意識を持って頂くと共に、地域の方への情報発信のため、北九州市内で開催された「ひびきの祭」に参加し、子ども広報大使として、参加者モニター「ふくちゃんメンバーズ」登録の参加児 2 名にエコチル調査の広報活動に参加いただき、その様子をニュースレター等でも紹介した。サブユニットセンターチラシや環境省が作成した成果紹介パンフレット等を配布した他、「ケミカルパズル」「すごろく」を設置し、参加者含めた地域一般の方へのエコチル調査の周知を行った。参加児 2 名には、チラシや広報用のティッシュを配布しエコチル調査の声掛けを行う活動、及び一般の方への認知度調査アンケート活動を行って頂き、子ども達の活動を見ることで、一般の子ども達にもエコチル調査に興味を持って貰うことを目指した。
（C）評価	ひびきの祭では、広報資材は約 160 名程度に配布でき、ティッシュの配布個数も含めると約 700 名程度の方に PR 活動が出来たと考えられる。当日はブースを訪れた子どもが自ら「エコチル調査に参加しているよ」と話してくれ、参加者以外の友人の子ども達もブースに連れて来て調査の紹介をしてくれる様子も見られた。メンバーズの子ども達自身も活動を通して自信を持てたとの感想が聞かれたと共に、ニュースレターや Instagram に掲載した活動紹介には、他の参加者からも「知っている子ども達も出ていて楽しめました」と好評の声を頂いた。
（A）改善	本年度は「ふくちゃんメンバーズ」第 3 期を募集しており、応募頂いた参加者からは「企画などにも挑戦したい」という期待の声を頂いている。本年度末にはホームページにて子どもや一般の方向けの研究成果紹介ページ設置を予定しており、今後も子ども自身が調査の意義を感じ「エコチル調査を一緒に作っていく」意識を持って頂けるよう、情報発信を継続したいと考える。

エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況
（令和６年４月～令和６年９月末時点）

調査実施機関名：九州大学サブユニットセンター

評価時点	令和６年９月３０日

ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持や質問票回収率の維持・向上の取組	
（P）計画	<u>１）参加者等へのモチベーションの維持に対する取組</u> 13 歳以降調査に向けて、学童期検査会場での声掛けを積極的に行う。対面調査に来訪されない参加者へは、要件が分かりやすいハガキで案内する。子どもへ積極的にアプローチする。 <u>２）質問票回収率を維持・向上させるための取組</u> 質問票調査では、ハガキと電話、質問票の再送による返送依頼を段階的に実施する。欠席日数や身体測定の記録等、学校記録が必要となる質問票は、回答率を上げるため、記録を準備するよう周知する。Web 質問票の返送依頼では、コアセンターより配信されるアプリ通知に加えて、未回答の親子へはハガキで勧奨する。
（D）実施	<u>１）13 歳以降調査へのモチベーションの維持</u> 【学童期検査会場】 ・アカウント発送開始前に、調査への理解と関心を図るため、検査会場にてエコチル調査の紹介動画を放映した。 ・待合室に 13 歳以降調査案内の掲示と、参加者への積極的な声掛けを行い、Web 調査に関する要望を伺った。 ・継続手続きが未完了の参加者へは、アカウント情報を準備しておき、検査受付時に調査の説明と、継続意思がある参加者には待ち時間でのログインを依頼した。 ・各検査会場に Wi-Fi を設置し、接続 QR コードを掲示した。 【ハガキによるログイン勧奨】（図１） ログイン未完了者には、勧奨ハガキを送付した。ハガキには直ちにアプリをインストールできるよう、iPhone と Android のインストールサイト QR コードを掲載した。また、子ども用アカウントを認識していない保護者がいたため、同意翌日に子どもアカウントが配信されることも記載した。

<table>
<tr><td></td><td>【子どもへのアプローチ】
調査への関心を高めるため、小学 5 年生の対象者へはグッズ送付状に 13 歳以降調査のお知らせを掲載し、小学 6 年度に案内が届くことを記載した。
<u>２）返送依頼の効率的な実施と回収率の向上</u>
【紙質問票】
・発送 1 か月後にハガキ、2 か月後に電話、4 か月後には返送確率の高い参加者に質問票を再送した。
・欠席日数や身体測定の記録など学校記録が必要な項目には、回答欄「記録が手元にない」の隣に「こちらに☑がある方には、再度電話等でお尋ねしますので、お手元にご用意ください。」と朱書きしたシールを貼付した。
【13 歳以降の Web 質問票】（図２）
・回答締め切りの 1 か月前から次の質問票のプレビュー期間までに発送した。子ども質問票の回答方法を認識していない参加者を想定し、親子でスマートフォンを共有する場合には、アカウントの切り替えが必要なことをハガキに記載した。</td></tr>
<tr><td>（C）評価</td><td><u>１）１３歳以降調査へのモチベーションを維持する</u>
【学童期検査会場にて】
・お声掛け：140 人　うちログイン：58 人
・お声掛けでログインに至った例
➢ 交換可能なギフト一覧を見て、普段使っている決済サービスやお店で利用できることを知り、継続を決めた。
➢ ID/パスワードを半角入力することでログインできた。
➢ 共有端末でのアカウント切替が分からなかった。
【ハガキによるログイン勧奨】
・2012 年度出生未ログイン者へのハガキ発送
発送：1033 件　発送後 2 週後ログイン：53 件
※発送前 2 週間の 25 件から倍増した。
・ハガキ発送後に仮 ID／仮パスワードが不明の問合せが増加した。アカウントを紛失し、ログインを諦めていた参加者がいることが明らかになった。
<u>２）返送依頼の効率的な実施と回収率の向上</u>
【紙質問票】※4 か月後再送まで実施したグループ（対象 557 名）
<table>
<tr><td>2024/4～9 実施</td><td>実施件数</td><td>返送件数</td><td>返送率</td></tr>
<tr><td>ハガキ</td><td>315 件</td><td>76 件</td><td>24.1%</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td>電話</td><td>237 件</td><td>58 件</td><td>24.5%</td></tr>
<tr><td>再送</td><td>63 件</td><td>15 件</td><td>23.8%</td></tr>
</table>
【13 歳以降 Web 質問票】
<table>
<tr><td>2024/8 実施</td><td>実施件数</td><td>回答数</td><td>返送率</td></tr>
<tr><td>ハガキ</td><td>314 件</td><td>107 件</td><td>34.1%</td></tr>
</table>
・ハガキ発送後、子どもの新規ログインや、子どもアカウントの問合せ、子ども質問票への回答方法に関する問合せが増えた。</td></tr>
<tr><td>（A）改善</td><td><u>１）１３歳以降調査へのモチベーションを維持する</u>
【学童期検査会場にて】
スマートフォン操作が苦手な参加者が見受けられ、対面でスタッフとアプリを操作することで、参加者の継続手続きの負担感を減らすことが重要と考えられた。引き続き、きめ細やかな対応を心掛けたい。親子でアカウントが異なることを理解していない例があったため、受付での説明事項に加える。
【ハガキによるログイン勧奨】
一定の効果や参加者からの問合せ等の反応はあるが限定的である。協力の可能性が高いと考えられる参加者（学童期検査に参加したが未ログインとなっている参加者）には、再度、アカウント情報を送付し、ログインを促す。
<u>２）返送依頼の効率的な実施と回収率の向上</u>
紙質問票では、返送率を維持するために、現在の取組を継続する。Web 質問票ではハガキでの勧奨を継続する。また、子ども質問票への回答方法を理解していない参加者向けに、子ども質問票の回答方法を発信する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">イ．成果の社会還元の取組</td></tr>
<tr><td>（P）計画</td><td><u>コミュニケーション活動</u>
仕事復帰等で日中の連絡が取りにくくなった保護者に応じてメールを活用し、円滑なコミュニケーションを図る。
<u>アウトリーチ活動・その他</u>
エコチル調査の概要や活動を関係機関に周知する。調査地域に出向き、今後の調査への協力を呼び掛ける。</td></tr>
<tr><td>（D）実施</td><td><u>コミュニケーション活動</u>
メールやホームページ問合せフォームを参加者に周知するため、郵便物にホームページ QR コードと URL を掲載した。
<u>アウトリーチ活動・その他</u>
福岡市東区の小学校には、就学前検診での広報依頼（グッズ配</td></tr>
</table>

	布）の協力謝礼として、「エコチル調査成果紹介パンフレット」を配布し、成果を報告した。 2024 年 10 月 19 日に開催された福岡地区小児保健研究会では「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）活動紹介」をテーマに口演した。 九州大学サブユニットセンター運営協議会の福岡市医師会が委員に加わった。
（C）評価	<u>コミュニケーション活動</u> メールでの問い合わせ（上半期）：23 件 内訳）質問票 7 件、13 歳以降調査 6 件、対面調査 10 件 電話やポータルシステムからの問い合わせもあり、コミュニケーションの選択肢が広がりつつある。 <u>アウトリーチ活動・その他</u> 地域でエコチル調査に関する情報に接する機会が増えることで、エコチル調査への関心が高まり連携を得やすくなる。
（A）改善	<u>コミュニケーション活動</u> 参加者への架電がつながりにくい傾向にあるが、参加者から事務局への入電は減少しておらず、電話連絡のニーズもある。電話連絡を継続しつつ、メール活用をアナウンスしていく。 <u>アウトリーチ活動・その他</u> 地域に向けた広報を引き続き模索していく。

図１）

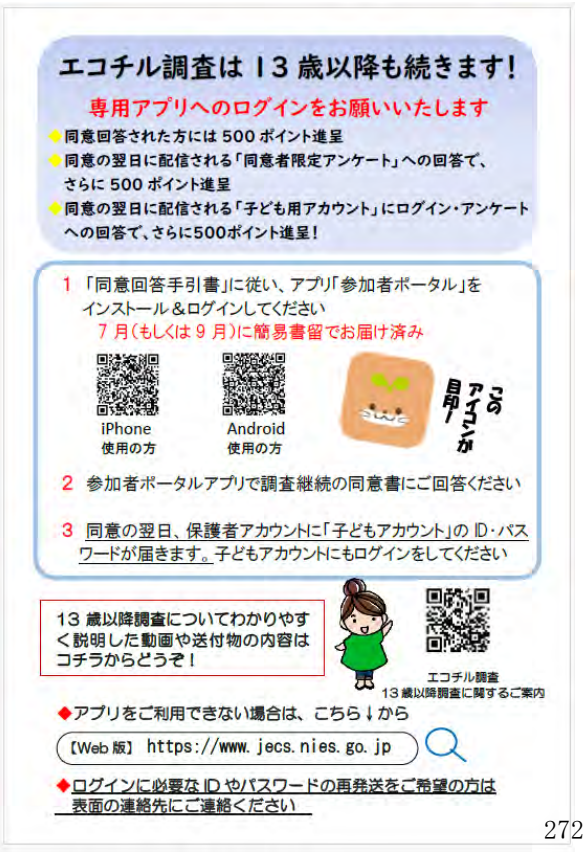


図２）

エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況
（令和 6 年 4 月～令 6 年 9 月末時点）

調査実施機関名：熊本大学サブユニットセンター

評価時点	令和 6 年　10 月　25 日

ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持や質問票回収率の維持・向上の取組	
（P）計画 （D）実施	1．参加者の調査参加へのモチベーション維持 参加者とサブユニットセンターとのコミュニケーション ① 学童期検査（小学 6 年生）の参加率の目標 50% 参加者が来場しやすいように調査地区ごとに日数を増やして対応した。 参加率向上のために対象者が参加しやすい土・日・祝・夏休みを検査日としてスケジュールを立案した。また夏休み期間は平日を数日入れ、遅い時間や個別対応をした。他には、平日の夕方に希望があれば、事務所内でいつでも対応できるように周知した。 リマインド電話は、平日の 12：00～13：00、16：00～18：30 を目途に時間帯を工夫しながら参加者が電話に出やすいタイミングを検討しながら行った。 ② 熊本大学サブユニットセンターの HP 活用（資料 1 参照） 様々な送付物に HP の問い合わせフォーム QR コードを掲載し、気軽に利用してもらえるよう周知したところ、参加者ポータルについての問い合わせなどが多く寄せられ丁寧に対応することができた。 ③ 10～12 歳子どもアンケート提出への対応の継続（資料 2 参照） アンケートを提出した参加児へ、今後も継続して協力してもらえるよう、お礼のメッセージと筆記用具、オリジナル付箋のプレゼントを直接送付した。なお、謝礼は別便で保護者へ送付した。 ④ 13 歳以降調査の同意率の目標 50% アカウント情報の簡易書留を確実に受け取ってもらえるように、郵便追跡サービスを利用して受取状況を逐次確認しながらリマインドのための電話掛けおよびショートメール送信を行った。住所不明で返戻された対象者については電話を掛け新住所の追跡を行った。郵便局での保管期間超過により返戻された対象者については大判はがきで簡易書留が届くことについてのお知らせを送付し、再度簡易書留にて郵送を試みるなど考えられる対応を行った。 学童期検査時は、事前に参加者の同意状況を確認した上で、待ち時間に個別にログイン方法等の説明を行い、ログインおよび同意率の向上に努めた。また、今年度は会場で同意した保護者に、子どものログインも勧奨し、同日にログインをしていただくよう工夫をした。

	２．質問票回収率の維持・向上 質問票の提出意欲や回答漏れを高めるための工夫 ①　質問票提出スタンプラリーキャンペーンの継続（資料 3 参照） 年 2 回の質問票提出でスタンプラリー達成というルールを設け、各自の質問票提出状況をお知らせするカードを質問票に同封した。また、返送依頼ハガキも同じデザインに統一し、スタンプラリーキャンペーン実施の周知を図った。今年度も昨年度と同様に SDGs を意識し、環境に配慮した素材で作成されたウェットティッシュとボールペンのセットを配布した。 ②　対面調査での声掛け・待ち時間を利用した記入案内 学童期検査・詳細調査会場において、学年質問票と年齢質問票のいずれかが未提出の方に声掛けを行った。 ③　学年質問票提出キャンペーンの継続（資料 4 参照） 学年質問票を提出した参加者へ、以前好評だったエコバックをアメニティとして配布した。 ④　学年質問票の回答必須項目の問合せや誤記入防止の継続 新年度スタート前の春休み期間中に、学年質問票の事前案内として小学校での身体測定結果や欠席日数を記録できるオリジナルの「成長の記録表」を送付した（資料 5 参照）。また、学年質問票を記入する際の記入のポイントをまとめたオリジナルの補助資料を同封した。さらに、補助資料には欠席日数を記入する際の注意点も記載し、誤記入防止について周知した。なお、補助資料の用紙はピンク色とし、目立つように工夫した。その他にも、回答必須項目の未記入を防ぐためのオリジナル説明動画の二次元コードを送付文に掲載した。 ⑤　質問票リマインド時の参加者とのコミュニケーションの継続 電話でのリマインドの際、相手が委縮しないような声かけを徹底した。また質問票にメッセージがあった場合は手書きのデコポンはがきを発送した（資料 7 参照）。 ⑥　質問票早期提出キャンペーン（資料 6 参照） 12 歳と小学 6 年生の質問票に関してはページ数も多く返送も遅れがちであるため、今年度は家庭に到着してから 2 週間以内に UC へ返送があった場合にプレゼントを贈るキャンペーンを行った。
（C）評価	１．参加者の調査参加へのモチベーション維持 ①　今年度の学童期検査参加率は現時点（R6.10.22）で 35％であるが、11 月以降の学童期検査を含めると 46％以上となる見込みである。 ②　リマインドの電話については、9 月末時点で 320 人の方に電話をかけ 86 人（27％）予約が決定した。 ③　13 歳以降調査の勧奨については、7～9 月の間に学童期検査に参加した人数は 236 人、その内ログインなしの参加者が 180 人、会場でログインし継続まで至った数は 120 人で 66.7％の方に学童期検

	査会場でご協力をいただいた。180 人の内訳は、継続 120 名、不同意 6 名、自宅で行うが 16 名、検討中が 10 名、母以外の付き添い 3 名、その他 25 名という結果であった。 ④　現時点（R6.10.22）での 13 歳以降の同意率は 33.4%（子どものログイン率は 62%）であるが、リマインドを 1 回しか行っていないため、11 月以降大判ハガキによるリマインドと電話かけを行うことや、同意継続キャンペーンを行い 3 月末までに目標数 50%が達成できるように計画中である。他には、子どものログイン率を 100%近い数字に持っていけるように、リマインドを行うことと親子のアカウント切り替えについての説明書を作成し送付する予定である。 ⑤　子どもアンケート提出対応への反応としては、子ども宛にプレゼントが届いて喜んでいたとの声もいただき、13 歳以降調査継続のための布石となっている。 これらの結果から、参加者の調査参加へのモチベーション維持につながっていると評価できる。今後も学童期検査参加へのリマインドと調査時の声掛けを行い、調査参加へのモチベーション維持に努めていきたい。 2．質問票回収率の維持・向上 スタンプラリーキャンペーンのアンケートでは、80%以上が質問票提出のモチベーションになっていると回答、また満足度も 86%以上と高いことがわかった。今後希望するアメニティについても自由に記載してもらい次年度以降の選定の参考にしている（資料 8 参照）。 対面調査時に参加者ポータルアプリのインストールを勧奨したり、質問票の謝礼が変更になり、より利便性の高いものになることを説明している。また、各種質問票提出キャンペーンのアメニティに対し、「いつも素敵なものをありがとうございます」という意見が多く、これらも質問票回収率の維持・向上につながっていると評価できる。 小学 6 年生質問票に関して早期提出キャンペーンにおいて 2 週間以内提出割合を前年度比較したところ、28.5%→31.8%と、向上した。
（A）改善	1．参加者の調査参加へのモチベーション維持 学童期検査参加率・13 歳以降調査の同意率や、参加者の反応を定期的に評価していく。また、学童期検査情報交換会で得た、他のユニットセンターの対応策に関する情報を参考にしながら、継続率が上昇できるような対策の強化を行い、参加者の反応に合わせた柔軟な対応を検討していきたい。 2．質問票回収率の維持・向上 現在の対応で質問票回収率の維持・向上はできていることから、今後も同様の対応を継続しつつ、次年度に向け、アンケート結果を参考にしながら、参加者のニーズに応じた新たなキャンペーンやアメニティなども検討してきたい。

イ．成果の社会還元の取組	
（P）計画 （D）実施	1．研究成果の還元 ① 新規論文の投稿促進 現在、アクセプトされた論文は 1 編であるが、分析が終了し執筆段階の論文は 2 編であり、現在投稿準備中である。また、研究登録者は今年度 4 名増えた。今後は、エコチル調査の論文執筆に向けての研究会を定期的に開催していく予定である。 ② 県民への広報の取り組み 地元のラジオ番組 3 本に出演し、エコチル調査の成果について県民に広く広報をすることができた。また、県内の若い世代が購入する住宅雑誌や地元新聞にもエコチル調査が 13 歳以降も継続することが決定したことに関しての広報を行った。 一方、医師として活躍する次世代の医学部生へ「国家プロジェクトによる大規模出生コホート『エコチル調査』について」という題目で講義を行った。
（C）評価	1．研究成果の還元 今年度、新たに論文がアクセプトされ、エコチル調査の研究成果を社会に還元することができている。また、研究登録者が増えたこと、定期的な研究会の開催を行っていくことで、今後も継続して社会に還元できる論文が促進される可能性が高く、研究成果は還元できていると評価できる。 また、熊本県民全体に向けた広報を行ったことで、エコチル調査に関して関心を持っていただくような働きかけができたと評価できる。 大学講義後の FD アンケートでは、「医学的検査の工夫」について最も評価が高かった。「エコチル調査のような取組みを始めて知ったが、どのような結果が出てくるのか関心を持った」「環境省の HP などを見てみたいと思った」「今後、医師として現場で働くようになった時、エコチルの採血の工夫などを臨床に導入できたらよいと思った」「今まで聞いた講義の中では、実際の疫学調査について話を聞くことができて非常に役に立った」など好意的な感想が多く、次世代の医療を担っていく医学生にエコチル調査に関心を持ってもらうことができたと評価できる。
（A）改善	1．研究成果の還元 研究登録者には研究計画書を作成してもらい、スケジュールに沿って研究が進捗するよう必要な支援を行い、今後も新規論文の投稿を促進していきたい。 県民への広報の方法を模索し、定期的に周知できるように創意工夫していきたい。

資料1　QRコードによるHP活用

13歳以降のエコチル調査の継続をいただきありがとうございます

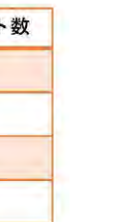
エコチル調査のWEB質問票は1年間に保護者の方に4回、
お子さんには誕生日の質問票を含めて5回配信されます。
WEB質問票にご回答いただくといろいろな特典に交換できるポイントをプレゼント！
それぞれの質問票の獲得ポイントは･･･

配信月	保護者ポイント数	子どもポイント数
4月	400	400
6月	200	600
9月	200	200
12月	100	100
3月	100	100
誕生月	-	100

現在、4月1日と6月1日に2回配信しており、2回分の質問票のご回答で、
保護者：600pt、お子さん：1000ptを獲得できます。
WEB質問票に回答してポイントをゲットしてくださいね！

まずは、お手元にIDとパスワードをご用意ください。
https://www.jecs.nies.go.jp または からログイン可能
＊保護者とお子さんのアカウントは別になりますので、同意いただいた後にお知らせした仮IDと仮パスワードでログインしてください。
＊保護者と同じ端末でログインする場合は、念のため保護者のIDとパスワードをメモなどに保存しておいてください。
ログインについて、ご不明な場合は熊本大学エコチル調査までご連絡ください。
(096)373-5440(平日9:00~17:00)
もしくは、ホームページの問い合わせフォームよりおねがいいたします。

熊本大学エコチル調査HP

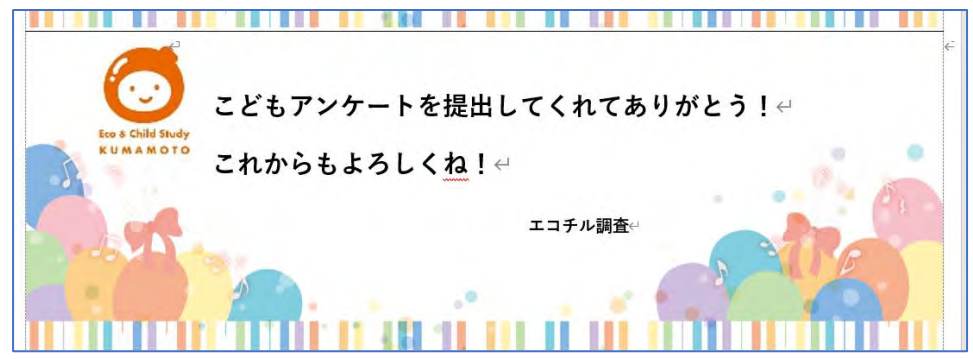


大判はがき宛名面　下部

QRコードから問い合わせフォームへ

資料2　　子どもアンケートアメニティ

10歳以降の子どもアンケートを提出のお子さんへえんぴつとオリジナル付箋セットを別途プレゼント

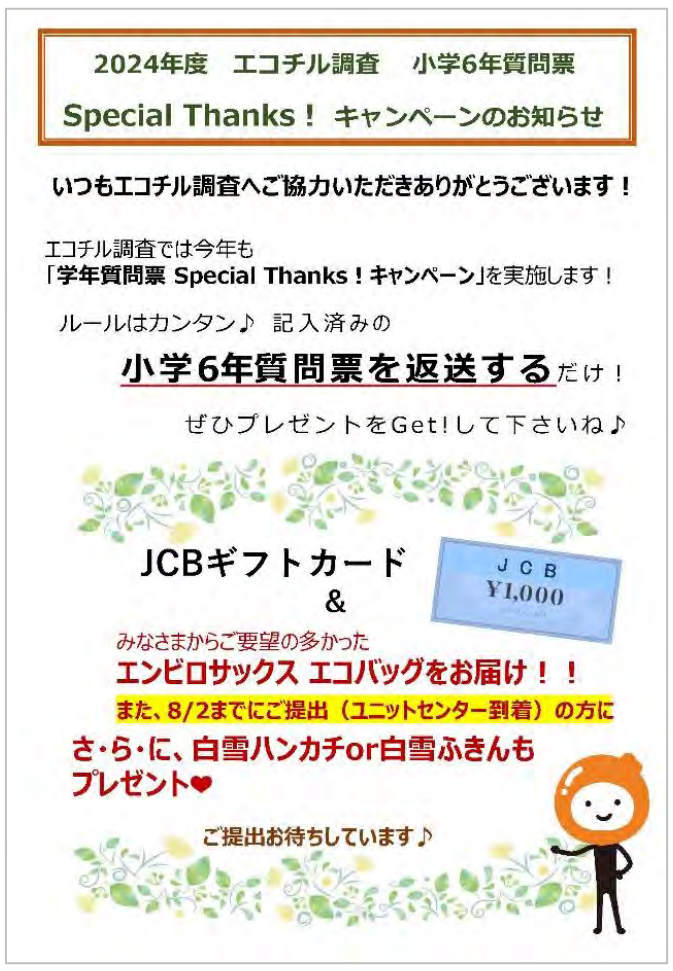


台紙
裏面

資料3　　スタンプラリーカード見本

2024年度
名入れボールペンとウェットティッシュセット

資料４　学年質問票提出キャンペーン案内チラシと2024年度プレゼント内容

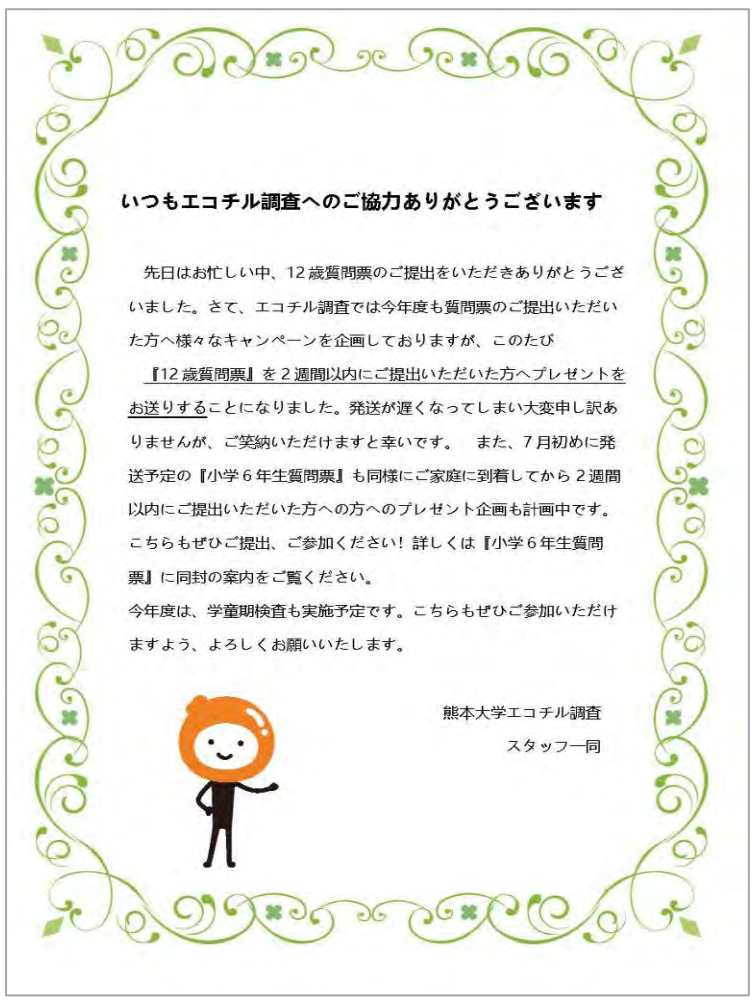


2024年度
「エンビロサックス エコバッグ」

資料５　成長の記録表

記載漏れを防ぐ工夫として
学年質問票の事前案内として　身体測定値や
欠席日数を記録しておく「成長の記録表を」
年度末に送付している

資料６　S-6　12歳質問票　早期提出キャンペーン



資料7　でこぽんハガキ送付・ハガキ見本

	2023年度	2024年度
4月	-	-
5月	-	-
6月	-	3
7月	1	1
8月		1
9月	2	3
10月	1	9
11月	-	
12月	6	
1月	1	
2月	2	
3月	2	
合計	15	17

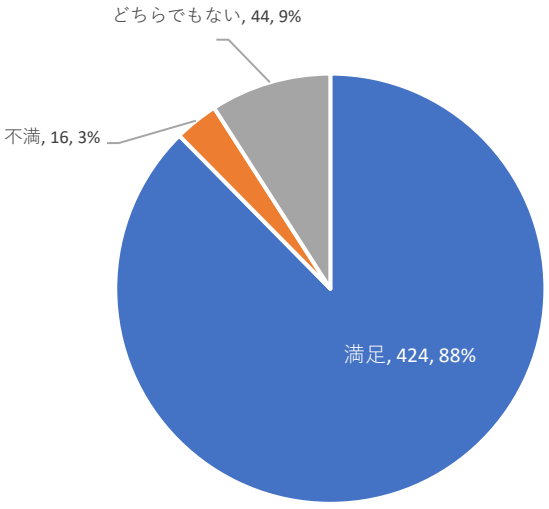
2024年10月7日現在

•質問票提出の際にコメントがあった参加者への返事
•前調査時期に質問票を未提出だった参加者にお礼文など

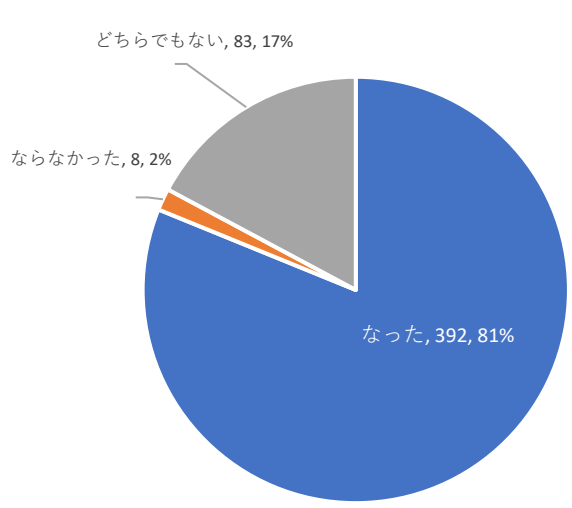
資料8

アメニティに関するアンケート

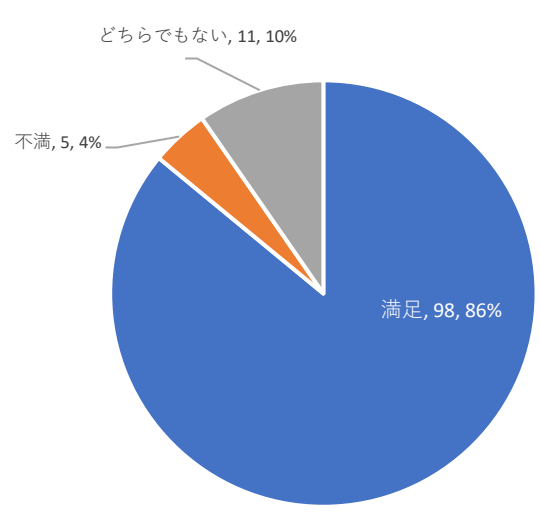
質問票アメニティ



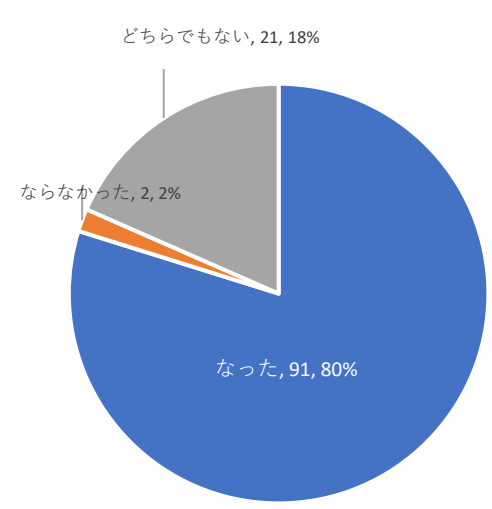
動機づけ



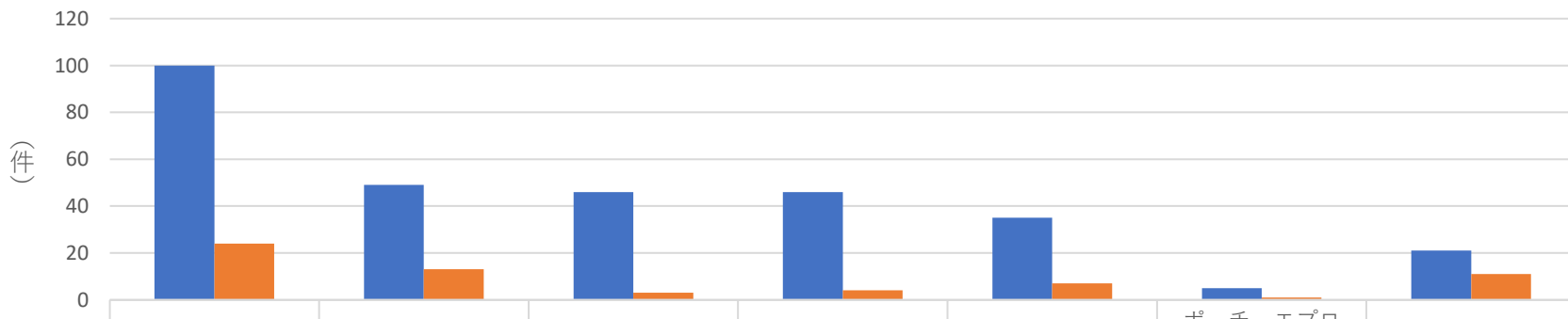
スタンプラリー満足



提出動機づけ



アメニティ希望自由記載



	文具	キッチン用品	金券類	日用品	エコバッグなど	ポーチ、エプロン	その他
質問票	100	49	46	46	35	5	21
スタンプラリー	24	13	3	4	7	1	11

アメニティに関するご意見（自由記載）

- クリアファイルや下敷きなどに年齢別に習う（地図や英数字や教育関係）デザインだと、学校へ使用したり活用の場も広がり大切にしてくれそうです。
- 子どもに「ギフト券をもらえるからアンケート書いてね」と言ってもらいました。ギフト券はすごくうれしかったようです。ありがとうございました。
- いつも色々考えてくださり様々なプレゼントをありがとうございます。どれも有りがたく使わせてもらっており、助かっております。
- 子どももわたしもいつも喜んでします。　ギフトカードをためてジュースを買いました。　プレゼントいつもありがとうございます。
- 子どもといつも楽しみにしています。大人向けこども向けともに大満足
- 立つ筆箱とてもよかった！子どもも喜んで使っています。
- いつも温かい心遣いありがとうございます　子どももとても喜んでいました
- 以前プレゼントであった多目的スポンジとても使いやすく長持ちもしてよかったです。
- ノベルティーがあると意欲的になります。ありがとうございます。
- エコバック最高です。最初に頂いたものを今でも使用しています。今年もよかったです。
- キッチングッズ・文具・歯磨きなどの活用できるものは助かっています。
- ボールペンは子どもが喜んでいた。
- いつも素敵なプレゼントうれしいです。

エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況
（令和６年４月～令和６年９月末時点）

調査実施機関名：　宮崎大学サブユニットセンター

評価時点	令和６年 10 月 25 日

ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持や質問票回収率の維持・向上の取組	
（P）計画 （D）実施	【質問票回収率の維持・向上の取組】 ① 発送後の計画的な返送・回答依頼（資料 1・2） 紙媒体質問票および WEB 質問票について、それぞれ計画的な返送・回答依頼を行った。紙媒体質問票では、発送の 4 週間後から 12 週間後までを 2 週間ごとに区切り、ハガキ・ショートメール・電話により返送の依頼を行った。WEB 質問票では、メールやアプリ通知など、WEB 質問票と同じチャンネルだけでなく、郵便による多チャンネルでの依頼を行った。 ② 質問票の再送 学年質問票の未返送者に対し、一斉に質問票を再送した。 ③ 依頼後提出の参加者への手書き感謝状の送付（資料 3） 上記①②の返送依頼に応じて提出してくださった参加者には、手書きの感謝状を作成し、謝礼に同封して送付した。 ④ WEB 質問票未回答者・未ログイン者へのアプローチ 未回答者・未ログイン者について、時期を決めてアカウント情報を郵便で再送し、受け取ったらすぐに回答できるように勧奨を行った。 ⑤ 学年・誕生日質問票提出キャンペーン（資料 4） 提出率が伸び悩んでいる 10 歳質問票・小学 4 年生質問票について、両方の質問票を提出した参加者に対して粗品を贈呈するキャンペーンを実施した。 ⑥ 子ども質問票提出者への感謝状の送付（資料 5） 子どものエコチル調査への参与の意欲向上を目的として、10 歳・11 歳・12 歳質問票の子ども質問票を提出した参加者には、子ども宛てのハガキサイズの感謝状を謝礼に同封して送付した。 【参加者の調査参加へのモチベーション維持に関する取組】 ① フォローアップイベントの実施（資料 6） 参加者にエコチル調査への意欲・関心を維持・向上してもらうことを目的に、イベントを実施した。内容の企画にあたっては、過去のイベ

ント時のアンケートおよび広報誌に添付した読者アンケートを参考に、参加者の関心がより高いと思われるテーマを選定した。

イベント名	日時	参加者数
ハッピーフェスタ(サイエンスショー)	R6.1.8	289 組/432 名
工作教室	R6.7.28	19 組/51名
かけっこ教室	R6.9.15	15 組/41 名

② 協力医療機関(小児科)からの声掛け

定期ワクチン接種等の機会に協力医療機関を訪れた参加者に対し、医療機関からエコチル調査への参加への感謝とねぎらいの言葉と共に、調査の重要性を喚起し、質問票の提出を促していただいた。

③ 全国のインシデントレポートを基にした業務改善

実務担当者 WEB 会議資料に報告されるインシデントレポートを基に、弊サブユニットセンター内での体制を参照し、具体的に対処することで、参加者に快く参加いただけるよう工夫した。毎月定例で行っているミーティングにて、事例をピックアップして検討することとしている。具体的には、対面調査会場での傘の管理、台風・豪雨予報時の郵便物発送の延期、CAT 検査時の電源確認、身体計測時の平均値確認などである。

④ 小学 6 年生学童期検査 迷走神経反射(VVR)対策（資料 7）

採血を伴う小学６年生学童期検査において、採血に恐怖感を示し消極的な参加者が一定数いることに鑑み、VVR 予防策を推進し、不安軽減・参加率向上を目指した。会場でペットボトル入りの水を渡し、採血に前後して摂取するよう声掛けを行った。また、臥位での採血を勧め、より VVR のリスクが低くなるように体制を整えた。事前送付文書にも対策内容を記載し、事前に理解していただけるよう配慮した。

⑤ 対面調査時の声掛け

小学６年生学童期検査の際に、ポータルへのログイン・同意回答・プレ質問票回答がなされていない参加者について、予め名簿を用意し、進行状況に応じて個別に声掛けを行った。ログインの手順がわからない・ID やパスワードを忘れた等の状況に対応できるように書類を用意し、一緒に操作するなど、スムーズに手続きできるようにエ夫した。

⑥ 同意者およびホリデーの方へのプレゼントに併せた勧奨（資料 8）

すでに同意した方およびホリデー状態の方に、中学校入学のお祝いとしてプレゼントを贈り、回答や同意の勧奨に関する資料を同封した。

⑦ 成長記録カードの送付（資料 9）

これまでの長きにわたって「エコチル調査に参加してよかった」と感

じてもらい、その後の継続につなげることを目的として、「成長記録カード」を小学６年生質問票に同封して送付した。はがきサイズのカードには、概ね出生時・5 歳前後・10 歳前後当時の身長・体重を記載し、5 歳質問票当時のお子さんの手書きの名前の箇所を掲載した。

⑧ 調査継続中参加者へのインタビュー記事の広報誌への掲載

13 歳以降調査の継続について、事務局からの呼びかけや説明だけでなく、実際に継続している参加者の生の声を届けることで、これから検討する参加者にとって参考になるのではないかと考えた。

そこで、実際に継続している 2011 年度登録の参加者親子の協力を得て、継続に至るまでの考えや WEB 回答をやってみた感触、エコチル調査への要望といった声を掲載することとした。本報告書作成時点ではインタビューを完了しており、記事の掲載・広報誌発行は令和６年12 月を予定している。

（C）評価

【質問票回収率の維持・向上の取組】

紙媒体の質問票の回収率は、維持・向上の取組によって一定の成果が得られている。表 1 は、学年質問票の未返送者への質問票の一斉再送により提出されたものの効果を示すものである。

表 1:質問票再送前後の回収率比較

質問票	再送前	再送後
小学４年生	78.4%	80.4%
小学５年生	73.6%	77.6%
小学６年生	71.8%	77.2%

取組の効果を個別に直接的に評価できないものもあるが、紙媒体質問票の提出率は全国のユニットセンターとの比較では上位を維持しており、それぞれが一定の効果があるものと評価している。WEB 質問票についても、アカウント情報再送の効果は一定の効果が得られている。

表 2:WEB 質問票回答依頼ハガキ送付前後の回答率比較

配信月	対象	送付前(7月3日)	送付後(7月29日)
4月	子ども	38.5%	42.3%
	保護者	46.4%	49.5%
6月	子ども	19.4%	30.1%
	保護者	27.5%	36.0%

【参加者の調査参加へのモチベーション維持に関する取組】

イベント実施時には、参加者に直接声掛けをすることができ、提出勧奨の意味だけでなく、エコチル調査やスタッフを身近に感じてもらうことができたものと評価している。アンケートでは今後のイベントやエコチ

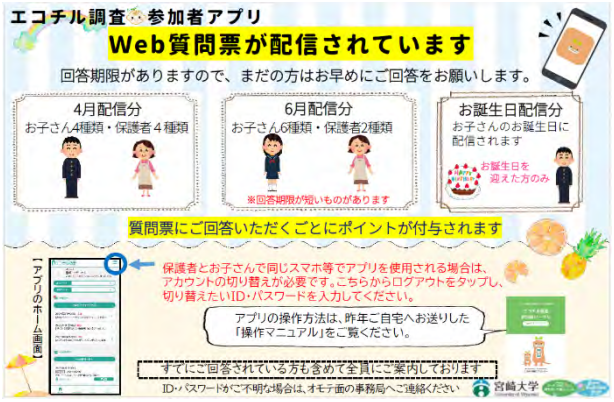
	ル調査参加に関する意欲がみられ、モチベーション維持の効果があったといえる。対面調査時の質問票提出やポータルログイン等の声掛けは、その後の調査への参加をスムーズにする直接的な効果が実感される。 インシデントレポートを基にした業務改善や VVR 対策は、参加者のモチベーション低下や不信を防ぐ意味で奏功している。
（A）改善	最近の傾向として、安定して質問票提出が続いていた参加者からの協力取りやめの申し出が相次いでいる。質問票提出や継続の同意に関する意欲の喚起だけでなく、無理なく継続していただけるように、状況について精査して今後の取組に反映する必要がある。

イ．成果の社会還元の取組	
（P）計画 （D）実施	【コミュニケーション活動】 ① 広報誌による成果の紹介（資料 10） 例年、広報誌に全国のユニットセンターからの成果を 2 本程度ピックアップし、一般に読みやすいように記事を作成して紹介している。令和 6 年 1 月に発行した vol.11 においても 2 本紹介し、令和 6 年 12 月発行予定の vol.12 でも同様に紹介予定である。 ② 参加者からの意見･質問への回答の掲載（資料 11） 広報誌に併せて行っている読者アンケートにて、エコチル調査に関する意見・質問が多数寄せられた。これらへの回答をまとめ、サブユニットセンターの WEB ページに掲載した。
（C）評価	【コミュニケーション活動】 ① 広報誌による成果の紹介 広報誌の読者アンケートを行ったところ、回答者のうち約 95%が研究成果紹介記事に「興味をもった」と回答した。「年 2 回の回答は大変だが、これからも子どもたちの未来のために、たくさんデータを活かしてほしい。そう思って回答を頑張る」という旨の声が寄せられた。 ② 参加者からの意見･質問への回答の掲載 アクセス解析ができないため閲覧状況は不明だが、事務局に直接的に寄せられた声に真摯に対応していることを表明できた。
（A）改善	今後も、エコチル調査への理解・協力を維持し、また健康や環境についての啓発を推進するため、効果的な広報を検討する。他のユニットセンターの広報誌や WEB ページでの案内を参考にするほか、コロナ禍を機に見合わせていた自治体の行事などでの広報活動の再開を検討している

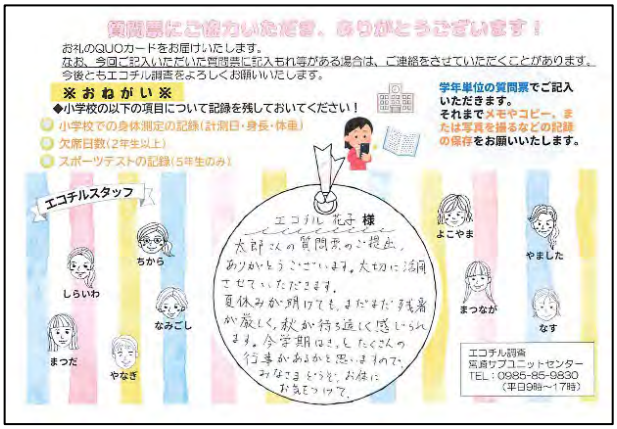
添付資料

資料 1:質問票提出勧奨のハガキ(画像はC-10Y)

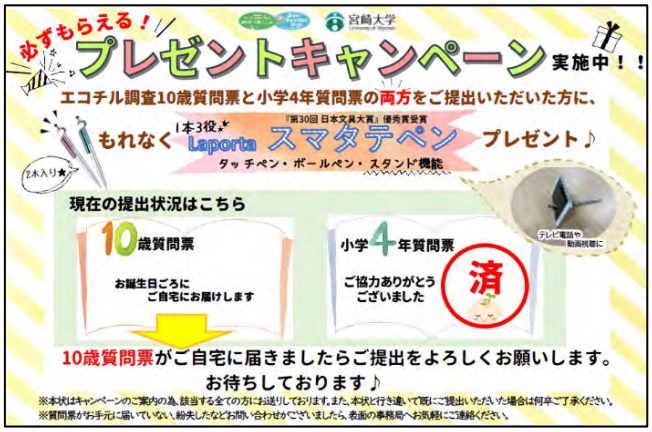
資料 2:WEB 質問票未回答・未ログイン者への案内



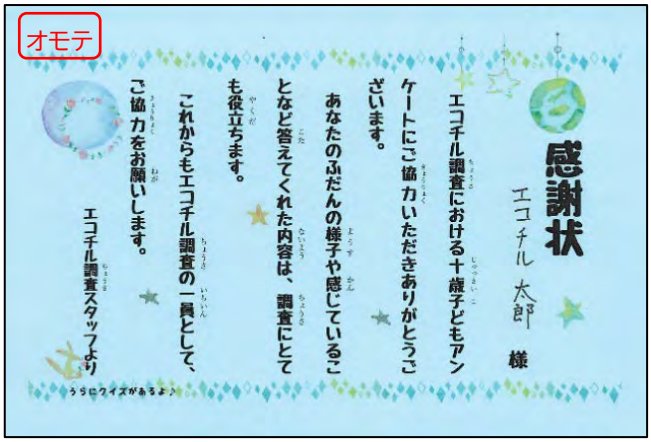
資料 3:手書きの感謝状



資料 4:学年・誕生日質問票提出キャンペーン通知

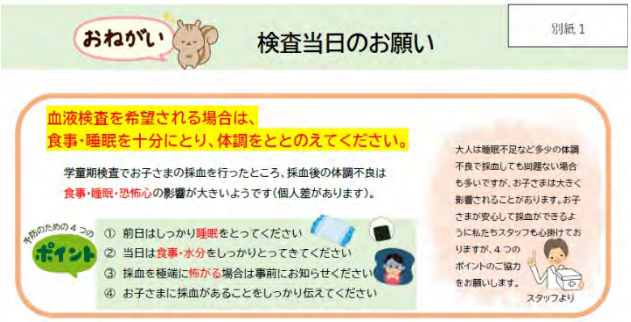


資料 5:子ども質問票回答者への感謝状



資料 6:フォローアップイベント(写真はかけっこ教室)

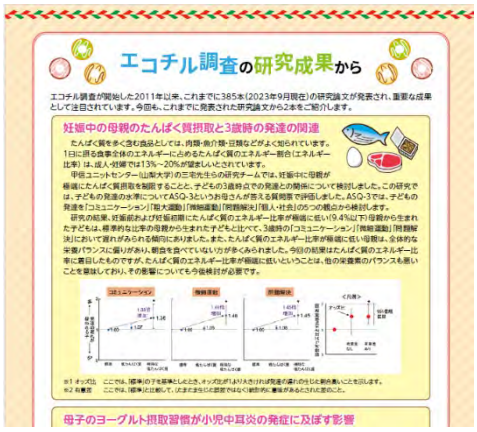
資料 7：VVR 対策（参加者送付書類）



資料 8：同意者・ホリデーの方へのプレゼント

資料 9：成長記録カード

資料 10：広報誌による成果の紹介



資料 11：参加者からの意見・質問への回答の掲載

http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/ecochild/news/3567/

エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況
（令和６年４月～令和６年９月末時点）

調査実施機関名：　琉球大学サブユニットセンター

評価時点	令和６年 10 月 28 日

ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持や質問票回収率の維持・向上の取組	
（P）計画 （D）実施	**【質問票回収率を維持・向上させるための取組】および** **【参加者等のモチベーション維持のための取組】** **１．詳細調査および学童期検査（以下、対面調査）時の声掛け** ① 対面調査時に直近の各種調査協力状況、13 歳以降調査に関する回答を同胞参加児分も含めてリストアップした。検査中待機している代諾者へ声かけし、質問票や 13 歳以降調査継続への回答依頼、乳歯返送依頼を行った。 ② 学童期検査予約者に対し発送する尿検査キットに、参加者ポータルアプリ事前インストールを促す案内文書を同封した。（添付１） ③ 対面調査の検査説明を行う際、エコチル調査だより 19 号のマンガを用いて、エコチル調査の意義や成果が役立てられていることを特に参加児へ向けて説明し、調査協力への感謝の意を示した。 **【質問票回収率を維持・向上させるための取組】（添付 2）** **１．質問票返送期限の目安を貼付** 質問票を封筒のまま溜め込んでしまい、いつ届いた質問票が分からなくなっている参加者が一定数いる。そのため、質問票の発送および再送時の封筒に返送期限の目安を貼付する取組を行っている。 **２．質問票返送依頼方法** **３．質問票再送および独自の返送依頼文書封入** 質問票発送から一定期間ごとに下記のとおり返送依頼を行っている。 ① 質問票発送から 3 週間後にショートメール ② ①の 3 週間後にハガキ送付 ③ ②の 3 週間後にショートメール ④ ③の 3 週間後に質問票の再送（独自の返送依頼文書つき） ④ ④の 3 週間後にショートメール また、質問票の再送を行う際に独自の返送依頼文書を封入している。再送によるリマインド効果に加え、謝礼を明示することでモチベーションを維持できるよう工夫している。

	４．WEB 質問票未回答者への回答依頼 13 歳 WEB 質問票の回答率が全国と比較し著しく低いため、代諾者と参加児いずれか（あるいは両方）で 1 件以上の WEB 質問票が未回答のままである参加者へ、令和 6 年 8 月下旬にショートメールによる回答依頼を行った。10 月にはハガキ送付による回答依頼を計画している。 **【参加者等のモチベーション維持のための取組】（添付 3）** **１．子ども向け冊子配布** 令和 4 年度にマンガでエコチル調査の意義などを説明した子ども向け冊子を全参加者へ配布し、対面調査時にアンケートを実施した。アンケートにて参加児が未読であるとの回答を複数認めたため、検査終了時に謝礼とともにお渡しした。 **２．13 歳以降調査継続に向けての大判ハガキ送付** 2012 年度生まれの参加児と代諾者を対象に 13 歳以降調査継続について案内しているが、ログイン率・同意率・プレ質問票回答率が 2011 年度生まれの対象者と比較し著しく低い。そのため、2012 年度生まれ対象者全員に大判ハガキを送付し、改めて 13 歳以降調査について継続依頼およびプレ質問票の回答依頼を行うこととした。
（C）評価	**【質問票回収率を維持・向上させるための取組】および** **【参加者等のモチベーション維持のための取組】** **１．詳細調査および学童期検査（以下、対面調査）時の声掛け** ① 学童期検査では 13 歳以降調査の説明に要する時間が長く、質問票返送についての声かけ実施は数人のみであった。詳細調査では既に返送済みの方が多かったが、今後の質問票発送予定を伝えることができた。乳歯調査は、声かけすることで参加者からの質問に直接回答することができた。いずれも明確な返送率との関係を集計できていないが、調査協力に一定の効果があったと考えられる。 ② 添付４の通り 2012 年度生まれの継続回答状況を集計した。継続同意回答者かつアカウント発送後の検査実施群において、多くの代諾者が早期に継続意思を回答しており、参加者ポータルの案内文書を同封の効果があったと考えられる。 ③ 特に集計はしていないが、スタッフミーティングにおいて「参加児および付き添い者の多くが関心を示していた様子であった」と意見が出た。直接参加児へ語り掛けることが、今後の調査協力へのモチベーション維持につながると考えられる。 **【質問票回収率を維持・向上させるための取組】（添付２）** **１．質問票返送期限の目安を貼付**

	２．質問票返送依頼方法 **３．質問票再送および独自の返送依頼文書封入** 返送期限が令和５年 10 月１日以降、令和６年９月 30 日以前の参加者について、返送率を添付２のように集計した。令和６年度は令和５年度の集計と比較し全体の返送率は 5.0 %低下したが、返送期限内の返送率は 1.9 %上昇した。また、返送依頼方法に対する返送率は、どの返送依頼方法でも令和５年度と比較し返送率低下を認めた。抽出数が年々減少しており、返送依頼対象となる頻度の高い参加者が協力取り止めや打ち切りになることで、相対的に期限内の質問票返送率が上昇したと考えられる。集計はしていないが、質問票返送依頼のメールをきっかけに協力取り止めの申し出を受ける件数が増えている印象もあり、今後協力取り止め希望者の質問票返送状況を含めた集計が必要である。 **４．WEB 質問票未回答者への回答依頼** 8 月下旬のショートメール実施後、回答率は代諾者で 5.5 %、子どもで 2.6 %の上昇を認めた。また、アカウント不明などの問い合わせ対応も数件あり、回答へつながるなど一定の効果があったと考える。 **【参加者等のモチベーション維持のための取組】（添付３）** **１．子ども向け冊子配布** 添付３の集計結果より、79.5 %の参加者は参加児自身が冊子を呼んでいないことが分かった。 **２．13 歳以降調査継続に向けての大判ハガキ送付** 集計時点では大判ハガキ未発送であるため、今後集計する。
（A）改善	**【質問票回収率を維持・向上させるための取組】および** **【参加者等のモチベーション維持のための取組】** **１．詳細調査および学童期検査（以下、対面調査）時の声掛け** 引き続き取り組みを継続する。 **【質問票回収率を維持・向上させるための取組】（添付２）** **１．質問票返送期限の目安を貼付** **２．質問票返送依頼方法** **３．質問票再送および独自の返送依頼文書封入** 返送依頼方法のうちメールの頻度を減らすことを検討する。 **４．WEB 質問票未回答者への回答依頼** ハガキ送付による回答依頼後の回答率集計を行い、令和７年１月頃にも送付を検討する。 **【参加者等のモチベーション維持のための取組】（添付３）**

	１．子ども向け冊子配布 引き続き対面調査実施時に配布し、参加児の調査への理解を深める。 **２．13 歳以降調査継続に向けての大判ハガキ送付** 集計後の回答率を集計し、次年度も継続するか検討する。

イ．成果の社会還元の取組	
（P）計画 （D）実施	**<u>【コミュニケーション活動としての取組】</u>** **１．参加者向け広報誌における全国での成果紹介** 参加者向け広報誌において、全国で発表された論文のうち１つをピックアップして紹介している。令和 6 年 12 月発行予定の広報誌においても紹介予定である。 **２．対面調査実施時に成果紹介パンフレットを配布** 環境省がまとめた成果紹介パンフレットを対面調査実施時の謝礼時に直接お渡しし、調査参加により様々な成果につながっていることを改めて説明した。 **３．参加者ポータル相談会の実施** 2012 年度生まれ対象者の 13 歳以降調査継続意思回答率、2011 年度生まれ対象者の WEB 質問票回答率が低迷しており、参加者ポータル使用にかかる技術的な困難さがある方への支援を中心に相談会実施を計画した。
（C）評価	**<u>【コミュニケーション活動としての取組】</u>** **１．参加者向けニューズレターにおける全国での成果紹介** **２．対面調査実施時に成果紹介パンフレットを配布** 集計はしていないが、対面調査時に成果を紹介することで参加児および付き添い者の多くが関心を示していた様子であった。 **２．参加者ポータル相談会の実施** まだ相談会を実施していないため、実施後集計を行う。
（A）改善	**<u>【コミュニケーション活動としての取組】</u>** **１．エコチル調査参加者向けイベントの実施** **２．対面調査実施時に成果紹介パンフレットを配布** 今後、アンケート等で子ども向け冊子の感想を聴く機会を設ける。 **３．参加者ポータル相談会の実施** 今後、アンケートなどで集計をとる。

学童期検査にご参加いただくみなさまに！

参加者ポータルサイト アプリインストールのお願い

★学童期検査会場では、13 歳以降のエコチル調査継続に関する説明と、ご希望される方には参加者ポータルサイトへのログイン作業をスタッフが補助する時間を設けています。

★サイトへのログインがお済みでない方のうち、調査継続を希望される方、学童期検査会場で説明を聞いてから調査継続について検討をされたい方は、あらかじめご自宅で参加者ポータルサイトアプリをインストールの上、検査会場へお越し下さい。

（13 歳以降の調査を保留する場合特別な手続きはございません）

アプリのインストールおよび継続の回答は、**代諾者**の方が行っていただきますようお願いいたします。代諾者とは、お子さんに代わって調査に同意された方のことを指します。**（多くの場合、このお知らせが入った封筒の宛名ラベルに記載されている保護者が代諾者です）**

ポータルサイトへログインするためのアカウント情報が届いている。（8 月送付）
※2011 年度生まれのご兄弟がいる方でログインがお済みの保護者様には説明書のみを送付します。

「はい」

届いていない（失くした・アカウントが不明）

13 歳以降調査への継続の意思がある

「いいえ」

特別な手続きはございません。そのまま会場へお越しください。

「はい」または「迷っている」

参加者ポータルサイトアプリのインストールが済んでいる

「はい」

「いいえ」

調査継続の回答が済んでいる

「はい」

同意者限定アンケート&プレ質問票※に回答すると 500ptずつ（計 1000pt）のプレゼントがあります!ぜひご回答ください♪

「いいえ」

ご自宅で調査継続の回答まで進めていただくか、会場で説明を聞いてから決めたい方は、アプリをインストールした状態で会場までお越しください。

※プレ質問票は同意回答の翌日配信されます

アカウント情報をお渡しします。
13 歳以降調査を継続したい方は検査会場でスマートフォンにポータルサイトアプリをインストールしてお持ちください。※

App Store　Google Play

こちらからスマートフォンにアプリのインストールをお願いします。

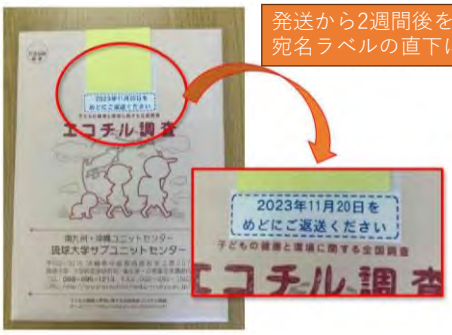
App Store　Google Play

※ポータルサイトはWEB からの閲覧・利用も可能ですが、通知機能のあるアプリを利用していただくことを推奨しています。

ご不明な点があれば
学童期検査当日スタッフまで
お声がけください♪

【質問票回収率を維持・向上させるための取組】（添付２）

１．質問票返送期限の目安を貼付



再送時も同様にテプラ貼付を行う。

表 １．９ 歳～12 歳および小学 ３ 年～6 年質問票返送率

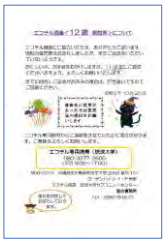
	返送率	前年度との比較
全体返送率（返送数/抽出数）	62.5 %	-5.0 %
うち返送期限内	21.1 %	+1.9 %
うち返送期限外	41.4 %	-6.9 %

※令和6年度集計：返送期限が令和5年10月1日から令和6年9月30日
※令和5年度集計：返送期限が令和4年10月1日から令和5年9月30日

２．質問票返送依頼方法
３．質問票再送および独自の返送依頼文書封入

表 2. 返送依頼方法に対する返送率（返送数/返送依頼数）

	返送依頼方法	返送率	前年度との比較
①	質問票発送から ３ 週間後にショートメール	22.3 %	-1.9 %
②	①の 3 週間後にハガキ送付	7.4 %	-5.2 %
③	②の 3 週間後にショートメール	4.1 %	-2.3 %
④	③の ３ 週間後に質問票の再送（独自の返送依頼文書つき）	4.8 %	-5.9 %
⑤	④の 3 週間後にショートメール	5.2 %	-1.0 %



②ハガキの例

③質問票再送時の返送依頼文書の例

【参加者等のモチベーション維持のための取組】（添付３）

１．子ども向け冊子配布付

令和4年12月発行
調査に参加しているお子さん向けに、マンガで分かりやすくエコチル調査について説明する小冊子を作成し配布した。

学童期検査・詳細調査時のアンケート実施

期間：令和5年11月～令和6年10月
アンケート回答数：132人

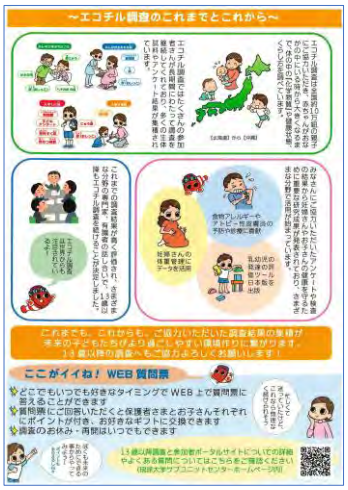
Q．2022年12月にお送りした、お子さん向け冊子「ちゅらちるだよりミニ」をお子さんはご覧になりましたか？

N=132

回答内容	回答数	%
読んだ	27	20.5 %
読んでいない	51	38.6 %
覚えていない	53	40.2 %
無回答	1	0.76 %

アンケートにて参加児が未読であるとの回答を複数認めたため、検査終了時に謝礼とともにお渡しした。

２．13歳以降調査継続に向けての大判ハガキ送付



令和6年10月
2012年度生まれ対象者全員に発送

＜掲載内容＞
・継続意思未回答者向け
　→【継続のお願い】
・既に継続意思回答者向け
　→【プレ質問票と13歳WEB質問票についてのお知らせ】
・参加者ポータルの操作手順やアカウントが分からない参加者向け
　→【参加者ポータル相談会のお知らせ】

令和6年度　13歳以降調査継続およびプレ質問票回答状況（2012年度生まれ）

2024/9/30時点

◎対象者人数

項目	件数	
代諾者アカウント発送数	217	件
複数回同意の代諾者で昨年度ログイン済み	3	件
他ユニットセンターからの転入	0	件
他ユニットセンターへの転出	0	件
アカウント発送後の打ち切り・協力取りやめ等	1	件
現参加者数（2012年度生まれ）	219	件

◎（代諾者）初回ログイン・同意状況およびプレ質問票回答状況

状況	件数	現参加者数に対する割合
アカウント未受け取り	9 件	4.1%
初回ログイン済み	44 件	20.1%
継続意思回答済み（＝継続する）	36 件	16.4%
意思不明	5 件	2.3%

◎プレ質問票回答状況

状況	件数	調査同意者に対する割合
プレ質問票配信対象者数	36 件	−
（代諾者）プレ質問票回答済み	17 件	47.2%
（子ども）初回ログイン済み	6 件	2.7%
（子ども）プレ質問票回答済み	5 件	2.3%

◎継続同意回答者の学童期検査予約状況

状況	件数	調査同意者に対する割合
学童期検査予約あり	29 件	80.6%
・うちアカウント発送前の検査実施	15 件	41.7%
・うちアカウント発送後の検査実施	13 件	36.1%
・うち検査キットおよび参加者ポータル案内文書未発送	1 件	2.8%
学童期検査予約なし	7 件	19.4%

→うち11件(84.6 %)は検査キット到着から検査後2週間以内に回答していた。

※参加者ポータル案内文書は学童期検査予約1〜2週間前に検査キットへ同封して送付した。

※アカウント発送前の検査予約者には参加者ポータル案内文書を同封していないが、13歳以降調査の手続き書類が今後送付される旨を説明した。

参加者ポータル案内文書